

武富 濟

正五位勳四等、衆議院議員(愛知縣選出)北海道土族
慶應二、六生、愛媛、士、井關盛
妻 美 明二〇、九生、佐賀、伊丹謙吉妹
養子 貴志男 明三五、六生、長女前夫、三重、
玉木慶藏長男、横濱地方裁判所判
事、法學士
女 節 茶の水高女出身
君は愛媛縣人三浦長吉の三男にして明治十二年四月を以て生れ先代善吉の養子となり同十四年家督を相續す同三十年東京帝國大學法科大學法科を卒業し司法官試補となり次いで検事に任ぜられ東京區東同地方裁判所検事に補し大審院検事事務取扱を命ぜられ幸徳傳次郎一味の大逆事件を檢舉して功あり後辭して辯護士となり一般法律事務に従事し兼に東京辯護士會常議員會議長に擧げらる衆議院議員に當選すること四回民政黨に屬し兼に拓務參與官に任ぜられ昭和四年臺灣に同五年朝鮮關東州及滿州に出張す家族は尙孫淑江(昭五、二生、養子貴志男長女)同由紗子同八、四生、同二女(養子一、明四一、三生、東京帝大工科出身)あり養妹のぶ(同二五、四生、東京、駒井憲妹)は北海道人武富英一に嫁せり(東京市豊島區五番町三電九段一六二五)

武長多米藏

坂上商店支店配人
東京府在籍
妻 登志 明一、八生、金盛多兵衛女
男 武一郎 明三四、七生
女 千代子 大八、一六生
君は東京府人伊藤宗兵衛の四男にして明治九年十一月を以て生れ先代武長セいの養子となり昭和二年家督を相續す坂上商店に入り現に其支配人たり家族は尙孫佐和子(昭四、三生、長男武一郎長女)同和香子同六、二生、同二女(同洋平同八、一、同長男)あり二女(昭三、九、六生)は東京府人佐藤元藏長男長之助に嫁せり(東京市豊島區五番町三電九段一六二五)

武野仙十郎

宇佐見商店取締役
大阪府在籍
妻 明三 一、二生、大阪、井口市右衛門孫
男 永二 大一一、三三、三
君は大阪府人武野常左衛門の四男にして明治二十二年六月二十二日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す宇佐見商店取締役たり家族は尙二女節子(昭二、八生)三女久子(同四、一、三)三男康三(同五、一〇生)四女博子(同七、九生)ありA八六八(大阪府旭區北清水町八五三九電東四二七)

武原 熊吉

從四位勳三等、東京高等師範學校教授、兼東京文理科大学講師
宮城縣土族
妻 かね 慶應元、九生、長野、結澤謙子
男 房子 大四、八生
君は宮城縣人武原量一の長男にして明治十八年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同四十二年東北帝國大學農科大學農科教授兼東北帝國大學農科大學助教授に任ぜられ大正九年東京高等師範學校教授に轉じ同十二年化學研究の爲め米英獨に在留し同十四年歸朝す現時東京高等師範學校教授兼東京文理科大学講師たり(東京市杉並區大宮前五二七七)

武部 弘成

正五位勳五等、稅務監督局書記官
石川縣土族
妻 壽 慶應三、一、一、一
男 隆 昭六、七生、福井、大和田久兵衛四女、福井高女出身
女 隆 昭六、二生
君は石川縣土族武部勝貞の長男にして明治二十六年十二月を以て生れ昭和八年家督を相續す先は大正六年東京帝國大學法科大學法科を卒業し稅務監督局局長大倉副司稅官稅關事務官稅務監督官等に歴任し昭和三年稅務監督局書記官に任ぜられ廣島稅務監督局長に補せられ經濟部長を兼任す次いで同九年七月東京稅務監督局長に轉任し東京稅務局所轄所得審査員を命ぜらる家族は尙長女敦子(大一一、九生)二

武部 成直

前共保生命保險取締役兼支配人
東京府在籍
妻 かね 明二七、八生、東京、伊藤のぶ私生子
君は東京府人先代成直の長男にして明治二十年二月四日を以て生れ同三十四年家督を相續す兼に共保生命保險會社取締役兼支配人たりしも現時職を辭せり弟兼文(明二八、二生)は同妻兼文(同三八、一、一、山形、佐藤芳太郎妹)及其二子を伴ひ分家せりA三〇九(東京市牛込區市谷王子町一四電牛込四〇六六)

武谷 廣

從三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務
福岡縣土族
妻 水城 嘉永六、一、一、尾石信二男
男 止 孝 明三七、一〇生
男 恩 明四五、三三
君は福岡縣人田中茂右衛門の四男にして明治八年五月を以て生れ先代水城の養子となり大正十二年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同四十二年醫學博士の學位を受 現時九州帝國大學教授兼醫學部勤務たり昭和九年滿洲國へ出張を命ぜらる家族は尙四男格(大五、一、一、五男篤(同七、三、三)三女靖子(同二〇、一、一)あり長女隆子(明四〇、六、六)は廣島縣人藤永榮に二女規子(同四三、一、一)は福岡縣人入江英雄に嫁せり(福岡市本庄町二〇二七電二三八)

武山喜三郎

地主
神奈川縣在籍
妻 幸子 明一七、七生、静岡、長谷川宗藏
男 喜久郎 明四五、一、一
君は神奈川縣人武山喜助の長男にして明治十年三月十

武松 久吉

正五位勳三等、檢事、長崎控訴院
福岡縣在籍
妻 美 明二五、一、一、熊本、猿渡基治妹
長女 智 惠 大五、一〇生、長崎縣立第一高女出身
君は福岡縣人戸主武松茂久太郎の弟にして明治十八年二月二十三日を以て生れ同十四年東京帝國大學法科大學を卒業し大正二年檢事に任じ爾後福岡地方小倉佐賀唐津神戶各區大阪神戶各地方大阪區裁判所檢事に歴補す昭和五年四月臺灣總督府法院檢察官に補官臺北地方法院檢察官に補せられ同七年八月檢事に轉じ長崎控訴院檢事に補せられ今日に至る家族は尙三子女あり(長崎市長崎控訴院官舎)

武宮 雄彦

正五位勳四等、帝室林野局事務官
監理課長、東京府土族
妻 幸子 明二九、五、男爵有馬康純妹
男 正雄 大七、一二生
女 淑子 大六、七生

武(富、長、野、原、部)

(※印は姻族關係)

武長彌榮造

三方銀行取締役
福井縣在籍
妻 俊 明一八、八生、河合貞輔五女
男 俊 明一八、八生、河合貞輔五女
君は福井縣人武長豊吉の二男にして明治二十年十二月を以て生れ大正三年甥方より分れて一家を創立す明治四十五年慶應義塾理財科を卒業し現時三方銀行取締役にして兼に推されて福井縣會議員たり家族は尙二男治郎(大八、三、三)長女美代(同二〇、一〇生)三男誠三(昭二、七生)あり(福井縣三方郡耳村)

武野仙十郎

宇佐見商店取締役
大阪府在籍
妻 明三 一、二生、大阪、井口市右衛門孫
男 永二 大一一、三三、三
君は大阪府人武野常左衛門の四男にして明治二十二年六月二十二日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す宇佐見商店取締役たり家族は尙二女節子(昭二、八生)三女久子(同四、一、三)三男康三(同五、一〇生)四女博子(同七、九生)ありA八六八(大阪府旭區北清水町八五三九電東四二七)

武原 熊吉

從四位勳三等、東京高等師範學校教授、兼東京文理科大学講師
宮城縣土族
妻 かね 慶應元、九生、長野、結澤謙子
男 房子 大四、八生
君は宮城縣人武原量一の長男にして明治十八年八月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同四十二年東北帝國大學農科大學農科教授兼東北帝國大學農科大學助教授に任ぜられ大正九年東京高等師範學校教授に轉じ同十二年化學研究の爲め米英獨に在留し同十四年歸朝す現時東京高等師範學校教授兼東京文理科大学講師たり(東京市杉並區大宮前五二七七)

武部 弘成

正五位勳五等、稅務監督局書記官
石川縣土族
妻 壽 慶應三、一、一、一
男 隆 昭六、七生、福井、大和田久兵衛四女、福井高女出身
女 隆 昭六、二生
君は石川縣土族武部勝貞の長男にして明治二十六年十二月を以て生れ昭和八年家督を相續す先は大正六年東京帝國大學法科大學法科を卒業し稅務監督局局長大倉副司稅官稅關事務官稅務監督官等に歴任し昭和三年稅務監督局書記官に任ぜられ廣島稅務監督局長に補せられ經濟部長を兼任す次いで同九年七月東京稅務監督局長に轉任し東京稅務局所轄所得審査員を命ぜらる家族は尙長女敦子(大一一、九生)二

武部 成直

前共保生命保險取締役兼支配人
東京府在籍
妻 かね 明二七、八生、東京、伊藤のぶ私生子
君は東京府人先代成直の長男にして明治二十年二月四日を以て生れ同三十四年家督を相續す兼に共保生命保險會社取締役兼支配人たりしも現時職を辭せり弟兼文(明二八、二生)は同妻兼文(同三八、一、一、山形、佐藤芳太郎妹)及其二子を伴ひ分家せりA三〇九(東京市牛込區市谷王子町一四電牛込四〇六六)

武谷 廣

從三位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務
福岡縣土族
妻 水城 嘉永六、一、一、尾石信二男
男 止 孝 明三七、一〇生
男 恩 明四五、三三
君は福岡縣人田中茂右衛門の四男にして明治八年五月を以て生れ先代水城の養子となり大正十二年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同四十二年醫學博士の學位を受 現時九州帝國大學教授兼醫學部勤務たり昭和九年滿洲國へ出張を命ぜらる家族は尙四男格(大五、一、一、五男篤(同七、三、三)三女靖子(同二〇、一、一)あり長女隆子(明四〇、六、六)は廣島縣人藤永榮に二女規子(同四三、一、一)は福岡縣人入江英雄に嫁せり(福岡市本庄町二〇二七電二三八)

武山喜三郎

地主
神奈川縣在籍
妻 幸子 明一七、七生、静岡、長谷川宗藏
男 喜久郎 明四五、一、一
君は神奈川縣人武山喜助の長男にして明治十年三月十

武松 久吉

正五位勳三等、檢事、長崎控訴院
福岡縣在籍
妻 美 明二五、一、一、熊本、猿渡基治妹
長女 智 惠 大五、一〇生、長崎縣立第一高女出身
君は福岡縣人戸主武松茂久太郎の弟にして明治十八年二月二十三日を以て生れ同十四年東京帝國大學法科大學を卒業し大正二年檢事に任じ爾後福岡地方小倉佐賀唐津神戶各區大阪神戶各地方大阪區裁判所檢事に歴補す昭和五年四月臺灣總督府法院檢察官に補官臺北地方法院檢察官に補せられ同七年八月檢事に轉じ長崎控訴院檢事に補せられ今日に至る家族は尙三子女あり(長崎市長崎控訴院官舎)

武宮 雄彦

正五位勳四等、帝室林野局事務官
監理課長、東京府土族
妻 幸子 明二九、五、男爵有馬康純妹
男 正雄 大七、一二生
女 淑子 大六、七生

夕之部 武(部、松、宮、村、谷、山)

(※印は姻族關係)

四日を以て生れ大正二年家督を相続す地主たり家族は...

只見 徹 正四位勳三等、長崎高等商業學校...

但木 二王 臺灣銀行福留支店支配人...

橋 佐助 大阪府在籍...

但本 良助 玉屋、眼鏡商...

橋 英三郎 從四位勳四等、農林技師、水産局...

橋 繁之進 まつばや、酒類商...

橋 尚藏 地主、大阪府在籍...

橋 彌三郎 地主、兵庫縣在籍...

橋 與一 地主、會社員...

橋 林太郎 富山縣多額納税者、中成電氣工業...

辰井 梅吉 朝日新聞社専務取締役、朝日...

業界に重きをなせり君其後を享け夙に早稲田大學理工學部を卒業し土木建築請負業に専ら...

定七 木炭問屋業 大阪府在籍 明三、四、九、生、大阪、井上牛之助

龍居 頼三 從五位勳四等、前服部時計店専務 大阪府在籍 安政六、五、生、大阪、奥田恒七長女

龍野 昌之 住友別子鐵山専務取締役、住友化學工業、倉敷紡織、四國中央電力各取締役、岡山縣在籍

龍江 義信 海商産業取締役會長、有米土地總代表取締役、海外興業、事務取

龍岡 榮吉 國際信託取締役 鹿兒島縣在籍 明一、八、生、鹿兒島、山下

龍野 右忠 東京龍野製作所社長 東京府在籍 明三、二、九、生、東京、井口常次郎

龍口 了信 勳四等、高輪商業學校長、高輪中學校主、東京府在籍

龍野 了信 勳四等、高輪商業學校長、高輪中學校主、東京府在籍

龍野 右忠 東京龍野製作所社長 東京府在籍 明三、二、九、生、東京、井口常次郎

龍野 昌之 住友別子鐵山専務取締役、住友化學工業、倉敷紡織、四國中央電力各取締役、岡山縣在籍

龍野喜右衛門 兵庫縣在籍 明三〇、五、生 正延 明三〇、五、生 婦 チヨノ 武田長藏妹

龍野自由兒 日本醇醱製造會社員 東京府在籍 明三三、六、生、神奈川、福井準造

龍野昌之 住友別子鐵山専務取締役、住友化學工業、倉敷紡織、四國中央電力各取締役、岡山縣在籍

龍野昌之 住友別子鐵山専務取締役、住友化學工業、倉敷紡織、四國中央電力各取締役、岡山縣在籍

立 作太郎 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授

立 作太郎 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授

立 作太郎 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授

立 作太郎 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授

巽 清内 從五位勳五等、販賣局技師、仙臺地方販賣局製造課長、奈良縣在籍

立 作太郎 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授

に入る同三十三年外交史研究のため獨逸英各國に留學し歸朝後東京帝國大學法科助教授同教授に歴任し同三十八年法學博士の學位を受く同四十一年學術觀察の爲め歐米各國に差遣せられ同時に英國倫敦に於ける海軍法規會議開設の専門委員仰付らる大正九年學士院會員仰付られ宮内省御用掛を兼ね御前に進講の榮を有す昭和九年大學教授を辭し同六年同大學名譽教授に推されるに巴里講和會議及華盛頓會議に際し全權委員隨員として出席し更に同九年四月白耳義に於て開催の各國帝國學士院會議に日本代表として出席し國際公法學の大家として知らる家族は尙四男三女(大五、一〇生、成蹊高校在學)三女綾子(同一〇、三生、自由學園在學)四女澄(同一二、一生)五男重文(同一四、二生)孫美子(昭七、九生、長男正善長女あり長女フミ(男四四、三生、自由學園出身)は山口縣人吉田眞一(男三三)郎に嫁せり(東京市品川區五反田五ノ五七電高輪一〇九)

君は佐賀縣土族立石彌八の長男にして明治十二年三月を以て生る同四十一年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同四十三年判事に任ぜられ長崎縣同地方那覇縣同地方各裁判所判事をを経て朝鮮總督府判事に轉じ平壤地方法院判事朝鮮總督府事務官等に歷補し再び判事に任じ大阪府同地方各裁判所判事大阪府同地方各裁判所判事及甲府府地方裁判所判事等を経て現に奈良地方裁判所所長たり家族は尙弟今朝雄(明三二、一生)あり養子千代(同四〇、五生、東京、大竹信藏長女)は山梨縣人辯護士岡岩敬に嫁し同(同一七、一生)は佐賀縣土族高岡善太郎弟竹一に同(同一〇、八生)は福岡縣人高倉三吾養子周藏に嫁し同(同一二、九生)は佐賀縣人山下内藏右衛門に同(同一三、六生)は同縣土族高岡善太郎弟竹一に各養子となれりA一〇九(奈良市登大路町官舎電二)

明治十七年十一月を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す同四十四年文官高等試験に合格し翌四十二年東京帝國大學獨法科を卒業し直に農商務省屬となる同四十四年農商務省書記官兼參事官に任じ爾來農商務大臣秘書官臨時產業調查局事務官戰時保險局事務官簡易保險局書記官農商務大臣官房文書課長東京鐵道監督局長製鐵所理事同販賣部長兼東京出張所長商工省貿易局長等に歴任し後東京市電氣局長となり昭和八年末辭職し現時東京株式取引所常務理事たり家族は尙三男三女(大五、一生)四男義夫(同七、三生)長女貞(同一〇、一生)五男哲夫(同一、八生)六男英夫(同一三、四生)ありA一二七九(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ八三四電四谷五六〇〇)

立石謙輔

正四位勳二等、判事、名古屋控訴院長、東京府土族

千代田土地宅代表社員、米穀商

池田屋、菓子商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石信郎

從四位勳三等、東京株式取引所常務理事、東京府土族

從四位勳三等、東京株式取引所常務理事、東京府土族

東京電氣聯合紙器、川北殖産各務取締役、立川宅代表社員

立石知滿

千代田土地宅代表社員、米穀商

從四位勳三等、東京株式取引所常務理事、東京府土族

正五位勳五等、和歌山縣師範學校長、宮崎縣在籍

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

立石種一

正五位勳四等、判事、奈良地方裁判所長、佐賀縣土族

東京府土族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり

毛織物商

高等師範學校を卒業し宮崎長野長崎鹿兒島縣第一各縣師範學校教諭に歴任し大正十一年師範學校校長に歴任し高田師範學校校長奈良縣女子師範學校校長富山縣師範學校校長兼富山實業補習所長を経て昭和七年和歌山縣師範學校校長に補せられ今日に至る弟美夫(明二四、九生)は宮崎縣人兒玉モトの養子となり妹ケサ(同一二、一生)は同縣人黒木久平に嫁せり(和歌山市和歌山縣師範學校内)

立川熊次郎

立川文明堂、出版業

立川文明堂、出版業

立川文明堂、出版業

立川太一郎

從六位、衆議院議員(東京府選出)

從六位、衆議院議員(東京府選出)

從六位、衆議院議員(東京府選出)

立川政五郎

金融業

金融業

金融業

立川政六郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

立川政七郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

立川政八郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

立川政九郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

立川政十郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

立川政十一郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

立川政十二郎

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

勳八等、朝鮮米穀倉庫事務取締役

れ又西鮮日報社長となり昭和五年十一月京城に於て朝鮮米穀倉庫株式會社が創立する、是が専務取締役となり今日に至る女貞子(明三六、二生)は長崎縣人岡部正治に嫁せり(京城府竹添町三電光二一九〇)

立澤 剛 從四位勳五等、第一高等學校教授 岡部正治に嫁せり

立澤 剛 從四位勳五等、第一高等學校教授 岡部正治に嫁せり

立田 清辰 正五位勳六等、山梨縣書記官、内務部長、岐阜縣在籍 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立野 平兵衛 藥種商 大阪府在籍 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立野 德治郎 正四位勳二等功五級、海軍中將 山口縣在籍 妻 千代能 明二、九生、山口、兼清光次郎

立花 馨 正五位、男爵、横濱正金銀行員 慶應二、九生、長野、士、伊澤文

立花 貫一郎 從四位勳六等、日本製鐵株式會社 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 鑑徳 正四位、伯爵、福岡縣多額納稅者 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 重次郎 立花商店社長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 寛篤 正四位勳三等、掌典次長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 定民 日本勸業銀行理事、松本支店長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 俊一 從五位、商工書記官兼簡易保險局長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 寛篤 正四位勳三等、掌典次長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 定民 日本勸業銀行理事、松本支店長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

立花 俊一 從五位、商工書記官兼簡易保險局長 妻 節子 明三六、二生、東京、服部宇之吉

棚橋 三郎

正六位勳四等、退役陸軍三等軍醫、醫師、愛媛縣在籍

妻 かい 長女

男 貞雄 明三九、三三

男 文雄 明四一、一〇生

君は愛知縣人棚橋百三の三男同金之輔の兄にして明治五年二月を以て生れ同二十九年兄金左衛門方より分れて一家を創立す同二十五年愛知醫學專門學校を卒業し軍籍に入り同三十八年三等軍醫正に進み同四十二年豫備役に編入せらるるに醫を閉業し今日に至る家族は向長男貞雄妻貴美子及孫清(昭七、九生、長男貞雄長男)同節子(昭九、四生、同長女)二男文雄妻政子あり長女智恵子(昭三〇、四生)は鳥取縣人岡田實に二女多恵子(昭三三、一一生)は岐阜縣人安藤守孝兄弟守義に三女美恵(昭三五、一一生)は愛知縣人岡田榮一養子實雄に嫁せりA三六八(名古屋市西區上長者町二ノ六電本局四九二) 參照 安藤守孝、棚橋金左衛門、棚橋金之輔の項

棚町 丈四郎

正五位勳四等、大審院檢事、福岡縣在籍

妻 五十吉 明八、四生、現戸主

養母 ヒサヲ 明二七、四生、養父五十吉長女

女 道子 大七、二生

君は福岡縣土族前衆議院議員佐々木正藏の四男にして河原島の弟なり明治二十一年十一月を以て生れ大正三年豫備海軍主計少將棚町五十吉の養子となる同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同五年檢事に任ぜられ大阪東京各地方裁判所檢事東京控訴院檢事等に歴任し昭和八年外遊し歸朝後大審院檢事たり家族は向三女和子(昭一〇、五生)二男知彌(昭一四、八生)三男祥吉(昭五、八生)あり(東京府北多摩郡武蔵野町吉祥寺八八五電吉祥寺四六九) 參照 河原高の項

谷 泉

東京紅門病院長、醫師、高知縣在籍

妻 久代 明七、二生、高知、山中直誠長女

男 萬壽子 明四一、三生、日本醫大出身

君は高知縣人谷虎平の三男にして明治四年十一月を以て生れ同二十年兄市太郎の死跡を相續し前名岩太を改むるに清生學舎に學び醫學に従ひ東京紅門病院を經營し院長たり醫に邦樂座取締役河原同春園取締役等に就任せし事あり家族は向甥竹清(昭二〇、六生、亡兄市太郎長男)同妻裝束保(昭二四、一一生、高知、森岡福次二女)及其子女あり長女喜代子(昭三一、三生)は谷紅門病院院長谷岩太に嫁し庶子敬之助(昭四四、一一生)生母、東京、日向(昭五、一一生)も亦同妻し(昭二二、一〇生、兵庫、濱田常吉長女)及其四男二女を伴ひ分家せり(神戸市東區福一ノ一八電元町三五七)

谷 卯一郎

家主、大阪府在籍

養子 和一郎 昭三一、一一生、養子愛子夫、兵庫、樹田喜兵衛男

養子 愛子 昭三六、八生、養子和一郎妻、大坂、出口久之助養子

君は大坂府人小澤利兵衛の二男にして明治元年十二月二十四日を以て生れ同三十四年先代ひさの大夫となり家督を相續す現時家主たり家族は向孫裕雄(昭一四、八生)養子和一郎長男(昭五、三生、同長女)同和夫(昭六、一〇生、昭二男)ありA四一七(大阪府豊能郡豊中町三五七)

谷 儀一

從三位勳三等、子爵、陸軍少將、步兵第三旅團長、東京府華族

妻 文 昭二七、六生、子爵曾我祐邦養妹

男 武夫 昭四四、一一生、學習院出身

當家は先代干城より顯る干城は舊土佐藩士にして安井息軒の門に學び後東奔西走國事に盡す明治四年兵部權大丞陸軍大佐に任じ翌年少將に進み西南の役熊本鎮臺司令長官として熊本城を死守し偉功を奏す次で中將に任じ東部監軍部長陸軍士官學校長兼戸山學校長となり同十七年華族に列し子爵を授けらるる後學習院長華族女學校長に歴任し貴族院議員に當選せり君は其孫にして乙猪の長男なり明治十四年八月一日を以て生れ同四十四年家督を相續し養子同三十七年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少將に任じ累進して昭和九年陸軍少將に陞り第一師團副官近衛師團司令部附歩兵第五聯隊長を経て現時歩兵第三旅團長たり家族は向三男正臣(昭五、六生)四男直臣(昭六、一一生)二女梅子(昭九、一一生)五男元臣(昭一一、八生)六男城臣(昭一二、一一生)弟守人(昭一六、一一生)同妻千代(昭二六、二生、東京、土、水谷幸一姉)及其二男あり長女妙子は兵庫縣人辰馬利一三男猛に嫁し妹まつ(昭一九、八生)は京都府土族陸軍中將福井策三に嫁せり(仙臺市角五郎町一〇八官舎三三四) 參照 子爵曾我祐邦、辰馬利一、福井策三男爵立花養子曾我祐三條實敏宗彩英五郎友田一郎の項

谷 欽太郎

從六位勳六等、富山縣多額納稅者、日本勸業銀行地方顧問、富山縣肥料部長、小松電氣、黒部川電力各取締役、農業、富山縣在籍

妻 正子 昭二六、三生、富山、櫻井傳三郎

男 正夫 昭一三、一一生、富山、浮田總英姉

君は富山縣人谷平吉の長男にして明治十一年十二月を以て生れ先代順平の養子となり大正三年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格し臺灣總督府に出仕して專賣局事務官となり(昭三三、一〇生)四女尚子(昭三三、一〇生)ありA一四〇(東京市大森區北千束町六五八電産三九二)

谷 軍治郎

從五位勳三等功四級、陸軍一等軍醫、池田同生病院院長、醫師、大阪府在籍

妻 シカ 昭一〇、一一生、佐賀、持永秀貫五男

男 恒男 昭四三、五生、大阪帝大岩水外科勤務、醫學士

君は熊本縣人谷恒太郎の長男にして明治元年三月を以て生れ同二十八年養兄勳太郎より分れて一家を創立す夙に長崎醫學專門學校を卒業し陸軍に入り明治四十四年一等軍醫正に陞任す専ら池田同生病院院長として今日及び池田師範學校及浪速高等學校々醫を兼ね二女百合子(昭三五、七生、大手前高女出身)は九州大學助教授醫學博士菅野寛一に三女康子(昭四〇、一一生、大手前高女高等科出身)は長崎縣入星野太郎三男行久に各嫁せりA二七四(大阪府豊能郡池田町電二三一六)

谷 三治郎

岡本洋行取締役、東京府在籍

妻 いと 昭二一、九生、東京、喜多ヨネ私生子

男 信子 昭五、九生

女 和子 昭八、一一生

君は兵庫縣人谷杉松の三男岡本米藏の弟にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年兄竹二郎方より分れて一家を創立す現時岡本洋行取締役にして兼に東京瓦斯電氣工業大日本電化精煉各會社取締役たりし事あり家族は向二男明(昭一〇、六生)三男篤(昭一一、八生)三

谷 新助

谷回春堂、藥種商、大阪府在籍

妻 美代 昭四一、九生、大阪、宮本利右衛門四女、大手前高女出身

男 敏夫 昭三三、三生、三重高等農林學校在學

當家は先代祖父新助より顯る新助大阪に住し谷回春堂と稱し賣藥を業とし同府多額納稅者にして貴族院議員に互選せらるる父道太郎は日露の役に出征し旅順攻撃の際戰死す君は其二男にして明治三十七年一月を以て生れ大正七年先代祖父新助の後を承け家督を相續し同時に前名新太郎を改め敏夫と昭和四年慶應義塾大學法學部を卒業し遺業賣藥を營む家族は向長女悦子(昭四、三生)あり伯母(昭三一、一一生)は分家して小山始太郎を迎へりA三八三九(大阪府東區伏見町二ノ一電本局四五七) 參照 池田仁左衛門の項

谷 甚四郎

奈良縣多額納稅者、農業、奈良縣在籍

妻 ナヲ 昭二二、二生、奈良、岡橋清左衛門三女、門三、三生、三重高等農林學校在學

男 育子 昭六、一〇生、縣立三重高女在學

谷家は古くより奈良縣下玉寺町に住し農業に従事す君は先代甚右衛門の長男にして明治九年八月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名甚作を改むるに大阪島中學校を卒業し家業を繼承し現に縣下の多額納稅者にして直接國稅八百七十六圓を納む家族は向妹久恵(昭三一、一一生、奈良高女出身)あり弟規矩治(昭二四、九生、陸軍歩兵少尉)同妻(昭三四、三生、八塚孝太郎長女)は共に大阪府人豊田宇左衛門の養子となり叔母アツ(昭六、八生)は同府人西尾兵一郎に嫁せり(奈良縣北葛城郡王寺町電三八) 參照 岡橋清左衛門、豊田宇左衛門の項

谷 清松

正七位勳五等功五級、陸軍大尉、愛知縣土族

妻 藤九郎 昭三六、一〇生、神戸製鋼所技師

男 秀子 昭四一、二生、長男藤妻、大阪、中谷庄衛四女

君は愛知縣土族谷藤九郎の長男にして明治七年四月二十九日を以て生れ先代三之助の養子となり同年家督を相續す同三十年陸軍士官學校を卒業し日露戰役の際中隊長として旅順攻撃に参加し負傷退職功により功五級金鷲勳章及勳五等雙光旭日章を授けらるる趣味は園藝園藝等なり家族は向三男瑞穂(昭六、一〇生、長男長男)同照子(昭九、一一生、同長女)ありA三一七(名古屋市西區泥町三ノ一二) 參照 見田重次中谷庄衛の項

谷 節太郎

前福井精煉加工取締役、福井縣土族

妻 すゝ 昭二一、三生、養父米三郎長女

男 幸枝 昭四四、二生

君は石川縣人豊田四郎の六男にして明治十五年二月を以て生れ先代米三郎の養子となり同三十六年家督を相續す福井精煉加工會社取締役たりし現時之を辭し閑地に在り兼に日本クロス工業關田商店上毛撫藤西村機業豊田貿易各會社の重役たりし事あり(福井市漢上町三七ノ一)

五生、東京、大島龜之助弟)は分家せりA五四二B一四六(東京市京橋區京橋一ノ二、三電京橋一〇五)

谷 多喜磨 從四位勳三等、朝鮮信託社長

君は佐賀縣土族谷又一郎の長男にして明治十七年八月を以て生れる同四十二年東京帝國大學法科大學を卒業し

谷 孝信 正興公司取締役、大正製糖顧問、日本體育用品總代理、東京府在籍

君は東京府土族谷謙一郎の二男にして明治二十年六月を以て生れ昭和七年分れて一家を創立す大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士となり後川崎造船所に入り又大正製糖會社事務取締役に就任し現時其顧問となり傍ら前記會社の重役を兼ねぬ

谷 高三郎 醫學博士、谷病院院長、醫師

君は岡山縣人谷千三の長男にして明治八年八月を以て生れ大正二年家督を相続す醫學博士の學位を授けらる長女富美(明三三、一)は兵庫縣人醫學士谷清一(二)女多喜子(明三三、一)は兵庫縣人天兒民

谷 忠治 正五位勳五等、判事、札幌控訴院部長、北海道帝國大學農學部講師

君は熊本縣土族谷政一の弟にして明治二十二年二月を以て生れる大正元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し外交官及領事官試驗に合格す爾來領事官補外交官補大使館三等書記官二等書記官として多年歐洲に在勤す同十二年歸朝後外務省參事官兼外務省領事官外務省書記官兼領事官一等書記官に任じ現時滿洲國在勤たり

谷 政二郎 關西自動車車庫取締役、丸物倉庫責任社員、總務課長、京都府在籍

君は京都府人谷政一の二男にして明治二十六年四月七日を以て生れ先代谷まさの養子となり同三十六年家督を相続す現時丸物倉庫責任社員にして總務課長に任じ

谷 敏太郎 洋品雜貨輸入製造卸商

君は東京府人先代廣吉の長男にして明治四十三年三月二十二日を以て生れ昭和九年家督を相続す同年慶應義塾大學經濟部を卒業し直に祖業を承継す洋品雜貨輸入製造卸商を營む家族は尙弟進二郎(明四五、一)同光吉(大一一、一)同光三(大一一、一)同光四(大一一、一)同光五(大一一、一)あり

谷 萬吉 北海道多額納稅者、日高自動車事務所支店長、日高自動車事務所、北海道在籍

君は京都府人谷橋右衛門の長男にして明治九年七月十五日を以て生れる同二十三年北海道に渡り農業に従事し同三十五年に渡り浦河町に於て土木請負業を開始今日に至る現に日高自動車事務所支店長に任じ其の社長たるの公職に在るの外日高自動車會社を起し其の社長たり家族は尙弟進二郎(大一一、一)同光三(大一一、一)同光四(大一一、一)あり

谷 宗雄 從四位勳四等、日本製鐵株式會社、八幡製鐵所勤務、京都府在籍

君は三重縣土族花井龍郎の二男にして明治二十四年一月を以て生れ大祖父谷家の絶家を再興し谷と改姓す大正四年京都帝國大學理學部化學科を卒業し同五年八幡製鐵所に入り技術を経て同七年技術師に進み化工部副課長たりし昭和九年日本製鐵株式會社の創立するや引續き同社に勤務し製鐵部長研究所監督に任ぜらるる海外に留學を命ぜらるる家族は尙長女美智(昭三、七)同光三(大一一、一)同光四(大一一、一)あり

谷 閑衛 正五位、子爵、舊丹波山家藩

君は愛知縣土族谷忠重の長男にして同忠次の子なり明治十一年十二月二十二日を以て生れ昭和二年家督を相

谷 直次郎 谷健商店社長、石原染工總監査役、愛知縣在籍

君は愛知縣人谷健次郎の二男にして明治十八年十月を以て生れ大正二年家督を相続す現時谷健商店社長の外前記各會社の重役たり家族は尙三女ふみ子(大九九、二)同三女次郎(同九九、二)同三女吉次郎(同九九、二)あり

谷 八太郎 酒造業、京都府在籍

君は京都府人谷多喜磨の長男にして明治二十六年七月二十二日を以て生れ昭和七年家督を相続す酒造業を營む家族は尙長女静子(大一一、一)同二女泰子(同一一、一)同二女喜雄(昭四、一)同二女喜雄(昭四、一)あり

谷 眞心 從四位勳四等、判事、名古屋地方裁判所部長、愛知縣在籍

君は愛知縣土族谷忠重の長男にして同忠次の子なり明治十一年十二月二十二日を以て生れ昭和二年家督を相

谷 宗雄 從四位勳四等、日本製鐵株式會社、八幡製鐵所勤務、京都府在籍

君は三重縣土族花井龍郎の二男にして明治二十四年一月を以て生れ大祖父谷家の絶家を再興し谷と改姓す大正四年京都帝國大學理學部化學科を卒業し同五年八幡製鐵所に入り技術を経て同七年技術師に進み化工部副課長たりし昭和九年日本製鐵株式會社の創立するや引續き同社に勤務し製鐵部長研究所監督に任ぜらるる海外に留學を命ぜらるる家族は尙長女美智(昭三、七)同光三(大一一、一)同光四(大一一、一)あり

君は三重縣人谷川文七の四男にして明治十七年六月を以て生れ大正三年家督を相續す...

谷河 梅人

君は岩手縣土族谷河直八の長男にして明治七年十一月を以て生れ同三十年應義塾文科を卒業し...

谷口 嘉吉

君は京都府人谷口嘉兵衛の長男にして慶應元年五月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隠す...

谷口 清之助

君は京都府人谷口清兵衛の長男にして明治十年十二月を以て生れ同三十二年家督を相續す...

谷口 善一郎

君は大阪府人谷口善二の長男にして大正四年十一月を以て生れ昭和四年亡伯父元之助の後を承けて...

谷口 武雄

君は愛知縣人小川松一郎の二男にして明治三十七年十月七日を以て生れ先代新造の養子となり...

谷口 鼎

君は奈良縣土族にして明治十五年八月十五日を以て生れ同三十五年東京工學院前身東京工手學校を卒業す...

谷口 三郎

君は廣島縣人谷口嘉一の三男にして明治十八年四月を以て生れ大正十二年兄精太方より分れて一家を創立す...

谷口 重次

君は京都府人先代重助の孫にして大正五年二月二十二日を以て生れ同七年家督を相續す...

谷口 茂雄

君は大阪府人先代久松の長男にして明治九年三月二十三日を以て生れ明治二十年家督を相續す...

谷口 恒二

君は兵庫縣人谷口寅之助の長男にして明治二十七年六月を以て生れ大正八年東京帝國大學法學部政治學科を卒業す...

谷口 德政

君は兵庫縣土族谷口政堅の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正五年家督を相續す...

谷口 成美

君は兵庫縣人谷口信太郎の二男にして明治十三年一月を以て生れ同三十九年兄武一郎方より分れて一家を創立す...

谷口 尚真

君は廣島縣土族谷口眞卿の二男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年兄清眞の後を承けて家督を相續す...

谷口 眞壽

君は京都府人谷口文治郎の長男にして明治三十九年四月を以て生れ大正十三年家督を相續す...

谷口 知平

君は京都府人谷口文治郎の長男にして明治三十九年四月を以て生れ大正十三年家督を相續す...

谷口 直之

君は奈良縣人谷口藤三郎の二男にして明治十六年十二月十日を以て生れ同三十二年家督を相續す...

谷口 成美

君は兵庫縣人谷口政堅の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正五年家督を相續す...

谷口 喜代

君は兵庫縣土族谷口政堅の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正五年家督を相續す...

谷口 美代子

君は兵庫縣土族谷口政堅の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正五年家督を相續す...

君は東京府人谷口仲兵衛の二男にして明治十八年五月を以て生れ昭和六年兄清水方より分れて一家を創立す

谷口 彦朔

今直商店、酒醬油商

君は香川縣人桑原恒七の弟にして明治十七年九月を以て生れ先代喜美齋の養子となり同四十二年家督を相続す

谷口 萬治郎

兵庫縣多額納税者、地主

君は兵庫縣人谷口庄右衛門の二男にして明治十五年一月を以て生れ同二十二年家督を相続し昭和九年退隠す

谷口 默次

日本印刷材料、大阪書籍各監査役、印刷業、大阪府在籍

君は東京府人谷口守雄の長男にして明治十八年六月十六日を以て生れ同二十九年家督を相続す

谷口 元治郎

正五位勳三等、陸軍少將、重砲兵

君は東京府人谷口守雄の長男にして明治十八年六月十六日を以て生れ同二十九年家督を相続す

谷口 守雄

判所檢察正、京都府在籍

君は東京府人谷口守雄の長男にして明治十八年六月十六日を以て生れ同二十九年家督を相続す

谷口 昌子

大正三、一〇生、兵庫、井上隣太郎

君は三重縣土族谷口四郎兵衛の長男にして明治七年七月十六日を以て生れ同三十四年家督を相続す

谷口 彌市

多荷屋、樽丸問屋業

君は大府人谷口幸三郎の長男にして明治二十四年三月十八日を以て生れ昭和三年家督を相続す

谷口 彌三郎

醫學博士、實験醫學研究所長、日本赤十字社熊本支那部長、谷口

君は愛媛縣人近藤佐五郎の長男にして明治十六年八月を以て生れ谷口家に入り大正十年養弟職方より分れて一家を創立す

谷口 彌三郎

醫學博士、實験醫學研究所長、日本赤十字社熊本支那部長、谷口

君は兵庫縣人谷田庄兵衛の長男にして明治三十六年二月二十七日を以て生れ大正十年家督を相続す

谷田 友治

三菱商事代表取締役

君は兵庫縣人谷田庄兵衛の長男にして明治三十六年二月二十七日を以て生れ大正十年家督を相続す

谷田 平治郎

兵庫縣在籍

君は兵庫縣人谷田庄兵衛の長男にして明治九年三月三日を以て生れ同三十年家督を相続す

谷田 二郎

從四位勳三等、工學博士、大阪帝國大學教授、工學部勤務

君は京都市人先代久吉の長男にして明治八年一月二十四日を以て生れ同十四年家督を相続す

谷澤 幾次郎

半襟服製品卸商

君は京都市人先代久吉の長男にして明治八年一月二十四日を以て生れ同十四年家督を相続す

君は長崎縣人先代默次の長男にして明治四年八月を以て生れ同三十三年家督を相続し前名龜壽を改め

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は大府人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

君は京都市人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す

谷田 繁太郎

正四位勳二等、陸軍中將、同和自動車理事

五生、同長女あり姉り(明五、一〇生)は分家し同...

谷本 清心

正四位勳三等、臺灣總督府臺北高等學校長、高知縣士族...

谷本 富

正五位勳四等、文學博士、大阪毎日新聞社顧問、龍谷大學講師...

谷本 正雄

大倉洋行、色活版所、特種製紙、小田製紙各取締役、東京セ...

谷山 正國

安田銀行、盛岡支店長、東京府士族、父長女...

谷利 宇助

京都府在籍、弟利吉(同二四、一一生)同妻みつ(同三四、一一生)...

谷利 茂助

京都府在籍、君は京都府人先代茂助の長男にして明治元年一月二十...

種子島源兵衛

泉發油社社長、具探紡績取締役、大阪府在籍...

種子島時望

正五位、男爵、舊大塚種子島邑主、母 房 子島休長女...

種子田秀實

正四位勳二等功五級、陸軍中將、鹿兒島縣士族...

種子田秀穂

川崎造船所社員、東京府士族、妻 元 子 姉、雙葉高女出身...

種子田秀穂

川崎造船所社員、東京府士族、妻 元 子 姉、雙葉高女出身...

種子田七

愛知縣在籍、味噌酒醸造業、母 妻 姉、一一生、愛知、神谷傳右衛門...

種子田健藏

東洋紡績常務取締役兼工務部長、昭和レノン、裕豊紡績各取締...

種子田虎雄

正四位勳三等、信貴山電機社長、大阪鐵道事務取締役、參宮急行電鐵大阪鐵道各取締役...

種子田益五郎

京都府多額納税者、金融業、妻 正 子 姉、一一生、京都、山本太...

日を以て生れ大正二年兄徳太郎方より分れて一家を創立す金銀業を営み直接國稅二千三百五十二圓を納め京都府多額納稅者たり(京都市下京區三ノ宮町通正面上ル電下一二七)

種野榮市郎

酒類商 大阪府在籍 明三七、一〇生 君は大府人先代榮太郎の長男にして明治十年十月十日を以て生れ大正十年家督を相續す酒類商を営む家族は尙孫安(昭四、九生、長男榮之祐長男)同亭(同六、四生、同二男)ありA二六〇(堺市少林寺町東一ノ一三電一三五六)

種村宗八

早稲田大學出版部、東洋々々各書取締役、埼玉縣在籍 明三一、三三、長男茂一妻、埼玉 明一、三三、長男茂一妻、埼玉 明一、三三、長男茂一妻、埼玉 明一、三三、長男茂一妻、埼玉

種谷喜兵衛

神戸市海東區議員、種谷代表 明一、三三、長男茂一妻、埼玉 明一、三三、長男茂一妻、埼玉 明一、三三、長男茂一妻、埼玉

玉井幸助

正五位勳五等、東京高等師範學校教授、東京府在籍 明一七、二生、奈良、澤榮七長女 幸助 明四四、八生、府立第二高等女出身

玉井治藏

大阪府在籍 文久二、一〇生、大阪、津田長右衛門二女 君は大府人玉井治吉の三男にして明治三十四年一月二十日を以て生れ昭和六年家督を相續す早稲田大學理工科を修業す家主たり家族は尙孫久藏(明四〇、二生)同妻綾子(同四三、二生、大阪、石原清姉)及其の一女ありA三二四(大阪市天王寺區某ヶ崎)

玉井周吉

中外商船總社長、山下汽船專務取締役、東洋海運取締役、東海運監査役、東京府在籍 明一七、一生、愛媛、松川千代吉 長女 明三六、一二生、生母、兵庫、吉田三、神戸海上保險會社員、早大出身 明四四、六生、東京、加藤甚吉長

し本編商を営み種谷合名會社代表社員にして又推されて神戸市海東區議員たり家族は尙孫三女ヒイ(六一〇、二生)あり姉たね(明三一、二生)弟喜重郎(明四一、二生)は分家せし同喜代助(同二三、五生)は同妻櫛巳代(同二八、一一生、川村源藏二女)及其二子を伴ひて分家せりA三七九(大阪市東區博愛町一ノ三四電船場三五八二)

頼母木桂吉

正五位勳三等、衆議院議員(東京府選出)、東京府在籍 明七、四生、養父源七二女、從四位勳四等、元東京普通學校教授 明三二、六生、福島、關源二六男

玉井榮藏

本編商在籍 明三、五生、奈良、上田三良治 妻 明四、四生、大阪、玉井又次郎妻 養子 満子 明四、四生、大阪、玉井又次郎妻

玉井喜久市

正五位勳四等、判事、大垣裁判所判事、愛媛縣在籍 明一八、三三、愛媛、西本熊十郎 妻 明四二、七生 君は愛媛縣人玉井村治の二男にして明治九年七月を以

玉井清五郎

清文堂、出版業 京都府在籍 明一八、六生、京都、松本鶴吉妹 妻 明一八、六生、京都、松本鶴吉妹 添男 明一、一一生

玉井庄太郎

エビス電球、東洋スタンダード電料各社取締役、電球製作業 東京府在籍 明五、九生、神奈川、日下部信篤 妻 明三、七生

玉井清治郎

資産家 大阪府在籍 明一九、二生、大阪、加藤豊吉長 妻 明四二、九生 男 明四四、七生 男 富藏 大二、一一生 男 洋福子 大八、六生 女 絹子 大八、三三

玉井磨輔

具島炭礦取締役、幸袋工作所、中央火災傷害保險、具島理理事 東京府在籍 明二八、七生、福岡、具島百吉長 妻 菊野 女、筑紫高女出身

て生れ同四一年家督を相續す同三十八年東京法學院法學科を卒業し判事官に合格同四十年判事に任じ爾來延岡四口市安濃津各區安濃津地方古屋區同地方岐阜區福井地方平田區岐阜地方各裁判所判事及び御高區判事所監督判事兼岐阜地方裁判所御高支部長等を経て現時大垣區裁判所判事の職に在り(大垣市郭町大垣裁判所内)

玉井喬介

三重工業部長崎造船所長 三重縣在籍 明二九、四生、三重、三浦順太郎 妻 明二九、四生、三重、三浦順太郎 養男 大六、一一生

玉井健次郎

愛媛縣銀行監査役 愛媛縣在籍 明二、一一生、二男温次郎妻、愛媛 明二、一一生、二男温次郎妻、愛媛 明二、一一生、二男温次郎妻、愛媛

玉井仙太郎

東京府多額納稅者、辨務總本店、辨當仕出業、東京府在籍 明一三、一一生、東京、近藤豊太郎 妻 明四二、一〇生 男 俊輔 明四四、三三、三男俊輔妻、東京 女 梅子 明四一、五生 女 梅子 明四一、五生 女 梅子 明四一、五生

玉井徳松

大阪府在籍 明九、七生、大阪、玉井豊松妹 妻 明三九、一二生 男 九十郎 明三九、一二生 男 九十郎 明三九、一二生

玉井磨輔

具島炭礦取締役、幸袋工作所、中央火災傷害保險、具島理理事 東京府在籍 明二八、七生、福岡、具島百吉長 妻 菊野 女、筑紫高女出身

玉木敬太郎 兵庫縣在籍
 妻 こと 慶應元、二生、兵庫、森本大介長
 妻 しげ 明一六、一生、兵庫、玉木吉藏長
 男 俊夫 明三七、一生
 男 秀子 明三三、一生、長男俊夫妻、愛知
 男 立也 明四二、一生
 女 華子 明四一、〇生
 君は兵庫縣人越賀藩十郎の二男にして明治十二年十一月二十一日を以て生れ同三十三年同縣人玉木しげの八夫となり家督を相続す現時御影町長たり家族は尙三男和之(六一、一生)孫守也(昭六、五生)長男俊夫妻(明三九男)同雅子(同八、一生)同長女あり長女英子(明三九三)は大阪府人加賀貞三郎に嫁せり(同二一、一生)は兵庫縣武庫郡御影町郡家下り二〇二ノ一電御影二六三六

玉木誠次郎
 大倉組(通商)理事、大倉商事取締役、大倉製糖工場、帝國製糖佛國通商、大倉スマトラ農場各取締役、大倉火災海上保險、日清製油、茂屋炭礦、大倉土木各取締役、新湯縣在籍
 妻 リツ 明二一、〇生、新湯、小林久平
 男 宏 明四四、三生
 女 富美子 明四二、九生、縣立神戸第一高女
 女 茂子 明四二、二生、東京文華高女出身
 君は新湯縣人玉木良平の二男にして明治四年十一月を以て生れ同四十年家督を相続す同二十七年慶應義塾理財科を卒業し直に大倉組に入りシドニー大阪支店等に勤務せし昭和四年本店に擧げられ同時に大倉スマトラ商事取締役會長の外前記各會社の重役たり又會て日本電池會社監査役たり(同三三、一生)は同縣人同縣人太田顯太郎に嫁し弟豊藏(同二一、一生)は同縣人太田寅吉の養子となり(同三九四八(東京市淀橋區下落合)ノ四一六電大塚二五六)

玉木泰次郎 前第一銀行(株)検査役
 妻 ミヨ 明一七、五生、新潟、前山金次妹
 男 泰男 明四三、八生、東京帝大法科在學
 君は新潟縣人玉木善作の弟にして明治八年六月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同二十九年慶應義塾理財科を卒業し第一銀行に入り同行検査部第一課長たりしが退きて現時同行嘱託の閑地に在り(東京市神田區駿河臺二ノ九ノ一電神田一八七一)

玉木爲三郎 生命保險會社協會専務理事
 妻 豊 明九、八生、鹿兒島、士、松平友
 男 一介 明三二、七生、東京火災保險會社
 男 正 明四二、九生、長男一介妻、東京
 女 正 明三三、八生、東京外語出身
 男 正 明四二、九生、理學士
 男 正 明四二、九生、慶大醫學部在學
 君は玉木正興の三男にして明治三年四月二十六日を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同二十七年東京帝國大學法科大學を卒業し母校及び東京高等商業學校慶應義塾等に保險學を講じ又仁壽生命保險會社取締役たりしことあり現時生命保險會社協會専務理事たり家族は尙孫晴雄(昭八、一生)長男一介(昭六、六一)長女(昭四、〇生)東京高等(在學)七男文雄(昭六、六一)長女(昭三、〇生)東京高等(在學)五女(昭三、〇生)は山口縣人岡本高介養子山梨高等工業學校教授員一に二女晴(昭四、〇生)は新潟縣人細谷山夫に嫁せり(昭二、〇生)同三三、二生、東京帝大法醫學部醫學科出身)森永研究室技師は本家玉木辨太郎の跡を相続せり(昭三、五八(東京市花原區下神明町六八)電高輪三五五六)

玉木 懿夫 三井倉庫調査課長
 妻 ミツ 明一二、二生、山口、大岡力妹
 男 京一 明二九、八生、京大法科大學經濟
 男 壽 明三八、一生、長男京一妻、東京
 男 洋三 明三八、二生
 男 五郎 明四〇、〇生
 君は山口縣人玉木藏之助の二男にして明治五年六月十九日を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す現に未國に遊び農商務省實業練習生となり歸朝後中央新聞主筆事務理事となり後三井倉庫會社に入り現に同社調査課長たり漢詩を作り格調と號す家族は尙六男(昭六、五、四生)七男(昭七、同八、三生)孫孫成(昭三、一、一生)長男京一(昭一、一、〇〇)(東京市赤坂區青山町五ノ三五電青山四九八)

玉城嘉十郎 從四位勳三等、理學博士、京都帝國大學教授、理學部勤務
 妻 雪 明三六、二生、山口、鏡長女
 君は明治二十七年十二月四日を以て生れ大正七年東京帝國大學農科大學林學科を卒業後山手林業試驗場技師を経て同十二年林業試驗場技師に任ぜられ現在に至る(東京市澁谷區北谷町四八)

玉澤 煥 從四位勳三等、海軍造船中將、海軍艦政本部出仕、山口縣士族
 妻 安子 明二二、二生、山口、土、馬屋原
 男 廣 大五、一生、北海道大隈在學
 君は山口縣士族玉澤煥一の二男にして明治十四年三月を以て生れ同三十九年東京帝國大學工科大学造船學科を卒業し海軍造船中將に任じ昭和二年少將に累進し同七年中將に陞る其間工務検査官兼造船部々員造船兵監官として英米各國に出張し尋で艦政本部々員工務検査部長兼海軍技師養成所長海軍艦政本部出仕に補せらるる家族は尙二女雪子(同二〇、〇生)三男昭(昭三、四生)兄朝馬(明二一、一生)現戸主あり(東京市杉並區荻窪一ノ一二電荻窪三六七三)

玉塚榮次郎 玉塚商店社長、共同證券取締役
 妻 喜世 明三八、七生、東京、小栗兆兵衛
 男 常雄 大二三、六生
 君は東京府人先代榮次郎の長男にして明治三十五年一月九日を以て生れ大正九年家督を相続し後前名光雄を改め名を東京株式取引所一般短期實物國債取引員たる玉塚商店社長たり傍ら共同證券會社取締役を兼ね先代榮次郎は株式仲買人として成功し又公共事業に盡す所多し家族は尙二男(昭二、四生)長女知佐(昭五、二生)二女百合子(昭一、五、七生)三女麗子(昭五、三生)あり(昭二、二六(浦和市埼玉縣廳内務部長官會))

玉手 三葉壽 從五位勳六等、林業試驗場技師
 妻 雪 明三六、二生、山口、鏡長女
 君は明治二十七年十二月四日を以て生れ大正七年東京帝國大學農科大學林學科を卒業後山手林業試驗場技師を経て同十二年林業試驗場技師に任ぜられ現在に至る(東京市澁谷區北谷町四八)

玉野 惣吉 地主
 妻 さき 明一八、七生、東京、櫻井幸藏三
 男 仙 明三八、一生
 女 春枝 明四二、八生、二男仙妻、東京、明四二、四生
 男 崑 明四四、五生

玉田昇次郎 從五位勳六等、埼玉縣書記官、内務部長、愛知縣在籍
 妻 章子 明三五、三三、京都府立第一高女
 男 健 大一一、三三
 君は愛知縣人玉田憲二の弟にして明治二十五年五月十日

玉手 弘 莫大小雜貨卸商
 妻 静 明二五、三三、大阪、志方勢七長
 男 弘一 大五、五生
 女 秀子 大五、九生
 君は大坂府士族玉手弘通の四男にして明治二十一年八月を以て生れ大正二年弘行方より分れて一家を創立す明治四十三年神戸高等商業學校を卒業し現時日本毛織株式會社特約店として莫大小卸商を営む外日本針布株式會社特約店として各紡績會社に針布の販賣をなす業に同志土地會社大阪砂糖取引所其他諸會社の重役たりし亦あり(大阪府東區道修町五ノ二五電本局三九九)

玉松 公敏 舊公卿家
 當家は參議山本實福の孫廣弘の後なり眞弘幼にして醍醐寺に入り得度して翁海と稱し大僧都法印に任ず後復飾し岩倉具視を輔けて王政維新に盡す處あり明治二年其功により特旨を以て堂上の列に加へられ別に一家を立て家號を玉松と稱す其明眞幸に至り同十七年男爵を授けられ貴族院議員に擧げらる夫より先代公敏を経て君に至る君は公秋の庶子にして大正四年八月一日を以て生れ昭和三年男爵仰付けらるる家族は妹妙子(大九、二生)同孝子(同二二、〇生)叔父公三(明三一、二生)あり同公敏(同二六、七生)は分家し妹惠津子(昭二、四生)は大坂府人加藤玉之助の養子となり(京都市上京區小山花ノ木町六五ノ一五)

玉宮善治郎

從五位勳六等、航空官、航空評議
會臨時評議員、遞信省航空局勤務
東京府在籍

君は東京府人にして明治二十四年六月一日を以て生る
大正七年東京帝國大學理科大學化學科を卒業後陸軍省
に入リ陸軍技術師に任じ航空部附に補せられ遞信省
に航空局設置せらるゝに及んで大正十四年遞信省事務
官を兼て被仰付陸軍中隊航空部補給部所澤支那
員兼陸軍飛行學校教官兼技術勤務を命ぜられ昭和四
年遞信省技術師航空局勤務となり今日及ぶ家族は尙長
女慈子(大一一、四生)二男賢(昭三、八生)二女尚子
(同七、八生)あり(東京市板橋區上石神井一四二三電
石神井一五五)

玉蟲一郎

從三位勳三等、第二高等學校名譽
教授、宮城縣士族

君は宮城縣士族玉蟲太郎一の長男にして明治元年四月
を以て生れ同九年家督を相続す同二十八年帝國大學文
科大學を卒業し愛媛宮城各縣尋常中學校教諭第二高等
學校教授等に歴任し次第第二高等學校長たりし昭
七年之退き同年同校名譽教授の稱號を授けらるゝ家族
は尙善美子(昭三、八生)長男長女(同孝)同(同五、一
生)同長男あり二女斗喜(明四、一四生)宮城縣第二
高女出身(は文學士伊田友作に嫁し妹たつを(同四、二
生)は宮城縣人沼邊くまの養子となり(仙臺市東四番
丁七二)

玉村德治郎

洋紙商並氏家業
大阪府在籍

君は大阪府人北井由松の弟にして明治十九年三月五日
を以て生れ同十四年東京高等師範學校を卒業し各地の
師範學校教諭を経て東京日々新聞記者となりし後著
述業を営み現時教育週報社長兼主筆にして推されて東
京府會議員たり(社會民衆黨)屬し中央執行委員に舉げ
らるゝに雜誌「中學世界」主筆「太陽」編輯長たりし事
あり家族は尙二男丸(大五、九生)三男水(同九、三生)妹
千(明二、七生)亡兄九歳妻サダ(同二、三)三、三、福
岡、太刀川啓吉長女)及其子女あり姉タネ(同九、五生)
は福岡縣人長谷川壽六三男堀三に嫁せり(東京市豊島
區西巢鴨二ノ二六四九電大塚五九二)

垂井榮吉

垂實、淡水魚問屋
兵庫縣在籍

君は大阪府人北井由松の弟にして明治十九年三月五日
を以て生れ同十四年東京高等師範學校を卒業し各地の
師範學校教諭を経て東京日々新聞記者となりし後著
述業を営み現時教育週報社長兼主筆にして推されて東
京府會議員たり(社會民衆黨)屬し中央執行委員に舉げ
らるゝに雜誌「中學世界」主筆「太陽」編輯長たりし事
あり家族は尙二男丸(大五、九生)三男水(同九、三生)妹
千(明二、七生)亡兄九歳妻サダ(同二、三)三、三、福
岡、太刀川啓吉長女)及其子女あり姉タネ(同九、五生)
は福岡縣人長谷川壽六三男堀三に嫁せり(東京市豊島
區西巢鴨二ノ二六四九電大塚五九二)

垂井清右衛門

和歌山商工會議所顧問、和歌山縣
多額納税者、南海商會理事、和歌山縣
貯蓄銀行、島田硝子製糖所、和歌山
山産業、南海商會各役、和歌山
井名社員、和歌山縣士族

君は和歌山縣人垂井清右衛門の二男にして明治二十九
年二月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す實商を
營み現時商會社の重役にして和歌山商工會議所に推さ
れ直接納税千二百四十六圓を納め縣下の多額納税者た
り(和歌山市西旅籠町六電一五五四)
參照垂井清右衛門の項

夕之部 (垂井) 樽、俵

玉屋時次郎

蓬萊閣ホテル取締役會長、宮城
電氣鐵道(現)役員、成田急行電鐵
監督役、高知縣在籍

君は高知縣人玉屋熊作の長男にして明治十二年二月を
以て生れ大正九年家督を相続す現時蓬萊閣ホテル取締
役會長宮城電氣鐵道會社取締役成田急行電鐵會社監査
役たり(神戶不動產會社の重役たりし事あり)家族は
尙三女良子(大一一、七生)弟浦次郎(明二〇、四生)同
妻エイ(同二四、一〇生)徳島、丸田萬次郎(二女)及其
一女の外亡姉玉恵夫(太郎(同六、一一生)徳島、丸
田萬次郎弟)あり(一)二(東京市赤坂區新坂町八二電
青山五七二〇)

玉山

正五位勳五等、北海道農技師、農
事試験場十勝支場長、北海道士族

君は北海道士族玉山駒治の三男にして明治二十一年一
月十二日を以て生る(は)に東北帝國大學農科大學農學科
を卒業し北海道農技師山形縣農技師等に歴任し北海道
農技師に任じ同縣農事試験場在勤同北見上川各支場長を
經て現時十勝支場長たり(尙長女文子(大一一、八
生)兄要(明一八、一一生)現戸主)同妻ノブ(同二三、
三生)北海道、村山鶴太郎(妹)及其一子あり(北海道河
西郡廣町)
參照※田中康の項

爲藤五郎

筆著述業、教育週報社長兼主
筆、著述業、福岡縣在籍

君は大阪府人樽本藤太郎の二男にして明治三十六年二
月十一日を以て生れ大正六年祖父藤兵衛の家督を相続
す地主たり家族は尙二男淳(大一一、一〇生)妹藤子(同
四、一〇生)あり(同三三、六生)は同父八郎(同
二七、一一生)大阪、村主久吉(四男)及其二子と共に
分家し妹幸子(同三八、一一生)は大阪府人河井一に
嫁せり(八六六(大阪市天王寺區大道二ノ五電天王寺
二二八四)

樽本藤太郎

地主
大阪府在籍

君は大阪府人樽本藤太郎の二男にして明治三十六年二
月十一日を以て生れ大正六年祖父藤兵衛の家督を相続
す地主たり家族は尙二男淳(大一一、一〇生)妹藤子(同
四、一〇生)あり(同三三、六生)は同父八郎(同
二七、一一生)大阪、村主久吉(四男)及其二子と共に
分家し妹幸子(同三八、一一生)は大阪府人河井一に
嫁せり(八六六(大阪市天王寺區大道二ノ五電天王寺
二二八四)

樽本義松

地主
大阪府在籍

君は大阪府人樽本清次郎の四男にして明治二十一年三
月二十四日を以て生れ大正五年家督を相続す家主たり
家族は尙二女節子(大一一、八生)孫憲太郎(同九、一
二生)養子武治(長男)同善藏(同二〇、一一生)同(二男)
あり(八二四六(大阪市東區船場町七五))

俄國

正三位勳二等、工學博士、帝國學
士院會員、學術研究會會員、東
京帝國大學名譽教授、東京府在籍

垂井末治

兵庫縣在籍

君は奈良縣人大方樽太郎の四男にして明治三十一年十

垂井清之助

和歌山商工會議所顧問、和歌山縣
多額納税者、南海商會理事、和歌山縣
貯蓄銀行、島田硝子製糖所、和歌山
山産業、南海商會各役、和歌山
井名社員、和歌山縣士族

垂井清吉

和歌山商工會議所顧問、和歌山縣
多額納税者、南海商會理事、和歌山縣
貯蓄銀行、島田硝子製糖所、和歌山
山産業、南海商會各役、和歌山
井名社員、和歌山縣士族

君は和歌山縣人垂井清右衛門の二男にして明治二十九
年二月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す實商を
營み現時商會社の重役にして和歌山商工會議所に推さ
れ直接納税千二百四十六圓を納め縣下の多額納税者た
り(和歌山市西旅籠町六電一五五四)
參照垂井清右衛門の項

君は京都府人熊谷萬助の長男にして明治元年一月を以て生れ先代六右衛門の養子となり後家督を相続す表装地給納商を営み熊谷合名社長にして京都府多額納税者たり家族は曾孫慶太郎(大七、一)生、養子謙吉長男(同定子(同二、二)生、同二女あり養子ヌイ(明二、三、三)生、京都、佐々木徳兵衛四女)孫美恵大四、一、生、養子謙吉長女)は各分家せりA二八九六B一九二(京都市中京區六角本洞院東入電上四五七五)

丹治 良一 丹治商會、煉瓦製造業

母 タカ 慶應三、八生、大阪、淺野源作二
妻 三女 明三、一一生、大阪、藤野嘉市
男 光一 大三、七生
女 君枝 大八、七生
君は大阪府人丹治利右衛門の長男にして明治二十二年六月二十八日を以て生れ大正五年家督を相続す丹治商會と稱し煉瓦製造業を営む家族は尙三男雅夫(大一一、二)生(弟茂(同二、九)生)あり妹貞(明三三、三)生は分家し同花子(同三五、一)生)は大阪府人寺田元吉六男三二に同スエ(同三七、七)生)は兵庫縣人清水清五郎に嫁せりA一五八四(堺市袖松町九電一七七)

丹野 彌太郎 陸奥電力、馬淵川電氣各取締役

妻 みね 明四〇、一一生
男 良太郎 明四〇、一一生
男 忠四郎 明四二、五生
男 ツル 明四三、一〇生
男 彌兵衛 大二、二生
男 五郎 大八、九生
女 きぬ 大五、五生
女 みつ 大八、七生
君は岩手縣人先代彌太郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ同十二年家督を相続し前名良助を改め養名す米穀肥料商を営み傍ら前記合會社の重役たり家族

淡波 助一 金礦業

母 久元 一一生、兵庫、中西安左衛門二女
妻 喜代子 明四三、一〇生、兵庫、南原清吉六女
君は兵庫縣人丹波三郎の長男にして明治三十八年三月十六日を以て生れ昭和八年家督を相続す金礦業を営む家族は尙長女春子(昭五、一〇)生)姉たね(明三五、九)生)同夫(同二六、四)生、兵庫、宮前信太郎(弟榮一(同四四、三)生)同幸次郎(同四五、五)生)同米三(大四、二)生)同五郎(同七、四)生)同清子(同三三、二)生、明婚(同四、一)生、養子(同二女)あり(昭五、七)生、同二男(同七、一)生、同二女)ありA二八八三B四一七(神戸市淡東區東川崎四ノ二〇〇〇電兵庫二三六六)

淡中 孝八郎 時和商店社長、建築資料研究所

妻 ハル 明一一、一一生、東京、士、堀種壽
男 正也 明四二、一一生
君は高知縣人淡中虎右衛門の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治十七年家督を相続す夙に慶應義塾二松學舎等に於て探検界に入りて自由新聞に執筆す後實業界に轉じ東武鐵道會社支那人夕張炭礦會社取締役兼支那人日本郵船會社重役横濱船渠滿洲製粉各會社取締役等に就任し現時絹織物輸出並漁業を営み時和商店社長の外前記會社の重役たり長女信(明三〇、九)生)は東京府人片岡貞夫に二女光子(同三六、五)生、東京女學館出身は同府人坂野野文に嫁せり(京都市赤坂區青山北町四ノ一〇六電青山九三三)

淡輪 敏雄 正四位勳二等、海軍主計中將

伊能 從五位、男爵

妻 美智子 元治元、六生、伯爵金子堅太郎妹
男 伊政磨 明三三、一一生、長崎、上野季三
男 大 大一一、四生
當家は先代琢磨より顯る琢磨は舊福岡藩士諏訪宅之丞の三男出で同藩權大參事向靜の養子となり明治十三年分家す同四年同藩主黒田長知米國に遊學すや伯爵金子堅太郎と共に其隨員となりボストン中學を経て工科大学に入り鐵山學を修め同十一年歸朝す同十四年工部省工部大學校に出仕又鐵山局御用掛として三池鐵山に在勤する事五年再び歐米各國の鐵山業を視察す後三池鐵山の三井組の所有となるや聘せられて鏡意其發展擴張に力を致し三井鐵山會社の今日あるに至らしむ同三十二年工學博士の學位を受け昭和三年華族に列し男爵を授けらる其間三井合名會社理事長に他三井系諸會社の社長重役に列し又日本經濟聯盟會長工業俱樂部理事部長等財界樞要の地位を占め本邦實業界に貢獻する

團野 源三郎 百三十七銀行事務取締役、酒造業、兵庫縣在籍

妻 ちよ 明二三、二生、兵庫、大西甚六三
男 確郎 明三九、九生、日立製作所勤務、大阪帝大工學部出身
男 實郎 明四二、一一生、京都帝國大學法學部在學
女 秀子 大元、八生、樟蔭女子專門學校出身
女 喜美 大三、一一生、縣立篠山高女出身
君は兵庫縣人團野定次郎の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正五年家督を相続し父祖の業たる酒造業を營み現時百三十七銀行事務取締役たり長女俊(明四四、三)生)は大阪府人豊田順一に妹、(同三一、一〇)生)は大阪府人代議士政友會顧問岩崎幸治郎に嫁せりA五五九B一八〇(兵庫縣多紀郡篠山町電三三)

檀 治 大倉火災海上保險監査役

妻 タツタ 福岡縣士族
男 汎 明四一、一一生、鐵道省技手、工學士
男 淳 明四二、九生
君は福岡縣士族檀友雄の三男にして明治十一年六月を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十八年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業し現時大倉火災海上保險會

檀 泰治郎 日出土地取得役、洋傘原料及毛織物商、大阪府在籍

妻 ソデ 明一九、一〇生、徳島、福見利平
男 芳雄 明四〇、三生、同志社高商部出身
男 素雄 明四一、五生、慶大經濟學部出身
君は滋賀縣人遠藤政太郎の二男にして明治十二年一月二日を以て生れ同三十九年先代ヤエ子の入夫となり家督を相続す夙に阿部市商店に勤務し其支那人たりしが同四十二年獨立開業洋傘原料及毛織物商を營み現時前記會社の重役を兼ぬ趣味に讀書ありA一一二三五七六(大阪府東區南久太郎町三ノ八電船場二二八六)

檀野 禮助 勳五等、北海道炭礦汽船、夕張鐵道各取締役、長崎縣士族

妻 きよ 明一六、三生、兵庫、土橋多四郎
男 富士雄 明三五、七生、長崎、藤原龍珍長
男 春枝 明四四、三生、養子富士雄妻、兵庫、土橋末雄長女
君は長崎縣士族檀野勝次の長男にして明治八年八月九日を以て生れ大正四年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法政科大學法政科を卒業し三井物産會社に入り通關盤谷若松各出張所長を経て北海道炭礦汽船會社事務課長同賣炭部長となり次で南洋貿易日本商事北海道鐵道會社共同販賣會社社長日魯通商會社事務取締役等に就任し現時北海道炭礦汽船夕張鐵道各會社取締役たり昭和三年推されて衆議院議員に當選す弟貞記(明一五、一〇)生、外國語學校露語科出身(同妻セシ)同二、五生、神奈川、佐伯藤之助姉)は其子女を伴ひ分家し妹ヌヤ(同三〇、二)生)は長崎縣人工學士中島修七に嫁せりA二七九(京都市小石川區若荷谷町八九電大塚四七五八)

千之部

千足 富郷

材木商 兵庫縣在籍 弘化四、二生、兵庫、泉佐衛門 父 甚左衛門 二男、惠美酒銀行事務取締役 母 いっ 安政二、九生、祖父甚左衛門長女 妻 フサ 明一三、五生、兵庫、馬立與三郎 男 貞 郷 大二、一〇生

當家は兵庫縣下に於ける舊家として知らる君は千足甚左衛門の長男にして明治十三年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す材木商を營む家族は尙三男宏(大八、八生)あり弟秀二(明二四、二生)は分家し従弟豊次(同二一、二生)は兵庫縣人費多しの死跡を相続せり A二六六B二二二(西宮市久保町一三〇電一八・三六七)

参照 米川瀬後継の項

千賀崎 香義

正五位勳五等、農學博士、蠶業試験場技師兼生絲検査所技師、病理部主任、熊本縣在籍 父 健次郎 文久二、一生、熊本、田添嘉平二 男 侯爵細川家々從、現戸主 妻 茂母 島 明元、八生、熊本、白井市藏二女 妻 モト 郎三女、一〇生、熊本、石井新七 男 遠 昭五、五生

君は熊本縣士族古山米男の弟にして明治十八年十月九日を以て生れ同四十五年現戸主健次郎の養子となる先是同四十四年東京帝國大學農科大學農學科を卒業して官界に入り農商務省囑託原蠶種製造所技師蠶業試験場技師等に歴任し大正十三年歐洲各國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝後前記現職に在り曩に農學博士の學位を受く家族は尙二女洋(大八、四、五生)あり(東京市澁谷區代々木上原町一一二九) 参照 米守谷定吉の項

千頭 一生

海軍少佐、三菱重工製鉄取締役、三菱長崎兵器製作所長 高知縣士族 母 文久元、九生、高知、士、今村直 妻 象 明二〇、一〇生、高知、森澤保如 男 俊 彦 明四二、一生 男 英 明四五、四生 女 美枝子 大三、一〇生

君は高知縣士族千頭正巳の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正十四年家督を相続す夙に海軍兵學校を卒業し海軍少佐に進みしも退官して三菱造船會社に入り現に前記三菱重工製鉄取締役同社長崎兵器製作所長たり家族は尙三男輝雄(大六、三生)四男榮生(同八、八生)あり弟忠夫(明二〇、一生)は高知縣人今村守衛の死跡を相続し叔父眞幸(元治元、二生)は同縣士族千頭久の入夫となれり A三二八〇(長崎市壱粕町四一三三〇)

千明 賢治

華嚴社エレクトリック社長、上毛電力取締役、群馬縣在籍 妻 かつ 明一、一一生、群馬、中澤善吉 男 康 明三六、一生 女 てる 明三八、三生 庶子 明子 明四二、三生、生母、群馬、山崎 庶子 千 明四三、六生、生母、群馬、山崎 明四三、六生、生母、群馬、山崎

君は群馬縣人千明森蔵の長男にして明治十一年十月十日を以て生れ同四十年家督を相続す同三十三年中央大學を卒業し植林事業を營みて世に知られ山林中菅沼丸沼大尻沼の三湖には鱒の養殖をなし現時華嚴社エレクトリック會社社長にして上毛電力會社取締役たり義に利根運輸會社長の外上毛電氣鐵道關東銅索鐵道各會社重役たりしことあり家族は尙庶子明久(大八、四生、生母、群馬、村山さく)あり父森蔵(弘化四、四生)は分家し養姉ひろ(明二一、五生、群馬、木暮長平二女)は群馬縣人鈴木徳松の死跡を相続し養子カナル(同三〇、七生、群馬、星野筆吉長女)は同縣人金子有造に嫁せり

A二七二(東京市本郷區駒込千駄木町五七電小石川六四九)

千金樂 静次

エービーシー製菓監査役、地主 母 コウ 明一九、二生、栃木、佐竹米吉姉 妻 文子 明四五、五生、東京、古屋富一郎 妹 武藏野學 女學部出身

君は群馬縣多額納稅者千金樂喜一郎の三男にして明治四十年十月を以て生れ昭和五年家督を相続す同六年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時前記會社の重役たりルフに趣味を有す家族は尙弟三郎(明四四、二生、慶大經濟學部在學)妹多加子(大八、五生、雙葉高女在學)第五郎(同九、五生)同八郎(同二〇、二生)同都雄(同二一、一生)妹裕子(昭四、二生)あり養叔父政吉(明一〇、六生、群馬、森下武二郎二男)は同妻淳子(同二一、三、六生、栃木、平本宗太郎妹)及其子女を伴ひ分家せり(東京市澁谷區代々木大山町一〇七四電四谷二四三三)

千艸 エン

洋反物商 君は大阪府人村田安兵衛の二女にして明治元年十二月十二日を以て生れ昭和五年先代安兵衛の後を承け家督を相続す洋反物商を營む A三九一四(大阪市東區南本町四ノ九電船場三〇〇六店舖)東區南本町四ノ一四電船場三六三)

千種 有秀

從四位、子爵、掌典 嫡母 美津子 明九、二生、伯爵副島道正養叔母 妻 加 都 京都府立第一高女出身 當家は源師房の後裔木工頭岩倉具堯の二男權大納言有能の後なり有能別一家を立て千種と稱す夫より八代を経て先々代有任に至り維新に際し功あり明治十七年子爵を授けらる先代有能は其二男にして貴族院議員に列す君は有能の男にして明治三十六年七月を以て生れ同三十九年家督を相続し襲爵仰けらる學費院高等科に學び式部職御用掛を経て現に掌典たり家族は尙伯爵

千之部

千(足、實、顯、明、金、野、種)

(参照は姻族關係)

千之部 千坂、澤、谷、千、野

(※印は姻族關係)

任子(安政二、六生、從三位勳二等、典侍)あり姉葉子(明三〇、一、生、從五位、京都府立第一女出所)は神奈川縣人田中新七に同籍子(同三二、二、生、平安高女出身)は富山縣人土山瑞映に同籍子(同三三、一〇、生、學習院女學部出身)は子爵伊集院兼知嗣子兼高に叔母壽美子(文久二、九生)は男爵榊原三郎の母たり(一六六〇)(東京市澁谷區幡ヶ谷原町八八)

千坂 智次郎

從三位勳二等功四級、海軍中將 東京府在籍 妻 明一、三、生、東京、土、山崎直 男 明三、七、六、生、長男親智妻、福井 親 明三、七、六、生、長男親智妻、福井 女 親 明三、七、六、生、長男親智妻、福井

千坂 洋三郎

從五位勳四等功五級、陸軍歩兵中 佐、東京府在籍 妻 明一、八、八、生、東京、北岡鶴松妹 男 高 康 明四〇、五、生、法學士 女 八千惠 大八、三、生、雙葉高女出身 女 耐子 大八、五、生、雙葉高女出身

千坂 專助

從五位勳五等、鐵道局技師、門司 鐵道局工作部長、九州帝國大學工 學部講師、東京府在籍 妻 文久元、四、生、東京、田中長兵衛 女 長女 明一、二、生、長女まさ夫、大阪 男 千 枝 明三、一、三、生、養子平三郎妻 女 美子 平三郎 明三、一、三、生、養子平三郎妻

千坂 虎雄

從五位勳五等、鐵道局技師、門司 鐵道局工作部長、九州帝國大學工 學部講師、東京府在籍 妻 元治元、九、生、高知、土、千谷敏 女 德二 明三、一、五、生、東京、坂本友吉長 男 道雄 大九、一、一、生、御茶の水高女出身

千坂 善之助

時計商 東京府在籍 妻 明一、六、七、生、東京、野崎要藏二女 男 晴 明三、八、五、生、 女 かね 明三、七、七、生、東京、水谷芳一妹 女 はな 大八、二、生、山脇高女出身 女 みつ子 大六、七、生、府立第三高女在學

千坂 英一

帝國海上火災保險會社員 佐賀縣在籍 君は佐賀縣人千々岩新藏の長男にして嘉永五年八月二 十三日を以て生れ明治十七年家督を相続す現時帝國火 災海上保險會社員たり家族は尙甥今朝一(明二七、一 〇、生、佐賀、千々岩之助三女)及其二子あり姉エイ (嘉永元、一、生)は佐賀縣土族井平元太郎に嫁し弟直次 (明元、九、生)は同妻チト(同一九、七、生、佐賀、安富 多三郎二女)と共に分家せり(四二七、兵庫縣武庫郡大 社町越木岩一六〇七)

千野 要之助

東京府信用購買組合聯合會理事 東京府在籍 妻 明一、三、一、二、生、東京、渡邊萬次 女 長女 明三、五、一、生、 男 秀 介 明三、五、一、生、 男 さ わ 明三、九、三、生、長男秀介妻、東京、 男 篤 介 明三、九、三、生、 女 眞 介 大八、二、生、 女 みね 大八、二、生、

千野 幾治郎

内田商事取締役、日之出セメン ト株式會社、東京府在籍 妻 安政六、六、生、宮城、千葉篤治姉 女 雅子 明二、五、三、生、茨城、平野絹次郎 男 茂 久 大八、三、生、 女 安子 大八、八、生、

千野 龜之助

資商家 東京府在籍 妻 明三、一、九、生、東京、千葉直五郎 女 靜 大八、一、二、生、

千野 公實

從四位勳四等、公證人 宮城縣在籍 妻 明一、八、九、生、岩手、平井徳彌長女 男 英 郎 明三、八、一、一、生、 男 武 郎 明四、四、一、一、生、

千葉 柳治

正四位勳二等功五級、陸軍主計總 監、宮城縣在籍 妻 明一、四、一、一、生、宮城、岩井利助 女 長女 明三、五、一、生、宮城、岩井利助七 男 三、五、一、生、宮城、岩井利助七 男 三、五、一、生、宮城、岩井利助七 男 三、五、一、生、宮城、岩井利助七

千葉 龜雄

東京日日新聞社學藝部顧問、著 述家、宮城縣在籍 妻 明二、一、一、〇、生、群馬、小島峰藏 女 菊 江 明三、八、九、生、文藝春秋社勤務、 女 明三、八、九、生、文藝春秋社勤務、

千葉 清

北海電化工業取締役、臺灣肥料 株式會社、東京府在籍

千之部 千(野、業)

(※印は姻族關係)

手之部 千(輪、綿)血、地

(※印は姻族關係)

君は京都府人千代問政治部長の長男にして明治二十六年二月を以て生れ大正九年家督を相続す...

千輪甫

君は福岡縣土族千輪仙壽の四男にして明治十三年二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す...

千綿榮六

君は佐賀縣人千綿那七の四男にして明治二十一年一月を以て生れ昭和三年兄又一郎より分れて一家を創立す...

血脇守之助

君は千葉縣人加藤誠之助の長男にして明治三年二月を以て生れ同二十年血脇誠之助の死跡を相続す...

地崎宇三郎

君は富山縣人地崎喜太郎の伯父にして明治二十年十月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す...

地主延之助

君は三重縣人地主平九郎の長男にして明治三十年十月を以て生れ大正三年家督を相続す...

地引武

君は東京府人戸塚左衛門の三男にして明治二十年八月を以て生れ先代嗣三郎の養子となり大正十一年家督を相続す...

知念績貞

君は神戶縣人先代賀名の二男にして明治八年四月を以て生れ同三十年兄武太方より分れて一家を創立す...

茅野蕭々

君は長野縣人茅野蕭々の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相続す...

值賀龍夫

君は東京府人近藤龍夫の長男にして明治六年九月を以て生れ大正十三年兄金太郎より分れて一家を創立す...

值賀連

君は熊本縣人土族杉村大八の二男同儀夫の兄にして明治十三年九月を以て生れ先代常徳の養子となり昭和四年家督を相続す...

運塚安三

君は長崎縣人土族賀賀の長男にして明治五年八月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

近岡卯吉

君は東京府人近藤卯吉の三男にして明治六年九月を以て生れ大正十三年兄金太郎より分れて一家を創立す...

近岡理三郎

君は山形縣人近岡理三郎の弟にして明治十三年二月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す...

近澤千里

君は山形縣人先代理三郎の長男同卯吉の兄にして明治四年七月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

子之部

知、茅、值、運、近岡、澤

(※印は姻族關係)

近澤藤次郎 近澤會計事務所、計理士 大阪府在籍 妻 スカ 明一四、七生、大阪、佐藤助次郎 長女

近澤道元 近澤會計事務所、計理士 大阪府在籍 妻 清次郎 明四四、一一生 長女

近重眞澄 正三位勳二等、理學博士、京都帝國大學名譽教授、高知縣在籍 妻 スエ 明四九、九生、東京、士、三宅律師妹 長女

近田歳太郎 高知縣在籍、近田歳太郎上田厚吉の項 妻 和子 昭四、八生 長女

近山與五郎 長野縣在籍、近山與五郎上田厚吉の項 妻 幸 昭五、一〇生、養父貞貞長女 長女

近久謙太郎 大阪府在籍 妻 恒男 明四四、二生 長女

近澤藤次郎 近澤會計事務所、計理士 大阪府在籍 妻 スカ 明一四、七生、大阪、佐藤助次郎 長女

帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入り第五高等學校教授京都帝國大學理工科大學助教授等に歴任し研究の爲獨逸各國に留學し歸朝後京都帝國大學教授に任じ昭和五年免官となり同大學名譽教授の稱號を授けらるるに學術研究會會員たり家族は尙孫一久(昭二、二生、長男久藤長男)同大典(昭三、一一生、同二男)あり長女京子(昭三、九生)は滋賀縣人前川都夫に二女常子(昭三五、一一生)は大阪府人泉正一に嫁せり(京都府京區大森安井町馬場一六電五五五五)

母 ジナイ 明二五、七生、奈良、中谷五市郎妹 君は大阪府人近久武次の二男にして大正八年二月を以て生れ昭和四年家督を相続す地家主たり家族は尙孫光(大二、四生、府立清水谷高女在學)同理江子(同六、五生、同上校在學)ありA四〇七(大阪府南區安堂寺橋二ノ四八電船場二五三三)

竹馬準之助 竹馬商店取締役 兵庫縣在籍 父 準三郎 明七、一一生、現戸主 君は兵庫縣人竹馬準三郎の長男にして明治三十九年十月を以て生れるに京都帝國大學經濟學部を卒業し實業界に入り父業を授け株式會社竹馬商店取締役に就任し以て今日に至るA一〇〇六(神戸市須磨區離宮前二〇電須磨三三〇)

竹馬準三郎 神戶商工會議所議員、竹馬商店、西村食品各社長、大平セメント代表取締役、合同土地、日本造船各代表取締役、阪神國道自動車監査役、岡山製鐵所社員、羅紗工場入商、兵庫縣在籍 妻 ちか 明三九、一〇生 長女

茶谷武夫 眞珠貿易商 大阪府在籍 妻 しな 明四三、七生、滋賀、寛忠藏二女 長女

茶谷保三郎 ホール代表取締役、安宅商會専務取締役、石川縣在籍 妻 つとむ 明二六、二生、北海道、中島牛五郎 長女

茶珍恒次郎 大阪府在籍 妻 ヤス 明一八、八生、大阪、西岡伊之助 長女

中後卯之助 金融業 東京府在籍 妻 ふじ 明八、一一生、東京、石井市三郎 長女

中條菊治郎 昭和銀行船場支店長 滋賀縣在籍 妻 富美 明二七、一一生、大阪、淺井半次郎 長女

手之部 竹、茶、中(院、後、條)

君は兵庫縣人先代利介の長男にして明治十四年四月を以て生れ同三十八年家督を相続し同年前名利一郎を改め製菓子家主たり姉(慶應三、九生)は兵庫縣人淺田嘉右衛門に嫁し同(明七、三生)は同夫準三郎(同七、一一生、大分、梶原市太郎弟)と共に一男二女を伴ひ分家せりA三四九(神戸市灘區八幡山田町三丁目電御影四三六八)

君は石川縣人茶谷善助の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男道夫(大一一、六生)長女外喜(同四、一〇生)弟順次(明三〇、一一生)同妻三千代(同四〇、五生)富山稻原安榮長女)及其一子弟豊之助(同三八、三三)ありA八七七(兵庫縣武庫郡禮道村青屋平田二四〇電野屋二八二二)

君は高知縣人木内半三郎の三男にして明治二年八月を以て生れ先代與五郎の養子となり同三十三年家督を相続し前名を改め製菓子現時近山商會社代表取締役の外前記各會社の重役にして傍ら推されて長野商工會議所議員たり家族は尙孫蘭(大一一、四生、長男與一)

君は滋賀縣人中條權左衛門の五男にして明治十五年九月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時昭和銀行船場支店長たり家族は尙二男良雄(大九、八生)三女光子(同二、二生)三男敏雄(同二、二生)四男正雄(昭三、三生)あり弟良之助(明二四、二生)は大阪府人藤岡貞次郎の養子となれりA一三二(西宮市産所町五八電二四九九)

中條 重三郎

君は岐阜縣人中條泰助の長男にして明治十一年五月を以て生れ同三十年家督を相續す肥料商を營む家族は尙三男良次(大八、七生)二女重子(同二、二生)ありA四八八(名古屋市中區荒川町八八)一電中七七

中條 瀧兵衛

君は三重縣人先代瀧兵衛の長男にして明治十四年六月を以て生れ同四十三年家督を相續す前名沙陀吉を改め製名十醬油醸造業を營み現に中條商店社長たり弟幸吉(明一九、二生)同妻ひで(同二六、一)生、千葉、山下平兵衛、は其の子を伴ひ分家たれり(同二四、三)生)は東京府人西宮新七長男増太郎に嫁せりA八〇六(東京市日本橋區築地町一ノ四電芝町四三七)参照||山下平兵衛伊坂市右衛門の項

中條 精一郎

君は東京府人先代新吉の長男にして明治三十四年六月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正十五年東京帝國大學醫學部を卒業し同附屬醫院腫瘍外科及び藥理學教室に學び昭和九年醫學博士の學位を授けらるる現に日立鐵山醫院に勤務す家族は尙長女綾子(昭五、五生)妹貞子(明四二、八生)三輪田高女(山身)あり妹滿江(同四〇、一)生)は東京府人水本約吉二男美雄に嫁せりA六六四(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段一六五)参照||東京府人水本約吉二男美雄に嫁せりA六六四(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段一六五)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 利平

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

君は滋賀縣人中條權左衛門の五男にして明治十五年九月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時昭和銀行船場支店長たり家族は尙二男良雄(大九、八生)三女光子(同二、二生)三男敏雄(同二、二生)四男正雄(昭三、三生)あり弟良之助(明二四、二生)は大阪府人藤岡貞次郎の養子となれりA一三二(西宮市産所町五八電二四九九)

中條 利一

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 利平

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

中條 美明

君は東京府人先代利吉の長男にして明治三十六年五月を以て生れ昭和七年家督を相續す大倉商業學校本科の出身にして三河屋三利商店と稱して酒商を營むA八九八(東京市麹町區九段三ノ七ノ四電九段八七五)参照||倉知誠夫(東京市本郷區駒込林町二一電小石川三七八)

君は滋賀縣人中條權左衛門の五男にして明治十五年九月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時昭和銀行船場支店長たり家族は尙二男良雄(大九、八生)三女光子(同二、二生)三男敏雄(同二、二生)四男正雄(昭三、三生)あり弟良之助(明二四、二生)は大阪府人藤岡貞次郎の養子となれりA一三二(西宮市産所町五八電二四九九)

中馬 興丸

君は兵庫縣人天崎和印の三男にして明治四年二月を以て生れ先代讓吉の養子となり同四十二年家督を相續す同三十一年東京帝國大學醫學部を卒業し兵庫縣立醫院院長たりしも次で一年志願兵として日露戰役に従軍し一等軍醫に任ぜられ凱旋後尼崎中馬病院を設立し一般の診療に従事す現に同病院主たり大正九年以來衆議院議員に當選する事四回に及ぶ茲に尼崎魚市場會社社長阪神鐵道俱樂部理事長尼崎市醫會會長尼崎調育院長等として多年公共に盡す長女英(明三三、六生)同夫優(同二三、六生)千葉、吉野吉夫弟、醫學博士)は共に分家せり(尼崎市西灘波村二ノ坪電六五九)参照||中馬優の項

中馬 政次郎

君は沖繩縣士族中馬其兵衛の二男にして明治七年八月を以て生れ同三十三年兄藤太郎の後を承け家督を相續す直接國稅五百七十五圓を納め沖繩縣多額納稅者として知らる長女ア(明三七、一)生)は分家し三男政紀(大一三、一)生)は東京府人牧野ムラの養子となれり(沖繩縣那覇郡西本町)参照||中馬優の項

中馬 優

君は東京府士族長英の長男にして同世吉の兄なり明治十三年八月を以て生れ同二十八年家督を相續す父英は漢學者にして書畫を能くし三洲と號し又勤王志士として知らる君は同三十七年東京帝國大學文部省史學科を卒業し更に大學院に入る奈良女子高等師範學校教授京都帝國大學司書官學部教授兼同院主事等に歴任し大正十四年九州帝國大學教授となり現時同大學法文學部に勤務す義に獨佛各國に留學を命ぜられ又戦後再び獨佛に在留す家族は尙養子玲子(昭六、九生)東京、醫學博士櫻井之一(二)女(昭六、二)生)あり長女環(同四〇、一)生)は前記櫻井之一に二女兼重(同四四、六)生)は佐賀縣人經濟學士古館三三に嫁し姉姉同三、六)生)は男爵大森佳一の繼母たりA一〇二(福岡縣糟屋郡和白村奈多)参照||男爵大森佳一の項

長 壽吉

君は東京府士族長英の長男にして同世吉の兄なり明治十三年八月を以て生れ同二十八年家督を相續す父英は漢學者にして書畫を能くし三洲と號し又勤王志士として知らる君は同三十七年東京帝國大學文部省史學科を卒業し更に大學院に入る奈良女子高等師範學校教授京都帝國大學司書官學部教授兼同院主事等に歴任し大正十四年九州帝國大學教授となり現時同大學法文學部に勤務す義に獨佛各國に留學を命ぜられ又戦後再び獨佛に在留す家族は尙養子玲子(昭六、九生)東京、醫學博士櫻井之一(二)女(昭六、二)生)あり長女環(同四〇、一)生)は前記櫻井之一に二女兼重(同四四、六)生)は佐賀縣人經濟學士古館三三に嫁し姉姉同三、六)生)は男爵大森佳一の繼母たりA一〇二(福岡縣糟屋郡和白村奈多)参照||男爵大森佳一の項

長 基連

君は長谷郡信連の後裔長九郎左衛門連龍の後なり連龍前田利家に仕へ龍州七尾の城主となる夫より累代金澤藩の國老として三萬三千石を食み先代成連に至る其男克連明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は故男爵本多政以の二男にして男爵本多政樹の弟なり同二十三年六月を以て生れ選定相續人となり前名恭を改め同三十四年襲爵す大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し三井銀行に入り同十四年以來貴族院議員に當選二回に及ぶ公正會所屬たり又前記會社の重役に舉げらる家族は尙二女裕子(大一一、一〇)生)二男和連(昭六、一)生)あり長女喜子(同八、三)生)は福島縣人富田松彦の養子となれりA一四三(東京市麻布區井町七九電青山四六一〇)参照||男爵本多政樹松彦次郎松田代義松田中東の項

長 世吉

君は東京府士族長英の二男にして現戸主善吉の弟なり明治十七年二月を以て生れ大正三年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し京都府久世郡長を経て同七年六月貴族院事務局に入り同書記官庶務課長に補せられ兼ねて法制局參事たりしが昭和六年十二月書記官長に昇進し警備管財局參事兼ねて今日に及べり家族は尙長女三千子(大一一、七)生)あり(東京市麹町區内幸町貴族院構内官舎電三〇六〇)参照||長壽吉男爵大森佳一の項

長 世吉

君は東京府士族長英の二男にして現戸主善吉の弟なり明治十七年二月を以て生れ大正三年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し京都府久世郡長を経て同七年六月貴族院事務局に入り同書記官庶務課長に補せられ兼ねて法制局參事たりしが昭和六年十二月書記官長に昇進し警備管財局參事兼ねて今日に及べり家族は尙長女三千子(大一一、七)生)あり(東京市麹町區内幸町貴族院構内官舎電三〇六〇)参照||長壽吉男爵大森佳一の項

長 世吉

君は東京府士族長英の二男にして現戸主善吉の弟なり明治十七年二月を以て生れ大正三年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し京都府久世郡長を経て同七年六月貴族院事務局に入り同書記官庶務課長に補せられ兼ねて法制局參事たりしが昭和六年十二月書記官長に昇進し警備管財局參事兼ねて今日に及べり家族は尙長女三千子(大一一、七)生)あり(東京市麹町區内幸町貴族院構内官舎電三〇六〇)参照||長壽吉男爵大森佳一の項

長 義 連 東洋物産社長 靜岡縣土族
母 安政六、一〇生、靜岡、士、河野
妻 藤次郎四女
行孝養子
男 明二〇、一〇生、東京、士、中島
男 明四二、一〇生、慶大法律科在學
男 明四三、一〇生、集島高商出身
女 久子 大五、九生、共立高女専門部出身
女 文子 大五、一二生、佛英和高女出身
君は靜岡縣土族長唯連の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十七年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し現時東洋物産社長たり農に太極木村會社東洋コンクリート工業會社の各重役たりし事あり家族は尙四男壽彦(六七、一〇生)あり弟延連(明四、八生、從四位勳三等、元兵庫縣知事)は分家し姉と同一〇、一〇生は其家籍に入り妹と同一六、一〇生は靜岡縣人渡邊長治に嫁せり(東京市淺草區戸塚町四ノ七九九)
參照：淡男爵村田保定の項

長 南 主 稅 從五位勳五等、通信局技師兼通信技師、東京通信局電氣課長兼通信省電氣局勤務、電氣事任技術者資格檢定委員、東京府在籍
妻 萬代 女、東京高等女學校出身
男 秀夫 大一一、七生

君は宮城縣人長南新太郎の四男にして明治二十三年三月五日を以て生れ後家督を相續す大正三年東京高等工業學校電氣科を卒業し通信技師に任じ電氣局技師に任じ同十年五月通信局技師兼通信技師に任じ東京通信局勤務昭和二年四月仙臺通信局電氣課長に同四年八月東京通信局電氣課長に轉じ電氣事業主任技術者資格檢定委員たり曲曲スポーツ等の趣味を有す家族は尙長女富久子(大一一、三、二女美津子(昭二、四生)三女富美子(同五、三、二女)子(同七、八生)二男敏夫(同九、四生)あり(東京市大塚區雪谷町六六二電報二四二二)

張 阿 力 警察保日臺組取締役社長、宜蘭縣油蔴地取締役、共益自動車株式會社社長、臺北在籍
君は臺北州羅東街の出身にして明治二十四年十二月二日を以て生る夙に漢學國文を學び同地方の實業家として近郷に鳴る大正十年警察保日臺組の代表者となり業務を指揮しよく今日の隆昌を見るに至れり昭和四年増資と共株式組織に改め選ばれて取締役社長となり兼て宜蘭縣油蔴地共益自動車株式會社の各重役たり(臺北州羅東郡羅東町電一〇七)
參照：臺北州協議員、日星商事事務局長、信託會、臺北在籍

張 鷹 相 前朝鮮總督府中樞院參議、慶尙南道在籍
君は慶尙南道泗川郡三千浦の出身にして明治十二年三月を以て生る同三十六年純實學院漢文教師となり同三十八年泗川郡三千浦に於て義塾を設立す同四十四年泗川郡參事に任ぜられ大正七年同郡三千浦面長に就任同十一年同三千浦面長を兼ねしが昭和五年六月總督府中樞院參議に擧げられ今日に至る(慶尙南道泗川郡三千浦面仙島里)

張 塔 內埔庄長、紳商、內埔庄育才會長、臺中在籍
君は臺中州人故張青雲の長男にして夙に漢學を修むる事十數年學成りて後父の事業を輔佐して糖業に従事す大正九年制度改正と同時に父の後を承けて內埔庄長となり尙ら糖業會會長兼理事等の要職を兼ね大正十三年育才會組織會會長たり貧困なる人材の涵養に努め其他公益慈善事業に盡す所多く會て紳章を授けられ長老として庄民より敬慕せらるる趣味に蘭の栽培あり家族は妻張陳氏其の外に長男銀家(早稻田大學政經科)

張 亨 周 縣降慶商行主、臺中在籍
君は臺中州員林街の出身にして明治三十二年十月十六日を以て生る大正二年員林公學校卒業後直に實業界に投じ大正九年芭蕉栽培の經營を始め昭和元年之を會社組織となし年々莫大の収益を擧げ同二年獨立して聯隆慶食品部を設け糖粉油類糖寸等の卸商を營み現今中部に於ける豪商として年賣上額四十餘萬圓を算すと云ふ(臺中州員林郡員林街二三三)

張 傑 新竹市協議員、紳商、新竹在籍
君は新竹州の出身にして明治二十一年十月十二日を以て生る元新竹市會社社長たりしが現時は專賣局指定食鹽酒類元賣捌人にして昭和鐵工場を經營し別に家業として貸地業及米穀商を營み會て公學校に教鞭を執り後、學務委員となり大正七年臺灣紳章の佩用を許さる又保正として多年公共の爲に盡し現に市協議員たり(新竹市客籍)

張 憲 植 從五位勳五等、朝鮮總督府江原道原州郡守、京畿道在籍
君は京城府中樞院參議府后洞の出身にして夙に内地に渡り明治三十年山口縣萩町江向村にて養育を更に滋養縣大津市にて織物を實習し同三十三年東京麹町代何學校を卒へ次て成城中學校卒業後歸國し同三十八年軍部陸軍幼年學校教官となり翌年私立清風學校教師轉じて私立合成人中學校師範部教官官立成中學校教師等を経て同四十三年警視廳警部に任ぜられ其後統監部警部總督府警視に進み次て慶尙南道警視江原道衛生課長に補せられしが大正十一年總督府郡守に轉じ江原道通川郡同江陵郡同高城郡同春川郡等に歴任し後同原州郡守を命ぜられて今日に至る(江原道原州郡原内)

張 玄 彦 正五位勳四等、九州帝國大學教授、工學部勤務、佐賀縣土族
父 二男松 慶應元、二生、現戶主
妻 繼母 ノブ 明一八、七生、佐賀、川原盤根妹
妻 榮 明三〇、一〇生、福岡、山本安次郎五女
男 玄一郎 大一一、六生

君は佐賀縣土族張二男松の長男にして明治二十三年三月を以て生る大正五年九州帝國大學工學部應用化學科を卒業し同大學助教となり同十一年英米佛獨各國(留學を命ぜられ歸朝後同大學教授に任じ工學部に勤務し今日に及ぶ家族は尙二男智二郎(昭二、一〇生)智三(明二六、三、三)同妻鈴子(同三三、一〇生)兵衛(同四三、九生)及其子女弟芳武(明三三、一〇生)妹靜(同四三、九生)あり同妻(同三三、一〇生)は埼玉縣人柿原清二に同幸(同三三、一〇生)は佐賀縣人樋口敬七郎に同幸(同四一、二生)は佐賀縣人吉富豊に嫁せり(福岡市西町一九)

張 國 珍 豐原郡漢藥組合長、臺中州漢藥講習會長、臺中州在籍
君は臺中州大雅庄の出身にして明治三十一年十一月十二日を以て生る大正六年臺灣總督府國語學校師範部を卒業し公學校に教鞭を執りたるが同十年父の逝去に違ひて教職を辭し家業に従事す昭和元年臺灣總督府社會事業協會會長となり同四年豐原郡漢藥講習會會長に選ばれ次て臺中州漢藥講習會會長に推され同五年本島人中唯一の臺灣社會事業協會臺中支部幹事となり兼ねて社團法人同協會會長の公職に在り(臺中州豐原郡大雅庄上楓樹岡)

張 山 鐘 前高雄州協議員、大正實業廳監査役、萬丹信用組合長、醫師、高雄在籍

張 式 毅 新竹市協議員、新竹商工協會會長、大東信託總務部支店長、大同運輸會代表者、新竹在籍
君は新竹市の出身にして明治二十三年二月二十九日を以て生る同四十二年臺北國語學校師範部を卒業し新竹公學校に教鞭を執り永らく育英に盡せしが後郷黨より推されて香山庄長となり後辭して實業界に轉じ昭和四年大東信託會社新竹支店長となり今日に至る又兼ねて大同運輸會社代表社員たり尙官民の信望厚く新竹市協議員に擧げられ其他新竹商工協會會長等幾多公職に關係す(新竹市新竹南門)

張 錫 元 從五位勳五等、朝鮮總督府黃海道參議官、京畿道在籍
妻 崔道常 崔道長女
男 志 遠 明三七、一〇生、齒科醫專出身、齒科醫
君は京城府の出身にして明治十五年五月二十七日を以て生る同三十九年大政司主事に任じ爾來六品承訓師宮内府主事總督府書記等に歴任し大正五年同府郡守に任じ咸鏡北道慶興郡咸鏡南道咸鏡北道咸鏡南道各在勤を経て同府咸鏡南道參議官に任ぜられ現時黃海道參議官たり(黃海道海州本丁官舎)

張 圳 德 榮業商會主、臺北在籍
君は臺北州淡水郡八里分の出身にして明治十二年九月十五日を以て生る幼少にして兩親を喪ひ十六歳の時單身臺北に出て商店に入り商業上の實務を學び二十二歳の時獨立米穀商を開業し後金融業に轉じ其間捷茂銀行を組織兼營す大正三年友人等と協力して捷裕參莊を起し又大正十三年榮業商會を創し三井と特約して小野田セメント北部一手販賣を爲し兼ねて糖業を營み今日に至る(臺北市下李府町二二六)

張 清 泉 中清自動車株式會社社長、平和自動車株式會社社長、臺中商會代表者、東洋商會主、臺中在籍
君は臺中州豐原街の出身にして明治二十一年八月を以て生る夙に實業界に身を投じ獨立材木商を經營す爾來終始一貫よく斯業に勵み他に支店を設置し執れも業績を擧げ尙ら自動車業に進出し聯合自動車貸自動車會社を創設し平和自動車株式會社監査役たり昭和七年中清自動車株式會社を創設して其社長に推され此外自動車代理店及部分品を販賣する個人經營の東洋商會主たり旅行を趣味とす家族は尙六男あり(臺中市橋町四ノ)

張 綬 相 正七位、朝鮮總督府中樞院參議、慶尙北道在籍
君は慶尙北道漆谷郡仁同面の出身にして明治十六年三月を以て生る大正六年大邱銀行取締役となり鮮南銀行取締役を兼ね同九年慶一銀行取締役に擧げられ同年九月後備金融組合倉庫會社社長を兼務し後慶尙北道評議員となり同十三年大邱商業會議所會頭に擧げられ昭和五年六月總督府中樞院參議に就任今日に至る(慶尙北道大邱府署町)

張 進 益 貸地業、臺中在籍
君は臺中州豐原郡の素封家張張影臣の長男にして明治二十四年十二月十三日を以て生る漢學の造詣深し現時悠々自適して閑日月を送り常に子弟の教育に餘念無し子嗣者にして二男六女あり(臺中州豐原郡內埔庄屯子脚六〇一)

張 清 港 臺北市協議員、稻江信用組合專務理事、臺北在籍
君は臺北州の出身にして夙に銀行會社の前身たる國語學校を卒業し直に三井物産會社に入り勤続する事十年後辭し同社の朝鮮人參貨貸付寸換乳等の臺灣全島一手販賣を引受け今日に至る會て綿布商を營み又臺灣金融會社の常務理事たりしことあり現時稻江信用組合専務理事として大稻埕金融界に貢獻し選ばれて臺北州協議員に列す(臺中市協議員たり趣味として書畫を愛す(臺北市御成町四ノ三))

張 清 泉 中清自動車株式會社社長、平和自動車株式會社社長、臺中商會代表者、東洋商會主、臺中在籍
君は臺中州豐原街の出身にして明治二十一年八月を以て生る夙に實業界に身を投じ獨立材木商を經營す爾來終始一貫よく斯業に勵み他に支店を設置し執れも業績を擧げ尙ら自動車業に進出し聯合自動車貸自動車會社を創設し平和自動車株式會社監査役たり昭和七年中清自動車株式會社を創設して其社長に推され此外自動車代理店及部分品を販賣する個人經營の東洋商會主たり旅行を趣味とす家族は尙六男あり(臺中市橋町四ノ)

二八

張 船 社頭庄協議員 君は臺中州員林郡社頭庄の出身に於て明治十四年七月

君は臺中州員林郡社頭庄の出身に於て明治十四年七月を以て生る漢學の造詣深く又地方の名望篤篤農家とし

を以て生れ大正二年分れて一家を創立す醫術たり家族は尙不三遺(大九、六生)二女加代子(同一、二生)三

張 生 臺中州協議員、紳章佩用者、博愛醫院主、醫師、臺中州在籍

君は山口縣士族張至誠の長男にして明治十四年七月三日を以て生れ同三十八年家督を相続す同十四年七月三

君は黃海道豊原郡人張義深の男にして明治三十三年三月五日を以て生る六歳にして漢學を修め同三十年英學を

張 聰 明 永豐炭礦、華豐公司各事務理事、臺灣鐵業理事、新高商事務取締役、東洋信用組合監事、臺灣米商會行主、新竹州在籍

君は新竹州人張傳の二男にして明治十八年八月を以て生る幼少より漢學を修むること十年に及ぶ臺北に於て大興商行永豐炭礦を経営する外實業家として前記各

張 天 機 内埔庄協議員、内埔信用組合監事、臺中州在籍

張 大 翼 正七位、朝鮮總督府中樞院參議、黃海道在籍

君は黃海道陽興郡の出身に於て明治十二年十一月十九日を以て生る明治二十八年漢文私塾を修了し同三十九年瑞興郡文廟掌議を命ぜられ大正九年瑞興郡協議員

張 乃 廣 醫學博士、品芳醫院長、醫師

張 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

張 武 光 正五位勳五等、北海道技師、土木部土地改良課長、東京府在籍

趙 鏡 夏 正六位勳六等、朝鮮總督府慶尚北道道城郡守、京城府在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

沈 皖 鎮 正五位勳五等、前朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

趙 在 敦 全羅北道評議員、金堤文廟直員、全羅北道在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 鏡 夏 正六位勳六等、朝鮮總督府慶尚北道道城郡守、京城府在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 在 敦 全羅北道評議員、金堤文廟直員、全羅北道在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 鏡 夏 正六位勳六等、朝鮮總督府慶尚北道道城郡守、京城府在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 在 敦 全羅北道評議員、金堤文廟直員、全羅北道在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 鏡 夏 正六位勳六等、朝鮮總督府慶尚北道道城郡守、京城府在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 在 敦 全羅北道評議員、金堤文廟直員、全羅北道在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

趙 性 根 從三位勳二等、陸軍中將、朝鮮總督府中樞院參議、京畿道在籍

君は京城府人趙存忠の長男にして明治九年四月八日を以て生る同二十八年參府となり同年東京に留學す次で

趙 漢 詰 正五位勳四等、全羅北道茂朱郡茂朱子をして生る同三十九年京城府成文專門學校法律科を卒業し

趙 鏡 夏 正六位勳六等、朝鮮總督府慶尚北道道城郡守、京城府在籍

君は京城府西大門町の出身にして明治二十一年三月を以て生る同四十年京城府成文專門學校法律科を卒業し

君は京城府の出身にして明治五年一月を以て生る同三十四年度支部主事となり同十四年同書記に任ぜられ

陳天來 前臺北州協議會、臺北茶商公會、臺北商業會副會長、稻江信用組合理事、臺北中央市場監查役

君は臺北州の出身にして明治五年十二月を以て生る幼少にして漢學を修め二十歳より茶業を開始し爾來三十年間茶業に従事し其の間爪哇スマラン井里政等に支店を置き臺灣茶の南洋市場發展のため二回南洋を視察し臺北茶商會會長に就任してより製茶稅の廢止運動に努力して目的を達したり尙前記幾多の事業に關係し傍ら大稻埕壯丁團長臺北各委員市場協會員協議會員等を歴任せり(臺北市港町三ノ一五電三五九七)

陳登財 義竹庄協議會、紳章佩用者、牛橋信用組合、臺南州在籍

君は臺南州東石郡義竹庄牛橋の出身にして明治十二年を以て生る現に牛橋信用組合長義竹庄協議會員臺南大埔組合評議員教育委員等の職にあり公共事業に盡瘁する地方有数の名望家たり義竹庄長として功績あり大正元年臺灣紳章を授けらる(臺南州東石郡義竹庄)

陳文番 前神岡庄協議會、商工會評議員、中央製米株式取締役、裕豐商行主

君は臺中州豐原郡神岡庄の出身にして明治十五年五月を以て生る二十一歳の時老父の家業榮泰米商を支配處理し後獨立して榮順日用雜貨商を創め前後九年間に専心し大正二年更に鄉里豐原に於て雜貨商を始め傍ら金發興製酒公司長に擧げられ同六年中酒製糖組合主任となり後臺中市に於て裕豐商行を營み豐原に支店を置き川崎町に宏大なる製糖工場を有す現時前記の海外海國公司副公司長大新製糖公司理事連成物產公司長裕豐物產公司理事神岡庄土地整理委員及赤十字社々員の要職にあり(臺中市川崎町五ノ五電六八)

陳炳俊 臺北州協議會、三峽信用利用購買組合長、海山製糖株式取締役、三峽信用利用購買組合長、海山製糖株式保護者會長

君は臺北州彰化街西門三七六

陳佛齊 海山製糖株式取締役、三峽庄長、三峽信用利用購買組合長、三峽庄茶業改良會長

君は臺北州の裔陳德從の長男にして明治二十年十一月を以て生る明治三十九年早くも三角湧區土地整理委員を命ぜられて以來同四十年同區書記を拜命同四十四年成福區書記を兼任大正七年三角湧區長に任命せられ三角湧公署事務理事を兼務す同九年地方制度改正と同時に三峽庄長となり十數年間勤続して庄治に貢獻する所不尠極端庄長として州郡當局より表彰せらる其間三峽同風會會長三峽信用組合理事事務局長會會長等の職に在り現時前記要職の外彰化街西門三七六

陳煥 東港郡林邊自動車社社長、煙草賣子弟の調育に力を注ぎ領臺當時偶々匪徒横行に際し克く匪首陳福許等の殲除に功を奏し其他保正として永年社會公共事業に盡瘁したる功績に依り金銀木杯等の下賜授賞に選んで曾て攝政宮殿臺灣行啓に際し節婦烈女として特に表彰せられたる女丈夫なり君も亦母と共に土師討伐に勳功を立て大正九年土庫區長に任命せられ庄會計役里港信用組合理事に推され同十一年夜章を授けられしが後各級の公職を辭して實業に専念し現時前記の職にあり(高雄州屏東郡里港庄里港電一〇) 參照 陳莊氏阿隨の項

ツ之部

津江 正規 今宮神社神官、大阪府在籍

君は大阪府人妻吉太郎の兄にして慶應三年一月十八日を以て生れ先代すへ兒の夫となり明治二十七年家督を相續し前名龜太郎を改む現に今宮神社神官たり家族は尙孫正治(大一〇、四生、養子孝治長男)同孝夫(同一四、二生、同二男)庶子正昭(昭四、四生、生母、和田千代)あり二女千代子(明三四、一〇生)は分家せり(八八六六(大阪府浪速區惠美須町三ノ二六電一三九九))

津枝 謹爾 兵庫縣士族

君は兵庫縣人三島大七の三男にして明治四年六月十一日を以て生れ大正九年先代嫡の死跡を繼ぐ家主たり家族は尙孫貞子(昭五、一生、長男正介長女)同章子(同七、一〇生、同二女)あり長女貞(明三三、一生)は大坂府人日比禮吉に嫁せり(八五二三(兵庫縣武庫郡御影町榎本一三一一))

津輕 承靖 從五位、男爵、津輕伯爵家分家

君は先々代嫡の立つる所なり禮吉は故從一位伯爵津輕承昭の二男にして明治二十二年分れて一家を創立

津輕 益男 從四位、子爵、舊陸奥黑石藩

君は津輕越中守信牧の二男十郎左衛門信英の後なり信英宗家より津輕黑石五千石を分され一家を列す夫より九世を経て先々代承叙に至る承叙成茂の役宗藩と共に函館討伐に功あり明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す其子類稿を経て君に至る君實は子爵池田仲誠の弟にして明治二十九年十二月一日を以て生れ同四十四年先代類稿の養子となり後嗣傳付ける大正三年東京府立農事試驗場に入り園藝を習得す家族は尙男承捷(大一一、二生)四男承陽(昭三、二生)養叔母男鶴(慶應二、一〇生)あり養叔母榮(明一一、五生)は子爵加藤泰成に嫁せり(青森縣南津輕郡黒石町市ノ町二一) 參照 子爵池田仲誠、子爵加藤泰成、子爵柳澤光治、子爵松平直當、子爵柳澤保憲、子爵山田英夫、子爵戸田忠庸の項

津輕 義孝 正五位、伯爵、舊陸奥弘前藩

君は先々代嫡の立つる所なり禮吉は故從一位伯爵津輕承昭の二男にして明治二十二年分れて一家を創立

津川 清平 津川邑出資社員、兵庫縣在籍

君は岡山縣人先代信三郎の長男にして明治二十八年七月二十六日を以て生れ同四十三年家督を相續す現時津川合名會社出資社員たり家族は尙孫景明(明四〇、二生)同妻幸子(同四二、一〇生、大阪、昭文雜誌)妹直(同四一、三生)姪和子(昭八、三生、弟景明長女)あり(同三三八、四生)は分家せり(八八九〇(神戸市葦合區熊内町六ノ三八電合六八〇))

津川 亮藏 關西無盡取締役、兵庫縣在籍

君は先々代嫡の立つる所なり禮吉は故從一位伯爵津輕承昭の二男にして明治二十二年分れて一家を創立

以て生れ同二十八年家督を相續す先代虎吉に至り祖業を廢して西陣織物商を創む君之を繼承し傍ら前記各會社の重役たり家族は尙十一男三女(大分、三生)あり長女アヤ(明二八、七生)は京都府人北川三右衛門二男文次郎に嫁シ(同二九、七生)は同府人信江繁太郎に嫁シ(同三〇、二生)は同府人八木テイ養子彌三郎に弟實之助(同二七、三生)は同府人外村定治郎に各養子となり長男榮一郎(同二六、一生)二男禮次郎(同三一、七生、商學士)四男四郎(同三五、三生、商學士)五男五郎(同三五、二生、商學士)六男六郎(同三七、二生、商學士)は各分家し八男九郎(同四一、一〇生)は亡弟信次郎の死跡を九男十郎(同四四、四生)は同幸三郎の死跡を各相續せりA三七七三(京都市中京區東洞院三條下ル電本局二〇八)

時前記會社の重役たり家族は尙三男宗三郎(大六、一生、住吉中學在學)あり妹きく(明二九、七生)は大府人津田正厚に嫁せりA一八四九(大阪市住吉區相生通二ノ四八)「營業所」同市西區立賣野北通六ノ七ノ一電新町九〇五・八二七) 參照津田正厚の項

合格し爾來鹿兒島神戸各區各區裁判所判事臺灣總督府檢察官桃園臺南嘉義各廳長等に歷補す退官後辯護士を開業し現時臺灣總督府評議會々員臺南市所得稅調查委員長を兼ね兼に新高炭礦子嶺興業各會社代表取締役臺灣製鹽臺灣漁業各會社社長日本石油火燭瓦房州漁業日本コナミル各會社取締役臺灣土地開拓會社監査役等に擧げられ又曾て衆議院議員に當選せしことあり家族は尙六男正夫(大五、八生)七男信夫(同七、六生)あり長女百代(明三三、三生)は秋田縣人須田斌一に二女富枝(同三九、九生)は廣島縣人岡本照雄に嫁せり(臺南市大宮町四ノ五〇電二二六)

津田 嘉助 袋物商 大阪府在籍 妻 ちゆめ 明二、二生、大阪、栗山小八郎 男 普治郎 明三四、二生 女 ツヤ 明三八、八生、三重、上田七太郎

津田 龜三郎 大阪府在籍 君は大阪府人先代源七の二男にして明治七年十月を以て生れ同三十年家督を相續す家主たり讀書俳諧に趣味を有し又日本音曲清元常磐津長唄等を愛好す家族は尙姉ら(明三、九生)妹たつ(同二〇、一生)ありA二二四(大阪府南區宗右衛門町一七)

津田 儀三郎 正五位勳五等、警務局長、大阪府在籍 妻 トキ 明二〇、一〇生、山口、佐方潔姉 男 恭 明二五、三生 女 山 明二九、一〇生、山口、佐方潔姉

津田 勝五郎 津田勝五郎商店、大阪製鐵各社 妻 ツルヨ 明二一、三生、愛媛、小玉彦市二 男 勝之助 明四四、一〇生、大阪商大出身 女 隆造 大二、九生、横濱高工出身

津田 毅一 從四位勳四等、臺灣總督府評議會 妻 てい 明三九、一〇生、美父定右衛門長女 男 萬壽夫 明三四、一〇生 女 順子 明四〇、一〇生 女 八重子 明四二、一〇生 女 節子 明四三、一〇生 女 文夫 大二、五生

津田 吉之助 日本商工、播磨冷蔵各社取締役 妻 ヨネ 明二、二生、大阪、布井良之助 男 松苗 明四四、一〇生、京都帝國大醫學部 女 素子 大六、五生、府立桃山女學校出身

伏見一三五八

參照津田源吉松尾殿の項

津田 藏太 大阪府在籍 妻 トミエ 明一〇、一生、津田貞一長女 男 雲溪 明三五、四生

津田 左右吉 文學博士、早稲田大學教授、文學 妻 常子 明一九年生

津田 五郎 正五位勳五等、商工技師兼通信技 妻 美代 明二八、一生、東京、松村光訓 男 宏 昭四、八生

津田 幸二郎 津田電線社長、津田代表社員 妻 ツ 明二三、二生、京都、安原善太郎 男 武雄 明四三、六生、京大經濟學部在學 女 悠紀子 大四、一〇生 女 富子 大七、七生

津田 三郎 織物商、泰成織物各社監査役、 妻 榮太郎 明四、四生、現戸主 男 榮太郎 明四、四生、現戸主

津田 興二 大分縣在籍 妻 トシ 慶應元、八生、大分、士、鹽路 養子 喜美 明三三、一生、二女静夫、福岡、 女 喜美 明四一、九生

津田 秀榮 住友別子鑛山總務部長兼庶務課 妻 公子 明三三、八生、石川、松村謙成三 男 津 一 昭二、八生

津田 重彦 勳七等、東邦電力佐賀支店長、佐 妻 勳七等、東邦電力佐賀支店長、佐 賀縣工場協會副會長、佐賀縣士族

津田 五郎 日比谷銀行取締役、日比谷商店 妻 吉太郎 大四、三生

津田 重彦 勳七等、東邦電力佐賀支店長、佐 妻 勳七等、東邦電力佐賀支店長、佐 賀縣工場協會副會長、佐賀縣士族

津田 重彦 勳七等、東邦電力佐賀支店長、佐 妻 勳七等、東邦電力佐賀支店長、佐 賀縣工場協會副會長、佐賀縣士族

妻 ヨキ 明一八、一生、福岡、稻益二郎三... 君は佐賀縣士族濱田津浦士道師範校長の遺人とし...

津田 静枝

君は東京府士族津田庄蔵の二男にして明治十六年四月... 津田 終吉 醫學博士、津田耳鼻咽喉科病院長...

津田 十郎

君は京府人津田榮太郎の九男にして同三郎の弟なり... 津田 終吉 醫學博士、津田耳鼻咽喉科病院長...

明治四十四年四月三日を以て生れ大正七年伯父幸三郎... 津田 正一 住友銀行京都支店長...

津田 正一

君は和歌山縣人津田俊二の長男にして明治二十一年四月... 津田 信吾 織物紡績協社社長...

津田 信吾

君は美祿縣士族津田の長男にして明治十一年十二月... 津田 信吾 織物紡績協社社長...

津田 信吾

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は愛知縣人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

君は京府人津田右衛門の三男にして明治十七年七月... 津田 寅一 東洋織物商會、織物機械商...

津田 寅一

電柱一六

參照山口支洞、矢代仁兵衛、久保田庄左衛門、山口三郎、森生泰の項

津田弘之助

大坂府在籍
妻 キク 明二四、四生、大坂、竹内萬兵衛

女 千代子 大八、一三
女 嘉子 大八、一三

君は大阪府人内原イマの私生子にして明治十六年五月を以て生れ同二十一年先代ちの養子となり大正十年家督を相続す家主たり家族は尙男勇の外三女歌子(昭二、一三)あり(昭四、一四)堀市中ノ東町一ノ二八(昭四〇)

津田弘親

大正運輸、日本樟腦各社取締役、三井物産、大正海上火災保險各社監査役、岡山縣在籍

妻 榮 明一八、一三、東京、故跡見花
男 弘孝 明三九、九生、鐵道局副理事、名古屋鐵道局勤務、法學士
男 弘精 明四四、一三、長男弘孝妻、東京
男 弘人 明四〇、一三、三井物産社員、法學士
男 弘文 明四三、四生、三井銀行員、法學士

君は舊備前藩士津田弘道の三男にして明治六年二月を以て生れ大正二年六月兄弘伸方より分れて六年二月を以て明治二十七年東京高等商業學校を卒業して一家を創立す明治二十九年東京高等商業學校を卒業して一家を創立す明治二十九年東京高等商業學校を卒業して一家を創立す

參照三三〇
參照三三〇

津田正厚

兵庫縣在籍
妻 幸 明二九、七生、大坂、津田勝五郎

君は愛媛縣人石崎正富の三男にして明治十九年四月を以て生れ大正元年東京帝國大學政治經濟科を卒業先代きくの入夫となり大正二年家督を相続す家主たり(兵庫縣武庫郡神戶村蘆屋字冠一七四五)參照三三三

津田松助

津田松商店社長、白藤商店代
妻 ッネ 明一四、五生、奈良、朝川常治郎

君は奈良縣人藤本幸次郎の弟にして明治七年七月を以て生れ先代松助の養子となり同三十八年家督を相続し前名熊吉を改め熊吉石炭並清澤製糖賣業を営み津田松商店社長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙長女芽子(大、一四、六生)あり(大坂市港區九條中通四ノ四二一電西四〇四五)

津田道明

正五位、男爵
妻 トク 明二〇、四生、京都、松下與三郎

君は先々代道明より顯る眞道は舊作州津山藩士にして夙に江戸に出で、蘭學を修め元治元年和蘭に航し法政の學を修め對朝後幕府に徴せられ開成所教授となる維新後刑法官判事元老院議員に任じ議會開設と共に衆議院議員に當選し其副議長に擧げらる後貴族院議員に列し明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けり長男弘道其後を承け夙に獨逸協會學校を卒業し明治二十一年獨逸に留學し歸朝後東京御所御役局御用掛御付に就いて津田工業所を創設貴族院議員に選ばる君は弘道の長男にして明治三十三年六月を以て生れ慶應義塾普通部に學ぶ後家督を相続し學爵す家族は尙弟弘明三九、五生)妹正代(大、二、二生)同道治(同三、一〇生)同喜美代(同五、八生)あり叔父道治

津田素彦

愛久澤事務所員
妻 コトミ 嘉永五、七生、福井、青木七郎長

君は北海道土著津田正甫二男にして明治八年八月を以て生れ現時愛久澤事務所員たり家族は尙弟正夫(明三〇、一〇生、現戸主)並に其の妻あり長女タツ(同四〇、一〇生)は奈良縣人大橋消向長男清郷に同二女タカ(同四二、一〇生)は東京府人青木猛二に嫁せり(同四二、神戶市林田區名倉町一ノ一三)

津田米次郎

金澤商工會議所常務委員、昭和貿易、丸二織物各社取締役、日、出織物、金澤市鐵工業同業組合長、金澤市信用組合監事、石川縣在籍

君は石川縣人津田米次郎の長男にして明治二十一年九月十一日を以て生れ大正四年家督を相続し前名機三を改め機三現時前記各會社の重役にして又津田製作所代表社員金澤市鐵工業同業組合長金澤市信用組合監事等の職に在り推されて金澤商工會議所常務委員たり義に南支那一圓及北滿洲視察を遂げ昭和八年十一月日印會商人代表顧問として渡印同九年一月歸朝せり家族は尙二男俊次(大、一五、四生)長女和子(同二、二生)三男昌三(昭五、一〇生)二女外美子(昭三、六生)あり(金澤市穴水町三番丁二九電一四四二。昭一八九三。昭三九五)

津田龍三

從五位、電信局技師、大阪通信局勤務、石川縣在籍

君は石川縣人山田安民の弟にして明治九年十二月を以て生れ後實兄津田重吉の家督に入り同四十五年分れて一家を創立す賣藥業を営み津村敬天堂と稱しヘルブ本舖として知られ傍ら江東商店取締役東亞公司取締役兼上海支店長にして森田製藥所代表社員たり家族は尙二男慎(大、七、一〇生)孫和子(昭二、二生)長男義男(三八、一〇生)は奈良縣人三浦猪太郎長男友之介に嫁し長女仁子(同三二、九生)は實兄津村重吉の養子となり更に其夫長平と共に子女を伴ひ分家せり(昭三、三八〇)參照三三三、津田重吉、山田安民、米次郎、八左衛門、淡目比谷、一郎、津村、平塚、嘉右衛門、石門の項

津野慶太郎

從三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府士族

妻 凱代 明一四、一三、福岡、士、伊藤文雄姉
女 梅子 大、一三、三輪田高女出身
女 道子 大、一三、三輪田高女出身

君は福縣士族成素心の二男にして文久三年六月を以て生れ叔父津野伊平次の子となり明治十二年家督を相続す同十四年東京帝國大學法學部より進んで同十九年駒場農學校醫學科を卒業し東京農林學校教授となり更に東京帝國大學農學部農學科大學助教授に任ぜられ同十四年歐米に留學を命ぜられ獨逸ハルレ大學ベルリン大學に學び同三十七年米國聖路易市米農醫學大會に列席し米農醫學會名譽會員に推舉せらる歸朝後農學部教授に進み大正十四年停年制に基き退官し次いで東京帝國大學醫學部教授となる明治三十八年醫學博士の學位を授けられ大正三十二年本邦醫學界を代表して倫敦に於ける第十回萬國醫學會に參列す家族は尙六女葉子(大、二三、八生)あり(昭四〇)東京市世田谷區上馬町一ノ七七三電世田谷三三四)

津端翠松

東京府在籍
妻 爲子 明二七、九生、愛媛、菅清次郎妹

君は新潟縣人先代儀平の四男にして明治九年一月二十八日を以て生れ後分れて一家を創立す醫師たり家族は尙二男學(大、五、四生)三男求(大、一四、一三)四女信子(昭四、三三)五女生子(同七、四生)あり長女マツ(昭四、一三)は愛媛縣人菅本實に嫁せり(昭四〇)

津原武

勳四等、加檢鐵道局長、丹後鐵道株式會社理事、京都市士族

妻 トク 明二〇、四生、京都、松下與三郎

君は鳥取縣人小幡の三男にして明治元年十月を以て生れ先代言行の養子となり同十六年家督を相続す夙に關西大學及法政大學に學び同二十四年辯論士の理事に任ぜられ東京府會議員同參事會會長京都市地方裁判所々屬辯論士會副會長西山製糖場北汽船會津共榮宮津銀行等銀行會社監査役丹後鐵道株式會社組合長たりし事あり又會て衆議院議員に當選すること三回に及ぶ(昭一六二)京都市東區東小松川三ノ三〇八八電東小松川一五)

津曲貞助

鹿兒島電氣監査役、津曲學園總長、鹿兒島縣在籍

妻 ッシ 明二一、七生、鹿兒島、林伊兵衛

君は鹿兒島縣人先代傳太郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正三年家督を相続す先は明治四十二年日本大學を卒業す縣下の豪商にして現時前記會社の重役たり兼に鹿兒島市參事會會員に列し又縣下の多額納税者たり獨力にて津曲學園を設立し高等商業學校女學校幼稚園等五校を有し三千の子を養ふ家族は尙二男貞信(大、六、一〇生、高等學校在學)三男貞春(同八、一〇生)四女葉子(同二、一五、三三)あり母ケサヤ(安政三、九生、鹿兒島、小野仲次郎長女)は第二次兵衛(昭二二、一〇生)を伴ひ分家し同貞吉(同二四、一〇生)同清藏(同二七、七生)も亦各分家し長女ノリ子(昭四三、一〇生)は文學士後藤武士に二女アヤ子(同四四、四生)は經濟學士河野寬に嫁せり(鹿兒島市加治屋町三二電五六八)

津村岩吉

江東商店取締役、東亞公司取締役、森田製糖所代表社員、津村敬天堂、ヘルブ本舖、藥種商、東京府在籍

妻 義男 昭三四、一〇生

津村龜吉

東京府在籍

妻 花 明三一、一三、千葉、金網樂吉四
女 澄子 大、一五、六生
女 靜江 大、一五、九生

津村吉兵衛

神奈川縣多額納税者、地主
妻 重治 明八、一三、東京、岡田彌兵衛

君は神奈川縣人鈴木太右衛門の二男にして明治十五年十一月を以て生れ先代吉兵衛の養子となり大正十四年家督を相続し前名公隆を改め名を地主にして直接國稅四千二百五十五圓を納め縣下の多額納税者にして

津村龜吉

東京府在籍
妻 花 明三一、一三、千葉、金網樂吉四

君は鹿兒島縣人先代傳太郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正三年家督を相続す先は明治四十二年日本大學を卒業す縣下の豪商にして現時前記會社の重役たり兼に鹿兒島市參事會會員に列し又縣下の多額納税者たり獨力にて津曲學園を設立し高等商業學校女學校幼稚園等五校を有し三千の子を養ふ家族は尙二男貞信(大、六、一〇生、高等學校在學)三男貞春(同八、一〇生)四女葉子(同二、一五、三三)あり母ケサヤ(安政三、九生、鹿兒島、小野仲次郎長女)は第二次兵衛(昭二二、一〇生)を伴ひ分家し同貞吉(同二四、一〇生)同清藏(同二七、七生)も亦各分家し長女ノリ子(昭四三、一〇生)は文學士後藤武士に二女アヤ子(同四四、四生)は經濟學士河野寬に嫁せり(鹿兒島市加治屋町三二電五六八)

津村龜吉

東京府在籍
妻 重治 明八、一三、東京、岡田彌兵衛

君は神奈川縣人鈴木太右衛門の二男にして明治十五年十一月を以て生れ先代吉兵衛の養子となり大正十四年家督を相続し前名公隆を改め名を地主にして直接國稅四千二百五十五圓を納め縣下の多額納税者にして

津村商會社員たり家族は尙三男義夫(大六、一二生)あり...

津村源十郎 兵庫縣多額納税者、共榮商會社員、地主、兵庫、富美鹿之助姉...

津村重紀 資産家、和歌山縣在籍、安政元、一生、和歌山、岡本勇次...

津村重舍 貴族院議員、東京府多額納税者、江東製藥、江東製藥、王子瓦斯...

津村重信 從四位勳四等、法學博士、從四位勳四等、法學博士...

津村重治 東京府多額納税者、東京府多額納税者、東京府多額納税者...

津村昌志 正五位勳四等、帝室林野局東京支局長、福岡縣在籍...

津村昌信 明四三、一〇生、明四三、一〇生、明四三、一〇生...

津村英五郎 東洋無線電報電話代表取締役、吉村商會、明昭電機各專務取締役...

津村秀松 從四位勳四等、法學博士、從四位勳四等、法學博士...

津村秀久 明四三、一〇生、明四三、一〇生、明四三、一〇生...

津村宗七 洋食器硝子器金銀製品商、大阪府在籍、大阪府在籍...

津和五右衛門 大阪府在籍、大阪府在籍、大阪府在籍...

津和幸次 地主、大阪府在籍、大阪府在籍、大阪府在籍...

都賀儀兵衛 酒造業、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍...

都賀順之助 澁信組合理事、家主、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍...

津守英五郎 東洋無線電報電話代表取締役、吉村商會、明昭電機各專務取締役...

津守通秀 從五位、男爵、舊社家、東京府華族、從五位、男爵...

津守國榮 從四位勳六等、伯爵清岡寺經房弟、從四位勳六等...

津守千榮子 樟蔭高女出身、從四位勳六等、伯爵清岡寺經房弟...

津守千榮子 樟蔭高女出身、從四位勳六等、伯爵清岡寺經房弟...

津守幸右衛門 正五位勳四等、検査官、會計検査院第三部長、岐阜縣在籍...

津山宗七 洋食器硝子器金銀製品商、大阪府在籍、大阪府在籍...

津山宗一 明二六、四生、長男宗一妻、岡山、明二六、四生...

津和九右衛門 大阪府多額納税者、丸中電機採取、大阪府在籍、大阪府在籍...

津和九右衛門 大阪府多額納税者、丸中電機採取、大阪府在籍、大阪府在籍...

津和九右衛門 大阪府多額納税者、丸中電機採取、大阪府在籍、大阪府在籍...

津和五右衛門 大阪府在籍、大阪府在籍、大阪府在籍...

津和幸次 地主、大阪府在籍、大阪府在籍、大阪府在籍...

都賀儀兵衛 酒造業、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍...

都賀順之助 澁信組合理事、家主、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍...

都賀順之助 澁信組合理事、家主、兵庫縣在籍、兵庫縣在籍...

男 順 昭七、一〇生
君は兵庫縣人大利重太郎の長男にして明治三十年九月を以て生れ大正三年都賀岩松の養子となり同六年家督を相続す現時海軍少佐の任に在り...

都河 龍
東京府多額納税者、婦女界社長兼主幹、出版業、東京府在籍
妻 ミチ 明一、一〇生、東京、伏見景政妹
男 辰夫 明三、九生、長男辰夫妻、竹内甚平長女
男 吉夫 明四、一〇生、長男辰夫妻、竹内甚平長女
男 輝雄 明二、一〇生、長男辰夫妻、竹内甚平長女
女 ひろ 明七、一〇生

都志 兵太
あわじや、毛布商
大阪府在籍
妻 ツキ 文久二、一〇生、兵庫、柳三郎孫
女 清之 明一、一〇生、二女ツキ夫、兵太
女 タネ 明一、一〇生、養子清之妻
女 榮 明二、一〇生、養子清之妻
男 英雄 明四、一〇生、養子清之妻
男 清一 明四、一〇生、養子清之妻
男 富美 明五、一〇生、養子清之妻
孫 富美 明五、一〇生、養子清之妻
君は兵庫縣人西川佐十郎の四男にして元治元年八月を以て生れ大正十二年家督を相続す...

都筑 重造
橋本店(神戸)兼廣島出張所長
新潟縣士族
妻 ヒサ 明一、一〇生、新潟、士、櫻見爽
女 千代子 明二、一〇生、新潟、士、櫻見爽
君は新潟縣士族都筑信綱の二男にして明治四年一月を以て生れ現時前記會社の重役たり家族は尙朝信規(明二、一〇生、現戸主)妹チエ(明三、一〇生、弟六郎)同二、一〇生、同妻千代(明二、一〇生、東京、八木好太郎三女)及其七女あり長女ハル(明二、一〇生、東京、八木好太郎三女)其二女あり長女ハル(明二、一〇生、東京、八木好太郎三女)...

都筑 忠春
東京府華族
當家は先代第六より顯る第六は豫州西條藩士にして明治十四年東京大學を卒業し獨逸に留學し柏林大學に政治學を修む歸朝後公使館書記官兼外務省参事官外務大臣秘書官内閣總理大臣秘書官官内務省参事官法制局参事官行政裁判所評定官内務省土木局長官内務省圖書頭文部次官外務次官貴族院議員樞密院書記官長等に歴任し法學博士の學位を受け同四十年特命全權大使として萬國平和會議に出席し勳功に依り勳一等に叙し華族に列し

都築 益也
醫學博士、慶應義塾大學醫學部助手、東京府在籍
妻 ナツ 明八、一〇生、愛知、村井左一郎五女
女 明三、九生、千葉、三木牧藏三
君は愛知縣人村上新太郎の弟にして明治十七年六月二日を以て生れ大正二年先代ふみの入夫となり家督を相続す旅館支那本店を經營し現に愛知縣多額納税者に就き直接國稅一千八百一圓を納む家族は尙二男利彦(大、一〇生)三男謙三(同七、一〇生)四男芳郎(同八、一〇生)五男眞吾(同二、一〇生)ありA一三四七B二六三(名古屋市中區富澤町三ノ二)電話四八二〇

男 康 昭二、二生
都築家は代々愛知縣刈谷町に土着し農を以て業とせり君は先代基之助の二男にして明治三十一年六月を以て生れ昭和八年家督を相続す大正十三年慶應義塾大學醫學部を卒業し現に同大學醫學部助手たり醫學博士の學位を授けらる父基之助は第一高等中學校醫學部卒業後身を軍籍に投じ私費を以て獨逸に留學しマルブルヒ大學に於てドクトルの學位を受く歸朝後陸軍少將學校教官東京第二衛戍病院長等に歴任し明治四十五年陸軍一等軍醫正に進み脚氣新藥アンチペリリンの発見者たり家族は尙長女あり(昭四、五生)二男基夫(大八、六生)弟繼世(明四、二、五生)同繼世(同四、三、一〇生)あり(東京市四谷區舟町三電四谷三三六九)

對崎 長太郎
織物業
妻 実 明三、一〇生、二男實郎妻、埴玉
女 明三、一〇生、二女實郎妻、埴玉
男 靖吉 明三、一〇生、二男實郎妻、埴玉
男 海三 明三、一〇生、二男實郎妻、埴玉
女 まさ 明三、一〇生、二女實郎妻、埴玉
君は埼玉縣人對崎平右衛門の長男にして明治四年八月を以て生れ同十二年家督を相続す織物業を營む義は尙武藏製織州倉庫各會社重役たりしことあり家族は尙孫清司(大、一〇生)六生、二男實郎(長男)同昭三、四生、同二男あり(昭三、三、一〇生)は埼玉縣人山崎吉之助に姉も(昭永、四、二生)は同縣人内田常次郎に弟(昭平、一、一〇生)同妻ふみ(同二、一〇生)あり、埴玉、片岡鑄之助(昭五、一〇生)は其子女を伴ひ分家せり(川越市喜志町電二七)

對馬 好道
三井銀行大阪支店員
妻 つね 明三、一〇生、青森、乳井文三郎長女
女 明三、一〇生、青森、乳井文三郎長女
君は青森縣人先代健之助の長男にして明治二十八年八月を以て生れ大正十二年家督を相続す先是同九年慶應義塾理財科を卒へ三井銀行に入り現時同大阪支店勤務たりA四〇二(大阪市天王寺區松ヶ鼻町二七)參照|| 水喜幸の項

都留 正治
從五位、海軍豫備少佐、地方海員審判所審判官兼通信局長、地方海員地方海員審判所審判官
大分縣在籍
妻 トモ 明二、一〇生、長崎、瀧川徳之丞二女、長崎縣立女學校出身
君は大分縣人にして明治十九年一月を以て生れる同四十二年商船學校航海科を卒業し日本郵船會社に入社二等運轉士一等運轉士を経て大正八年甲種船長となり同十一年山下汽船會社に轉ず昭和二年大阪通信局長に任じ大阪地方海員審判所審判官を兼ね同五年前記現職に轉じ現在に及ぶ(函館市沙見町四)

對馬 彌作
正五位勳四等、農林技術師、東京米穀事務所長兼米穀局米穀利用研究所所長、青森縣在籍
妻 きく 明一、一〇生、自由學園在學
女 大七、一〇生、自由學園在學
君は青森縣人對馬寅太郎の長男にして明治十六年五月を以て生れ同十二年家督を相続す同十四年三月東京帝國大學農科大學農學科を卒業し千葉縣立國藥專門學校教授兼倉庫を経て大正三年長野縣技術師に任じ同縣農事試験場長となり同五年農商務技術師に轉じ同縣農事出張所長に任じ同七年臨時産業調査局技術師を兼任し次で支那に出張す同十一年更に英領印度及暹羅を視察し同十四年農林技術師に任じ同十五年歐洲各國に出張し昭和二年歸朝し農務局勤務を経て現時東京米穀事務所所長にして米穀局米穀利用研究所所長を兼ね家族は

圖司 延太郎
醬油味噌商
妻 つね 明一、一〇生、滋賀、西川仁右衛門長女
女 明一、一〇生、滋賀、西川仁右衛門長女
君は滋賀縣人先代圖司七郎長衛の三男にして明治十三年六月を以て生れ同二十年家督を相続す醬油味噌商を營むA五三五七B六六三(京都市中區木下町三條上電上二九九)參照|| 滋野澤純明の項

都留 信郎
東京瓦斯、東邦瓦斯、東邦瓦斯證券各取締役、大分縣在籍
妻 いよ 明二、一〇生、三重、志田貞三二女
女 大四、一〇生
君は大分縣人留信平の二男にして明治十二年三月を以て生れる同三十三年同志社を同三十七年大阪高等工業學校機械科を卒業し實業界に入り現時前記各會社の取締役にして兼に中央鐵業九州瓦斯會社等の重役たり家族は尙三女澄子(大、一〇生)兄喜一(明五、一〇生)現戸主)同妻藤恵(同二、一〇生)大分、松本孫十郎二女)及其一子あり長女俊子(同四、一〇生)弟仙次(同七、一〇生)同妻眞須位(同二、一〇生)高知、原曉翠長

圖師 兼貳
從五位勳五等、八幡市長
妻 かく 明一、一〇生、東京、山田米吉長女
女 明一、一〇生、東京、山田米吉長女
君は宮崎縣人圖師彦定の五男にして明治十年七月を以て生れ前名丑仲を改め同十四年兄庄一郎方より分れて一家を創立す同三十三年日本法律學校を卒業し同三

十七年文官高等試験に合格商務局となり林務官に過み熊本高知青森各大林區署勤務を経て東京大林區署林務課長に補せらる大正九年官を辭し昭和三年八幡市長に推され今日に至る雙子ハツセ(明三三、二生、宮崎圓滿四郎二女)は和歌山縣人眞砂久一に嫁せり(八幡市東鐵町五市長公電二七〇)

塚越卯太郎 前樺太農産興業社長 東京府土族

母 長女 嘉永六、三、東京、池原新次郎
妻 公 明三三、二生、京都、土、富田直
女 富子 大八、一、二生

君は東京府土族塚越卯太郎の弟にして明治十六年十二月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十九年早稲田大學を卒業し現に越中島木村倉庫會社社長にして傍ら前記會社の重役たり兼に日本化學紙料會社事務取締役樺太農産興業會社監査役たりし事あり家族は尙長女久子(大九、二生)二女澄子(同一三、二生)三女良子(同一三、二生)あり

塚越丘二郎 越中島木村倉庫會社社長、小池證券會社監査役、東京府在籍

妻 ハツ 明二九、九生、佐賀、古川與四吉
妹 明二九、九生、佐賀、古川與四吉

子(昭四、二生)ありA八二四(東京市牛込區市谷仲ノ町二〇〇電牛込四三三)
參照 塚越卯太郎、古川與四吉、小池厚之助、淡邊渡邊 襄の項

塚越正司 塚越商事社長、相互不動産監 東京府在籍

妻 ケイ 明二一、四生、群馬、岩崎民三郎
男 龍三 明四四、九生、慶大經濟學科在學
女 龜子 大五、二生、府立第五高女出身

君は群馬縣人半田多吉の二男にして明治二十八年三月を以て生れ先代塚越卯太郎の養子となり大正四年家督を相續す現時前記會社の重役にして兼に塚越夜銀行頭取たり家族は尙三男徳藏(大六、九生)四男恒司(同一、八生)ありA一四四六(東京市麹町區車町八電九段五二五)

塚越爲太郎 地主 東京府在籍

妻 松子 明四九、六生、東京、秋山助八二女
女 明四五、一、生、東京、柏川常松二

就に嫁せりA四四四(東京市牛込區市谷宮久町二一電四谷二八〇三)
塚島貞三郎 塚島宅代表社員、神戸生絲取引所 福井人絹取引所各取引員、生絲人 絹問屋、愛知縣在籍

妻 廣子 明一六、三生、愛知、島居甲太郎
男 俊太郎 明四一、五生、同志社高商部出身

君は愛知縣人井田與兵衛の二男にして明治十一年三月を以て生れ先代八十八の養子となり後家督を相續す明治二十九年岐阜生絲會社に入社同三十六年創立して生絲商を創め大正七年合名組織に改め其代表社員となり爾來福井神戸京都桐生に支店或は貿易部取引部を設立し澁利たる經營振りを示せり趣味として講曲仕舞あり長女明子(明三一、四生)は妻の實家島居家の養子となり二女千鶴子(大三、一〇生)は同縣人塚島かねの養女となり(名古屋市東區宮町一ノ三電東二七四)

塚田公太 東洋棉花會社取締役、天滿紡織 南北棉花會社取締役、新潟縣在籍

妻 ラク 明二九、一、生、新潟、山本卯兵衛二女
男 剛藏 大八、四生
女 萬里子 大五、七生

君は新潟縣人塚田新治郎の長男にして明治十八年九月を以て生れ大正十四年家督を相續す先是明治四十年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙三女ひさ(大一〇、一、生)四女カナ子(同一三、九生)四男文吉(同一五、一、生)弟久三(明四三、五生)あり妹サハ(同三九、一、生)は新潟縣人保坂珍に嫁せりA二六八五(大阪府住吉區阿倍野筋一ノ七七電戎一〇一八)

塚田實則 東邦瓦斯、東邦瓦斯證券各取締役 愛知縣在籍

妻 八重吉 慶應二、七生、現戶主
母 明八、七生、愛知、吉岡禮吉二女
妻 久 明三〇、一、生、愛知、西川幸造姉
男 裕 三六一、一、二生

君は東京府土族塚越卯太郎の弟にして明治十六年十二月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十九年早稲田大學を卒業し現に越中島木村倉庫會社社長にして傍ら前記會社の重役たり兼に日本化學紙料會社事務取締役樺太農産興業會社監査役たりし事あり家族は尙長女久子(大九、二生)二女澄子(同一三、二生)三女良子(同一三、二生)あり

塚田正三 從四位勳四等、辯護士 新潟縣在籍

妻 靜江 明二一、一、生、東京、竹井靜長女
男 正二郎 明四四、九生、早大在學
男 正三郎 大三、三生、開成中學出身
女 宏子 大四、七生、女子學習院出身
女 和子 大八、八生、女子學習院在學

君は新潟縣人塚田喜平の三男にして明治十年十一月二十日を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同四十年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十二年判事に任じ岡山地方同區前橋郡地方同區郡山各裁判所判事を經て大正八年檢事に轉じ長野同地方各裁判所檢事東京控訴院檢事に補せらる現時辯護士を開設す家族は尙四女昌子(大一一、一〇生)四男正四郎(同一二、六生)五女準子(同一五、一、生)六女貴子(昭二、七生)ありA二六〇(東京市赤坂區青山町五ノ四八電青山四六八〇)

塚田日郎 日本一藥館、製藥業 大阪府在籍

妻 伊志 明五、一、生、岡山、平尾房三二女
養子 忠 庫、山本平理弟
女 まさほ 明三四、九生、養子忠妻

君は兵庫縣人鎌田平兵衛の二男にして明治四年七月を以て生れ先代伊志の入夫となり同十四年家督を相續す製藥業を營み日本一藥館として知らる家族は尙孫佳代子(大一一、二生)、養子忠長女(同一五、四生)、同二男同弘(昭四、一、生)、同三男同幸子(同九、

ツ之部 塚(田、谷、原)

一、生、同二女ありA五四〇B一九六(大阪府西區立賣場北二五電新町九四一)

塚田秀男 從五位勳六等、專賣局技師、專賣局中央研究所勤務、東京府在籍

妻 輝子 明三一、三生
女 壽美子 大七、七生

君は東京府人にして明治二十一年五月を以て生れる同四十五年東京帝國大學農科大學農化學科を卒業し大正五年農事試験場技師となり同十年同局技師に任じられ專賣局中央研究所勤務を命ぜらる昭和四年歐米各國に出張し同六年專賣局農事試験場技師となり專賣局中央研究所勤務を経て現時專賣局中央研究所勤務たり趣味の好著「歐米タバコ行脚」あり釣魚樂を好む家族は尙二女惠美子(大一一、一〇生)三女あり(東京市下谷區谷中初音町一ノ三電下谷一三九一)

塚田文之助 富士石油會社取締役、東京染料工業 岩崎商事各取締役、日本金剛砂 砥石製作所監査役、東京府在籍

妻 いと 明二〇、二、生、茨城、中澤菊治妹
男 文男 大一一、六生
女 マツ 明三六、九生、長女マツ夫、栃木子信次郎に嫁せり(東京市本郷區眞砂町七)

君は栃木縣人塚田孝助の二男にして明治十五年十月を以て生れ大正四年兄孝一郎方より分れて一家を創立す現時富士石油會社社長にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙孫みどり(昭三、一、生)、養子信三長女あり二女タケ子(明四二、八生)は栃木縣人塚田孝一郎養子信次郎に嫁せり(東京市本郷區眞砂町七)

塚田要藏 東武鐵道取締役、新潟縣在籍

妻 りと 明一四、一、生、向野顯一姉
男 五郎 大七、六生
女 秀子 明四四、一、二生

君は新潟縣人塚田彦内(昭二)の二男にして明治六年十二月を以て生れる夙に實業界に入り鐵道方面の事業に參畫し義

君は埼玉縣人淺見敏三の弟にして明治十五年六月を以て生れ先代寅次郎の養子となり昭和五年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し大正二年日本赤十字社富山支部病院産科婦人科醫長に就任同十二年醫學博士の學位を受け同年七月日本赤十字社富山支部病院院長兼産科婦人科醫長となり同十四年待醫に任ぜらる現時日本大學醫學科教授たり家族は尙四男春男(大一一、一、生)二女良子(昭二、七生)五男和夫(同五、三生)ありA一三〇〇(東京市本所區豊川町四ノ五ノ二電本所二〇五〇)

塚原嘉一郎 東洋島炭礦代表取締役 佐賀縣土族

妻 ヨシ 明二七、八生、故陸軍大將秋山好古長女

君は佐賀縣土族塚原佐一の長男にして明治九年十一月

君は石川縣土族塚谷通治の二男にして明治十六年八月を以て生れ先代通治の養子となり同三十三年家督を相續す同三十八年東京高等工業學校機械科を卒業し古河鐵業會社に入り後四十年鐵山監督署技師に任じ鐵山監督官鐵務技師を経て現に仙臺鐵山監督局技師たり(仙臺市北五番一八)

塚谷雄次郎 正五位勳五等、仙臺鐵山監督局技師、石川縣土族

妻 タカ 明二六、一、生、福島、比佐榮一姉
女 千代子 大六、一、生

君は埼玉縣人淺見敏三の弟にして明治十五年六月を以て生れ先代寅次郎の養子となり昭和五年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し大正二年日本赤十字社富山支部病院産科婦人科醫長に就任同十二年醫學博士の學位を受け同年七月日本赤十字社富山支部病院院長兼産科婦人科醫長となり同十四年待醫に任ぜらる現時日本大學醫學科教授たり家族は尙四男春男(大一一、一、生)二女良子(昭二、七生)五男和夫(同五、三生)ありA一三〇〇(東京市本所區豊川町四ノ五ノ二電本所二〇五〇)

塚原伊勢松 從五位勳六等、醫學博士、侍醫、日本大學醫學科教授、醫師

妻 喜育 明二四、四生、埼玉、淺見丑五郎長女
男 榮 明四四、一〇生
女 眞子 大八、一、生

君は埼玉縣人淺見敏三の弟にして明治十五年六月を以て生れ先代寅次郎の養子となり昭和五年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し大正二年日本赤十字社富山支部病院産科婦人科醫長に就任同十二年醫學博士の學位を受け同年七月日本赤十字社富山支部病院院長兼産科婦人科醫長となり同十四年待醫に任ぜらる現時日本大學醫學科教授たり家族は尙四男春男(大一一、一、生)二女良子(昭二、七生)五男和夫(同五、三生)ありA一三〇〇(東京市本所區豊川町四ノ五ノ二電本所二〇五〇)

塚原嘉一郎 東洋島炭礦代表取締役 佐賀縣土族

妻 ヨシ 明二七、八生、故陸軍大將秋山好古長女

君は佐賀縣土族塚原佐一の長男にして明治九年十一月

定次郎(二男)と共に分家せりA六六〇B一六五(東京市日本橋區富澤町二ノ二電燈花四〇四八)

塚本 準藏

五位勳四等、陸軍砲兵少尉、地方技師、岡山縣内務部勤務、岡山縣動物検査所長兼同農事試験場技師、前岡山縣在籍

塚本 清治 從三位勳一等、貴族院議員、兵庫縣在籍

君は滋賀縣人藤木伊八の三男にして明治十二年二月を以て生れ先代宗助の養子となり同三十七年家督を相続す

君は静岡縣人にして明治十三年八月を以て生れる同三十五年東京帝國大學農學部農學科を卒業し同三十七年陸軍砲兵少尉に任ぜられ同年日露戰役の起るや第三師團野砲兵第三聯隊附として出征し同三十九年凱旋同年島根縣農事試験場技師となり岡山縣農事試験場技師を経て大正四年同縣技師に任じ同十三年官制改正に依り地方技師に轉じ現時前記の職に在り家族は尙二男博(大八、五生、縣立一中在學)あり(岡山市小橋町九二)

塚本 清吉

正五位勳五等、州立新竹高等女學校校長兼教諭、鳥取縣在籍

君は鳥取縣人塚本彦次郎の三男にして明治十三年十二月一日を以て生れ同三十五年兄松吉方より分れて一家を創立す同三十九年東京高等師範學校地歴部を卒業し高知縣第二中學校教諭鳥取縣東伯郡由良高等高等小學校訓導兼同校長同縣立第二中學校教諭臺灣公立高等女學校教諭臺北第一高等女學校教諭新竹高等女學校教諭同校長事務取扱を経て現時前記の職に在り家族は尙五女富子(大四、一生)、二男和雄(昭二、一生)あり(五女芳枝(明四三、一生)、臺北第一高女出身)は基隆市近江時男に二女春枝(大三、一生)、新竹高女出身)は臺北市宮本理次に嫁せり(新竹市電三三九)

君は滋賀縣人塚本本彦の長男にして明治二十六年三月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時塚本商店取締役たり家族は尙喜代子(大一一、一生)二女ハマ(昭一、一生)五女純(昭五、一生)あり父右衛門(慶應元、一生)は母ます(明五、九生)弟新吉(同三六、七生)妹千枝(大三、一生)を伴ひ分家せり(同三二六(東京市淀橋區百人町二ノ二電燈四四五三))

君は滋賀縣人塚本本彦の長男にして明治二十六年三月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時塚本商店取締役たり家族は尙喜代子(大一一、一生)二女ハマ(昭一、一生)五女純(昭五、一生)あり父右衛門(慶應元、一生)は母ます(明五、九生)弟新吉(同三六、七生)妹千枝(大三、一生)を伴ひ分家せり(同三二六(東京市淀橋區百人町二ノ二電燈四四五三))

君は大阪府人塚本英一の叔父にして明治十三年五月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す同二十七年日本中立銀行に入り同三十二年同行の三十四銀行に合併せらるゝに及び之に參じ漸次果進して臺南尼崎島各支店長に歴任し大正十四年東京支店長の要職に就き東京手形交換所の理事に推される昭和八年十二月同行の他二行と合併して三和銀行の創立を見るや三十四銀行の業務整理として三和銀行の理事に從事し退職せり又俳人として知られ松韻青々門の最古參者にして俳誌「徳島」の同人たり盧明と號す家族は尙三男和男(昭三、六生)及二宮正明(大二、一生)あり(西宮市川東町八八電燈西宮一〇九五)

相續す現に前記日土講習會講師たり著書に「徒然草解釋」増補解釋「國文解釋法」「漢文解釋法」「現代文解釋法」「精説國文法」「國文考へ方」「漢文考へ方」「作文考へ方」等ありA四六〇(東京市淀橋區西大久保二ノ二三六電燈四谷三八五〇)

塚本 藤三郎

塚本商店社長、塚本電機製作所取締役、滋賀縣在籍

君は京都府人塚本儀助の弟にして明治二年二月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す同二十六年帝國大學工科大学造家科を卒業し更に大學院に學ぶ同三十二年東京帝國大學助教授に任じ同年建築學研究の爲英佛獨各國に留學を命ぜらるる同三十五年歸朝し東京帝國大學工科大学教授に任ぜられ同三十六年工學博士の學位を受く同四十二年農務省特許局技師を兼ね大正九年同大學工學部部長を命ぜらる昭和四年本官を免じ東京帝國大學名譽教授の稱號を授けらる(東京市小石川區久堅町八〇電小石川五七三五)

君は滋賀縣人塚本爲右衛門の養子にして明治三年三月を以て生れ同二十一年家督を相続す機械金物類の輸入並に製作を業とし現に塚本商店社長にして塚本電機製作所取締役就任し令名あり家族は尙四男英雄(大九、三生、慶應普通部在學)三女花子(同一、一生、東京女學館在學)孫芳雄(昭六、一生)、長男爲太郎(長男)あり三男幸三郎(明四四、一生)は東京府人西川平藏の養子となれり(東京市大森區新井宿二二五八電大森七七)

君は京都府人先代利右衛門の長男にして明治七年九月を以て生れ同四十年家督を相続すおだまさやと稱し麵類商を營む家族は尙孫文夫(大一一、一生)、養子義照(昭二男)ありA四三一(京都市中區區新宮通三條下電本局一〇二五)

塚本 鉢三郎

朝日興業、誠工各代表取締役、松坂屋非常取締役、サカヤヤ事務取締役、愛知縣在籍

君は大阪府人先代利助の二男にして明治三十二年七月二十一日を以て生れ同四十四年家督を相続す現時三和銀行員たり家族は尙長女惠美子(昭四、一生)弟裕良(明三七、四生)同信治(同四二、三生)同茂樹(同四五、一生)あり姉姉(同二九、八生)は大阪府人福島一郎の母にして妹末子(同三四、一生)は同府人山田保次郎に嫁せりA五五一(大阪府西區北堀江一番丁一三電新)

君は愛知縣人塚本心藏の二男にして明治十六年九月二十二日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男孝(昭三、四生)ありA一四六六(東京市本郷區湯島新花町四七電小石川一二三五)

君は滋賀縣人塚本儀助の弟にして明治二年二月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す同二十六年帝國大學工科大学造家科を卒業し更に大學院に學ぶ同三十二年東京帝國大學助教授に任じ同年建築學研究の爲英佛獨各國に留學を命ぜらるる同三十五年歸朝し東京帝國大學工科大学教授に任ぜられ同三十六年工學博士の學位を受く同四十二年農務省特許局技師を兼ね大正九年同大學工學部部長を命ぜらる昭和四年本官を免じ東京帝國大學名譽教授の稱號を授けらる(東京市小石川區久堅町八〇電小石川五七三五)

町(二七三)

參照福島一郎の項

塚脇 敬二郎

日本毛織非常取締役、大同興業取締役、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人塚脇門藏の三男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十二年神戸高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり(神戸市兵庫區西出町六九一電兵庫二〇三別宅)明石市山下町一電明石六一九

司城 元義

日本銀行理事、大分縣在籍

君は大分縣人司城通義の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十八年東京帝國大學法科大学を卒業し日本銀行に入り調査局調査役検査部主事審査部主事營業局長を経て現に同行理事たり家族は尙弟正木(明二〇、二生、東邦電力會社員、工學士)同妻スナ(同二六、五生、大分、布津教吉二女)及其子女あり二女久壽子(大三、四生)は東京府人佐々木藤太郎長男直に嫁せりA九四六(東京市麻布區廣尾町一六電高輪一五二八)

月江 曹元

醫學博士、内科醫師、東京府在籍

君は東京府人西川篤文の二男にして明治二十年九月を以て生れ同二十九年月江元貞の養子となり大正六年兄尙英方より分れて一家を創立す先是同五年東京帝國大

醫學科大學を卒業し現時内科醫師たり家族は尙三男弘(大、二、九生)長女洋(同、一、一、一)生、二女泰子(昭五、八生)ありA七八七(東京市赤坂區青山南町五ノ四電青山三六六)

月岡 彦二

大阪府在籍 正 明三三、一、生、大阪、米口淳養母君は大阪府人先代伊三郎の長男にして明治三十二年十月を以て生れ大正十三年家督を相続す家主たり家族は尙養子芳子(大、一、四、一)生、養兄卯之助(三女)姉タメ(明、二、九、六)生、同夫卯之助(同、二、八、八)生、大阪、阪本種三郎(弟)及其一男二女弟重一(同、四、三、八)生、同妻雪子(大元、九生、大阪、龜島善三郎四女)ありA七三〇(大阪府南區高津九番丁一七電四六八)

月岡 道保

醫學博士、月岡病院長、醫師 千葉縣在籍 妻 ひで 明二七、六、生、東京、士、喜多喜 男 道雄 大、一、三、八、生 女 光子 大、四、一、一、生 女 文子 大、七、一、一、生 女 恭子 大、八、九、生

月田 藤三郎

正四位勳三等、農學博士、産業組合中央會副會頭、全國産業組合聯合會副會頭、帝國産地協會副會長、帝國農會副會長、日本中央露絲會副會長、群馬縣在籍

妻 たか 明四、一、生、東京、吉岡弘太郎妹 男 隆三 大、三、二、生 女 武子 明四三、四、生

月村 秋次郎

東京府在籍 妻 こと 明一七、一、二、生、東京、石井才次 男 進治 明四四、五、生 男 正治 大、二、七、生 女 峯子 大、五、六、生

月村 喜久藏

東京府在籍 妻 はつ 明九、一、一、生、東京、鈴木會吉長女 男 慶治 明三三、一、一、生 女 幸子 明三三、一、一、生

月村 喜助

東京府在籍 妻 とめ 明三六、一、一、生、東京、田中精一姉 男 繁一 明三八、一、一、生 女 小泉久五郎四女 男 ノブ 明四一、一、一、生 女 ヒサ子 大、八、一、一、生

世田谷區北澤三ノ一〇五二

槻木市之助

ツキギ運動用品本舖専任社員、運動服製造商、大阪府在籍 妻 コユキ 明二四、二、生、大阪、長谷藤次郎 君は大阪府人槻木茂兵衛の長男同市吉の兄にして明治十年九月二十九日を以て生れ同三十五年家督を相続す運動服製造商として知られ現時ツキギ運動用品本舖社員たり家族は尙養子フジエ(大、一、五、三)生、大阪、長谷藤次郎(弟)ありA三二〇(大阪府北區老松町一ノ二電北六五九二)

槻木 房吉

ツキギ運動用品本舖代表社員、運動服製造商、大阪府在籍 妻 ミツ 明一八、一、〇、生、大阪、大野庄助 男 喜三郎 明四三、一、〇、生、東京支店主任 男 武三 明四五、五、生 君は大阪府人槻木茂兵衛の二男にして同市之助の弟なり明治二十年七月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す運動服製造商を営み昭和八年八月營業を合資組織となしツキギ運動用品本舖代表社員たり家族は尙長男喜三郎妻伊佐子(廣島、林氏二女)三男正次四男賢二あり長女茂子(明四一、一、一)生、愛媛縣人尾藤氏に嫁せりA三五〇B二〇〇(大阪府北區老松町一ノ二電北六五九二)別宅 大阪府豊能郡野村(註)

築地 宜雄

從四位勳五等、文部省氣象臺技師、逓信省事務官、熊本縣土族 妻 烈 明一七、七、生、熊本、土、宮崎素 男 明 大、四、二、生 女 道 大、二、九、生 君は熊本縣土族築地貞俊の三男にして明治十六年五月三十日を以て生れ同四十二年東京帝國大學理學科大學院物理學科を卒業し長崎海峽所技師上田電線專門學校教授に歴任し現時中央氣象臺技師にして逓信省事務官たり讀書旅行を趣味とす家族は尙二女正(大、九、一)生、兄房雄(明一四、四)生、現戸主水俣銀行相談役(同妻)

築留 勘右衛門

大阪府多額納税者、家主 妻 く に 明六、四、生、大阪、有井甚藏養妹 養子 寛 明四〇、八、生、大阪、本出保治郎 君は大阪府人築留勘兵衛の長男にして明治六年七月十九日を以て生れ同十八年家督を相続す家主にして直接國稅五千三百五十九圓を納め大阪府多額納税者たり常に公共の事に盡心し賞状する所多からざるものあり家族は尙孫幸榮(昭九、一、一)生、養子寛長(女)妹よね(明一三、一、一)生、及其一子あり同(同九、六)生、大阪府人本出政治郎に嫁せり(大阪府西區本田通二ノ三七二電西三四八二) 參照 本出政治郎の項

築部 七平

地主、大阪府在籍 妻 ミナ 文久元、七、生、中谷文七養女 男 七太郎 明四五、七、生 女 美代子 大、四、二、生 女 節子 大、七、二、生 君は大阪府人先代七兵衛の長男にして明治二十年十月を以て生れ大正七年家督を相続す地主たり家族は尙三女孝子(大、一、〇、七)生、二男三郎(同、一、二、六)生、三男章三(同、一、五、一)生、あり妹玉子(明二五、一、二)生、同夫熊吉(同、一、七、二)生、大阪、木谷正之助(弟)及其二子、共に分家せりA八七八(大阪府南區南安治川通一ノ二八電西五八九九)

築山 英一

原鐵運送店、鐵道運送業、大阪府在籍 妻 シン 明四〇、二、生、群馬、鈴木育太郎 君は大阪府人先代築山善吉の長男にして明治三十二年

月村 忠藏

土木建築、月村同族各代表取締役 妻 平吉 慶應元、八、生、現戸主 父 慶應二、一〇、生、神奈川、本郷市 母 くらめ 三郎妹 君は東京府人月村平吉の長男にして明治十八年四月を以て生れ土木建築業を営み前記會社の重役たり家族は尙弟實(明四二、三)生、あり同正雄(同三四、八)生、分家せり(東京府南區蒲田區御園町二四電蒲田二二六)

月村 傳次郎

地主、東京府在籍 妻 まさ 明一八、一、一、生、月村修三郎女 男 利晴 明四四、一、一、生 君は東京府人増田榮吉の二男同金太郎の弟にして明治十一年六月を以て生れ同三十六年先代まさの入夫となり家督を相続す地主たり家族は尙二男謙次(大、四、三)生、三女周代(同、一、〇、六)生、あり長女コマ(明三七、七)生、は佐賀縣人永治八第一次に嫁せりA九一九(東京市

次田 潤

從四位勳四等、第一高等學校教授、東京府土族 妻 益重 明二二、四、生、岡山、河原峯太郎 男 眞幸 明二二、一、〇、生、文學士 男 香澄 明二二、一、〇、生、東大文學部國文學科在學 女 美枝子 大、五、三、生、日本女子大在學 君は岡山縣土族次田潤次郎の長男にして明治十七年四月を以て生れ大正二年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し神宮學堂第七高等學校佐賀高等學校各教授を経て現時第一高等學校教授たり著書に「萬葉集新考」を著し「國文學史新考」等あり趣味として和樂を好む弟(明二三、九)生、林學博士)は岡山縣土族田村喜作の養子となれりA三二六(東京市豊島區池袋三ノ一五三九)

次田 大三郎

從四位勳三等、貴族院議員、岡山縣在籍 妻 靜 明二八、七、生、東京、江口定條長 男 輝一 大、一、三、一、〇、生 女 不二 大、四、一、二、生 君は岡山縣人次田大三郎の四男にして明治十六年三月を以て生れ後前名七三郎を改め昭和三年兄左馬五郎方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し茨城縣屬となり同四十四年石川縣事務官に任ぜられ爾來同理事官内務書記官鐵道院參事内務監察官社會局健康保險部長茨城縣知事内務省土木局長同地方局長同警保局長警察講習所長等に歴任し貴族院議員に勅選せらるA一四四(東京市小石川區大塚町四一電大塚三九五〇) 參照 江口定條の項

筑紫 三郎 筑三商店、木製製造業
 大阪府在籍
 母 小鈴 文久元、一生、朝日新聞社長村山長舉叔母
 妻 フキ 明二、一生、大阪、池田半兵衛三女

君は大阪府人筑紫三郎の二男同六郎の兄にして明治十七年十二月二十三日を以て生れ大正六年家督を相続す明治三十九年大阪高等商業学校を卒業すると共に家業を継ぎ筑三商店と稱し木製製造業を営み資産家を以て知らるA四〇二七B三五二(大阪府東區高麗橋五ノ一三號本局八三・二三八七)
 参照 筑紫六郎、村山長舉、川西清司、川西清兵衛、川西龍三の項

筑波 藤麿 正四位勳一等、侯爵
 山階宮御一門
 妻 喜代子 明四、四生、子爵毛利高範五女
 女子學院出身
 男 常治 昭五、九生
 君は故大勳位海軍大佐山階宮藤麿殿下の第三子にして山階宮武彦王殿下侯爵山階宮藤麿の御弟伯爵葛城茂麿の御兄同鹿島見久の養叔父たり明治三十八年二月を以て生れ昭和三年七月情願を允され臣籍に降下し筑波の家名を賜ひ華族に列し侯爵を授けらるる山階宮高等科を経て東京帝國大學文學部國史學科に入り昭和二年卒業し更に大學院に在籍し史學を攻究す著書五種あり家族は尙長女登喜枝(昭七、五生)あり(東京市遊谷區代々木東町八三三號四谷一五〇)
 参照 山階宮家、侯爵山階宮藤麿、伯爵鹿島見久、伯爵葛城茂麿、子爵毛利高範、公爵近衛文麿、子爵近衛秀麿、男爵黒田長和、津野長之の項

を以て生れ同四十五年佃吉松の養子となる平野商會と稱し護謨業種商を営み独自の業容を展開し同業者間に重きをなす資産家たり家族は尙二女時子(大一一、一一生)二男春恵(同一五、三生)三男光生(昭五、三生)四女和子(同六、八生)四男史雄(同八、六生)ありA二三四二B三〇八(神戸市林田區東尻池片吹電氣五五六)
 参照 佃吉松、平木熊次郎の項

佃 文次 計理士、金融業
 兵庫縣在籍
 母 やま 明一六、四生、兵庫、横山孫太郎
 妻 みさゝ 明四、一生、兵庫、堂内平吉二女

君は兵庫縣人先代佃房太郎の長男にして明治三十五年十一月二日を以て生れ大正十四年家督を相続す同年神戸高等商業学校を卒業し現に計理士たると共に金融業を営み資産家を以て知らる家族は尙長女美代子(昭五、一一生)妹さわ子(大四、六生)弟八郎(同一、一一生)あり妹吉子(明三七、一一生)は兵庫縣人鷲尾正保に嫁し弟清(同四、一一生)同忠(同四、二一生)は各分家せりA六七七(神戸市東區五宮町二八八元町一八九五、事務所)神戸市神戶區中山手通二ノ八八ノ三電舎五(一四七)

筑紫 正太郎 家主
 大阪府在籍
 妻 あき 明二、八生、大阪、日比タツ養女
 男 正太郎 明二、八、三生
 男 孔四郎 明三、三、六生
 女 安子 明三、八、一生、三男孔四郎妻、大阪、土井清三長女
 女 一江 大四、三、生

君は大阪府人筑紫正太郎の長男にして明治二十年十月十一日を以て生れ同三十一年家督を相続す家主として知られ資産家たり家族は尙四男正(大九、七生)あり長女イシ(明三〇、七生)は長野縣人谷中正勝三男正利に嫁し妹よき(明三一、一〇生)は大阪府人笹井ハナの養子となれりA七七一(大阪府東區十二軒町一八號東一八八)

佃 傳吉 平野商會、護謨藥品商
 兵庫縣在籍
 妻 吉松 安政五、八生、現戸主
 妻 あい 明二、七、一〇生、兵庫、藤田又右衛門三女
 男 清子 大五、四生

君は兵庫縣人佃清吉の長男にして安政五年八月十日を以て生れ明治三年二月家督を相続す家主にして資産家を以て知られ直接納税千七百九十一圓を納め縣下の多額納税者に列すA一四三五B一七五(神戸市東區五宮町一七七)
 参照 佃傳吉の項

佃 良一 地主
 兵庫縣在籍
 妻 重子 明三、九生、兵庫、藤田喜兵衛養女
 子 明二、二生、兵庫、佃房太郎長女

君は兵庫縣人森與三衛の三男にして明治二十七年六月三日を以て生れ先代佃松の養子となり昭和五年家督を相続す地主として知らる家族は尙長女良子(大九、七生)ありA三四九(神戸市東區五宮町一七一ノ一電元町一八一〇)
 品海病院長、醫師
 岐阜縣在籍
 母 つね 弘化四、二生、岐阜、渡邊新平長

筑紫 六郎 神戸生絲總事務所取締役、大邱製絲
 監査役、大阪府在籍
 妻 シン 明三、三、八生、大阪、吉田長敬長女

君は大阪府人筑紫六郎の四男同三郎の弟にして明治二十七年二月を以て生れ大正四年大阪高等商業学校を卒業し京都帝國大學法科大學に學ぶ實兄三郎を扶けて先代の遺業たる木製商に従事せしが大正六年獨立して直輸入商を創め筑六商店と稱す後之を廢し現時神戸生絲會社代表取締役にして大邱製絲會社監査役を兼ねる

佃 敬助 正五位勳四等、典獄、大阪刑務所
 山形縣在籍
 妻 政代 明三、〇、一生、山形、佐藤清吉五女
 子 誠 昭六、年生

君は山形縣人佃豊太の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同四十五年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試験に合格司法官補典獄監獄事務官司法事務官同書記官に歴任し昭和四年典獄に任ぜられ現時大阪刑務所長たり大正十三年歐米各國へ出張を命ぜらるる家族は尙妹芳(明四〇、一一生)養妹清恵(同三、四、三、生、山形、中西市五郎從妹)同夫幸吉(同三、一、一、生、山形、梅本幸右衛門三男)及其子女あり妹直佐江(同二、六、八生)は山形縣人皆川初五郎を以て分家し同との(同三、一、二一生)は同縣人本間八右衛門に嫁せり(堺市田出井町官舎九九〇)

佃 幸之助 從四位、男爵
 東京府華族
 妻 美母 コマ 慶應三、七生、男爵淺野忠允養女
 子 維丈 大一一、一生、生母、静岡、黒柳かね

當家は先々代維岳より家名を揚ぐ維岳は舊廣島藩士にして維新の際藩の執政として要衝に立ち王政復古に盡する處からず明治元年參議院に擧げられ後大勳功知事官内省出仕元老院議員等に歴任し同二十三年勳功により華族に列し男爵を授けらるる大男健介其後を繼ぎ貴族院議員たり君實は故維岳の大男にして明治二十七年五月十九日を以て生れ大正七年兄健介の家督を相続し翌八年男爵仰付らるる風に明治學院を卒業す家族は尙庶子幸子(大一一、一〇生、生母、静岡、黒柳かね)あり(東京市目黒區上目黒八ノ五三七)
 参照 男爵淺野忠允の項

辻 角次郎 小麥粉商
 京都府在籍
 妻 ミヤ 明八、一〇生、京都、森山宗五郎長女
 妻 清一 明三、六、五生、森山宗五郎孫
 子 良子 明四、一、四生、養子清一妻、京都山田庄八長女

君は大阪府人笹川清五郎の長男にして慶應三年五月を以て生れ明治八年辻市右衛門の養子となり同年分れて一家を創立す小麥粉商を営むA二四八(京都市下京區木津屋橋通油小路西入電下四五六)

辻 惠次郎 辻榮商店、染料並香料商
 大阪府在籍
 妻 サカ 明一七、二生、大阪、竹中新助長女
 妻 信 明三、六、一生、二女雪子夫、大阪榎木民三郎二男

君は大阪府人稻垣香吉の實兄にして明治十一年十一月十七日を以て生れ同三十八年先代あさの入夫となり家督を相続す辻榮商店と稱し染料並香料商を営む家族は尙孫信子(昭五、八生、養子信譽長女)同榮治郎(同七、三、生、同長男)ありA三六四七B一五二(大阪府南區大寶寺町中ノ一五電南一三六八)

辻 才次郎 函館商工會常務議員、函館信用
 組合監事、木材商、石川縣在籍
 妻 きみ 明一九、三、生
 妻 俊夫 大四、三、生、早大商科在學
 女 美榮 大八、二、生、大谷女學校在學

君は石川縣人にして明治二十一年一月五日を以て生る木材商を営み推されて現時函館商工會常務議員函館信用組合監事たり家族は尙二男喜久男(大一一、〇、九生)二女嘉子(昭五、一、生)あり(函館市高砂町一三二電九九一・三〇六九、出張所札幌市北十八條西五丁目電三八一四)

辻 楠松 大阪株式取引所取引員
 大阪府在籍
 妻 サラ 明一六、四生、大阪、根來幸治五女
 妻 貞一 明四、五、一生
 女 美代子 明四、〇、一一生

辻 五郎 三井倉庫検査課長
 東京府在籍
 妻 千代 明三一、四生、養父吉長女
 子 代 明三、一、四生、養父吉長女

君は京都府人熊谷直之の弟にして明治二十二年十二月十一日を以て生れ先代千代の入夫となり大正七年家督を相続す同五年京都帝國大學法科大學を卒業し三井倉庫

辻 次作 山治商會理事
 東京府在籍
 妻 みつ 明二、一、七生、東京、松岡松之助妹
 女 芳子 明三、二、生

君は富山縣人辻伊兵衛の四男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す現時山治商

廣社長たり家族は尙四男繁次(大八、六生)三女美代子(同一、八生)四女榮子(同一、五、八生)あり二男靜雄(明三、一、一、一)は分家し三男清太郎(大八、四、一、一)は東京府人松岡竹之助に二女智恵子(同一、一、一、一)は同府人辻親三に各養子となりA八三三(東京市神田區和泉町一ノ一一電下谷三三三七・六二五七自家用)下谷七七三)

重一 資産家
大阪府在籍
妻 トヨ子 明四五、五生、大阪、林吉三郎四女
君は大阪府人佐藤爲造の長男にして明治三十五年二月を以て生れ同三十六年先代モトの養子となり同三十八年家督を相続す資産家たりA四三〇(西宮市森具速毛八〇〇電二〇八)

重治 帝國火災保險務取締役
京都府在籍
妻 賤子 女 明二〇、一一生、岡山、宮田良二
君は東京府土佐郡井原の三男にして明治十三年十月を以て生れ同四十一年先代ふさの養子となり大正二年家督を相続す夙に實業界に入り現時帝國火災保險會社常務取締役にして現に常務火災海上保險會社監査役たりA二一六(東京市大森區馬込町四ノ二八八電大森五八七)

重彦 中村樓、料理業
京都府在籍
妻 重八 重一 明三四、九生、京都、石原孫七妹
君は京都府人先代辻照彦の長男にして明治三十年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す中村樓と稱し料理業を營む其結構の閑雅酒肴の風味は東西に好評を博しあり家族は尙二男彰彦(大一一、四生)長女美代子(明二、五生)あり母チヤイ(明一一、二生、京都、辻重三郎長女)は分家し叔母エミ(同一、二、八生)も亦其の一子を作り分家せりA三三三B七〇(京都市東山区祇園町鳥居前内電祇園一六)

辻 信太郎 辻久商店事務取締役、辻委託代表社員、南海人組事務取締役、羅紗毛織商、大阪府人
妻 克 明二九、一一生、大阪、今津治助姉
君は大阪府土佐郡久美の長男同新三郎の兄にして明治二十三年十一月六日を以て生れ昭和六年一月家督を相続す貿易商に従事し現時辻久商店事務取締役辻合資會社代表社員にして羅紗毛織商を營む傍ら南海人組會社重役たり家族は尙二男達雄(大九、一、一、一)二女登子(同一、一、一、一)三男修平(同一、一、一、一)三女允子(昭五、六生)弟寛三(昭七、五、三、妻チヤイ(明四二、八生)大阪、竹内新次郎妹)及其一子ありA二一九四(大阪府東區北久太郎町四ノ五三電船場二〇〇四)

辻 新三郎 辻久商店社員
妻 よし 明二九、八生、福井、松村法吉養子
君は大阪府人辻久藏の三男同信太郎の弟にして明治三十年三月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す現に辻久商店社員にして現に昭和毛織東洋貿易各會社の重役たりし事あり大正十四年事業視察の爲歐米各國を約一ヶ年巡遊す諸曲園基に趣味を有す家族は尙長女多惠子(大一一、三、三)四女壽恵子(昭三、三、三)ありA四一一(西宮市森具西速毛九三九・一電二一〇)

辻 助次郎 從五位勳五等、埼玉縣女子師範學校校長、埼玉縣立浦和二高等女學校校長、愛媛縣在籍
妻 ハル 明二二、一一生、愛媛、加藤伸市姉
君は愛媛縣人辻次郎の二男にして明治十七年五月十二日を以て生れ大正四年家督を相続す夙に東京高等師範學校を卒業し和歌山青森新潟香川長崎各縣中學校教諭廣島縣立廣島高等女學校教諭同縣立吳高等女學校教諭同縣立女子師範學校校長島根縣女子師範學校校長及同縣立浦和二高等女學校校長たり家族は尙養子篤子(大顯立浦和二高等女學校校長たり家族は尙養子篤子(大

辻 善平 洋服商
大阪府在籍
妻 しげ 明一九、八生、滋賀、居上末吉長女
君は大阪府人先代辻善平の長男にして明治十五年五月三日を以て生れ大正五年家督を相続す洋服商を營む妹久(明二二、九生)は滋賀縣人西崎政太郎に嫁せりA七〇八B二〇五(大阪府西區本田三番町一電區一九四八)

辻 太郎 正四位勳三等、男爵、貴族院議員
東京府在籍
妻 柳 明一五、二一生、東京、土、室田武氏二女、御茶の水高女出身
當家は先代新次より顯る新次は舊松本藩醫辻漸の二男にして少壯江戸に出て洋學を修め明治四年文部省に出仕し大學助教授外國語學校校長文部省大書記官同大書記官文部次官貴族院議員等に歴任す又帝國教育會會長に擧げられ文政に實績を著し明治四一年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる晩年實業界に入り仁壽生命保險伊那電氣鐵道等諸會社を設立し社長に推される君は其長男にして明治二年六月を以て生れ大正四年家督を相続し醫學士明治七年工部大學校に學び同九年米國に留學しロオズ工科大学を卒業し歸朝後内務省通信省に奉職し更に鐵道院技師に任ぜられ後實業界に入り伊那電氣鐵道外數會社の重役たりしが後之を辭し現時貴族院議員にして公正會に屬す妹あか子(明八、一、一)は地理學博士齋田功太郎に同信子(同一、二、三)は第一銀行取締役野口彌三に叔母米(安政二、三)は醫學博士今村新吉に父有隣に嫁せり(東京市澁谷區千駄ヶ谷三ノ五四電青山四六〇)

辻 高俊 醫師
東京府在籍
妻 りう 明一、一、三、東京、神原玄辰二女
君は東京府人辻萬兵衛の三男にして明治十九年五月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す資産家たり

辻 清太郎 眞岡商工會所常議員、一の辻商會社社長、神戶製糖製造業、榎本在籍
妻 初江 明三一、九生、神奈川、朝倉福太郎長女
君は神奈川縣人久太の長男にして明治十九年五月を以て生れ同二十七年先代祖父清太郎の後を承けて家督を相続す同四十年東京高等商業學校を卒業して三井物産會社に入り同社孟買スラバヤ等各支店に勤務し後之を辭し現時森永製菓會社取締役として知らる家族は尙長女徳子(大九、一、一)三男研吾(同一、一、一)四男隆吉(同一、二、二)二女瑤子(同一、四、八)ありA一七三(東京市品川區大井出石町五〇五〇電大井二二五)

辻 卓爾 從四位勳三等、廣島高等師範學校教授、岡山縣土族
妻 萬龜 安政元、七生、岡山、土、川村平太郎長女
君は岡山縣土族辻勤長の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入り同四十年東京帝國大學農科大學豫科教授に任ぜられ同四十二年第一高等學校教授に轉じ大正九年廣島高等師範學校教授に任じ現時其職にあり昭和四年獨逸に留學す家族は尙三女幸代(大九、二、二)四女美代(昭九、四、一)あり(廣島市廣島高等師範學校内)

辻 竹三郎 資産家
東京府在籍
妻 はつ 明二五、二生、東京、小宮藤太郎二女
君は東京府人辻萬兵衛の三男にして明治十九年五月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す資産家たり

辻 俣一郎 三井銀行(藤島)支店長
東京府在籍
妻 ミツ 慶應元、七生、京都、中村甚助長女
君は京都府人辻偶吉の長男にして明治三十年四月を以て生れ大正九年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學法科大學を卒業し三井銀行に入り營業部長を経て現時同銀行支店長たり家族は尙二男智二(大八、一、一、一)二女富子(昭四、七生)五男惠吉郎(昭六、七生)あり妹たみ(明二二、八生)は岡山縣土族見戶清藏に嫁せりA一四二(廣島市鐵道町四七電八五五)

辻 善之助 從三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授兼學科編纂官、文學部勤務
東京府在籍
妻 つね 嘉永二、二生、兵庫、小川新兵衛長女
君は兵庫縣人辻善次郎の長男にして明治十年四月を以て生れ大正六年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大學院に入り史料編纂官東京帝國大學史學科助教授に歴任し同四十二年文學博士の學位を受く現時同大學教授にして史料編纂官同所長を兼ね昭和七年帝國學士院會員に任ぜらる曾て歐米に遊歴せらる著書に「日本佛教史の研究」、海外交通史話」等あり家族は尙四女明子(大一一、七生)あり弟仁三郎(明一九、六生)は其一子を作り分家し姪文子(大八、一、一、一)は兵庫縣人鹽田幾太郎の養子となり(東京市澁谷區戸塚四ノ七八三電牛込一五七八)

辻 善平 大府商
妻 しげ 明一九、八生、滋賀、居上末吉長女
君は大阪府人先代辻善平の長男にして明治十五年五月三日を以て生れ大正五年家督を相続す洋服商を營む妹久(明二二、九生)は滋賀縣人西崎政太郎に嫁せりA七〇八B二〇五(大阪府西區本田三番町一電區一九四八)

辻 高俊 醫師
東京府在籍
妻 りう 明一、一、三、東京、神原玄辰二女
君は東京府人辻萬兵衛の三男にして明治十九年五月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す資産家たり

辻 清太郎 眞岡商工會所常議員、一の辻商會社社長、神戶製糖製造業、榎本在籍
妻 初江 明三一、九生、神奈川、朝倉福太郎長女
君は神奈川縣人久太の長男にして明治十九年五月を以て生れ同二十七年先代祖父清太郎の後を承けて家督を相続す同四十年東京高等商業學校を卒業して三井物産會社に入り同社孟買スラバヤ等各支店に勤務し後之を辭し現時森永製菓會社取締役として知らる家族は尙長女徳子(大九、一、一)三男研吾(同一、一、一)四男隆吉(同一、二、二)二女瑤子(同一、四、八)ありA一七三(東京市品川區大井出石町五〇五〇電大井二二五)

辻 卓爾 從四位勳三等、廣島高等師範學校教授、岡山縣土族
妻 萬龜 安政元、七生、岡山、土、川村平太郎長女
君は岡山縣土族辻勤長の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入り同四十年東京帝國大學農科大學豫科教授に任ぜられ同四十二年第一高等學校教授に轉じ大正九年廣島高等師範學校教授に任じ現時其職にあり昭和四年獨逸に留學す家族は尙三女幸代(大九、二、二)四女美代(昭九、四、一)あり(廣島市廣島高等師範學校内)

辻 竹三郎 資産家
東京府在籍
妻 はつ 明二五、二生、東京、小宮藤太郎二女
君は東京府人辻萬兵衛の三男にして明治十九年五月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す資産家たり

辻 武美 大阪府在籍
 妻 隆 明一三、七生、東京、田中長太郎
 門三女
 養子 順 明四二、一〇生、弟幸吉長女
 君は大阪府土族先代直方の長男にして明治四年二月を以て生れ大正四年家督を相続す現時會社員たり家族は尙孫芳(昭四、六生、養子清長女)あり弟幸吉(明一四、二生)同妻たか(同二二、六生、東京、久留芳樂長女)と其五子を伴ひ分家せり(大阪府天王寺區大連一ノ三九九九電天王寺一四〇一)

辻 忠右衛門 大阪府在籍
 母 千鶴 慶應元、一〇生、養祖父忠右衛門
 妻 正雄 明三三、二生、養父、居初車太妹
 君は大阪府人先代忠右衛門の長男にして明治二十七年一月を以て生れ昭和五年家督を相続し舊名政太郎を改め養名少壯經史に通じ慶應義塾に學ぶ爾來先代の遺業を繼承す昭和六年十月七日社會事業に貢獻する處から少壯經史を賜る家族は尙二男義夫(昭二、七生)三男順三(同五、二生)あり妹芳子(明三五、一一生)は分家せりA四一一二(大阪府東區伏見町一ノ五電本局三七九)

辻 長治郎 京都府多額納稅者、辻長商店、和洋酒食料品商、京都府在籍
 妻 ツネ 明一二、六生、大阪、田中勇助三女
 君は京都府人山本長左衛門の長男にして明治七年十二月を以て生れ先代長兵衛の養子となり同三十六年家督を相続す和洋酒食料品商を營む養産家を以て知られ府下の多額納稅者に列す養に富士製水會社の重役たりA二一六一五九四(京都市中區木下町四條上ル電本局二五五九)

辻 八五郎 地主、和歌山府在籍
 妻 和歌 明二九、一〇生、東京、大坪銀次郎長女
 君は京都府人辻八五郎の二男にして明治二十七年六月を以て生れ同四十四年家督を相続し前名新次郎を改め養名す現に地主たり家族は尙同三三、(一一生)同妻(同二二、四生)弟光之助(同三三、一一生)同妻始子(同三九、一一生)弟山、林喬一姉及其二男あり妹ヤエ(同三八、一一生)京華高女出身は東京府人秋一雄に嫁せりA一三〇七(京都市中野區沼袋南一ノ一六五電中野三四〇五)
 參照 秋一雄の項

辻 兵吉 貴族院議員、秋田商工會議所會頭、秋田縣多額納稅者、秋田銀行、秋田縣在籍
 妻 エイ 安政四、八生、祖父大吉長女
 君は秋田縣人辻兵吉の長男にして明治二十七年九月十五日を以て生れ大正七年辻利兵衛に嫁し後家督を相続す養産家たり家族は尙長女清六一三、二生)ありA六二二(名古屋市中區區茶屋町一ノ一七)

辻 孫一郎 三重縣多額納稅者
 母 とき 明四九、三三、森祐次郎五女
 妻 富美 明四四、九生、三重、小林嘉平治長女、津高女出身
 君は三重縣人辻定次郎の長男にして明治三十四年十一月を以て生れ同三十九年先代祖父孫八の養子を受け家督を相続す昭和三年法政大學經濟學部を卒業し直接國稅五百九十一圓を納め三重縣多額納稅者に列す家族は尙長女光子(昭六、二生)弟榮三(明三七、一一生)、法學士(同四四、一一生)福井、右近副次郎長女)あり(三重縣河内郡一身町電三三)
 參照 小林嘉平治、右近副次郎の項

辻 德治郎 製紙原料商、京都府在籍
 妻 ヨシエ 明二四、一〇生、京都、生島林之助長女
 千代 大六、七生
 君は京都府人先代德治郎の長男にして明治二十二年九月十一日を以て生れ同四十一年家督を相続し前名元次郎を改め養名す京都商業學校を卒業(家業たる製紙原料商を營む家族は尙二女富美(大九、九生)三女正子(同二二、一一生)あり弟竹次郎(明二五、四生)は分家し妹テル(同二七、五生)は京都府人野田芳治郎に嫁せりA一九四二五六(京都市下區區堀川通四條下ル二七電下七六五)

辻 はるゑ 養家、愛知縣在籍
 母 堅太郎 大〇、二生
 養子 すみ 大四、二生
 君は愛知縣人渡邊孫太郎の長女にして明治二十七年五月十五日を以て生れ大正七年辻利兵衛に嫁し後家督を相続す養産家たり家族は尙長女清六一三、二生)ありA六二二(名古屋市中區區茶屋町一ノ一七)

辻 利兵衛 京都府多額納稅者、ヤマリ、茶商
 妻 ちう 明二〇、一二生、養父豊次郎長女
 重太郎 明四五、六生
 君は京都府人山本榮次郎の弟にして明治十四年九月を以て生れ同三十九年先代ちうの入夫となり家督を相続し前名恒次郎を改めヤマリと稱し茶商を營む養産家を以て知られ京都府多額納稅者に列す家族は尙三男三郎(大八、七生)三女良(同二〇、九生)四女貞(同二三、三生)あり二男彦次郎(同五、三生)は京都府人森榮太

辻 彌藏 三省樓、割烹業、山梨縣在籍
 妻 たか 明八、九生、内藤金兵衛長女
 養子 芳雄 明三五、七生、二女あい吉夫、山梨、士、小林繁作弟
 女 あい吉 明三五、五生、養子芳雄妻
 養子 信三 明三六、一〇生、三女久代夫、山梨、大木兵藏三男
 女 久代 明三七、七生、養子信三妻
 君は山梨縣人原高吉の四男にして明治八年十月を以て生れ先代彌藏の養子となり大正六年家督を相続し前名久治郎を改め養名す三省樓と稱し割烹業を營む養に山梨縣多額納稅者に列し大丸商店取締役たりし事あり家族は尙孫安子(大五、二生、養子芳雄長女)同米子(昭三、三生、同二女)同信太郎(同二、一一生、養子信三長男)あり(甲府市櫻町一三電三四)

辻 利吉 從五位勳六等、石川縣書記官、學務部長、東京府土族
 妻 タツ 明二、三三、熊本、藤本惟長女
 安一 明三三、三三、大阪、安田正妹
 君は石川縣人官谷寅松の二男にして明治二十六年十二月を以て生れ大正三年先代辻安の養子となり同十一年家督を相続す大正七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年文官高等試驗に合格直に大阪府屬となり轉じて青森縣東津輕郡長福島縣理事官秋田府玉各縣地方事務官に歴任し鳥取縣學務部長を経て昭和七年現職に補せらるる家族は尙二男利哉(昭三、三三)三男三郎(同五、九生)あり(金澤市下本多町六番町官舎電一九)

辻 由太郎 辻由太郎商店代表社員、支那貿易並雜貨商、和歌山縣在籍
 妻 トモ 長女
 男 忠右衛門 明三二、一〇生、現戶主
 當子 明三二、八生、長男忠右衛門妻、京都、三卷惠次姉
 男 芳茂 明三六、一一生

辻 善定 正五位勳四等、静岡高等學校教授、岐阜縣在籍
 妻 正五位勳四等、静岡高等學校教授
 岐原縣在籍

辻 松之助 土木建築請負業、福岡縣在籍
 男 長次郎 明二九、三三
 婦 トキ 明三六、一一生、長男長次郎妻、福岡、森茂助三女
 男 竹次郎 明三六、八生、二男竹次郎妻、福岡、明四四、八生
 女 ウメ 明四四、八生、是永久磨雄四女

辻 萬兵衛 紙商、東京府在籍
 母 ちか 明一七、一一生、埼玉、山崎善助三女
 君は東京府人辻萬兵衛の長男にして明治十四年二月を以て生れ大正十二年家督を相続し前名好太郎を改め養名す紙商を營む家族は尙弟嘉壽夫(大二、一一生)あり叔父竹三郎(明一九、五生)は同妻はつ(同二五、二生)及其三男一女を伴ひ分家せりA一七三四B一六五(東京市淺草區區村木町二電淺草一八四一)
 參照 辻竹三郎の項

辻 紋治郎 出水組、土木建築請負業、大阪府在籍
 妻 ハナ 明二一、一一生、大阪、角田佐太郎長女
 男 圭三 明四一、九生
 女 富榮 明四三、七生
 君は大阪府人安封正太郎の養父にして明治十二年十二月を以て生れ先代紋治郎の養子となり同三十五年家

辻 利兵衛 京都府多額納稅者、ヤマリ、茶商
 妻 ちう 明二〇、一二生、養父豊次郎長女
 重太郎 明四五、六生
 君は京都府人山本榮次郎の弟にして明治十四年九月を以て生れ同三十九年先代ちうの入夫となり家督を相続し前名恒次郎を改めヤマリと稱し茶商を營む養産家を以て知られ京都府多額納稅者に列す家族は尙三男三郎(大八、七生)三女良(同二〇、九生)四女貞(同二三、三生)あり二男彦次郎(同五、三生)は京都府人森榮太

辻村 榮助

秋田屋、醸造用器製造販賣業
大阪府在籍
妻 明一〇、二生、大阪、安川喜三郎
男 秀三郎 明四二、一生
男 誠介 大二、七生

辻村 精造

正四位勳二等功三級、陸軍主計
監、帝國在郷軍人會理事長
高知縣土族
妻 サタ 靜子
男 良輔 明二四、一生、慶大出身
女 延子 明三三、八生、長男良輔妻、京都
女 元子 明四三、一生
女 順子 大七、二生

君は高知縣土族辻村光盛の長男にして文久二年一月を以て生る明治十八年陸軍少尉に任じ大正二年陸軍主計總監に累進す其間陸軍省經理局稽察課長陸軍大學校教官經理局長等を経て近衛師團各經理部長陸軍省經理局長等に歴補す現時帝國在郷軍人會理事長の職に在り義に日本セルロイド人造絹絲日本機械化工各會社社長たりし事あり家族は尙三男光輝(大六、一生)四男楠高(同二〇、三)の外男三郎(明二五、八)生、辻村秀信三男、現戸主、理學士(同三三、九)生、辻村東京市野呂景武(二女)及其二女ありA一二八(東京市牛込区市谷左内町二電牛込五三〇)
參照辻氏家譜の項

辻村 浩三

中津川銀行取締役
父 直二郎 萬延元、三生
母 元治元、八生、岐阜、田口幸助三
妻 かずみ 明二八、六生、岐阜、原島長女
男 玄平 大三、一生

辻村 興三郎

日刊亞細亞通信社、日本電氣通信
各社社長、四版工業部取締役、東京
京電製版組合委員長、彦根育
英會評議員、同級五同志會責任幹
事、滋賀縣土族
妻 ツタ 明六、一生、愛媛、菅野英吉妹
男 興一郎 大八、二生

君は舊彦根藩士辻村三右衛門の三男にして明治十年四月を以て生れ後分れて一家を創立す夙に彦根中學校に學び海外雄飛を企圖して渡米しシヤトルに留る事六箇年日刊シヤトル新日本社に勤務し營業部長の要職に就く傍ら鋭意化學應用製版の研究を進むると共にシヤトル、インダストリー、ヴィンダグ學校に入り新報の研鑽を積み明治三十七年學成りて歸朝す聘されて時事新報社に入り製版技師として勤務す其の間新報の知識を以て遂に亞鉛凸版の普及及電氣應用製版に成功す現今我國に於て所謂亞鉛凸版と稱するは實に氏の命名せし所に於て時恰かも日露戰爭末期にして新聞ニュースの如き寫眞の應用益々頻繁を加へし折柄實に所望に甚大なり後之を辭し京橋區弓町に辻村製版所を創立し明治四十二年今の銀座五丁目に移轉す越へて大正四年英米佛等の各國を歴訪し其に業界の視察を遂げて歸朝しグラビヤ製版印刷の研究に専念す昭和四年十二月其工場より火を發し遂に全燒の患運に遭遇せしも居せず同六月十二月現在の耐震耐火五層樓の工を竣へ寫眞報國の陣容を布く現時日刊亞細亞通信社長たる外前記各社の重役たり趣味として撞球習畫を好む(東京市京橋區銀座五ノ四電銀座一六七〇・一六七一)

辻村 芳太郎

日海運商會、東海商事、昭和汽
船各社社長、海運業、佐賀縣在籍
妻 芳 文久元、二生、現戸主
女 明二二、四生、兵庫、澤村米吉長
養子 梅吉 明三八、四生、長女芳子夫、愛知
杉山晋四郎二男

辻本 英一

福助足袋、福助商事各取締役
大阪府在籍
妻 豐三郎 明一四、一生、現戸主
女 明三三、九生、京都、古川源三郎
長女

君は大府府人辻本豐三郎の長男にして明治三十三年三月を以て生る夙に大阪大倉商業學校を卒業し現時福助足袋福助商事各社の取締役に義に古河製絲會社の監査役たりし事あり家族は尙長女富久子(大一四、一生)ありA一四七〇(堺市宿院町西一ノ九電一六五)
參照辻本豐三郎、古川源三郎山本東作の項

辻本 藤三郎

東京府在籍
妻 とみの 明二〇、一生、兵庫、目堅光治
女 彌三男 大三、二生
女 トヨノ 明四四、二生

辻本 豊三郎

堺商工會議所會頭、福助足袋社
社長、福助商事代表取締役
大阪府在籍
妻 まつ 文久二、一〇生、大阪、大澤治平
養母 まつ 明一五、六生、養父福松長女
男 英一 明三三、三生
男 昇 明三八、四生、二女文夫、大阪、
山崎秀四郎二男
女 文 明四二、八生、養子昇妻、堺高女
出身

當家は先々代辻本福松分家して一家を創立したるに始まる本家辻本家は堺市土着の舊家にして木綿類の小賣をなせり福松初め文房具商を營みしも明治十六年足袋製造を創め同三十七年頃福松を福助と稱し積極的擴張の下に今日の基礎を成せり君は大府府人北川源之助の長男にして明治十四年一月を以て生れ先々代福松の

辻山 豊治

鹽江電力、三陸送電各取締役
岩手縣在籍
妻 フサ 明一五、八生、青森、生田嘉平治
女 明二三、三生
男 善治郎 明三一、二生、長男安太郎妻、青
森、辻山又治郎長女
男 周子 明二五、二生、二男善治郎妻、岐
阜、野原安司妹
女 文六 明三二、一〇生
妻 キクヨ 菊田龜治妹

君は岩手縣人先代文兵衛の長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十七年家督を相続す鹽江電力會社社長たりしが昭和八年之を辭し現に同社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙孫正太郎(大四、一生)、長男安太郎長男(同二五、四生)、三男文六長女(同二七、二)は宮城縣人池田惣兵衛養子省治郎(二女タケ(生年月同上)は同縣人八幡勇吉男建造に三女ツノ(同二九、六)は同縣人辻山修平に嫁せり(岩手縣鹽澤郡水澤町電六五)

日本周波電氣時計製取締役會社長、住友電氣製取締役兼營業部長、住友アルミニウム製監査役
東京府在籍
妻 セウ 明六、二生、山口、山中朋太郎姉

辻本 篤三郎

愛知新聞社社長、中部十縣下新聞
通信組合責任幹事、愛知縣在籍
妻 ひめ 明一八、一〇生、愛知、富田代吉
女 二女

君は愛知縣人辻本元太郎の三男にして同篤次郎の弟なり明治十三年五月を以て生れ同三十六年兄交助方より分れて一家を創立す義に東京やまと新聞社及大阪やまと新聞社を経營し大正四年名古屋市中に於て東海新聞社を買収し愛知新聞社と改稱其社長たり現在に至る傍ら中部十縣下新聞通信組合責任幹事たり義に名古屋日々新聞社々長新守座顧問たりし事あり(名古屋市中區南鍛冶屋町五ノ一〇電中七三)
參照辻本篤次郎の項

正五位勳三等功五級、海軍主計大
佐、大阪電力、和泉電氣、立山水
力電氣、大同肥料、大同土地、興業
各社監査役、大同電力、同電託、明
倫會東京本部評議員、大阪聯合支
部顧問、愛媛縣在籍
妻 カメ 明九、二生、愛媛、續木鐵夫叔母
男 壽 明三四、六生、同志社大學出身、
南洋倉庫會社員
男 滿 明三九、三生、長男壽妻、京都、
石原廣一郎妹
女 元大 大三、一〇生、同志社高商部在學
續木家は新田司馬の後裔にして東郷土居の舊家なり君は先代元太郎の二男續木篤三郎の兄にして明治四年六月を以て生れ同三十九年兄交助方より分れて一家を創立す同三十九年日本大學法律科を卒業し海軍高等武官試験に首席を以て合格し同三十一年海軍少主計に任ぜられ爾來果進して大正五年主計大監となり其間北清事變日露日獨各戦役に従軍し軍醫安藤橋名及び艦隊主計

長崎佐世保英の各鎮守府經理部課長同經理部長代理廣工建設委員等を経て同十年豫備役となり大同電力會社に入り理事たりしが現時前掲各會社の重役を兼ね信美電力伊那川電力各會社重役たりし事あり刀剣繪畫に趣味を有す長女瑞枝(明治三六、五五)は愛媛縣人十歳實吉長男早稲田大學出身道雄(二男)は愛媛縣人三八、八八、慶大及昭和醫學博士傳染病研究所研究員は其妻秀子(同四〇、一七、靜岡、伴野廣長女、女子英學專門校出身)を伴ひ分家し二女千枝子(明治二二、一七、同志社專門部家政科出身)は京都府人中原久治郎長男阪和電線社員慶應大學出身正夫(五男)は五男光大(六元、八元)も亦分家せり(大阪府北河内郡牧方町三三〇)
 參照：石原廣一郎、積木齋三郎、中原久治郎の項

土川宗左衛門 岐阜縣多額納稅者、飛騨銀行取締役、岐阜縣在籍
 妻 明七、一七、愛知、士、松井延次
 男 明三九、一〇、生
 男 明四九、一〇、生
 男 明五九、一〇、生
 君は岐阜縣人先代宗左衛門の長男にして明治五年五月を以て生れ同十一年家督を相續し現時現職銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役を兼ね直接國稅六百四十一圓を納め岐阜縣多額納稅者に列す長女(明治二八、二二生)は岐阜縣人森三郎に女し(同三〇、一八生)は愛知縣人水谷鶴二に女し(同三六、一〇生)は岐阜縣人森彦兵衛吉に女あり(同三八、一一生)は同縣人岡田太助に女あり(同三五、一一生)は同縣人小森文助に女あり(同三八、一一生)は同縣人小森文助に各養子となり(同四〇、一八生)同三男(同四一、一八生、同五五)は各分家せり(岐阜縣大野郡高山町大字三町電高町一六八)
 參照：岡田太助、森三郎、森彦兵衛の項

土倉宗明 衆議院議員(富山縣選出)、著述業
 富山縣在籍
 妻 明六、二二、富山、山崎太郎次三
 女 明六、二二、富山、山崎太郎次三

君は富山縣人土倉宗次郎の長男にして明治二十二年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す早稲田大學に學び著述業と才を以て牛込區會議員東京市會議員同參事會員に選ばれる昭和五年以來富山縣より推されて衆議院議員に當選すること同立憲政友會に屬し列國議會同盟會議に參列し歐米各國を視察す家族は尙妹(同三二、二六生)は其一女弟尙之(同四〇、六生、滿鐵社員、早大政治經濟學部出身)あり妹みつ(同三五、七生)は群馬縣人原原榮次に嫁せり(東京市牛込區瀧戸町四〇電牛込四三二六)

土坂佐吉 農業、地主
 京都府在籍
 妻 明七、八八、京都、内田源之助妹
 男 明二七、九生
 女 明三〇、一五、長男佐一郎妻、滋賀、木村正一郎妹

君は京都府人土坂治長翁の二男にして明治四年一月を以て生れ同七年先代佐助の養子となり同三十五年家督を相續す地主たり家族は尙四男義雄(大五、六生、孫松三〇、一四、一七、長男佐一郎長男あり二男時次郎(明三〇、一六生)は分家し長女壽廣(同三三、一七生)は和歌山縣人小野田長八に女加代(同三七、一二生)は滋賀縣人古川幸一郎に女は(同四一、二二生)は京都府人梅原徳三郎に嫁せり(京都市左京區吉田二本松町電上三二八八)

土田伊右衛門 大阪府會議員、大阪府參事會員
 大阪府在籍
 妻 明二五、二二、大阪、馬場善太郎
 男 明六、一〇、生

君は大阪府人土田忠藏の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す夙に社會公共事業に心を注ぎ大正三年中津青年會を組織し其副會長となりてより以降諸般に涉り盡す所あり現時大阪府會議員及大阪府參事會員たり家族は尙三男明(大一二、九生)四男忠文(同二一、一七生)五男善久(昭五、九生)三女幸子(同七、二二生)妹千代子(明四三、二五)あり長女一子(大三、六生)は大阪府人松田與之助二男良治に妹以滿

君は大阪府人土田忠藏の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す夙に社會公共事業に心を注ぎ大正三年中津青年會を組織し其副會長となりてより以降諸般に涉り盡す所あり現時大阪府會議員及大阪府參事會員たり家族は尙三男明(大一二、九生)四男忠文(同二一、一七生)五男善久(昭五、九生)三女幸子(同七、二二生)妹千代子(明四三、二五)あり長女一子(大三、六生)は大阪府人松田與之助二男良治に妹以滿

土田萬助 秋田縣多額納稅者、羽後銀行頭取、秋田縣在籍
 妻 明二二、一七、秋田、照井治右衛門
 男 明二二、一七、秋田、照井治右衛門
 女 明二二、一七、秋田、照井治右衛門
 男 明二二、一七、秋田、照井治右衛門
 女 明二二、一七、秋田、照井治右衛門

君は秋田縣人土田吉治の長男にして明治二年一月を以て生れ先代彦七の養子となり同三十八年家督を相續す直接國稅九千八百六圓を納め多額納稅者に列す義に貴族院議員に互選せられ秋田縣會議員同議長等(同九、一七、一七、二二、二二)同夫夫夫夫同(昭三、一八、一八)同(昭三、一八、一八)同(昭三、一八、一八)

君は秋田縣人土田吉治の長男にして明治二年一月を以て生れ先代彦七の養子となり同三十八年家督を相續す直接國稅九千八百六圓を納め多額納稅者に列す義に貴族院議員に互選せられ秋田縣會議員同議長等(同九、一七、一七、二二、二二)同夫夫夫夫同(昭三、一八、一八)同(昭三、一八、一八)同(昭三、一八、一八)

土田二太平 長野縣多額納稅者、酒造業
 長野縣在籍
 妻 明一八、七生、新潟、村田喜左衛門
 男 明一八、七生、新潟、村田喜左衛門
 女 明一八、七生、新潟、村田喜左衛門

君は長野縣人土田三太郎の長男にして明治十一年一月を以て生れ同三十年家督を相續す酒造業を營み直接國稅五百四十圓を納め多額納稅者たり家族は尙三女美代子(大一一、一〇生)三男文雄(同一一、一〇生)あり(長野市中御所三三〇電長野四〇四)

土田増吉 丸増商店、酒造業
 東京府在籍
 妻 明一九、四生、東京、奥野良輔妹
 男 明一九、四生、東京、奥野良輔妹
 女 明一九、四生、東京、奥野良輔妹

君は東京府人先代増吉の長男にして明治十九年六月を以て生れ大正五年家督を相續し前名常太郎を改め號名す丸増商店と稱し酒造業を營む長女シヤ子(明四四、三三)は神奈川縣人横濱三郎に嫁し二女喜美(大三、七生)同夫久藏(明四二、八生、北海道、久代久米三郎孫)は分家し弟清一(同二七、八生)も亦分家せり(東京市品川區大井野町一三三電高橋五六二)

土田衛 地主
 大阪府在籍

土田梅吉 紀伊國屋、薬店
 東京府在籍
 妻 文久三、一〇生、東京、小島友次
 男 明五、九生、群馬、黒澤安太郎三郎

君は東京府人先代梅吉の長男にして文久二年二月を以て生れ後家督を相續し前名銀二郎を改め號名す紀伊國屋と稱し藥店を營む(大正九、一五二(東京市神田區花房町二電下谷五七))

土田音藏 神奈川縣多額納稅者、金融業
 神奈川縣在籍
 妻 明一五、一一、一七、養子ノヤ夫、新潟
 男 明二一、四生、養子ノヤ夫、新潟
 女 明一九、一〇、生、養子ノヤ夫、新潟

君は新潟縣人土田大五の三男にして嘉永六年一月を以て生れ明治三十七年兄五太郎方より分れ一家を創立す金融業を營み神奈川縣多額納稅者たり家族は尙孫新吾(大六、九生、養子ノヤ夫、新潟、土田周吉弟)あり孫タケ(同二、一七生)養子ノヤ夫、新潟、土田音藏に嫁せり(大正二、一七(横濱市中區戸部町四ノ一六六))

土田喜右衛門 家主
 大阪府在籍
 妻 明三六、三三、大阪、鈴木卯三郎
 男 明三六、三三、大阪、鈴木卯三郎
 女 明三六、三三、大阪、鈴木卯三郎

君は大阪府人先代喜右衛門の六男にして明治三十一年一月を以て生れ昭和三年家督を相續し前名市造を改め

土御門照光 子爵
 舊公卿家
 妻 明二九、四生、福岡、土、武田千代子
 男 明二九、四生、福岡、土、武田千代子
 女 明二九、四生、福岡、土、武田千代子

當家は孝元天皇の皇子大彥の後裔主計權介兼天文博士安倍晴明の孫にして世々陰陽頭となり天文曆道を掌る二十五世を経て晴榮に至り明治十七年子爵を授けられ大學南校東京外國語學校に學び貴族院議員に列す先々代晴行其後を承け先々代晴善に至る晴實は子爵三室戸敬光の叔父にして前名を晴善と稱す大正十四年選定により入りて家督を相續す明治四十三年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し大正十年歐米に留學歸朝後東京高等農林學校教授兼主任たり昭和七年又貴族院議員に選ばれる君は其長男にして大正六年二月を以て生れ昭和九年五月家督を相續し爵位仰けられ現に學習院中等科第五學年在學中なり家族は尙弟光(大九、七生)妹美栄子(昭二、七生)女子學習院在學あり先々々々代晴榮長女幸子(明二五、一一生)は新潟縣人土田川重治に嫁し同二女賀壽子(同二八、五五)は分家して他家に嫁し同四女鏡子(同三六、七生)は分家せり(東京市瀧野川區西ヶ原町八五二電小石川一五)

土谷慶治郎 大和田銀行取締役
 大阪府在籍
 妻 明二三、一一、福井、南部小兵衛二女

參照：子爵三室戸敬光子爵富小路隆直子爵松浦靖暁男爵尾尾光通の項

土谷與三郎 米穀商在籍
 君は兵庫縣人土谷與三郎の二男にして明治十三年七月六日を以て生れ同三十七年兄龜太郎方より分れて一家を創立す米穀商たり長女マサエ(明四二、一〇生)は兵庫縣人赤浦敬二に嫁せり(一五八二)(神戸市神戶區加納町三ノ三電合四二八)

男 圭次 明二四、三三
 女 和子 明三〇、一一生、長男圭次妻、福井、角野龜吉二女

土谷連之助 島根縣議員、島根縣多額納税者
 君は島根縣人土谷連之助の二男にして明治二十二年十月を以て生れ先代連之助の養子となり大正二年家督を相続し前名琳一を改め養子細毛織物商を営み直接國稅千九十一圓を納め島根縣多額納税者に列し前記各會社の重役たり又島根縣議員に挙げられ義に同縣參事會に推される家族は尙孫清惠(六一三、四生、養子)

妻 恒一 明三五、一〇生、長女タキノ夫、島根、土谷愛三郎孫

女 恒一 明三五、一〇生、養子恒一妻

土屋市兵衛 東京府多額納税者、東京銀行専務取締役、東京府在籍
 君は長野縣人土屋市郎の二男にして明治九年七月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す柳屋と稱し質商を営み傍ら東京銀行専務取締役に於て東京府多額納税者たり家族は尙長女史子(昭七、一一生)養子いと子(大一一、五生、静岡、加藤與吉六女)同徳之助(昭二、五生、長野、土屋好雄四男)あり(一八八〇六B二五九六)(東京市京橋區入船町三ノ一三電東橋三三三〇)參照||淡宮崎重吉淡小玉平太郎の項

男 一 郎 明三五、一〇生、長男一郎妻、埼玉
 女 子 須田實郎三女、長男一郎妻、埼玉

土屋精熊 從七位勳五等功五級、陸軍二等主計、山陽鐵道株式會社社長、青島鐵道、中外鐵道各株式會社取締役、青島鐵道、カキ自動車店各取締役、兵庫縣在籍
 君は和歌山縣人酒井萬の二男にして明治四年二月を以て生れ同十九年土屋家の死跡を相続し和歌山中學を経て陸軍經理學校を卒業し陸軍三等主計に任ぜられ明治三十三年二等主計にて豫備役となり直ちに實業界に入り現時山陽鐵道株式會社社長たる外前掲諸株式會社の重役たり大岡崎株式會社社長の外朝鮮鐵道株式會社朝日鐵道株式會社瓦製造株式會社火災株式會社各株式會社の重役たりしことあり(兵庫縣武庫郡御影町郡家二二六電三宮三三三〇)

妻 コウ 明一六、三三、東京、村田平助養子

男 俊彦 明四〇、一二生、大阪海上火災保險會社社員、經濟學士

土屋賢吾 並木製作所取締役
 君は兵庫縣人土屋賢吾の長男にして明治二十年三月を以て生れ同四十二年早稲田大學商科を卒業し現に朝日スレート株式會社監査役に於て早稲田大學副幹事の外日英鐵道株式會社生命保險株式會社の重役たりし事あり家族は尙二男信彦(六一一、一〇生)三男義彦(同一三、七生)四男勝彦(同一五、一〇生)あり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町小町二七七電七〇六)參照||土屋文治郎の項

妻 文治郎 朝日スレート監査役

父 文治郎 嘉永六、八生、現戶主

妻 ウタ 明二七、三三、神奈川、金子才一郎長女

男 文彦 大八、一〇生

女 光子 大八、一〇生

土屋耕二 正五位勳四等、内閣印刷局總務部長兼總務部監理課長、同官報課長兼法政局參事官、千葉縣在籍
 君は千葉縣人土屋樞四郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正六年家督を相続す同四年文官高等試驗に合格翌年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業す尋て北海道廣島縣各理事官を経て同十二年歐米各國に出張し歸朝後廣島縣書記官事務部長石川長野各縣書記官警務部長を経て現時前記の官職に在り昭和八年再び歐米各國に出張す家族は尙二男周二(大九、七生)三男昭二(昭二、三)四男昭三(同七、八生)あり(東京市板橋區板橋町三ノ二五六電大塚七〇一)

妻 淑子 明三三、一一生、千葉、青木藤之助

女 淑子 明三三、一一生、千葉、青木藤之助

土屋純一 正四位勳三等、名古屋高等工業學校校長兼教授、新潟縣在籍
 君は新潟縣人土屋準計の長男にして明治八年五月を以て生れ同十三年先代祖父竹翁の後を受け家督を相続す同三十三年東京帝國大學工科大学建築學科を卒業更に大學院に入る同四十四年建築學研究の爲歐米に留學し奈良縣技師を経て名古屋高等工業學校教授に轉じ昭和八年同校長に任ず現に教授兼任たり長女エミ(明三三、八、二生)は東京府人春日井善一郎に嫁し姉キキ(元治元、七生)は新潟縣人土屋吉吉の養子となり同リイ(明六、五生)は分家せり(名古屋市東區白壁町四ノ二三電東七二五)參照||田所美治淡永田三郎淡森村勇の項

妻 キキ 美治妹

女 美治妹 明四〇、五生

土屋清三郎 衆議院議員(千葉縣選出)、土屋清造製糖株式會社取締役、日本之糖界社、出版業、醫師、千葉縣在籍
 君は千葉縣人土屋清左衛門の長男にして明治十五年四月を以て生れ前名清を改め大正十一年家督を相続す夙に濟生學會を卒業し更に東京慈惠醫院醫學部に學び内務省傳染病研究所嘱託醫師檢査醫となり東北醫師大會常務委員大日本醫師會醫政調査會委員等に挙げらるる現に「日本之糖界」及英文「ジャパン・メジカル・ワールド」支那文「東亞醫學」等を主宰する外前記會社の重役を兼ね大正六年以來衆議院議員に當選する事六回に及び立憲民政黨所屬たり第清七(明二二、九)は其同妻ふで(同三〇、四生、千葉、秋葉谷太郎二女)は其二子を伴ひ分家せり(三四九)(東京市神田區表神保町

妻 貞 明二〇、八生、東京、小川爲吉長女

女 貞 明二〇、八生、東京、小川爲吉長女

土屋康二 石材商、同濟業
 君は神奈川縣人土屋大次郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同四十三年家督を相続す先代大次郎石材商を営み奮勵努力して當家の基を起し又衆議院議員に挙げらるる君祖業を繼いで益々家運を恢弘せり家族は尙四男正雄(大八、八生、靜岡縣在籍)五男貞雄(同六、一、一、生、水戸高校在籍)六男八郎(同九、一、二、生、市立一中在籍)あり弟康三(明一九、一、一、生)は貴族院議員金子元三郎の養子となり同計左右(同二一、三、生)は分

妻 トミ 明一八、八生、神奈川、養島吉平

女 トミ 明一八、八生、神奈川、養島吉平

土屋正三 從五位、岡山縣書記官、内務部長
 君は静岡縣人土屋元平の長男にして明治二十六年八月を以て生れ同三十年家督を相続す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し爾來兵庫縣同警視内務事務官兼内務省參事官内務書記官地方事務官千葉縣勸業局長兼警務部長内務書記官警務局長同警務局長兼警務講習所教授を経て岡山縣書記官に任じ内務部長に補せらるる家族は尙長女伸子(大一一、八生)二女久子(昭三、一、一、生)三女

妻 小夜 昭三五、二生、故學士大工原銀太郎二女

女 小夜 昭三五、二生、故學士大工原銀太郎二女

土屋甚右衛門 白米製糖會社
 君は神奈川縣人先代甚右衛門の二男にして明治十一年五月を以て生れ同四十五年家督を相続し前名三之助を改め養子白米製糖會社を営む家族は尙二男秀夫(大九、二生)三男忠夫(同九、三、生)六女(同一三、一、一、生)あり(川崎市砂子町二ノ五三電川崎二五〇六)參照||淡武藤虎太の項

妻 フミ 明一七、一、生、神奈川、金子清七

女 フミ 明一七、一、生、神奈川、金子清七

土屋 保

正四位勳二等功四級、海軍中將
東京府在籍
妻 長女 明元、四生、東京、土、鎌田清直

土屋 忠右衛門

從四位勳四等、辯護士
千葉縣在籍
妻 明元、一、二生、千葉、向後助太

土屋 豊吉

東京府在籍
妻 明元、一、二生、東京、土、梅澤藤太

土屋 長衛

博多商工會議所議員、十七銀行監
妻 明元、一、二生、博多、土屋運平長

土屋 禎二

日本ビヂュマルス、スタンダード
妻 明二、七、六生、東京、八田祐二

土屋 照雄

廣島縣多額納稅者、農業
妻 明二、七、六生、東京、八田祐二

土屋 傳作

從五位勳六等、朝鮮總督府府尹
妻 明二、七、六生、東京、八田祐二

土屋 治厚

前三井銀行舊名古屋支店長
妻 明二、七、六生、東京、八田祐二

土屋 文治郎

川西銀行頭取
妻 明二、七、六生、東京、八田祐二

土屋 正直

正三位勳三等、子爵、三ツ輪銀行
妻 明二、七、六生、東京、八田祐二

土屋 富五郎

協同會常議員、愛知縣工場會相談
妻 明一、七、九生、静岡、片岡要妹

土屋 留次郎

土屋留次郎代表取締役、保險代
妻 明二、一、五生、東京、松井莊藏

土屋 光豊

正五位、男爵、東京帝國大學學
妻 明二、一、五生、東京、松井莊藏

土屋 忠

明三九、五生、長女章子夫、子爵
妻 明二、一、五生、東京、松井莊藏

ツ之部 堤

(※印は姻族関係)

參照 伯爵甘露寺受長、伯爵柳原義光、子爵内藤頼輔、男爵中川良長、中島伊平、村瀬淳一郎、...

堤

長 述 金福鐵路公司取締役、成蹊學園理事、宮崎縣士族。妻 藤 江 明一七、五生、故大阪控訴院評定...

堤

定次郎 從四位勳四等、五十銀行頭取。妻 嘉永元、六生、祖父喜平次長女。...

堤

德藏 今村製菓、江東製菓、日本メタリ。妻 徳三 明一七、二生、慶大出身。...

堤

友次郎 新興キネマ副社長、帝國キネマ。妻 新吉 明三八、五生、新興キネマ社員。...

堤

秀夫 工學博士、早稻田大學教授、理工。妻 茂代 明三二、二生、山形、佐藤理太。...

堤

正之 正五位、男爵、海軍大尉。妻 安藤 明四〇、二生、熊本、士、西勇雄。...

福井藩權大參事となり同四年宮内省に入り侍從宮内少。...

堤

正義 正三位勳一等、工學博士、前大阪。妻 正幸 明三七、四生、精工會勤務、工學。...

堤

康次郎 正五位、衆議院議員(滋賀縣選出)。妻 康次郎 明二〇、二生、千葉、士、川崎和。...

堤

下茂兵衛 地主。妻 茂正 明二五、五生、大阪、金場藤吉二。...

堤

仁三 理學博士、大阪高等醫學專門學校。妻 仁三 明三一、一一生、大阪、明路常造。...

堤

鷹松 資産家。妻 鷹松 明二〇、五生、東京、小杉與太郎。...

堤

網島長次郎 岡山縣多額納税者、土地管理。妻 網島長次郎 明三九、一一生、第一生命保險會社員、慶大出身。...

ツ之部 堤(下) 塘、綱

(※印は姻族関係)

ツ之部 恒(川、藤)

(※印は姻族関係)

ツ四二

宇多興 明二、四生、岡山、間部彰姉
明三、一、一生、米國コノール大
明四、一、一生、長男得夫妻、岡
山、木村光一長女
明三、八、七生、東北帝大出身、獨
逸ライプツヒ市留學
明四、一、三、神戶女學院出身
明四、一、五、生
女 信子 大、一〇生

恒川光太郎 恒川油店、油商
母 嘉永五、五生、愛知、森忠左衛門
三女
妻 明一、五、五生、愛知、仙田三女
明四、一、八生

恒川文秀 恒徳商店代表取締役、呉服商
愛知縣在籍
妻 明三、七、四生、養父惣右衛門長女
君は愛知縣人古塚隆秀の二男にして明治三十三年二月
を以て生れ大正十四年先代恒川文夫の長男として家督を相
續す現時古屋銀行頭取たる外前記諸會社の重役にして
名古屋商工會議所議長たり庶子敏夫(大五、三、三、三、三)
生母、愛知、富田(一、一、一)は東京府人近藤秀顯の養子とな
れりA七三三二(名古屋市西區江中町一ノ二電西七
三七)

恒川源右衛門 資産家
大阪府在籍
妻 ちか 文久元、一一生
養子 安三郎 明一〇、四生、繼子きみ夫、大阪
寺西由太郎弟
繼子 きみ 長女 明一、八生、妻ちか先夫太次郎

恒川新助 中外石油取締役、南北瓦斯石油
監査役、東京府在籍
妻 アサ 明二、一、一生、東京、桑原幸三郎
明一、四、七生、東京米穀商取引
所正米部取引員
明二、六、六生、長男信妻、神奈川
福本善之妹
女 愛子 明三、九、九生
男 三郎 明四、二、三、三

恒川増太郎 愛知縣多額納稅者、地主
愛知縣在籍
母 安政五、九生、愛知、宇佐美孫七
妹 明一、二、三、三、愛知、内藤利兵衛
五女
妻 太郎 明三、六、一、二生
八重子 明四、四、一、二生、長男太郎妻、伊
藤嘉兵衛二女
女 定子 明三、九、一〇生
男 利郎 明四、二、一、一生
女 米子 明四、四、一、一生
女 文子 大八、一、一、一生

恒藤規隆 從四位、評議家
東京府在籍
妻 規隆 安政四、一、一生、現戸主
妻 まさ 大八、八、八生
君は島根縣人井川亮の弟にして明治二十一年十二月三日
を以て生れ大正六年恒藤規隆の養子となる義に京都
帝國大學法科大學を卒業し京都帝國大學教授たりしが
現時評議家として知らる「價値と文化現象」法律の生
命「マルクス主義の根本問題」等の著譯あり家族は尙
長女初子(大八、一、一〇生)二女百合(昭二、一、二生)三
男敏彦(同五、八生)あり(京都市左區西鴨森本町六)

恒松於菟二 島根縣會議長、島根縣多額納稅者
島根縣在籍
妻 久之 大五、一、一生
男 三郎 明四、九、九生、望月圭介養子
女 久之 大五、一、一生

常川佐吉 高岡屋、疊表商
東京府在籍
妻 さと 明一、四、一、一生、東京、池田助次
長女
男 直兵衛 明三、四、一、一生、東京、池田宗助
女 直兵衛 明三、四、一、一生、東京、池田宗助

恒藤 恭 從四位、評議家
東京府在籍
妻 規隆 安政四、一、一生、現戸主
妻 まさ 大八、八、八生
君は島根縣人井川亮の弟にして明治二十一年十二月三日
を以て生れ大正六年恒藤規隆の養子となる義に京都
帝國大學法科大學を卒業し京都帝國大學教授たりしが
現時評議家として知らる「價値と文化現象」法律の生
命「マルクス主義の根本問題」等の著譯あり家族は尙
長女初子(大八、一、一〇生)二女百合(昭二、一、二生)三
男敏彦(同五、八生)あり(京都市左區西鴨森本町六)

常岡良三 從四位勳三等功五級、醫學博士、
京都府立醫科大學教授
京都府在籍
妻 アサ 明一、七、一、一生、京都、故中村徳
三郎長女
男 俊三 明四、二、八、八生、京大工學部在勤、
工學士

常陰庫二 從五位勳五等、專賣局參事、函館
地方專賣局長、東京府在籍
妻 シズメ 明三、〇、三、三、香川、福家清彦姉
大五、一、八生

四二、三三)は東京府人日野徹三長男義利に妹をよ(同
一五、一〇生)は茨城縣土族鈴木時行に嫁し三男松次
郎(同三七、一一生)は分家せりA五六四B二〇四(東
京市四谷區西町三ノ二八電四谷三三三三)

常田健次郎

三和組織社長、毒製作所専務
取締役、太田レリオン、東洋人
相バブル各取締役、京都府在籍
男 明二、六生、京都、大久保民三
女 明二〇、六生、京都、大久保民三

君は富山縣人常田喜平の三男にして明治二十三年一月
を以て生れ大正八年兄調太郎方より分れて一家を創立
す現時前記會社の重役たり家族は尙二男隆博(大一三、
九生)三男壽彦(昭四、二生)ありA六二〇〇(京都市上
京區室町通新町間寺之内下ル電西陣三〇〇一)

角替利策

正五位勳五等、農學博士、網業試
験所技師、第一部長、静岡縣在籍
男 太郎市 安政六、九生、現戸主
妻 安政六、九生、静岡、河井彌八妹
女 匡子 大八、三生

君は静岡縣人青野文之丞の二男にして明治二十一年十
月を以て生れ向二十五角替太郎市の養子となる大正
四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同大學
副手神奈川縣農事試驗場技師補試験所技師兼生絲檢
査所技師等に歴任し現時相業試驗所技師部長たり
昭和二年命により歐米各國に出張せり同六年九月農學
博士の學位を授けらるる家族は尙二女佑子(大一三、
三生)養妹(明二九、七生)同夫保郎(同二七、三生)
静岡、水谷長三郎(男)及其子あり養妹か(同三四、
五生)は静岡縣人杉浦利作に嫁せりA一〇一(横濱市保
土ヶ谷區保土ヶ谷町二九七)

角田銳彦

十一層監査役、東洋倉庫棧賃局
支店長、愛知縣在籍
男 政子 長三九、二生、愛知、杉本茂兵衛
女 長女

君は大阪府人角田謙三郎の三男にして明治三十一年三
月を以て生れ同十年家督を相続す現時東洋倉庫會社
福島支店長たる外面記會社の重役たり家族は尙長女壽
子(大二三、一一生)二女貞子(同二五、七生)あり姉は
(明一九、一〇生)は愛知縣人平野政次郎に同(同二七、七生)は
同縣人吉川退助に嫁せりA一九四七(名古屋市東區七
曲町一ノ一七電東六五三三)

角田嘉一郎

吳服商
男 千代 大五、一生
女 千代 大五、一生

君は京都府人角田嘉兵衛の長男にして明治十四年九月
を以て生れ大正四年家督を相続す其家族は尙四郎を改む
吳服商を営み同業者間に知らるる家族は尙二女百合子
(昭二、七生)あり繼母サト(明七、二生)は其二子と共に
(昭二、七生)あり繼母サト(明七、二生)は其二子と共に
に弟會吉(同二七、六生)は同妻よ(同二三、一
二生、京都、山内政治郎孫)及其二子と共に亦各分家
せりA二〇八B一五(京都市中京區間の町通押小路
下ル電本局八一)

角田格七

上毛銀行常務取締役、赤城山興
業組合長、群馬縣在籍
男 惠重 明一三、九生、農林業經營、東
京、大出山
妻 明一七、三生、長男惠重妻、群馬
男 廣次 明二二、四生
男 好次 明三二、四生
男 孝三 明三三、四生
男 好次 明三二、四生
女 高橋賢太郎妹
女 明四三、三生
女 明四五、三生

君は群馬縣人角田儀平治の長男にして安政六年十二月
を以て生れ明治二十二年家督を相続す現時上毛銀行常
務取締役たり家族は尙長女壽子(大二三、一一生)二女貞子(同二五、七生)あり姉は
(明一九、一〇生)は愛知縣人平野政次郎に同(同二七、七生)は
同縣人吉川退助に嫁せりA一九四七(名古屋市東區七
曲町一ノ一七電東六五三三)

角田邦松

日本工業常務取締役
東京府在籍
父 忠吉 嘉永元、八生
妻 明二二、一生、東京、林榮三郎三
女 忠一 大二、一〇生
女 八重 明四三、五生
女 マサ 大六、七生

君は京都府人先代久兵衛の長男にして明治二十年八月
月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時十五年四名久
治郎を改め親名を毛織商を營み其名を知らるるA三四四
(京都市下京區東洞院高辻下ル燈籠町五九三電下二
一七)

角田倉

東京府在籍
妻 明一六、九生、東京、高橋宇太郎
長女 明三三、七生

君は東京府人先代九兵衛の長男にして明治十四年八月
月を以て生れ昭和二年家督を相続す資産家たり家族は尙
五男博藏(大一、八生)六男重信(同四、一一生)孫
千鶴子(昭五、四生、長男利平長女)同久子(同八、八
生、同二女)あり長女(明三六、一生)は東京府人
吹田久五郎に嫁せりA一五七三(京都市目黒區本郷町
四)

角田駒吉

日本揮發油常務取締役、大阪製
鐵所取締役、神奈川縣在籍
男 安政六、四生、神奈川、黒川彌右
衛門三女

角田さたえ

東京府在籍
夫 正八郎 明二四、一〇生、英國、トンキン
妻 ミリアム ジョン三女
女 善作 大二、三生
女 嘉子 大七、三生

君は長野縣人中探三郎の長女にして明治二十八年四月
月を以て生れ同四十五年角田正八郎に嫁す總務部を營
む家族は尙二男兵三(大七、三生)三男三郎(昭六、
六生)妹(明二八、二生)あり弟樞次郎(同二八、七
生)同妻喜代(同三三、三生、群馬、松本教八五女)は
其一女を伴ひ同(同三一、四生)同妻ヤス(同三三、
二生、東京、奥島常五郎長女)は其一子を伴ひ同(同
二三、四生)は同妻正尾(同四〇、九生、長野、吉
村玉治長女)と共に各分家し同(同三八、四生)も
亦分家し妹九女(同四〇、一一生)は東京府人木下源一
に嫁せりA三三八B二六(京都市濠野川區田端町一
八二電小石川三三一)

角田作次郎

日本郵船總務課長
群馬縣在籍
妻 明一九、四生、群馬、横川文五郎
長女 明四四、五生、八高在學
女 美智子 明四三、一生、跡見女學校出身

君は群馬縣人角田久吉の二男にして明治十五年十二月
を以て生れる氏に東京高等商業學校を卒業し日本郵船會
社に入り門司支店上海小樽各支店勤務後名古屋支店長
に轉じ現時本社調度課長たり趣味ゴルフに趣味あり家
族は尙三男辰男(大五、九生)三女順子(同九、一一生)

角田鎌次郎

愛知縣多額納稅者、宇佐美自轉車
製造所代表社員、自轉車商、家
主、愛知縣在籍
男 久之助 明三三、一一生
妻 明一五、五生、愛知、花井俊二
女 明三三、一一生

君は愛知縣人角田久助の長男にして明治五年三月を以
て生れ同二十七年家督を相続す家主にして傍ら自轉車
商を営み現に宇佐美自轉車製造所代表社員たり愛知縣
多額納稅者に列し直接納稅五千四百十四圓を納む家族
は尙孫元久(大一一、一〇生、長男久助之助長男)同正子
(同二五、二生、同長女)同辰夫(昭三、一〇生、同
二男)あり二男榮藏(昭三六、一〇生、弟三郎(同九、
二生)は各分家し二女(同三九、七生)は愛知縣人
田邊英一に四女(同四四、九生)は同縣人林利雄長男芳
郎に五女(同四四、九生)は同縣人林利雄長男芳
雄に妹(同四一、一三、五生)は同縣人木村直也(男)長
太郎に嫁せり(名古屋市中區伊勢山町一七電南九九二)
參照川森田清助高橋慶太郎の項

角田久兵衛

毛織商
京都府在籍
妻 元治元、一生、京都、宮澤治助二
女 元治元、一生、京都、宮澤治助二

四男、同一(一、九生)の外兄孫太郎妻(明七、
五生、群馬、澤浦良太郎妹)及其一子弟登三郎(同二三、
四生)同妻し(同三一、一一生、群馬、林梅次郎三女)及
其四子弟榮藏(同二八、九生)同妻福子(同三三、四、九生)
群馬、下城彌一郎三女)及其二子ありA一五三三(京都市
杉並區高岡寺三ノ二〇〇電中野二四二二)

角田定次郎

有價證券並書畫美術品賣買業
滋賀縣在籍
妻 直三 大九、八生、堺市立商業在學
女 源三郎 明四三、六生、和歌山、西岡彌太
女 年子 大三、二生、樟蔭女專在學

君は滋賀縣人角田孫三郎の長男にして明治八年五月を
以て生れ大正五年家督を相続す現時大阪株式取引所監
査役に擧げられ現時前記營業に従事すA一五二四(大
阪市住吉區遠里小野町二三電住吉三三五九)

角田周造

東京府在籍
妻 明二八、三生、大阪、藤基支瑞妹
女 大九、一一生

君は東京府人先代角田嘉七の三男にして明治十六年八
月を以て生れ大正八年家督を相続す資産家を營む家族
は尙三女信子(大一一、四生)三男周(同二一、一〇生)
あり弟幾次郎(明二二、一〇生)は同妻(同二二、一〇生)
三、東京、中村勤太郎二女)及其二男二女を伴ひ同
金七(同二九、九生)は同妻(同二九、九生)は同妻(同二
五、一一生)は同妻(同二九、九生)は同妻(同二九、九生)
東京、櫻井銀次郎二女)及其二男二女を伴ひ同(同三
三、長女)及其一男を伴ひ各分家せり(京都市花屋區越
町六九六電高輪三三九九)

角田 準藏 正五位勳四等、通信事務官、大阪中央郵便局長、千葉縣士族

角田 善吉 新炭商、東京府在籍、明二四、二生、神奈川、先代淺野

角田 宗吉 大阪府在籍、明四三、一生、長男三五郎妻、東京

角田 晴之助 角田被服代表取締役、東京モリス紡織取締役、昭和土地監

角田 半兵衛 愛知縣在籍、明三六、四生、愛知、坪井喜藏長女

角田 廣次 從五位勳六等、前臺灣總督府事務官、群馬縣在籍

角田 正喬 遠州織機、大井川鐵道各務取締役、東京府在籍

角田 政之助 從四位勳三等功五級、陸軍少將、群馬縣在籍

角田 光五郎 地主、東京府在籍

角田 隆 從四位勳三等、京都府立醫科大學教授、京都府士族

角田 猛 正五位、男爵、東京府在籍、明四一、二生

角田 不二男 青洲鐵道理事、東京支社庶務課長、東京府在籍

角田 正喬 遠州織機、大井川鐵道各務取締役、東京府在籍

角田 政之助 從四位勳三等功五級、陸軍少將、群馬縣在籍

角田 政次郎 豆政、五色豆發賣元、京都府在籍

角田 長雄 陸軍砲歩少尉、地主、東京府在籍

角田 虎吉 角田漆器店代表社員、漆器指物商、東京府在籍

角田 常治郎 正五位勳三等、海軍機關大佐、三

角田 虎吉 角田漆器店代表社員、漆器指物商、東京府在籍

角田 長雄 陸軍砲歩少尉、地主、東京府在籍

角田 政次郎 豆政、五色豆發賣元、京都府在籍

角田 政之助 從四位勳三等功五級、陸軍少將、群馬縣在籍

角田 正喬 遠州織機、大井川鐵道各務取締役、東京府在籍

角田 廣次 從五位勳六等、前臺灣總督府事務官、群馬縣在籍

角田 光五郎 地主、東京府在籍

妻 ヒサ 明一八、八生、神奈川、吉田三郎...

角田八百藏

妻 小 輝之助 明六、六生、東京、尾崎一成...

角田芳太郎

妻 モト 明三、九生、二男賢二妻、大阪...

角田林兵衛

妻 徳 明三六、四生、田中五六長女...

鐔 甚平

妻 志 可 明三、九生、鐔甚右衛門二女...

椿 宣次

妻 イト 明二、九生、東京、福井源次郎...

坪井誠太郎

妻 百合 明三七、四生、東京、平山信長...

坪井利雄

妻 卯兵衛 安政元、五生、大阪、坪井平兵衛...

坪井勸吉

妻 政兵衛 安政四、二生、現戸主...

坪井九馬三

妻 さやう 明五、七生、埼玉、内村綱雄...

坪井半三郎

妻 衣通子 明三八、四生、長男基太郎妻...

坪井廣三郎

妻 達夫 明二六、七生、養父清兵衛養子...

男 環 明二八、一〇生、鐵道省技師、工...

坪井俊三

妻 俊 明一九、八生、坪井國三郎長女...

締役たる外前記諸會社の重役たり長女美奈子...

坪井誠太郎

君は故郷學博士坪井正五郎の長男にして明治二十六年...

坪井利雄

君は大阪府人赤塚香太郎の長男にして明治四十一年四月...

(同一三、九生)と共に叔母みね(明二六、七生)を伴ひ...

坪井半三郎

君は和歌山縣人先代半三郎の長男にして明治元年十二月...

坪井廣三郎

君は大阪府人岡野順了の四男にして明治二十二年十二月...

坪井道三 正五位勳五等、濱松高等工業學校教授、千葉縣在籍

坪井利三郎 共同運輸取締役、坪井保全全代表社員、神奈川縣在籍

坪井道三 正五位勳五等、濱松高等工業學校教授、千葉縣在籍

坪井道三 正五位勳五等、濱松高等工業學校教授、千葉縣在籍

坪井利三郎

坪井利三郎 共同運輸取締役、坪井保全全代表社員、神奈川縣在籍

坪内 榮

坪内硝子社社長

坪内道三 文學博士、早稻田大學名譽教授、著述業、東京府在籍

坪内道三 文學博士、早稻田大學名譽教授、著述業、東京府在籍

坪内道三 文學博士、早稻田大學名譽教授、著述業、東京府在籍

坪内道三 文學博士、早稻田大學名譽教授、著述業、東京府在籍

坪内利八

坪内利八 日本勸業銀行和歌山支店長、愛知縣在籍

坪上貞二 從四位勳三等、拓務次官、東京府在籍

坪上貞二 從四位勳三等、拓務次官、東京府在籍

坪上貞二 從四位勳三等、拓務次官、東京府在籍

坪上貞二 從四位勳三等、拓務次官、東京府在籍

坪川金一郎

坪川金一郎 東京府士族、東京府在籍

坪川 恒平

坪川恒平 浪速製紙會社取締役、有信社代表社員、外川製作所相談役

坪川恒平 浪速製紙會社取締役、有信社代表社員、外川製作所相談役

坪郷 芳一

坪郷芳一 從四位勳三等功五級、陸軍少將、東京府士族

坪田 脩吉

坪田脩吉 正五位勳四等、昭和製作所技師、福井縣士族

坪野 房治

坪野房治 東京府在籍、安政二、八生、東京、栗山鍋次郎

坪野房治 東京府在籍、安政二、八生、東京、栗山鍋次郎

坪谷 善四郎

坪谷善四郎 勳五等、博文館、日本書籍各社取締役、早稲田大學理事

壺井 初生

壺井初生 花屋、旅館業、大阪府在籍

壺内 幸次郎

壺内幸次郎 壺内製靴製作所主、大阪府在籍

君は生れ大正六年家督を相續し前名菊次郎を改め...

壺坂 順市 住友銀行内閣課長代理

壺見 福子 兵庫縣在籍

妻木 栗造 從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中尉

妻木 元藏 天國、天數鐵商

妻木 二郎 廣正金銀行東京支店支配人代理

露木 千代 東京、關信吉妹

君は舊長州藩士妻木翁介の長男にして明治二十年十月を以て生れ...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は東京府人露木米太郎の弟にして明治三十一年三月を以て生れ...

君は生れ昭和四年分れて一家を創立す天數鐵商を營み銀座の天國として知らるる...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工學部探査冶金學科を卒業し...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

鶴岡 正一 鶴岡産婦人科病院院長、醫師

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

君は東京府人鶴岡幸次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ...

ツ之部 鶴(森) 電

(※印は姻族関係)

妻 愛明二八、七生、伯爵後藤一藏妹
男 俊輔 大七一、六生
女 和子 大七、六生
 君は岡山縣人鶴見良恵の二男にして明治十八年一月三日を以て生れ同十九年家督を相続す同四十三年東京帝國大學法政科を卒業し文官高等試験に合格し鐵道書記同副事務同書記官に歴任す其間屢々支那歐米に出張し更に鐵道事務研究の爲歐米に留學し歸朝後大臣官房文書課長運輸局總務課長たりしも大正十三年官を辭しコロムビア大學グライムズ大學其他三十餘の大學の聘に應じ米國各地を遊説す歸朝後専ら著述に従事し今日に至るまでに岡山縣より推されて衆議院議員に當選す「母」英雄待望論「アルターク英雄傳」其他の譯著あり家族は尙二女章子(昭三、五生)二男直輔(同八、九生)弟定雄(昭二、五生)同妻マツ(同三八、九生)理學博士桂井富之助妹(二生)同妻マツ(同三八、九生)は分家し同妻(同二八、四生)大伴館二等書記官、法學士)同妻(同二六、八生)岡山、藤田讓長女)も亦其子三子を伴ひ分家し姉トシ(同八、二生)は工學博士廣田理太郎に同千代(同一五年生)は農學士矢崎亥八に妹トシ(同二三、二生)は岡山縣人安井眞十郎弟陸軍砲兵中佐數衛に嫁せりA四八七(東京市麻布區辨町一五七電番山二八二八)
 參照 伯爵後藤一藏、藤田讓の項

鶴森 龜藏 日本信託監査役 東京府在籍
父 信太郎 文久三、八生
母 コウ 明三、七生、東京、小澤慶次妹
妻 シヅ 明二三、六生、東京、福井貞太郎妹
男 錦鳳 大九、九生
女 玉恵 大九、九生
 君は東京府人鶴森信太郎の長男にして明治二十二年八月を以て生れ同三十年家督を相続す現に日本信託會社監査役たり家族は尙二男輝邦(大七、三生)三女納繪(同九、二生)四女菊江(同一、九生)六女和恵(同一、五、九生)三男靜藏(昭二、九生)妹光子(木村文四二、二男貞治に同婚し(同四二、七生)は同府人木村義雄に叔母イタ(同六、四生)は同府人金子與四郎に嫁し妹久(同

雷岡銀之助 紙卸商 東京府在籍
妻 かね 明四四、一生、東京、荒川忠治二男 達男 昭六、九生
男 達男 昭六、九生
 君は東京府人先代銀之助の長男にして明治三十九年九月を以て生れ大正九年家督を相続し前名龜之助を改む紙卸商を營む姉ふさ(昭二九、一〇生)同夫秋三(同二四、二生)婿玉、初山政次(三男)は其一女を伴ひ絶家露岡氏を再興せりA六五三(東京市足立區千住宮元町四三ノ一電漢車一八七四)
 參照 池島三省の項
 三四、六生)は同夫修三(同二六、六生、東京、菊池善之輔弟)と共に分家し妹辰子(同三七、五生)は東京府人吉田仙太郎に叔父三省(同三、八生)は同府人池島判藏に各養子となれり(東京市本郷區春木町二ノ二五電小石川二九六八)

テ之部

手島 鐵司 中部電力、寒水電氣、狩野川電力同取締役、東海製菓千葉天然瓦斯各務取締役、大宮電天、伊豆水力電氣各務監査役、愛知縣在籍
母 みつ 明六、一生、祖父源市長女
妻 八代 明二八、五生、愛知、早川久右衛門妹
男 龜平 大四五、二生
女 よしえ 大六、八生
女 こら 大六、八生
 君は愛知縣人先代鐵司の長男にして明治二十三年七月を以て生れ大正十一年家督を相続し前名藤一郎を改め現名す現時中電電力會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙三女やな(大一一、七生)四女トシ子(同一三、二生)三男篤三(昭四、三生)あり叔母まろ(同一二、九生)は東京府人笠島友吉に嫁せり(岡崎市八船町往還通六五)
 參照 早川久右衛門家諸戸北郎の項

手島 榮 從五位、逓信書記官兼臺灣總督府文通局參事、郵政局主計課長、鳥取縣在籍
妻 しげ 明三九、六生、鳥取、稻賀幸妹
男 文雄 大四五、九生
 君は鳥取縣人にして明治二十九年十二月を以て生れ大正十年文官高等試験に合格同十一年東京帝國大學法政科大學英法科を卒業逓信局長兼郵便局長仙臺逓信局長大阪逓信局長等二支拂課長古屋逓信局長劃課長大阪逓信局長等に任補し昭和六年獨逸に出張を命ぜられ同七年東京逓信局長を兼ねて同八年郵務局長劃課長に補し同九年現職に轉ず家族は尙長女悦子(大一一、二生)男晃(昭三、九生)二女邦子(同九、三生)あり(東京市澁谷區櫻丘町五電番山七八〇)

手島 知健 東京倉庫取役、大正運輸監査役、東京府在籍
母 なお 養子 明三三、八生、大分、水谷幸太郎
妻 ヒサ 二女、實業女學校出身
男 知篤 大九、四生
女 知子 二女、實業女學校出身
 君は鳥取縣人手島知徳の長男にして明治十八年九月を以て生れ同四十年家督を相続す同三十九年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入同十四年體育支店勤務となり大正八年香港支店長を命ぜらる歸朝後三井合名會社に轉じ不動產課長に就任し三信建物業會社取締役を兼ねしが現時東京倉庫會社取役大正運輸會社監査役たり家族は尙二男知韶(大一一、四生)三男純男(同一三、四生)あり弟靜(昭二五、六生)同妻ヤハコ(同二五、二生)廣島、鳥田十郎長女)は其一男を伴ひ弟五郎(同三三、七生)は同妻美和子(同四一、二生)沖繩、佐藤共之長女)と共に各分家し弟群六郎(同三三、六、九生)は東京府人小柴銀之助に同婚四郎(同三三、七生)は岡山縣人村岡次郎に各養子となれり妹泰(同三九、二生)は神奈川縣人手島藤行長男虎雄に嫁せりA三二三七(東京市四谷區區東信濃町二八電四谷一三三六)
 參照 佐藤共之、水谷幸太郎の項

手島 寅雄 正五位勳四等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務、北海道在籍
妻 時子 養子 明三一、三三、和歌山、山崎友造
男 淳 大一一、八生
 君は北海道入高橋良昌の二男にして明治二十三年十月を以て生れ先代ヤスの養子となり昭和四年家督を相続す大正五年東北帝國大學農學科を卒業し高知縣農事試驗場技師となり同十二年鳥取高等農學學校教授に任じ英米獨各國に留學す同十四年歸朝し昭和四年北海道帝國大學助教授となり現時同大學教授農學部勤務たり義に農學博士の學位を授けらる家族は尙長女秀(大九、七生)二男正浩(同一五、一五)二女美江子(昭三、六生)あり(札幌市北三條東五丁目)

手島 康雄 和光堂事務取役、技師長 東京府在籍
妻 孝興 大一一、〇生、東京、松本傳三郎三女
男 孝興 大一一、〇生
女 リツ 大二、三生
 君は東京府人先代康雄の二男にして明治二十四年十一月を以て生れ同三十一年家督を相続す現時和光堂會社常務取締役技師長たり家族は尙二男景明(大一一、七生)三男良輔(同一三、三三)四男安興(同一四、一〇生)二女町(昭二、六生)三女邦子(同一、一〇生)あり姉はん(明一八、二生)は神奈川縣人中泉常吉に嫁せりA二〇〇(東京市澁谷區轄ヶ谷本町二ノ三五五電四谷二五五九)

手島 雄八郎 宮城縣多額納稅者、農業
妻 サタ 明七、九生、宮城、松本俊兼二女
男 周太郎 明三三、七生
男 遼 明四〇、一生
男 金次郎 明四二、八生
女 リツ 大二、三生
 君は宮城縣人先代雄八郎の長男にして明治七年七月を以て生れ同三十四年家督を相続し前名恒雄を改め現名す農業を營み直接納稅二千九百十五圓を納め宮城縣多額納稅者たり家族は尙叔父房男(昭二三、四生)あり長女ウツ(同三一、二生)は東京府人山香誠に二女リキ(同三五、三生)は宮城縣人千葉茂太郎に妹まさ(同一〇、九生)は同府人阿部勤九郎に同みわ(同一九、八生)は宮城縣人鈴木甚吉養子爲吉に嫁し弟雄吾(同九、〇生)は同妻きよせ(同一四、三生)宮城米谷殿三女)及其子女を伴ひ弟胤造(同一四、三生)は同妻レイ(同二〇、一生)東京、秋山八之丞養子)及其子女を伴ひ弟正雄(同一〇、二生)は同妻ヨネ(同三二、二生)宮城、今野爲之助長女)及其一子を伴ひ姉ウ(同四、八生)は其三男を伴ひ各分家し弟恒三郎(同一六、二生)も亦分家し明朗(大一一、二生)は東京府人秋山八之丞の養子となれり(仙臺市中島電二七八)
 參照 阿部勤九郎の項

テ之部 手(島)

(※印は姻族関係)

子之部 丁、鄭

君は大正七年更に海陸軍委託販賣業を兼營して今日に至る其間江景泰主組合券組海産物商組合を組織し指導の任に當り尙忠清南浦水産會議員忠清南浦道論山郡江景泰會幹事を兼る家族は尙母金氏孫國同八鎮同化鎮あり(忠清南浦道論山郡江景泰町二五)

君は臺中州の出身にして明治三十一年二月を以て支那泉州に生る六歳の時渡臺し國籍を改め普通公學校及國語學校を経て東都に遊び大正十三年明治大學法學科を卒業し歸臺後實業界の人となり累次其地歩を高め現時前記各會社の重役にして傍ら煙草實業を營む推されて鹿港街協議員となり街政に參與す趣味は旅行と讀書なり家族は尙三男二女ありA一五〇(臺中州彰化郡鹿港街字和具三二二電二五)

君は臺中州大屯郡烏日庄の出身にして明治三十一年一月を以て生る夙に社會的名を知られ明治二十七年烏日總理に任命せられ爾來公職名譽職に就任する事三十に近く現時前記の要職に在り傍ら烏日庄農會組合長烏日庄青年會會長烏日社事業調查局長烏日陽會日分會長等の名譽職に在り大正四年警務局長及及臺灣總督府より大禮記念章を授與せられ同六年臺灣紳章佩用を許さる(臺中州大屯郡烏日庄烏日三九八)

君は臺中州大屯郡烏日庄の出身にして明治三十一年一月を以て生る夙に社會的名を知られ明治二十七年烏日總理に任命せられ爾來公職名譽職に就任する事三十に近く現時前記の要職に在り傍ら烏日庄農會組合長烏日庄青年會會長烏日社事業調查局長烏日陽會日分會長等の名譽職に在り大正四年警務局長及及臺灣總督府より大禮記念章を授與せられ同六年臺灣紳章佩用を許さる(臺中州大屯郡烏日庄烏日三九八)

(※印は姻族關係)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

子之部 丁、鄭

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

子之部 鄭

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

子之部 鄭

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

(※印は姻族關係)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

君は京城府會洞の出身にして明治二十年四月を以て生る同三十九年年度支部主事となり其後財務監督局主事朝鮮總督府臨時土地調査局書記慶尙南道居昌郡守慶尙南道庶務課長兼務を経て同學務課長に進む大正十年中樞院通譯官兼同院書記官に轉じ昭和四年全羅北道參事官翌年全羅南道參事官等に歴任し同八年黃海道知事に任ぜらる(黃海道海州郡黃海道廳内)

寺之内 勅、寺、内

月申候院參議に擧げられ勤続して今日に至る

長瀨津南面東揚里七九四

勅使河原直三郎 正五位勳五等、判事、宮城控訴

妻 しのぶ 明六、八生、宮城、今泉玄意養子

養子 健樹 明三、五、一、生、養父健之助長女

女 三和子 明四、二、四生、養子健樹妻

君は秋田縣人武田三九郎の五男にして明治十八年四月

を以て生れ同十一年勅使河原健之助の養子となる大

正二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任

じ岡山地方兼同區大阪府同區各裁判所判事高松地方

裁判所部長に歴補し同十二年宮城控訴院判事に補せら

れ同時に東北帝國大學法文學部講師を嘱託せらる著書

「改正民事訴訟法概論」あり家族は尙孫幹子(昭三、八

生、養子健樹長女、あり二女妙子(明四、九、九)は若

手縣人村木維夫長男大阪地方裁判所判事に達夫線せり

(仙台市東三番町電二二九五)

寺井 源吾 東京倉庫社社長

妻 ぶて 明一、六、生、岐阜、坂口助三郎

養子 康正 明四、三、生、岐阜、鈴木伊三治郎

君は富山縣人寺井甚太郎同義雄の弟なり明治十七年六

月を以て生れ同四十四年分れ一家を創立す現時東京

倉庫會社社長たり養子寺井銀行の頭取たりし事ありA

一一〇、東京市小石川區大塚坂下町四電大塚二二〇

〇、東京市小石川區大塚坂下町四電大塚二二〇

寺井 源吾 東京倉庫社社長

妻 ぶて 明一、六、生、岐阜、坂口助三郎

養子 康正 明四、三、生、岐阜、鈴木伊三治郎

君は富山縣人寺井甚太郎同義雄の弟なり明治十七年六

月を以て生れ同四十四年分れ一家を創立す現時東京

倉庫會社社長たり養子寺井銀行の頭取たりし事ありA

寺之内 勅、寺、内

君は埼玉縣人先代力三郎の二女にして明治十二年十二

月を以て生れ大正十一年家督を相続す曾て綿商を營み

しが現時家主たり家族は尙孫力三郎(昭五、三、三)、養

子久治長男、同恒三郎(同六、一、二)、同三郎(同九、

同九、五、生、同恒三郎(同六、一、二)、同三郎(同九、

野櫻木町二六電下谷五三三八)

寺井 四郎兵衛 北海道多額納稅者、陶器金物商

妻 モト 明元、六生、北海道、松岡與八郎

養子 力藏 明二、六、二、生、長女トシ夫、北海

道、釧路松之助二男

女 トシ 明三、〇、一、〇、生、養子力藏妻

君は北海道先代四郎兵衛の長男にして慶應三年六月

を以て生れ明治十六年家督を相続し前名を改め養子

陶器金物商を營み直接國稅八千七百十一圓を納め北海

道多額納稅者たり家族は尙孫孝大(九、四、生、養子力藏

長男)、同安(同三、三、生、同二男)、同章(同三、一、

生、同三男)、同忠(同四、一、二、生、同四男)、同仁(昭三

九、生、同五男)、同慶(同四、九、九、同六男)、あり庶子セ

イ(明二、七、四、生、生母、東京、村越フク)同夫五郎、同

二〇、九、生、北海道、京谷忠右衛門五男)は其一子

を伴ひ分家し庶子徳太郎(同四三、六、生、生母同上)は

其養子となり同光太郎(大元、一〇、生、生母同上)も亦

東京府人寺井正太郎の養子となり、函館市末廣町

寺井 徳兵衛 紙商

妻 貞 明二、八、一〇、生、和歌山、徐易三

養子 久美 大、一〇、一〇、生

君は大府人先代徳兵衛の長男にして明治十三年二月

を以て生れ同十九年家督を相続し紙商を營む姉シモ

せりA一一二〇(大阪府南區日本橋一ノ二八四電或二

七三〇)

寺之内 勅、寺、内

君は和歌山縣人寺井多助の二男にして明治二十年十一

月を以て生れ昭和三年分れ一家を創立す大正二年東

京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現に日本郵船會

社貨物課長にして義に同社上海支店長たり家族は尙二

男英彦(大、一、二、二、生)長女那珂子(同、一、四、三、三、男

久忠(昭五、七、生、あり(東京市赤坂區青山前町二ノ四

三電青山二六九五)

寺井 弘 從四位勳六等、前樽太監技術師兼朝

妻 弘之 明二、八、一、二、生、東京、岩松兼經

君は新潟縣人寺井金五郎の長男にして明治二十一年二

月を以て生れ大正十五年家督を相続す明治四十三年仙

臺高等工業學校土木工學科を卒業し樽太監技術士たり

長て同臨時築港事務所技術師兼本臨時築港事務所

長等を経て大正十五年同臨時築港事務所に任じ内務部土木課長

兼臨時築港事務所技術師兼朝鮮總督府技術師たりしが後之

を辭し現に牧場を経營し諸社顧問たり家族は尙長女

光子(大、一、六、生)二男功昭(昭三、一、生)の外弟清(明

二、七、七、生)同妻三千代(同三〇、九、九、生、北海道、永

田泰亮長女)及其一男四女亡妹ミコ夫政二郎(同二、

九、九、生、北海道、千場榮太郎弟)及其二男一女あり妹節

(同三六、二、生)は千葉縣人久我良藏二男長雄に嫁せり

(東京市杉並區馬橋四ノ三六〇)

寺井 義雄 米穀商

妻 照子 大元、一、二、生

君は富山縣人寺井彌十郎の男にして同源吾の兄なり明

治六年六月を以て生れ同三十四年兄甚太郎方より分れ

て一家を創立す米穀商たりA四七二(東京市神田區佐

久間町三ノ一三電下谷三二三)

寺内 梅次郎 寺内製作物所、鋳製造業

君は和歌山縣人西野忠太郎の長男にして明治十九年九

寺之内 勅、寺、内

君は和歌山縣人西野忠太郎の長男にして明治十九年九

月を以て生れ先代寅吉の養子となり大正七年家督を相

續す現時寺内製作物所と稱し鋳製造業を營む家族は尙長

女ます子(大、一、〇、一、〇、生)三男英男(同、一、〇、一、〇、生)四男

通(同、一、三、七、生)ありA四九一〇B一一一四(京都市

伏見區黒染町七、四電伏見七三四)

寺内 壽一 從三位勳二等功四級、伯爵、陸軍

妻 順 明三、六、三、生、埼玉、山下致美殊

當家は先代正毅より顯る正毅は舊山口藩士にして大阪

兵學寮に入り明治四年陸軍少尉に任じ陸軍大將に累進

十日清の役大本營にありて運輸通信官たり功ありて

功三級を賜る陸軍士官學校大隊長司令官陸軍大臣秘書官

陸軍戸山學校次長陸軍士官學校長第一師團參謀長參謀

本部第一局長教育總監參謀次長陸軍大學校長に歴補し

陸軍大臣に親任せらる事三回日露戦役の功に依り勳一

等功一級に叙し明治四十年華族に列し子爵を授けらる

次で韓國監朝鮮總督に親任し日韓併合の功に依り勳

二等に陞る大正五年元帥府に列し内閣總理大臣に親任

せられ従一位大勲位を賜る君は其長男にして明治十二

年八月を以て生れ大正八年襲爵す明治三十三年陸軍大

官學校を卒業し陸軍歩少尉に任じ昭和四年陸軍中將

に累進す其間陸軍大學校を卒業し駐英駐佛各大使館附

武官參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

師團參謀本部々員兼陸軍大學校長官近衛歩兵第三

寺尾 (寺尾、川、倉、崎)

士の學位を受く洋學を趣味とす家族は尙長女昭子(大...)

寺尾 進

君は舊佐倉藩士大西連の二男にして明治二十三年八月... 妻 須和 明二九、八生、長崎、柴田梅姉

寺尾 鐵二

君は新潟縣人佐藤忠三の二男にして明治七年一月を以... 妻 一 郎 明三四、五生、東京、森廣藏二女

寺尾 博

君は靜岡縣人寺尾昌太郎の長男にして明治十六年九月... 父 昌太郎 安政三、八生、現戶主

寺尾 元彦

君は舊鹿兒島藩士上井保の弟にして明治十二年八月を... 妻 國子 明二九、一〇生、東京、黒岩規五

寺尾 陸馬

君は靜岡縣人寺尾昌太郎の長男にして明治十六年九月... 妻 國子 明二九、一〇生、東京、黒岩規五

(※印は姻族關係)

テ八

寺尾 邦太郎

君は高知縣士族寺尾準興の長男にして明治二十二年十二月... 妻 三 樹 明三六、一〇生、養子香盛妻

寺岡 五郎平

君は兵庫縣人先代五郎平の二男にして明治二十四年十二月... 妻 澄子 大五、五生、兵庫、増田太郎右

寺岡 誠一郎

君は兵庫縣人先代五郎平の二男にして明治二十四年十二月... 妻 澄子 大五、五生、兵庫、増田太郎右

寺尾 (寺尾、川、倉、崎)

士の學位を受く洋學を趣味とす家族は尙長女昭子(大...)

寺尾 進

君は舊佐倉藩士大西連の二男にして明治二十三年八月... 妻 須和 明二九、八生、長崎、柴田梅姉

寺尾 鐵二

君は新潟縣人佐藤忠三の二男にして明治七年一月を以... 妻 一 郎 明三四、五生、東京、森廣藏二女

寺尾 博

君は靜岡縣人寺尾昌太郎の長男にして明治十六年九月... 父 昌太郎 安政三、八生、現戶主

寺尾 元彦

君は舊鹿兒島藩士上井保の弟にして明治十二年八月を... 妻 國子 明二九、一〇生、東京、黒岩規五

寺尾 陸馬

君は靜岡縣人寺尾昌太郎の長男にして明治十六年九月... 妻 國子 明二九、一〇生、東京、黒岩規五

(※印は姻族關係)

テ八

寺尾 邦太郎

君は高知縣士族寺尾準興の長男にして明治二十二年十二月... 妻 三 樹 明三六、一〇生、養子香盛妻

寺岡 五郎平

君は兵庫縣人先代五郎平の二男にして明治二十四年十二月... 妻 澄子 大五、五生、兵庫、増田太郎右

寺岡 誠一郎

君は兵庫縣人先代五郎平の二男にして明治二十四年十二月... 妻 澄子 大五、五生、兵庫、増田太郎右

寺垣 猪三

正四位勳二等功三級、海軍中將... 妻 秀 明二四、一〇生、長男孝三妻、滋

寺倉 文之助

從七位勳六等、醫師... 妻 綾子 明四一、七生、愛知淑徳高女出身

寺川 三藏

正四位勳三等、公證人... 妻 實枝 明四二、四生、長男節三妻、長野

寺崎 邦太郎

魚津銀行取締役兼支配人... 妻 つね 明一七、四生、富山、山澤長九郎

寺崎 久次郎

久留米商工會議所常議員、吳服商... 妻 タツ子 明四三、六生

寺崎 新策

從五位勳六等、前馬電氣軌道... 妻 新策 從五位勳六等、前馬電氣軌道

寺尾 (寺尾、川、倉、崎)

(※印は姻族關係)

テ九

テ之部 寺、澤、師、島

(※印は姻族關係)

テ一〇

妻 英 明一九、七生、新潟、牧口義矩妹
女 美知子 明四〇、三生
男 一夫 明四四、三三
君は新潟縣人寺崎至の二男にして明治十年七月を以て

以て生れ同三十九年先代寺澤覺兵衛の養子となり家督
を相續し前名延藏を改め襲名す小間物商を營み傍ら前
男健治(同五、一五)五男延治(昭三、五五)孫紀久子

女性子(同一二、六生)三男竹三郎(同一四、六生)五女
篠子(昭三、七生)四男竹四郎(昭六、八生)ありA一八
九〇(東京市豊島區駒込五ノ九七)

寺澤 嚴男 正五位勳三等、文學博士、東京文
理科大學教授、徳島縣在籍
妻 順子 明二九、三三、千葉、木内喜右衛
男 俊 昭七、九生
君は徳島縣人にして明治十三年十月を以て生る同四十

君は山形縣人寺澤久三郎の二男にして明治十五年七月
を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十一年
東京帝國大學理學部物理學科を卒業し引續き大學院

君は長野縣人寺澤義一郎の二男にして明治十三年一月
を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十六年早稲田
大學行政科を卒業し直ちに三菱會社に入社し神戸三

寺澤 覺兵衛 西岡貞商店監査役、小間物卸商
大阪府在籍
妻 フク 明二一、三三、大阪、藤塚七兵衛
男 俊治 明四〇、一三、長男俊治妻、京
女 千賀菜 都、堀田治三郎二女
女 和子 大七、一三、二生

君は愛知縣人寺澤久三郎の二男にして明治十五年五月
を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十九年東京高
等商業學校を卒業し三菱會社に入社して三菱造船

君は東京府人山崎吉五郎の三女にして明治十八年十月
を以て生れ昭和二年先代山崎正行に嫁せり同八年夫正
行の段するや爾來幼少なる當主に代りて家業を繼ぐA

寺島 健 從四位勳二等、海軍中將
東京府在籍
妻 悦 明四三、四生、東京、尾本初妹
男 良子 大二、二生
女 健 明四三、一〇生

君は埼玉縣人新井巳之助の二男にして明治十二年四月
を以て生れ同三十二年東京府士族祖父寺島八藏の死跡
を相續す地主にして傍ら寺島本店と稱し米穀商を營

政子(同一五、一五)あり(裁市土原二〇五)
參照 男爵有地藤三郎、男爵羽時介、男爵益田金
施添小藤文次郎、米澤源之輔の項

寺島 權藏 三日市町長、富山日報、海峽遊覽
船各社社長、東新報社取締役
妻 ユキ 長女、松本高女出身
男 信夫 大四、七生、富山高女出身
君は富山縣人寺島安次郎の弟にして明治二十一年一月

君は先代秋介より家名顯る秋介は山崎藩士にして
維新の際功あり明治三年少參事となり後陸軍内務省
に出仕し十年の役に於て陸軍中佐兼内務書記官山口縣令

君は東京府人寺島廣文の長男にして明治二十五年四
月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正四年官高等
試験に合格同五年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業

寺島 清三郎 蓄音器商
大阪府在籍
妻 直太郎 大五、二生
君は東京府人寺島廣文の長男にして明治二十五年四
月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正四年官高等

君は山形縣人酒井重吉の三男にして明治元年四月を以
て生れ寺島義郷の養子となり同三十一年分れて一家を
創立す同二十三年明治法律學校を卒業し文官高等試験

君は東京府人寺島廣文の長男にして明治二十五年四
月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正四年官高等
試験に合格同五年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業

テ之部 寺(島)

(※印は姻族關係)

テ一

寺田省

北海林産株式社長、旭川電氣軌道建設代表取締役、小樽運送、北海電業各務取締役、樟太電氣、南龍電力各務取締役、茨城縣在籍

妻 左葉子 明三、三、生、農林事務官、法學士 明三、三、生、東京、牧師次郎長女

男 幾久子 明四〇、七、生、長男、妻、愛媛縣 松本幹一郎長女、三輪田高女出身

男 省三 明三六、七、生、大倉組社員、工學士 明三八、三、生、東北大學在籍

君は茨城縣人寺田伊兵衛の二男にして安政四年四月を以て生れ明治二十六年家督を相続す

君は茨城縣人寺田伊兵衛の二男にして安政四年四月を以て生れ明治二十六年家督を相続す

寺田善左衛門

地主 大阪府在籍 妻 みや 長女 明二、七、生、大阪、蒲生庄三郎

君は大阪府人先代善左衛門の長男にして明治十二年九月を以て生れ同二十八年家督を相続し

君は大阪府人先代善左衛門の長男にして明治十二年九月を以て生れ同二十八年家督を相続し

君は大阪府人先代善左衛門の長男にして明治十二年九月を以て生れ同二十八年家督を相続し

君は大阪府人先代善左衛門の長男にして明治十二年九月を以て生れ同二十八年家督を相続し

君は大阪府人先代善左衛門の長男にして明治十二年九月を以て生れ同二十八年家督を相続し

寺田辰次郎

大阪府在籍 妻 順子 明三九、八、生、大阪、松村幾久雄

君は大阪府人先代辰次郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代辰次郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代辰次郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代辰次郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代辰次郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

寺田長吉

尾張屋、濱物商、地主 大阪府在籍 妻 とよ 明二七、九、生、埼玉、片岡亭之助

君は大阪府人先代長吉の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代長吉の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代長吉の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代長吉の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

君は大阪府人先代長吉の長男にして明治三十八年一月を以て生れ大正七年家督を相続し

寺田貞次

從四位勳四等、高松高等商業學校教授、九州帝國大學講師 京都府在籍 妻 千代子 明一〇、七、生

君は京都府土族にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年京都帝國大學文科大學地理學科を卒業し

君は京都府土族にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年京都帝國大學文科大學地理學科を卒業し

君は京都府土族にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年京都帝國大學文科大學地理學科を卒業し

君は京都府土族にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年京都帝國大學文科大學地理學科を卒業し

君は京都府土族にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年京都帝國大學文科大學地理學科を卒業し

君は京都府土族にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年京都帝國大學文科大學地理學科を卒業し

寺田八三郎

餅八、餅商 大阪府在籍 妻 こつね 明一三、三、生、兵庫、西尾正七養

君は高松縣土族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相続し

君は高松縣土族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相続し

君は高松縣土族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相続し

君は高松縣土族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相続し

君は高松縣土族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相続し

君は高松縣土族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相続し

寺田半次郎

長崎縣多額納稅者、醫油醸造業 長崎縣在籍 妻 ヒロ 明二二、四、生

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相続し

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相続し

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相続し

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相続し

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相続し

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相続し

寺田元之助

關西製鋼、泉州礦物、東洋麻糸紡織、野野紡績、滿洲ブルブ各社社長 和泉銀行五十一銀行、和泉貯蓄銀行、岸和田紡績、關西土地岸

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟三郎方より分れて一家を創立す

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟三郎方より分れて一家を創立す

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟三郎方より分れて一家を創立す

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟三郎方より分れて一家を創立す

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟三郎方より分れて一家を創立す

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟三郎方より分れて一家を創立す

寺之部 寺田、塚、西

(※印は姻族関係)

和尾田屋瓦葺業各務取締役、南海鐵道、昭和棉花、南海電報、城南土地、豊岡自動車各務監査役
大阪府在籍

妻 玉枝 明二、一、生、大阪、山本東作姉
元三郎 明四三、八、生
君は大阪府人寺田元吉の長男にして同其吉同清蔵同利吉の従兄弟なり明治十四年六月を以て生れ昭和六年家督を相続す同三十二年大阪高等商業學校を卒業し實業界に入り現時關西製鋼會社社長の外前記各銀行會社の重役たり兼に奈良電氣鐵道大阪モーター各會社の重役たり家族は尙二男吉藏(大七、七、生、岸中在學)あり長女かつ(明三九、九、生)は京都府人八木芳信に妹ヒサ(同二一、一、生、現大阪府會議員)同妻モト(同二〇、九、生、大阪、多賀信三郎三女)弟正藏(同二四、二、生)同妻ヒサ(同二七、一、生、大阪、久間作藏二女)弟榮一(同二九、一〇、生)同妻テイ(同三二、六、生、大阪、淡佐治平長女)亡弟新吉妻カシ(同二八、一、生、大阪、淺野久次郎三女)弟三三(同三三、八、生)同妻花子(同三五、一、生、大阪、丹治良妹)は各分家せりA四三〇九五(岸和田市北町八八電五)

寺田 勇一 從四位勳五等、前鐵道技師
東京府在籍
妻 美喜子 長女、明二九、一〇、生、東京、長瀬風輔
男 勇夫 大七、二、生、日本女大附屬高女出身、武藏野音樂學校在學
女 信 大五、二、生、日本女大附屬高女出身、武藏野音樂學校在學
君は九段精華學校長正四位勳四等故寺田勇吉の長男にして明治十九年九月十三日を以て生れ大正二十年家督を相続す明治四十五年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し三菱合資會社に入り大正六年鐵道院技師に任じ同技師を経て同九年鐵道技師に任ぜられ後來鐵道に留學し昭和二年工務局建築課長を命ぜられ同九年退官す家族は

寺田 利吉 坊精工廠各務社長、大阪府在籍
妻 ミツ 明二、二、生、大阪、寺田清蔵姉
男 利一 明四二、一、二、生
女 カネ 大五、一〇、生
君は大阪府人先代利吉の長男にして同元之助の從弟同其吉同清蔵の從兄弟なり明治十七年六月を以て生れ大正七年家督を相続し前名信三を改め襲名す現時寺田銀行重役たるの外前記會社の重役を兼ね家族は尙四男福三(大一一、二、生)あり妹エイ(明二〇、一、生)同夫慶太郎(同二四、四、生、大阪、和田多四郎弟)は其一子を生ひ妹ヒロ(同二四、五、生)同夫耕三(同二二、一、二、生、大阪、久間作藏三男)は其二子を生ひ各分家せり(岸和田市堺町八八電八二四)
參照 寺田甚吉、寺田清蔵、寺田元之助、北村源助の項

寺田 岩次郎 寺塚岩次郎商店、東京株式取引所
妻 道衛 明二二、七、生、高知、岡坂實馬姉
男 良雄 大五、三、生
君は東京府人寺塚岩次郎の二男にして明治二十五年十二月を以て生れ大正十二年明次郎の死跡を相続す東京株式取引所一般短期買物取引員たり家族は尙姉よし(明二二、七、生)甥寅雄(大一一、一、生、寺家喜藏長男)ありA五七四一四B五六八(東京市日本橋區江戸橋一、一五電日本橋三二七)

寺西 治兵衛 廣島縣多額納稅者、尾道商工會議所
妻 トモ 萬延元、一二、生、廣島、坂本與吉
男 治雄 明二、一、生、廣島、石井孝三妹
君は廣島縣土族寺前港右衛門の養子にして明治十年六月を以て生れ同十二年家督を相続す現時前記各銀行の重役たり長女トモ(明三七、七、生)は他に嫁せり(鹿兒島市樋之口町五三電七四一)

寺村 庄三郎 治久銀行取締役、寺庄商店、洋
妻 せい 明三三、六、生、京都、片岡久兵衛
男 庄二郎 大一一、三、生
君は大阪府人先代庄三郎の長男にして明治二十八年一月を以て生れ昭和四年家督を相続す先代庄三郎は滋賀縣より大阪に出て呉服商伊藤萬商店に奉公し後獨立し寺庄商店を興して洋反物商を開業し爾來經營大いに努めて家産を興し信實生駒電鐵近江細綿紡績各會社の重役たり君亦父業を繼ぎ洋反物商を營み傍ら治久銀行取締役たり家族は尙二男豊三郎(大一一、一、生)三男榮三(昭二、五、生)二女泰子(同五、二、生)妹富子(同四三、一、生、樟蔭高女出身)あり妹文子(同四〇、八、生、出身校同上)は大阪府人笹村竹造長男竹三に嫁し姉愛(同二六、一、生、相愛高女出身)は分家して滋賀縣人島津政一兄文治郎を夫に迎へ、妹節(同三五、九、生、出身校同上)弟藤二郎(同三八、五、生、同志社大學出身)は各分家せりA二八〇四(大阪市東區安土町四〇四)電本町一八一四

寺村 富次 箱根登山鐵道、箱根觀光各務取締役
妻 松江 明二二、八、生、京都、劉成一妹
男 榮一 明四四、二、生、立大經濟學部在學
君は大阪府人寺村富榮の二男にして明治十八年七月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同四十四年京都帝國大學理工學部電氣工學科を卒業し直ちに大阪電燈會社に入り同社監理課長製作所長に累進す大正十年退社後歐米各國の電氣事業を視察し翌年歸朝し日本電力會社に聘せられ營業部次長となり現に同社平塚營業所長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二女通子(大九、六、生、立教高女在學)あり姉ヒサ(明九、六、生)は大阪府人日比野芳太郎に長女綾子(大二、七、生、府立第三高女及家政學院出身)は東京府人三井銀行本店員法學士多羅尾次郎に嫁せりA三七八(東京市目黒區中目黒三ノ九四六電高輪二九七二)
參照 日比野芳太郎、劉成一の項

寺本 五郎 不動貯金銀行取締役秘書
妻 柳子 明四三、一〇、生、養父主助長女
男 圭一 昭八、五、生
君は東京府人牧野元次郎の六男にして明治四十三年七月を以て生れ寺本圭助の養子となる現時不動貯金銀行頭取秘書たり家族は尙長女元子(昭七、四、生)ありA七二八(東京市麻布區仲ノ町一三電坂坂二八六)

寺本 友治 養父家
妻 ひさ子 明二二、三、生、大阪、楠次兵衛二女
君は廣島縣人先代治兵衛の長男にして明治十五年四月を以て生れ同三十九年家督を相続し前名達造を改め襲名す酒造業を營み傍ら前記各會社の重役にして尾道商工會議所議員に推される直接國稅一千九百十七圓を納め廣島縣多額納稅者たり家族は尙弟清正(明二五、五、生)同妻たか(同三〇、四、生、兵庫、三浦鶴雄長女)及其三子弟次三郎(同二七、一〇、生)同妻仙(同三五、五、生)大阪、村田庄兵衛四女、及其二子弟輝義(同三〇、八、生)同妻定子(同三三、二、生、廣島、小林榮治郎長女)及其一子弟陸雄(同三二、九、生)同妻マサコ(同三九、三、生、廣島、高橋三郎三女)及其一子伯父岩助(安政二、三、生)あり長女久榮(明三七、七、生)は岡山縣人清水吉雄に二女常子(同四〇、三、生)は新潟縣人三邊清一郎に嫁し弟無次郎(同一九、三、生)は分家せり(尾道市土堂町一〇三電三〇三)

寺前 景介 鹿兒島縣銀行事務取締役、鹿
妻 ト 鹿兒島縣土族
明一六、九、生、鹿兒島、別府新熊

寺野 寛二 正四位勳二等、工學博士、九州帝
妻 さよ 明二一、八、生、男爵山川洵妹
男 温良 明四四、六、生
女 あい 明四五、七、生
男 健良 大二、一、二、生
女 のぶ子 大六、五、生
女 とし子 大八、九、生
君は東京府人寺野元良の二男にして明治十三年九月を以て生れ同三十年工學博士一考より分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し更に同同三十八年東京帝國大學工學部大助教授に任じ同四十二年辭任して明治專門學校より獨逸に留學を命ぜられ同校教授となり九州帝國大學講師を兼ね大正五年九州帝國大學工學部教授に任ぜられ爾來其職に在り同六年工學博士の學位を授けらるる家族は尙七女久子(大一一、〇、九、生)あり長女千枝(明四〇、七、生)は工學士新井洋吉に二女壽子(同四三、五、生)は工學士大井田忠義に嫁し四女けい(同四五、七、生)三男元英(大四、四、生)は共に兄精一の養子となれり(福岡市藥院中庄一五二電二六七)

寺之部

寺野、原、前、村、本

(※印は姻族關係)

寺之部

君は鹿兒島縣人寺原早七の四男にして明治十八年二月を以て生れ大正三年先代マツの養子となり家督を相続す同四年前名早六を改め置尙とす先是大正三年東京帝國大學法科大學法科を卒業し辯護士を開業爾來法律事務に従事して今日に至る(東京市芝區三田功運町三五電三田六五)

寺之部

君は鹿兒島縣土族寺前港右衛門の養子にして明治十年六月を以て生れ同十二年家督を相続す現時前記各銀行の重役たり長女トモ(明三七、七、生)は他に嫁せり(鹿兒島市樋之口町五三電七四一)

ト之部

十時

彌 正四位勳三等、第五高等學校長
彌 福岡縣士族
妻 エイ 明一七、四生、福岡、立花通誠三
男 節 昌 大九、三生
女 節 子 大四、四生

君は福岡縣士族十時一郎の二男にして同允の弟同實の兄なり明治七年六月を以て生れ先代無事老の養子となり後家督を相続す同三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し學習院教授第三高等學校教授に歷任し大正十一年社會學研究の爲獨佛米各國に留學し同十二年廣島高等學校長に任ぜられ昭和七年前記第五高等學校長に轉じ今日に至る長女敬(昭三、二生)は福岡縣士族小野正秋長男正に二女婿子(昭三八、五生)は山口縣士族海軍少佐兄部勇次に三女婿子(昭四三、五生)は福岡縣士族吉田武治長男農學士兼文に各嫁せり(熊本市黒髪町官舎電六〇)

十場吉太郎

東洋麻糸紡織廠取締役、關西製綱株式會社代表社員
大阪府在籍

妻 ミサ 明一四、一生、大阪、直多策三女
男 明 明三二、二生
婦 千代 山口源之助二女
男 重 雄 明三四、二生
男 壽榮子 明四二、一生、二男重雄妻、大阪、山口源之助三女
君は大阪府人十場嘉十郎の長男にして明治六年三月を以て生れ同三十六年祖母梅の後を承け家督を相続す現時十場合名會社代表社員にして東洋麻糸紡織關西製綱各會社の重役として知らる家族は尙孫正太郎(六一、一、一生、長男明長男)同吉二郎(昭二、六生、同二男)同同梅子三、二生、同二女)同吉三(同五、一生、同三

男)同重一(同三、一生、二男重雄長男)同敬泰(同五、三生、同二男)あり庶子廣太郎(昭二五、一生、生母、大阪、岸本壽美)は分家せり(岸和田市南町電一〇)

刀禰館正雄

朝日新聞社東京朝日新聞營業局次長兼印刷局長、三重縣士族
父 正 信 慶應二、八生、現戶主
母 くめを 慶應二、八生、祖父正治養子
妻 キミ 郎長女
男 正 弘 大九、七生
女 和 子 大七、一生

君は三重縣士族刀禰館正信の長男にして明治二十一年四月八日を以て生れ同四十三年神戸高等商業學校を卒業し現時東京朝日新聞營業局次長兼印刷局長たり家族は尙二女美枝子(六一、一、一生)三女明子(同一三、一〇生)三男正久(昭二、六生)四男正也(同三、一一生)四女美佐子(同六、一生)弟正巳(昭二六、八生)同妻けい(同三三、五生)三重、小川地喜俊(二女)弟康三(同三四、二生)同妻よし(同四三、八生)三重、清水爲五郎(二女)弟辰郎(同三七、二生)同妻愛子(同四一、九生)三重、山羽幸平長女あり弟武男(同四五、二生)は刀禰姓を繼ぎ妹みつ(同二二、一〇生)は三重縣人上部光朝に同上し(同三〇、一〇生)は同縣人辻勢三郎三男幸三郎に同敏子(同四一、一〇生)は同縣人中西總吉に嫁せりA四五〇(東京市中野區城山町二九電三五〇)

戸井嘉作

勳三等、衆議院議員(神奈川県選出)、神奈川県在籍
妻 マサ 文久二、八生、愛知、酒井仙助二女
養子 正 治 明一二、八生、山梨、林英作三男
婦 タニ 明一七、四生、養子正治妻、神奈川県小澤昌順四女
孫 敬 一 明四一、二生、養子正治長男、三菱商會社員、商學士
孫 妻 トミ 明四三、五生、孫敬一妻、神奈川県石川澤吉三女、フエリニ高女出身
孫 元 八 大元、八生、養子正治二男、第一銀行員、横濱高商出身

孫 志 津

大五、七生、養子正治二女、横濱高女出身
君は山梨縣人戸井彦五郎の長男にして文久二年一月二十五日を以て生れ慶應三年家督を相続す夙に學問に專攻し努力横濱商會館を創立し其他銀行諸會社の重役に選任せらる又明治三十五年以來横濱市會議員同參事會員として二十四年間横濱市政に盡力す大正四年四月衆議院議員に擧げられ爾來當選六回現に其任に在り民政黨顧問たり會て同黨總務として活躍し立憲民政黨神奈川県支部長の要職に在る事二十數年元氣益々旺盛なり家族は尙孫ちゆめ(六一〇、一生、養子正治三女、横濱高女在學)尙孫喜代(昭八、八生、孫敬一長女)あり孫よし(昭四二、一一生、養子正治長女、神奈川県高女出身)は神奈川県人小澤茂に嫁せりA二三〇(横濱市中區本牧町四ノ九八六電本局一四三三)

戸井福三

トキシン、洋品雜貨商
君は兵庫縣人戸井新吉の三男にして明治二十三年二月十七日を以て生れ大正九年分れて一家を創立すトキシンと稱し洋品雜貨商を營むA一六二八B五二六(大阪府南區心齋橋筋三ノ二電南五七八)

戸枝錦太郎

東京市會議員、地主
妻 たつ 昭二五、八生、東京、平塚五郎長女
男 義 雄 大二、二生
君は東京府人先代儀助の長男にして明治二十年十月二十七日を以て生れ昭和二年家督を相続す地主たり推されて東京市會議員となり現時其任にあり家族は尙二女富美子(大九、五生)三女薫子(同一二、三生)二男常信(同一四、四生)四女みさを(昭三、二生)の外妹よね(昭二九、二生)同夫茂也(昭二九、一生、千葉、甲賀茂雄弟)及其三男弟銀藏(同三五、二生)同妻たみ江(同四〇、四生、東京、伊藤政次郎二女)及其一男一女妹よし(同四四、六生)ありA六七四(東京市瀧野川區田端町八〇電小石川三六二六)

戸叶五郎

正五位勳四等、專賣局技師、名古屋地方專賣局製造課長
妻 滿 義 明一八、九生、東京、多田純三二女

ト之部

十、刀、戶(井、枝、叶)

(※印は姻族關係)

男 秀雄 明四二、五生
女 正雄 明四四、九生
 君は東京府人戸正明の長男にして明治十二年三月を以て生れ同二十七年家督を相続す同四十一年京都帝國大學理工科大學理學部を卒業し直ちに專賣局に入り大正二年專賣局技師に任ぜられ同十二年歐米各國へ出張す歸朝後東京地方專賣局澁橋工場製造係長水戸地方專賣局製造係長に歴任し昭和八年名古屋地方專賣局製造係長となり今日に至る家族は尙三男和雄(六七、四七、一六生)同二女(一、二生)あり長女多喜子(明三三、一七生)は東京府人杉山重義二男早稲田第二高等學院政経部政治に二女幸子(明四〇、九生)は群馬縣人金子竹太郎長男第一銀行大阪支店員吉福に嫁せりA二一(名古屋市中區宮前町二ノ一〇電一四四〇)

戸上 信文

佐賀商工會議所副會頭、戸上電機製作所社長、北天草電氣、日本タンクステーション各社取締役
 熊本縣在籍
 妻 熊本 七生、熊本、土、小柳勝
 男 熊本 三三、三三、熊本、土、小柳勝
 女 熊本 三三、三三、熊本、土、小柳勝

戸 菊喜三郎

三河屋、米穀商
 東京府在籍
 妻 フミ 明一六、七生、東京、大村武之助長女

男 喜一 明三五、一生
男 明三 明四一、一生
 君は東京府人戸菊喜三郎の長男にして明治二十年六月を以て生れ同三十年家督を相続す三河屋と稱し米穀商を營む家族は尙四男祥八(四五、一生)あり長女いち(明四三、一七生)は東京府人清水龜太郎弟三に嫁し弟利平(同四一、一七生)は同妻サカ(同二四、八生、埼玉、石田伊三郎二女)と共に其四男一女を伴ひ分家せりA三四五(東京市下谷區御徒町一ノ五七電下谷五六五九)

戸川 虎雄

筑前銀行頭取、興産貯蓄代表社員、福岡縣在籍
 妻 イサヲ 明二五、三三、福岡、横益次郎二女、福岡高女出身
 男 博之 大八、一〇生、中學修館在學
 君は福岡縣人戸川直の二男にして明治二十年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十五年早稲田大學商科を卒業し株式會社十七銀行に入り久留米支店より小倉支店長となり大正九年之を辭し株式會社筑前銀行を創立し大正十三年頭取となる尙興産貯蓄會合資會社を創立して代表社員たり趣味は園藝にあり家族は尙二男雅雄(大一一、一七生、中學修館在學)長女春子(同二三、一七生)三男安治(昭五、一七生)姪邦子(大二三、一七生、亡兄義彦長女、福岡高女出身)あり(福岡市西新町電二三六〇)

戸川 濱男

上海紡績株式會社、内海紡績株式會社、東洋棉花株式會社
 妻 トク 明二九、一七生、栃木、關眞妹
 男 安雄 大〇、一七生

戸 濱男

上海紡績株式會社、内海紡績株式會社、東洋棉花株式會社
 妻 トク 明二九、一七生、栃木、關眞妹
 男 安雄 大〇、一七生

戸川 政治 從四位勳四等、日本航空檢査常務取締役、山口縣土族
 妻 ヨシ 明六、七生、東京、田寺信治
 男 千代子 明二五、一七生、山口、土、藤岡
 女 繁子 大二、一七生
 女 貞子 大四、七生
 女 清子 大六、九生

戸口 千尋

竹原商店株式會社取締役
 妻 直榮 明二七、一七生、河野直次郎五女
 男 通弘 大七、四生

君は山口縣人野口清の二男同榮二の弟にして明治十八年九月を以て生れ同二十五年戸川龜の養子となる同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格選任官に入り航空局長たりしも後之を辭し現時日本航空檢査會社常務取締役たり其間通信監理局事務官兼稅關事務官選任局長事務官同局事務官臨時電話建設局事務官選任局長事務官同局電話課長選任局長事務官選任局長事務官選任局長等に歴任しは尙四女歌子(大一一、一七生)五女陽子(昭二、一七生)ありA一二七八(東京市澁谷區松濤町五八電青山六〇七六)
 參照 藤岡圭助、※粟屋謙次伊關重俊の項

戸澤 正己

正四位勳四等、子爵、貴族院議員
 妻 田嶋 大二、一七生
 女 瑛子 大七、一七生

戸澤 正保

正四位勳三等、東京外國語學校校長
 妻 正保 大七、一七生

戸澤 八五郎

戸澤組、土木建築請負業
 妻 嘉永 大七、七生、東京、大熊重五郎
 男 萬之助 明三八、八生
 女 敏子 明四五、二生

戸澤 隆吉

富士瓦斯紡績株式會社取締役
 妻 秋 明三一、一〇生、宮崎、向井太郎
 女 園子 大八、三三

戸澤 重雄

從五位勳六等、檢事、東京地方裁判所檢事、山形縣土族
 妻 フミ 明三四、一七生、東洋高女出身
 君は安田信託會社事務取締役戸澤芳樹の男にして明治二十八年二月二十日を以て生れ大正九年東京帝國大學

戸倉 惣太郎

帝國海上火災保險株式會社支配人、火災部長、山口縣在籍
 妻 ツル 明二二、四生、千葉、常世田庄太郎長女
 男 嘉明 明四三、一七生
 女 伸子 大六、一七生

戸坂 隆吉

富士瓦斯紡績株式會社取締役
 妻 秋 明三一、一〇生、宮崎、向井太郎
 女 園子 大八、三三

戸澤 重雄

從五位勳六等、檢事、東京地方裁判所檢事、山形縣土族
 妻 フミ 明三四、一七生、東洋高女出身
 君は安田信託會社事務取締役戸澤芳樹の男にして明治二十八年二月二十日を以て生れ大正九年東京帝國大學

戸澤 八五郎

戸澤組、土木建築請負業
 妻 嘉永 大七、七生、東京、大熊重五郎
 男 萬之助 明三八、八生
 女 敏子 明四五、二生

妻 なを 明一〇、六生、千葉、井上操二女
男 正一 明三七、九生、東京電燈會社員、
婦 愛子 明四二、八生、長男正一妻、富田
義敬長女
君は茨城縣士族陶菊地清の弟にして明治六年六月を以て生れ先代正之の養子となり同二十四年家督を相続す同三十二年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し同三十五年山口高等學校教授に任ぜられ第五高等學校教授に轉じ大正二年留學研究の爲英國に留學し歸朝後大正九年山口高等學校教授に任ぜられ昭和四年弘前高等學校長に轉じ昭和七年東京外國語學校長に任じ今日に至る姑射と號し沙翁の號譯數種あり家族は尙孫正道(昭七、七生、長男正一)長男ありA一三〇(東京市澁谷區代々木山谷町一八三電四谷三三四〇)

戸澤又次郎 從四位勳三等、林學博士、前朝鮮總督府林業試驗場長、山形縣在籍
妻 しん 明二、七生、山形、山岸丑之助
男 律夫 明三九、一八生
男 邦夫 明四一、八生
男 輝夫 明四四、一八生
男 忠夫 明四三、一〇生
君は山形縣人戸澤又八の二男にして明治七年三月を以て生れ大正九年兄又太郎方より分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林業技術師に任じ同十一年朝鮮總督府林業試驗場を創設し林業試驗場技術師に任ぜられ林業試驗場長たりしが昭和六年官を辭し現地にあり大正八年林學博士の學位を授與され昭和四年各縣に出張す(京城府大和町三ノ三八)

戸田氏次 正四位、子爵
妻 すう 明三六、一二生、岐阜、近藤領三
男 昌 大五、七生
當家は舊大垣藩主戸田采女正氏鐵の二男淡路守氏經の後なり氏經父の所領中より七千石を分與せられ別一家を爲す三代氏成家より入りて家督を相続し更に三千石を分與せられ濃州野村一萬石を領す夫より七代を經て氏良に至り明治十七年子爵を授けられ其後を享く君は氏經の長男にして子爵戸田保保の從弟に當り明治二十六年六月二日を以て生れ大正二年襲爵仰付けられたる家族は尙長女常子(大一一、二生)弟孝徳(明三〇、一〇生、鐵道省運輸課勤務、岩倉鐵道學校出身)同氏徳(同三六、九生、鐵道省勤務、東京高工出身)あり父氏徳(同二二、二生)は母鈴子(同四六、一四生)祖父氏良(同四四、二生)は母貞子(同四一、一四生)兄弟三人を以て生れ其生家子爵戸田康保の家に入り更に分家し妹春子(同三一、一〇生)は尙岡縣人柴田保に叔母鈴子(同二二、四生)は子爵池田政保に嫁せり(東京市小石川區茗荷谷町六二)

戸田銳之助 大垣商工會議所會頭、大垣貯蓄銀行總頭、大垣共立銀行副頭、取長、東京、土、野村龍太郎
妻 ひろ 明四四、一八生
君は山形縣人戸澤又八の二男にして明治七年三月を以て生れ大正九年兄又太郎方より分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林業技術師に任じ同十一年朝鮮總督府林業試驗場を創設し林業試驗場技術師に任ぜられ林業試驗場長たりしが昭和六年官を辭し現地にあり大正八年林學博士の學位を授與され昭和四年各縣に出張す(京城府大和町三ノ三八)

戸田清右衛門 家主
妻 さと 明二四、一二生、兵庫、木谷勝造
男 健三 大六、五生
女 光子 大二、一〇生
君は大阪府人先代清右衛門の長男にして明治十八年六月十六日を以て生れ大正五年家督を相続す家主たり家族は尙三男修(大一一、二生)妹い(明二三、一〇生)姪正代(大元、七生、田中丑松同奈貞子(同三三、一〇生)あり弟宗三郎(明二七、二生)同妻貞子(同三三、一〇生)大正、高木善二(長女)弟清十郎(同三一、四生)同勝三郎(同三七、二生)は各分家し同末男(同四〇、一〇生)は同府人戸田清十郎の相続人となるA四六九(大阪市西區江戶堀南通二ノ四三)

戸田卓治 但馬銀行常務取締役
妻 とら 明四一、一〇生、兵庫、八木長右衛門
男 永之助 昭四、一〇生
君は兵庫縣人戸田治助の長男にして明治三十年一月を以て生れ昭和七年家督を相続す大正十三年慶應義塾大學法學部を卒業し現に但馬銀行常務取締役たり家族は尙長女貞久(昭二、九生)弟正助(明四三、一〇生)慶應義塾大學出身あり妹綾野(同三一、一〇生)は兵庫縣人遠藤嘉吉郎三男敏郎に同小夜(同三五、二生)は同縣人法學士萩野益三郎に姉乃乃(同二八、四生)は同縣人細見安治郎長男貫一に嫁せり(兵庫縣城崎郡日高町電

戸田直温 明一八、三生、法學士
妻 直 明二八、七生、東京高商出身
君は舊大垣藩國老戸田治部左衛門の長男にして安政四年十二月を以て生れ後家督を相続す夙に實業界に入り現に大垣貯蓄銀行頭取大垣共立銀行頭取にして又推されて大垣商工會議所會頭たり長女ます(明七、一〇生)は岐阜縣人増田作義長男銀吉に三女ます(同二二、四生)は同縣人森樹一長男精一に四女けい(同二四、一〇生)は東京府人桂三三に五女たを(同二〇、八生)は岐阜縣人早野龍三に七女收(同三一、一〇生)は愛知縣人盛田久左衛門長男彦太郎に妹ちよう(安政六、三生)は宮城縣人早川萬一先代智寛に嫁せりA一二三五(大垣市郭町一九九電二〇六)

戸田宗三郎 三徳商事取締役、廣島合同貯蓄銀行、廣島電氣、廣島鐵道、日本石粉各株監査役、吳服商
妻 サヲノ 明九、七生、廣島、澤田基次姉
男 三郎 明三四、三生
女 ミツ子 明三三、一〇生
君は大阪府人先代宗三郎の長男にして明治十八年六月十六日を以て生れ大正五年家督を相続す家主たり家族は尙三男修(大一一、二生)妹い(明二三、一〇生)姪正代(大元、七生、田中丑松同奈貞子(同三三、一〇生)あり弟宗三郎(明二七、二生)同妻貞子(同三三、一〇生)大正、高木善二(長女)弟清十郎(同三一、四生)同勝三郎(同三七、二生)は各分家し同末男(同四〇、一〇生)は同府人戸田清十郎の相続人となるA四六九(大阪市西區江戶堀南通二ノ四三)

戸田太郎 家主
妻 とら 明四一、一〇生、兵庫、八木長右衛門
男 永之助 昭四、一〇生
君は兵庫縣人戸田治助の長男にして明治三十年一月を以て生れ昭和七年家督を相続す大正十三年慶應義塾大學法學部を卒業し現に但馬銀行常務取締役たり家族は尙長女貞久(昭二、九生)弟正助(明四三、一〇生)慶應義塾大學出身あり妹綾野(同三一、一〇生)は兵庫縣人遠藤嘉吉郎三男敏郎に同小夜(同三五、二生)は同縣人法學士萩野益三郎に姉乃乃(同二八、四生)は同縣人細見安治郎長男貫一に嫁せり(兵庫縣城崎郡日高町電

戸田正三 從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部長、兵庫縣在籍
妻 正三 明三七、九生、東京電燈會社員、
婦 愛子 明四二、八生、長男正一妻、富田
義敬長女
君は茨城縣士族陶菊地清の弟にして明治六年六月を以て生れ先代正之の養子となり同二十四年家督を相続す同三十二年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し同三十五年山口高等學校教授に任ぜられ第五高等學校教授に轉じ大正二年留學研究の爲英國に留學し歸朝後大正九年山口高等學校教授に任ぜられ昭和四年弘前高等學校長に轉じ昭和七年東京外國語學校長に任じ今日に至る姑射と號し沙翁の號譯數種あり家族は尙孫正道(昭七、七生、長男正一)長男ありA一三〇(東京市澁谷區代々木山谷町一八三電四谷三三四〇)

戸田清右衛門 家主
妻 さと 明二四、一二生、兵庫、木谷勝造
男 健三 大六、五生
女 光子 大二、一〇生
君は大阪府人先代清右衛門の長男にして明治十八年六月十六日を以て生れ大正五年家督を相続す家主たり家族は尙三男修(大一一、二生)妹い(明二三、一〇生)姪正代(大元、七生、田中丑松同奈貞子(同三三、一〇生)あり弟宗三郎(明二七、二生)同妻貞子(同三三、一〇生)大正、高木善二(長女)弟清十郎(同三一、四生)同勝三郎(同三七、二生)は各分家し同末男(同四〇、一〇生)は同府人戸田清十郎の相続人となるA四六九(大阪市西區江戶堀南通二ノ四三)

戸田卓治 但馬銀行常務取締役
妻 とら 明四一、一〇生、兵庫、八木長右衛門
男 永之助 昭四、一〇生
君は兵庫縣人戸田治助の長男にして明治三十年一月を以て生れ昭和七年家督を相続す大正十三年慶應義塾大學法學部を卒業し現に但馬銀行常務取締役たり家族は尙長女貞久(昭二、九生)弟正助(明四三、一〇生)慶應義塾大學出身あり妹綾野(同三一、一〇生)は兵庫縣人遠藤嘉吉郎三男敏郎に同小夜(同三五、二生)は同縣人法學士萩野益三郎に姉乃乃(同二八、四生)は同縣人細見安治郎長男貫一に嫁せり(兵庫縣城崎郡日高町電

江原(四)

戸田 忠雄

從三位、子爵、舊野州足利藩、明三、二生、千葉、池田榮亮三女、跡見女學校出身、明二七、五生、正五位、海軍軍醫、事務官兼法務官、朝鮮鎮海要港部法務長、法學士

男土佐守次三州田原一萬石を食む其孫山城守忠昌に至り封を授け佐倉七萬石を領し其子侍從忠實守都宮七萬八千石に移封せらる七代を経て越前守忠愨幕府に建議して自ら山陰奉行に任じ近畿百有餘の山陵を修葺す先代忠友維新の際率先して官軍に屬し功あり明治十七年子爵を授けらる同十六年國幣中社二荒山神社宮司に補せられ社務を司る事四十餘年に及べり君は其男にして明治十二年二月二十六日を以て生れ大正十三年家督を相繼し襲爵す夙に軍籍に入り果進して陸軍騎兵大佐に陞り後豫備役に編入せらるる家族は尙三男忠英(大五、八生)四男忠隆(同二〇、一生)あり長女秀子(明四三、二生)は東京府人大橋芳雄に嫁し弟清(同二八、七生)京都菊高花女(同二八)は分家し姉トヨ子(同二二、七生)は伯爵有馬頼寧先代頼萬に嫁せり(東京市品川區五反田六ノ一九一電高橋三三八五) 參照 伯爵有馬頼寧、子爵池田田仲誠、子爵津輕益男の項

戸田 忠肅

從四位、子爵、稅務監督局事務官、札稅稅務監督局局長兼經理部、舊野州曾我野藩、明三八、四生、公爵毛利元昭庶子、女學士、公爵院出身、參照 公爵毛利元昭、男爵鹿園直治、侯爵醍醐忠重、子爵愛宕通經、男爵小早川四郎、男爵男爵毛利元良、西國寺八郎の項

戸田 恒造

家主、大阪府在籍

戸田 虎雄

衆議院議員(山形縣選出)、米澤商、榮孫社長、第二相模孫代表取締役、山形貯蓄銀行、山形電氣、東北送、紙、置賜電燈、山形電氣、東北送

戸田 忠庸

正四位勳三等、子爵、陸軍騎兵大佐、舊宇都宮藩、明一七、七生、子爵池田田仲誠妹、明四二、五生、從五位、法大在學、男 忠和、明四二、五生、從五位、法大在學、男 忠元、明四二、五生

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 康保

正四位、子爵、舊本藩、明二三、一、一生、侯爵松平康昌叔母、學習院女學部出身、明四四、四生

ト七

戸田 直温

正四位勳三等、奈良電氣鐵道專務取締役、岐阜縣士族、安政四、一、二生、現戸主、父 鏡之助、明二四、五、二、東京、士、青木元、妻 澤子、明二四、五、二、東京、士、青木元、女 欣子、大四、九生

戸田 秀雄

資産家、兵庫縣士族、妻 美代、明四一、三、一生、亡妻父實長女、男 雄章、昭四、一、一生

戸田 保忠

從四位勳三等、農林省水産局長、茨城縣士族、妻 文、大七一、一〇生、男 尙文、大七一、一〇生

ト七

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

ト七

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

ト七

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

ト七

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

戸田 彌七

大阪美術俱樂部監査役、谷松屋、舊葦商、大阪府在籍、明四、一、二生、大阪、赤松兵衛、叔母

ト七

(同三二、二生、京都、川邊増太郎二女)は其二子を伴ひ分家せりA三七二B一三三(京都市中京區錦小路通室町西入電本局一〇五四)

外村鐵三郎

安治川土地採取締役 京都府在籍

妻 那の

衛門三女、京都淑女高女出身

男 晃一

大九、一五、滋賀、松居久右

君は滋賀縣人外村與七郎の四男同英一郎の叔父にして明治二十三年三月を以て生れ大正十一年兄與左衛門方より分れて一家を創立す夙に慶應義塾理財科を卒業し現時安治川土地會社取締役たり家族は尙長女榮津子(大一一、三三)二男昌三(同一四、二生)ありA一三二二(京都市左京區岡崎圓勝寺町一五四ノ一電上三四七七)

外村與左衛門

京都府在籍

妻 被佐

明一八、一〇生、滋賀、正野玄三

男 英一郎

明四〇、一〇生

男 周三

明四三、一五生

男 壽

大四、九生

君は滋賀縣人外村與七郎の長男にして明治十一年三月三十一日を以て生れ同十二年家督を相続す吳服太物商を營む業に紺綬褒章を下賜さる家族は尙六女東久(大一一、三三)あり五女勢(同七、一五)は滋賀縣人外村市郎兵衛の養子となり弟彌八郎(明一六、一五)同八郎兵衛(同一二、八生)同鐵三郎(同一三、三三)は各分家し二女ま(同三八、八生)同夫富三(同一三、三三)二生、京都、山本重三郎(明一七、一五)は各分家せりA四四四四B三九四七(京都市中京區木屋町通五條上ル電本局四九〇〇)

外村米吉

前百三十三銀行務取締役 滋賀縣在籍

男 隆三

明三二、七生

男 文蔵

明三三、八生

女 春

大四、三生

外山重義

正五位勳四等、検事、帶廣區裁判所検事 東京府在籍

妻 カツ

明二三、一〇生、岩手、士、一戸

男 俊男

明四二、一五生

男 武次

明四四、一〇生

男 三雄

大三、二生

君は東京府人にして明治十二年七月を以て生れる同三十五年日本法律學校を卒業し同三十七年判事登用試験に及第す同三十九年判事に任ぜられ盛岡地方酒田區各裁判所判事を経て大正二年検事に轉じ若松大館熊本津伊那新發田等各區裁判所判事に歷補現時帯廣區裁判所検事たり家族は尙五男義一(七一、二五)長女久子(同一二、二五)二女ムツ子(同一三、四生)五男五郎(昭二、一〇生)六男正昭(同五、一〇生)あり(帶廣市西三條九ノ一九)

外山捨造

東白濱温泉土地、香燒コークス各廠社長 大阪瓦斯、六甲越、有馬電貯、商業銀行常務取締役、大阪鐵道、濱寺土地各務監査役、阪神電氣高等女學校主、大阪府在籍

妻 ハル

明二一、一五生、大阪、藤本一二二

男 修

明四一、九生、京都帝大大学院在籍

女 壽満子

大二、五生、長男修妻、大阪、山

女 道子

大元、九生、巴里留學中

君は大阪府人外山捨造の三男にして明治十六年三月二

外山善吉

印刷業 東京府在籍

妻 ハル

明二五、一五、福島、橋本官兵衛

女 静江

大三、八生

君は新潟縣人外山善作の四男にして明治十六年七月九日を以て生れ昭和三年兄房次郎方より分れて一家を創立す印刷業を營むA四二二B二〇(京都市本所區石原町二ノ一〇電墨田三八九〇)

外山貞三郎

洋酒商 大阪府在籍

妻 ハズ

明一六、四生、大分、雲井順吉二

女 一子

大八、一〇生

君は大阪府人外山友次郎の長男にして明治十二年一月十一日を以て生れ同年家督を相続す洋酒商を營む姉ヨヒ子(明四、九生)同時ニ(同八、三三)は各分家せりA五七四B二一五(大阪府南區日本橋筋四ノ三電或三三九三)

外山統一郎

東陽務監査役 東京府在籍

父 政蔵

明四〇、七生、現戸主

妻 ふみ

明四〇、二五、埼玉、埼玉、吉田辨吉

男 達太郎

昭七、六生

君は東京府人外山政蔵の長男にして明治三十二年五月現時同社々長の外前記會社の重役たり家族は尙三男五 電七五五)

外山正彌

福屋債券店、有價證券買賣業 大阪府在籍

繼母 セ、エ

明三〇、二生、大阪、肥後かめ姫

君は大阪府人先代彌太郎の二男にして大正八年九月二十三日を以て生れ昭和三年家督を相続す父彌太郎に有價證券買賣業を營み産を成す君遺業を繼承し福屋債券店と稱し知らる家族は尙姉百合子(明四五、三三)妹百子(昭二、九生)叔母奈良恵(明七、六生、奈良、奥田八郎三女)あり、A七六五(大阪府南區日本橋筋四ノ六四電或二七四二)

外山政蔵

東陽務相談役 東京府在籍

男 統一郎

明三二、五生

君は武川川越に於て藍玉染料商を營み舊家の稱ある安齋家の出なり當主利夫の父故利兵衛の叔父にして明治元年七月十二日を以て生れ先代そののの養子となり同十八年家督を相続す夙に實業利兵衛を扶けて東陽株式會社を創立し社務一切を執掌して同社今日の基礎をなす義に同社社長を辭し現時相談役に於て資産家として知らる諸曲を趣味とす家族は尙三男平和(大八、一五)あり二男次郎(明三五、四生、三和銀行員)は其妻浪江(同四四、二生、山梨、井上長十郎長女)を伴ひ分家せりA一七七七(京都市本區湯島湯島町三電下谷二五六)

外山彌助

東京府多額納稅者、三彌、吳服商 東京府在籍

妻 チャウ

明三六、八生、養父彌助長女

君は栃木縣人大川浪太郎の甥にして明治二十八年九月五日を以て生れ先代彌助の養子となり昭和七年家督を相続し前名三郎を改め彌助と稱す三彌と稱し吳服商を營み直接納稅八千四百四十五圓を納め東京府多額納稅者に列す家族は尙二女惠子(大一五、三三)三女道子(昭三、一〇生)四女暢子(同五、三五)妹芳子(大九、二五)あり養妹次子(明三五、六五)は京都府人多田トモの養子となれりA七六八B一五五六(京都市日本

を以て生る夙に慶應義塾大學に學び東陽株式會社に入り大阪支店詰を経て現時同社監査役たり家族は尙長女淑子(昭三、四生)ありA五六四(京都市中野區小瀧町五三電中野二四四七)

外山知三

三井銀行常任監査役 東京府士族

妻 義達

嘉永五、三生、現戸主

男 義一

明一七、二生、養父義達二女

男 義二

明四三、七生、三井生命保險會社

男 義三

横濱高工出身

男 昌香

大三、二生、慶大在學

女 嘉壽江

大四、五生、雙葉高女出身

女 幸江

大七、二生、御茶の水高女在學

君は千葉縣人松本與三郎の二男大審院判事同安藏の弟にして明治十二年三月四日を以て生れ同三十九年外山義達との養子となる同三十五年慶應義塾大學理財科を卒業し三井銀行に入り銀行業視察の爲め歐米各國に派遣せられ在留すること三年にして歸朝本店營業部長次長深川日本橋横濱各支店長本店營業部長に歷任し取締役を経て現時常任監査役たり家族は尙五男敏夫(大六、三三)六男文夫(同一〇、三三)七男英夫(同一一、一一)四女愛(昭三、六五)あり長女玉江(明三九、一〇)生、雙葉高女出身)は宮城縣人通信書記官木村庸治に嫁し二男達夫(同四三、七生、慶大在學)は分家し養妹壽(同二三、一五)同夫鋼(同一八、八生、長野、士、中村盛鐵四男)も亦其子女を伴ひ分家し明甫(大七、九生、養弟綱三男)は愛知縣人村瀬そのの養子となれりA六一二五(京都市麻布區市兵衛町二ノ一二電赤坂一三七三)

參照||外山政蔵の項

外山豐造

從四位勳二等功五級、陸軍中將、第九師團團長、和歌山縣士族

母 かと

弘化元、九生、和歌山、和田喜平

妻 豐子

明二三、一〇生、島根、士、松本

參照||松本高橋貞三郎の項

橋元元町九電浪花一三三五

外山與次郎 大阪府在籍
妻 ラク 明一六、五生、大阪、外山彌太郎

杜 聰朝

杜 聰明 大甲街協議員、大甲商工協會長、日勝材木商行主、臺中州在籍

杜 聰明

杜 聰明 從五位勳六等、醫學博士、臺北醫學專門學校教授、中央研究所技師、臺北更生院院長、臺北州在籍

利根 龜兒

父 常三郎 高知縣在籍
母 花 安政六、六生、高知、田村和吉妹

利根川 久衛

母 キヨ 門二女
妻 サダ 明三三、一一生、新潟、杉田實妹

利見 正太郎

妻 虎三 明二七、一〇生
男 虎三 明二七、一〇生

利根川 守三郎

妻 春 明一三、六生、東京、上野朝郎妹
男 武 明三八、七生、工學士、大阪工業試驗所勤務

利田 三郎

妻 ハル 明五一、五生、東京、加納元次郎
女 喜久 明四四、三三

登坂 又藏

妻 せい 明一六、三三、山形、中村忠
女 嘉代子 大三、四生、東京音楽學校在籍

利光 丈平

妻 千代子 朝鮮產金務社長、京成電氣軌道、東高安三郎長女
男 紀代 明四五、三二

利光 鶴松

妻 トヨ 從一、一一生、東京、若林源兵衛
男 松男 大一一、一一生、東京、伊東亮一

利光 學一

男 久 大二、一〇生、九大工學部在籍
女 久 大二、一〇生、九大工學部在籍

登坂 小三郎

妻 義母 ちよ 山形電氣鐵道社長、横莊鐵道社長、山形縣長、横莊鐵道社長、横莊鐵道社長、横莊鐵道社長

利光 學一

利光 學一 鬼怒川水力電氣株式會社取締役、小田原急行鐵道、帝都電氣、鬼怒川水力電氣株式會社各取締役

利光 辰

利光 辰 從五位勳六等、檢事、佐賀地方裁判所檢察官、同區裁判所檢事、大分縣在籍

利光 文

利光 文 朝鮮產金務社長、京成電氣軌道、東高安三郎長女

利見 正太郎

利見 正太郎 大甲街協議員、大甲商工協會長、日勝材木商行主、臺中州在籍

利光 學一

利光 學一 鬼怒川水力電氣株式會社取締役、小田原急行鐵道、帝都電氣、鬼怒川水力電氣株式會社各取締役

利光 辰

利光 辰 從五位勳六等、檢事、佐賀地方裁判所檢察官、同區裁判所檢事、大分縣在籍

利光 文

利光 文 朝鮮產金務社長、京成電氣軌道、東高安三郎長女

利光 鶴松

利光 鶴松 從一、一一生、東京、若林源兵衛

利光 學一

利光 學一 鬼怒川水力電氣株式會社取締役、小田原急行鐵道、帝都電氣、鬼怒川水力電氣株式會社各取締役

ト之部 (土井)

女 宜子 大三、三三
政子 大七、一二
君は長野縣人等々力久彌の二男にして明治六年五月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同二十八...

土井 伊助 大阪府在籍
妻 ツル 明一八、六生、京都、小野リウ二
男 英 雄 大元、一二生
君は大阪府人先代伊助の三男にして明治四年十二月十日を以て生れ同二十八年家督を相続し前名治三郎を改...

土井 兼次郎 土井産産會社員
妻 ち 門三女
男 賢一 明三七、一一生
女 好子 明四五、七生
君は愛知縣人宮崎市兵衛の二男にして明治元年三月二十日を生れ同二十九年先代ちの夫となり家督を相続す現時土井産産會社員にして義に名古屋製粉所...

土井 慶吉 藤澤ゴルフ代表取締役、ホテルニューグランド事務取締役
妻 秀子 明二四、六生、兵庫、範多龍太郎
君は兵庫縣人土井楠平の三男にして明治十七年二月十二日を以て生れ大正十三年兄光藏方より分れて一家を創立す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たりA四三九(横濱市鶴見區東寺尾町一五八電覽見七三)

土井 權大 衆議院議員(兵庫縣選出)
妻 靜惠 明二一、五生、兵庫、宗野重次郎
男 王 明四五、三生、司法官候補、法學
君は兵庫縣人先代權大の長男にして明治十二年十一月十二日を以て生れ同三十一年家督を相続し義名す同三十六年早稻田大學英語政治科を卒業し農業を営む傍ら北米及ブラジル移民事業に従事し専ら農業政策に注意し小作制度調査委員兼農務委員に任ぜられ昭和二年秋産業に盡せし廉を以て勳章授賞を賜はる大正六年以來衆議院議員に當選すること六回現時立憲政友會に屬し農政調査部長たり曾て帝國産業會社取締役たりし事あり家族は尙三男三女(大七、二生)四男三女(同一、二生)あり二女三子(明四〇、三三)日本女子大出身は姫路高等學校教授本義之に嫁し二男大女(大八、八生)は兵庫縣人土井イタの養子となり(兵庫縣保郡石海村)

土井 茂 愛知縣多額納税者、土井内科醫院
妻 し け 明二四、九生、三重、池田たね孫
男 康 大元、一一生
女 靜江 大元、一一生
君は愛知縣人丹下武左衛門の三男同茂十郎の弟にして明治十七年五月を以て生れ先代との養子となり昭和四年家督を相続す現時土井内科醫院院長にして縣下の多額納税者に列すA三六〇八(名古屋市中區)

新築町六ノ一二電東四五〇
土井 順也 醫學博士、土井病院、醫師
妻 キ ヌ 明三七、三生、大阪、山下卯之松妹
父 ヨシノ 明三七、九生、兵庫、尾崎武市郎
君は石川縣人土井順の長男にして明治三十二年一月を以て生れ大正十二年日本醫科大學を卒業直ちに日本赤十字社大阪支部病院外科に勤務し轉じて東京皇橋慈善病院病理解局に研究する事四ヶ年昭和九年醫學博士の學位を受く現時土井病院及土井病院松島分院を經營す家族は尙長女和枝(昭六、七生)ありA三八一(大阪府港區九條通三ノ五七〇電西二〇五)

土井 昇造 義肢矯正器専門技術所、義手足並身體矯正器製作業、大阪府在籍
妻 ス エ 明一八、八生、大阪、福島久三郎
男 健造 昭四〇、九生
女 健子 はな 明四二、一一生、大阪、福島種太郎
君は大阪府人土井與七郎の二男にして明治十四年一月八日を以て生れ同三十八年兄徳松方より分れて一家を創立す義肢矯正器専門技術所と稱し義手足並身體矯正器製作業を営む(大阪府西區南堀江通一ノ四電櫻川二二六六・四六六二)研究所及技術所 大阪府外圍草山相生通一丁目電筒二〇七)

土井 慎一 鳴海土地採取取締役
妻 富美子 明四一、八生、愛知、早川慶之助
君は愛知縣人土井國丸の長男にして明治三十七年七月二十八日を以て生れ大正十年家督を相続す現時鳴海土地會社取締役たり家族は尙長女綾子(昭五、二生)二女幸子、三女町子、弟重雄(昭四二、七生)妹敏子(大七、六生)あり同政子(明四五、二生)は愛知縣人朝橋録三郎二男文雄に同照子(同四〇、一〇生)は愛知縣人水谷源助庶子源二郎に嫁し叔父保一(同一八、七生)は其妻

(捺印は姻族關係)

都子(同三三、九生、愛知、竹内佐治三女)と共に分家し叔母かよ子(同二六、三生)も亦分家せりA一四四一(名古屋市東區赤塚町二ノ二四電東二六)

土井 清次郎 土井商店社長、土井實代表社員、毛織物問屋業、東京府在籍
妻 ミツ 明二七、二生、雙父翁橋長女
男 純一 大九、九生
女 美代子 大五、三生、三輪田高女出身
女 喜美子 大五、五生、三輪田高女在學
女 長子 大七、一一生、佛英和高女在學
君は埼玉縣人建部庄八の二男にして明治十九年十一月二十二日を以て生れ後土井翁橋の養子となり大正九年養弟清治郎方より分れて一家を創立す毛織物問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり諸曲に趣味を有す家族は尙四女喜美子(大一一、八生)二男恭次(同一三、一〇生)三男讓三(生年月同上)五女延子(昭四、一〇生)ありA一〇四八(東京市日本橋區濱町三ノ二電通花四六九四)

土井 高一郎 播磨鐵道、九州肥筑鐵道、播磨鐵道各種取締役、兼評議員、計理士、兵庫縣在籍
父 長三郎 二男、現戸主
母 み ね 慶應三、二生、兵庫、森田淺五郎
妻 八重子 明三六、三生、大阪、川上八十吉
當家は神戸土着の舊家にして苗字帯刀を許されたる家柄なり君は現戸主長三郎の長男にして明治十八年一月二日を以て生れ同三十九年明治大學を卒業し直ちに實業界に入り日本鹽コークス會社神戸川崎造船所等に勤務せしが當時君の經營に係はる炭礦の大日本炭礦會社に併せせらるると同時に監査役に擧げられ今日の地位を築けり先は大正八年頃より會計士を開業し社団法人日本會計士會を組織し現行計理士法制定せしりや無試験登録せらる現時前記諸會社の重役にして播州水力電氣鐵道會社外數會社の清算人に選ばるるに九州肥筑鐵道會社副社長山陽興業關西自轉車中國石材浪速信託

土井 高禮 三重縣多額納税者、林業兼醸造業
妻 早苗 明二九、五生、三重、土井藤右衛門
女 田鶴 門養妹
君は男爵三井壽太郎の弟にして同高禮の従兄なり明治二十六年六月を以て生れ大正九年先代田鶴の夫となり家督を相続す林業兼醸造業を營み三重縣多額納税者に列し直接國稅八百五十圓を納む(三重縣北牟婁郡尾鷲町電三三)

土井 忠兵衛 三重縣多額納税者、北山索道株式會社社長、北紀銀行取締役、林業
妻 くに 明一八、六生、三重、内田忠藏四
女 美代 大元、一一生
君は三重縣人先代忠兵衛の三男にして明治十六年七月七日を以て生れ同三十一年家督を相続し前名政介を改め義名す現時林業を營む傍ら前記各會社の重役にして直接國稅八百十七圓を納む三重縣多額納税者たり義に尾鷲電氣會社取締役たりし事あり紺綬褒章及同節版を授けらる家族は尙三男三女(大五、七生)弟眞波(同一二、一一生)同妻は尙三男三女(大五、七生)和波(同一二、一一生)あり長女康(同四二、二生)は三重縣人和久衛に嫁し姉やそ(同一〇、一一生)は同縣人土井大助の養子となり弟左門(同一九、一一生)慶應義塾理科出身(同妻美喜(同二六、三生)、三重、土、竹口作兵衛)

土井 徹太郎 朝日機寸探査役、寸製造業
妻 セイ 慶應元、一一生、大阪、秀平四郎兵衛二女
女 明三〇、六生、大阪、山田房五郎
君は大阪府人土井龜太郎の長男にして明治二十六年一月七日を以て生れ大正九年家督を相続す大正四年慶應義塾大學理財科を卒業し機寸製造業を營む傍ら現時朝日機寸會社監査役たり家族は尙長女光子(大九、九生)二女昌子(同一一、〇生)三女和子(昭五、一〇生)ありA六五四(大阪府西區西長堀北通一ノ一三電新町一三六五)

土井 藤右衛門 北山索道株式會社取締役
妻 ちよ 明四一、三生、新潟、小林仁平二
當家は土井大炊頭利勝の高土井忠兵衛より分れて一家を創立し五代を経て先代藤右衛門に至る代々藤右衛門を襲名す君は三重縣人木村實太郎の七男同義同秀興の弟にして明治二十五年一月を以て生れ先代藤右衛門の養子となり同四十二年家督を相続し前名卓爾を改め襲名す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時北山索道會社取締役にして義に大藪林業會社監査役たり妹田鶴(明二九、五生)は分家して土井高禮を迎へりA二二一(東京市芝區白金三光町二五六電高輪七四一〇)

土井 藤平 從四位勳四等、九州帝國大學教授
妻 しづ 慶應元、八生、鳥取、吉田吉藏長女、日本女大出身
女 明四四、一一生、大阪帝大醫學部在學
男 愛子 大三、二生、福岡高女出身

土井 藤平 從四位勳四等、九州帝國大學教授
妻 しづ 慶應元、八生、鳥取、吉田吉藏長女、日本女大出身
女 明四四、一一生、大阪帝大醫學部在學
男 愛子 大三、二生、福岡高女出身

土井 藤平 從四位勳四等、九州帝國大學教授
妻 しづ 慶應元、八生、鳥取、吉田吉藏長女、日本女大出身
女 明四四、一一生、大阪帝大醫學部在學
男 愛子 大三、二生、福岡高女出身

ト之部 (土井)

(捺印は姻族關係)

君は三重縣人土井邦昌の四男にして明治十五年九月十日を以て生れ大正十年...

土井利章

正五位、子爵 舊越前大野藩 母 麗子 明四〇、七生、子爵小笠原長定祖母...

當家は土井大炊頭利勝の三男侍従利房の後なり利房父の所領を分與され一家をなし後老中に進み越前大野四萬石に加封せらる七代利忠...

土井利孝

正五位、子爵 舊下總古河藩 妻 麗子 明三六、古生、子爵土井利章姉...

當家は源頼光の支裔土岐定親の孫土井遠江守貞秀の後なり五代を経て大炊頭利勝に至る...

土井正治

千代田生命保険(互)取締役兼東京支部長、千葉縣在籍 妻 和夫 大五、一一生...

君は千葉縣人土井七郎の長男にして明治十八年五月五日を以て生れ大正十三年...

土井家は兵庫縣尼崎市外杭瀬村土着の素封家にして徳川時代には累世庄屋を勤めたる地方の名門なり...

二月一日を以て生れ昭和四年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙庶子博子(昭七、二生)妹富美子(大元、一一生)弟利正(同四、一一生)妹辰子(同五、七生)弟利大(同九、八生)妹美惠子(同二、九生)あり...

土井利美

從三位、子爵 舊三州荻谷藩 妻 愛子 明二六、一一生、子爵本多忠晃姉...

當家は土井大炊頭利勝の次男兵庫頭利長の後なり利長父の所領を分與され別一家を爲し三州西尾二萬三千石を領す...

土井八郎兵衛

從六位、三重縣多額納稅者、三重共同貯蓄銀行、百五銀行、北山素道各取締役、山林業、三重縣在籍 妻 久美子 明三六、一一生、早大出身...

當家は南朝の臣大館彦五郎氏翁の裔なり後世土井家に屬し紀州徳川家に仕へ後紀州濱中にて農作し更に二代を経て北平郡尾鷲町に居をトシ爾來相傳へて二百有餘年當主は代々八郎兵衛又は嘉八郎を襲名し舊幕時代に苗字帶刀を許され地土獨體格を與へられ大庄屋を勤

土井

若松本店主、旅館業 妻 久良子 女慶三、二生、埼玉、戸塚傳吉六...

君は千葉縣人山口與助の三男にして明治二十六年十二月二十七日を以て生れ後先代貞次之養子となり昭和三年家督を相續す...

土居剛吉郎 朝鮮無煙炭採掘取締役 妻 ヨシ 明一四、一一生、東京、五代龍作...

めたる家柄なり君は先代嘉八郎の長男にして明治五年十月十日を以て生れ同九年家督を相續す...

土井 晚翠

從三位勳三等、第二高等學校名譽教授、宮城縣在籍 妻 八枝 明一二、二生、高知、土、林並木妹...

君は宮城縣人土井七郎兵衛の長男にして明治四年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す...

土井彦治郎

土井商店専務取締役、土井重代表社員、東京府在籍 妻 ヲシ 明三三、八生、群馬、半田幸太郎...

君は高知縣土族志和寅吉の二男にして明治十一年九月二十五日を以て生れ先代美多の養子となり同三十八年家督を相續す...

土居政次

臺灣銀行臺北頭取兼秘書課長兼秘書役庶務課長、香川縣在籍 妻 フサ 嘉永三、一〇生、香川、安本惣太郎...

君は香川縣人土居善平の三男にして明治十九年八月を以て生れ同三十二年先代從姉コヨの跡を承け家督を相續す...

土居通次 正五位勳四等、前徳島縣知事 妻 キク 萬延元、二生、大阪、土、神西眞一長女...

官高知熊本佐賀各縣警務部長島根群島福井滋賀各縣内務部長に歴任し昭和四年徳島縣知事となる現時辭して閉地に在り家族は尙二男通徳(大、一〇、三)三男通明(同二、八)二女信子(同四、七)三女廣子(昭三、七)四男通泰(同五、六)あり(東京市杉並區上荻窪二ノ二五二電報室三二八一)

土居 通憲

岡山縣多額納稅者、中國鐵道株式會社取締役、岡山縣在籍
妻 しゆん 明一七、四生、兵庫、江見登一郎
男 通光 明四〇、六生、明大出身
男 清雄 大三、一生

君は岡山縣土居通信の長男にして加納文治の叔父なり明治六年九月十三日を以て生れ同三十八年兄通博方より分れて一家を創立す夙に應應義に學び土居銀行業務擔當社員備電氣會社社長吉田都會議日本柳會社取締役社長中央物産會社取締役等を歴任し現時前記會社の重役にして直接納稅千二百二十九圓を納め岡山縣多額納稅者たり曩に岡山縣より選ばれて衆議院議員たりし事あり家族は尙四男義郎(大七、八)二女櫻子(同二、〇、九)三女眞理子(同四、九)あり長女百合子(明四二、五)生、聖心高女出身(兵庫縣人岡田源吾に嫁せり(岡山縣吉田郡田邑村))

土居 通博

勳四等、岡山縣多額納稅者、中國鐵道株式會社、岡山縣在籍
妻 薰代 明九、一生、養父通信長女
男 英治 明二七、六生
男 明三〇、一生、長男英治妻、兵庫、堀眞一妹
女 富子 明三五、二生

土居 保太郎

澄宮御養育掛、宮内省圖書寮囑託
父 剛吉郎 明三九、〇生、現戸主
妻 幸子 女子學醫院出身
男 通邦 昭四、一生

土居 光知

正五位勳四等、東北帝國大學教授、法文學部勳務、宮城縣在籍
妻 れう 明二〇、九生、深見理兵衛長女
男 健一 大二、八生

土居 章

從四位、子爵、陸軍政務次官、貴族院議員、舊上州沼田藩
妻 八重 嘉永四、六生、正五位
母 貞子 明三二、〇生、白石五郎八長女
妻 實光 大一一、六生

縣下の多額納稅者たり曩に貴族院議員に當選する事二回に及ぶ大正二年貴族院議員に加はり支那滿洲朝鮮地方を視察す同年日獨事件の功に依り勳四等に叙し瑞寶章を賜はる家族は尙孫壽子(大九、一)一男、長男英治長女(同二、〇)あり二男文治(明三二、七)生、長男三、一生、同二男あり二男文治(明三三、七)生、兵庫縣人嘉納治郎右衛門の養子となり長女秀子(同二五、三)生、茨城縣人結城安次に四女貞子(同三七、一)生、愛媛縣人山中義貞に妹直(同一九、六)生、廣島縣人岡田實隆に嫁し弟通憲(同六、九)生は分家せり(岡山縣吉田郡田邑村下田邑一二五八電報室二二四)

(東京市世田谷區三軒茶屋町一三二電世田谷二八七四) 參照||伯爵二荒芳徳、子爵一柳直徳、子爵大給近孝、子爵丹羽長徳、土居剛吉郎の項

土居 利三郎

正七位、醫學博士、大阪府立市民病院副院長、醫師、香川縣在籍
妻 ケン子 明二九、八生、散置軍大將秋山好古二女、御茶の水高女專攻科出身
男 康郎 大九、二生

君は香川縣人土居光次郎の三男にして明治二十年三月を以て生れ昭和五年經堂久子方より分れて一家を創立す大正四年京都帝國大學醫學科大學を卒業東北帝大及京都帝大助教授を経て現時大阪府立市民病院副院長たり同九年醫學博士の學位を受く家族は尙長女俊子(大一一、〇)一男(昭一五、一)生、二女萬里子(昭三、一)生、三男秀郎(同四、五)生、二女萬里子(昭三、一)生、ありA二六四(大阪府南區安堂寺橋通一ノ三三電報室二七〇・五二三) 參照||茶塚原嘉一郎の項

參照||子爵大久保立、近藤利兵衛淺野義夫赤白井博之の項

土岐 榮太郎

吉見紡績株式會社取締役
父 嘉吉 安政五、二生、現戸主
母 薩摩三、六生、廣島、高島密信妹
妻 ハナ 明二〇、九生、大阪、篠崎祐七五

土岐 銀次郎

正五位勳六等、大阪府書記官、內務省書記官、和歌山縣在籍
妻 嘉平 明八、二生、現戸主
妻 嘉子 明三二、三生、養父嘉平長女
男 左千夫 大二三、七生
女 草子 大七、一生

土岐 政夫

從五位勳五等、宮内事務官兼宮内書記官、內務省監理課長
妻 トモ 明一六、六生、東京、土、亡鹽柄盛彦妹
妻 勝人 明三九、〇生、東京、土、亡山口俊太郎養女、雙葉高女出身
妻 大元、九生、養子勝人妻、茨城、藩市藏、下館高女及大妻技藝、藏高等科出身

土岐 嘉平

從三位勳二等、元京都市長、和歌山縣在籍
妻 清子 明一三、八生、和歌山、吉村茂八
妻 銀次郎 明二七、三生

土岐 儀

北海道亞細亞總督、朝鮮拓殖、臺灣製糖各總監查役、神奈川縣在籍
妻 せん 明六、一〇生、東京、土、豊島毅三女
妻 雄志郎 大二三、〇生
女 茂 明二八、二生

土岐 定應

正五位勳四等、第一徵兵隊隊長、神奈川縣在籍
妻 カメ 明一九、二生、岩手、丹下謙吉長女

土岐 喜兵衛

大阪府在籍
妻 よし 明一八、三生、奈良、杉田三代造
妻 喜森 大六、六生

土岐 定應

正五位勳四等、第一徵兵隊隊長、神奈川縣在籍
妻 カメ 明一九、二生、岩手、丹下謙吉長女

土倉光三郎

正四位勳六等、男爵
舊岡山藩國老
男 次郎 明三三、一五、正五位
男 一野 明三六、六生、二男次郎妻、岡山、小崎藤造長女

土志田與助

紀伊土地地務社長、相模鐵道、帝國塗料各務監査役、松屋、白米商
東京府在籍
妻 千代 明二三、三三、養父與助五女
男 眞次郎 明四〇、九生、明大出身
男 久江 明四三、五生、四男眞次郎妻
男 孝之助 明四三、五生、慶大出身
女 好子 大元、一〇生

土橋源七

大阪府在籍
妻 かめ 明一五、一一生、養父源七姪
男 源治郎 明三九、六生
妻 子 明三五、三三、長女字多子夫、和歌山、塚野熊之助四男
女 宇多子 明三七、一一生、養子至妻

土肥幾三郎

大阪府在籍
妻 ヤク 明二七、一一生、大阪、北島長七四女
女 千代子 大五、七生

土肥幸太郎

東京府在籍
妻 好子 明四〇、一一生、東京、田口常吉妹
男 幸一郎 昭四〇、二生

土肥俊

從五位勳五等、陸軍少佐、警務局長、大阪府在籍
妻 信子 明二六、四生、兵庫、岡本得兵衛女
女 光 大八、八生

土肥章司

正四位勳三等、醫學博士、金澤醫科大學名譽教授、東京府在籍
妻 孝 明二〇、二生、土肥健男從姪
男 淳一郎 明三九、一一生、東大醫學部皮膚科泌尿器科教室勤務、醫學士
男 健次 明四三、八生、東大醫學部齒科教室勤務、醫學士
女 和子 大八、二生、雙葉高女在學

土肥信太郎

東播合同銀行務頭、五十六銀行務頭、西脇商業銀行務頭、大阪府在籍
妻 しん 明一、九生、兵庫、田中七太郎女
男 敏夫 明二八、六生
男 茂夫 明四〇、四生
男 正二 大二、五生

土肥健男

三井物産調査課員
東京府在籍
妻 糸子 明四三、六生、新潟、山口誠太郎女
男 基男 昭六、一一生

土肥和三郎

竹伊商店
大阪府在籍
妻 トミ 明一六、四生、大阪、武田半平長女
男 虎次郎 明四二、七生
男 ふみ子 大二、一一生、二男虎次郎妻、大阪
男 三郎 大三、二生

土肥千恵子

東京府在籍
君は新潟縣人高橋俊蔵の庶子にして大正十年九月十日を以て生れ昭和六年前戸主はるの家督を相続す資産家たりA三二〇(東京市本所區千歳町一ノ三ノ一八電本所九三〇)

土肥忠右衛門

漆器商
大阪府在籍
妻 なみ 明九、三三、大阪、奥本孫三郎長女
君は大阪府人土肥忠右衛門の長男にして明治四十二年二月十三日を以て生れ同四十二年家督を相続す漆器商を營む家族は尙姉きみ(明三〇、一一生)同夫正義(同

土肥政次郎

地主
大阪府在籍
妻 みさ 明三〇、二生、大阪、土肥友次郎女
君は大阪府人土肥喜之助の五男にして明治二十六年九月六日を以て生れ大正十二年先代みさの夫となり家督を相続す地主たりA二〇六五(大阪市港區九條通四ノ四八一電西三二一)

土肥衛

醫學博士、大阪市立高等西華女學校教授、土肥婦人科病院院長、大阪府在籍
妻 ハナ 明三六、二生、大阪帝大醫學部勤務、醫學士
男 繁 明四一、一一生、長崎、富永廣藏
男 集 明四八、九生
女 田鶴子 大八、九生

土肥種雄

支店長、福岡縣在籍
妻 キク 明八、八生、福岡、三宅弘毅姪
男 文雄 明二六、二生
男 久子 明三三、一一生、福岡、土斐崎三右衛門二女
女 繁子 明三八、六生
女 秀子 明四一、五生

問田亮次

正五位勳四等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務
福岡縣在籍
妻 正五位勳四等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務

ト之部 東(崎、鹿)

妻 タン 明二、二生、佐賀、士、古賀文
男 直幹 明四、三、九州帝大醫學部在
女 文子 大三、九生、福岡縣立女子專門學

東 胤 從三位勳六等、子爵、陸軍歩兵中
妻 鏡子 明一、六、三、子爵小出英延妹
女 多喜 明三、九、九、五女多喜夫、伯爵

東 常任 正五位勳五等、選信局長、東京
妻 ヨシノ 明二、八、四、生、東京、藤田一松長

東 波治 兵庫縣在籍
妻 すゝ 明一、九、一、生、兵庫、長谷川松蔵
男 孝次 明三、六、六、生、長女トシヲ夫、大

東 昌武 生活改善中央會理事
妻 モト 明一、五、二、生、東京、梶林健三
男 城一 明三、七、二、生
女 茂 明四、〇、二、生

東 逸子 大、四、二、生
女 球子 大、五、七、生
妻 安正 大、四、一、生

東 茂徳 正五位勳三等、外務省蔵米局長
父 壽勝 安政五、三、生、現戶主
母 トメ 芳春四女

東 實 從四位勳三等、農學博士、衆議院
妻 キク 嘉永六、九、生、宮崎、士、山下良

東 吉太郎 正四位勳一等功四級、海軍中將
妻 ハル 明六、一、生、子爵海江田幸吉姉

(豪印は姻族關係)

熊本縣人山田軍太郎に嫁し弟常任(同一七、二生)は
其妻子を伴ひ分家せり(東京市牛込區若松町七三)

東 常任 正五位勳五等、選信局長、東京
妻 ヨシノ 明二、八、四、生、東京、藤田一松長

東 波治 兵庫縣在籍
妻 すゝ 明一、九、一、生、兵庫、長谷川松蔵
男 孝次 明三、六、六、生、長女トシヲ夫、大

東 昌武 生活改善中央會理事
妻 モト 明一、五、二、生、東京、梶林健三
男 城一 明三、七、二、生
女 茂 明四、〇、二、生

東 逸子 大、四、二、生
女 球子 大、五、七、生
妻 安正 大、四、一、生

東 茂徳 正五位勳三等、外務省蔵米局長
父 壽勝 安政五、三、生、現戶主
母 トメ 芳春四女

東 實 從四位勳三等、農學博士、衆議院
妻 キク 嘉永六、九、生、宮崎、士、山下良

東 吉太郎 正四位勳一等功四級、海軍中將
妻 ハル 明六、一、生、子爵海江田幸吉姉

東 胤 從三位勳六等、子爵、陸軍歩兵中
妻 鏡子 明一、六、三、子爵小出英延妹
女 多喜 明三、九、九、五女多喜夫、伯爵

東 常任 正五位勳五等、選信局長、東京
妻 ヨシノ 明二、八、四、生、東京、藤田一松長

東 波治 兵庫縣在籍
妻 すゝ 明一、九、一、生、兵庫、長谷川松蔵
男 孝次 明三、六、六、生、長女トシヲ夫、大

ト之部 東(總)

等書記官米國在動大使館參事官獨逸國在動を経て昭和
八年外務省蔵米局長に任じ今日に至る(東京市麻布區

東 胤 從三位勳六等、子爵、陸軍歩兵中
妻 鏡子 明一、六、三、子爵小出英延妹
女 多喜 明三、九、九、五女多喜夫、伯爵

東 常任 正五位勳五等、選信局長、東京
妻 ヨシノ 明二、八、四、生、東京、藤田一松長

東 波治 兵庫縣在籍
妻 すゝ 明一、九、一、生、兵庫、長谷川松蔵
男 孝次 明三、六、六、生、長女トシヲ夫、大

東 昌武 生活改善中央會理事
妻 モト 明一、五、二、生、東京、梶林健三
男 城一 明三、七、二、生
女 茂 明四、〇、二、生

東 逸子 大、四、二、生
女 球子 大、五、七、生
妻 安正 大、四、一、生

東 茂徳 正五位勳三等、外務省蔵米局長
父 壽勝 安政五、三、生、現戶主
母 トメ 芳春四女

東 實 從四位勳三等、農學博士、衆議院
妻 キク 嘉永六、九、生、宮崎、士、山下良

東 吉太郎 正四位勳一等功四級、海軍中將
妻 ハル 明六、一、生、子爵海江田幸吉姉

士族工學士川原五郎に同徳(同二、七生)は東京府土族松野篤義長男法學士龍雄に同みつ(同三〇、八生)は同府人法學士農學士山内勝巳に嫁せりA二二六二(東京市赤坂區青山南町二ノ六六電青山三三〇)

東條 英機

正五位勳三等、陸軍少將、歩兵第二十四旅團長、東京府在籍
妻 カツ 明二、一〇生、福岡、伊藤万太郎長女、日本女大出身
男 英 隆 明四、五、近海郵船社員
男 輝 雄 大、三、九、府立第六中學校出身
女 光 枝 大、七、二、生

君は東京府土族故陸軍中將東條英機の三男にして明治十七年十二月三十日を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十八年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任じ昭和八年三月陸軍少將に昇進す其間陸軍省整備局局長陸軍通信技術部員歩兵第一聯隊長參謀本部課長陸軍審議會委員陸軍兵器本廠附陸軍士官學校幹事兼同校教授部長等に歴補し同九年八月歩兵第二十四旅團長に補せらるる家族は尙二女滿喜枝(大、一、二、八生)三男敏夫(同、一、四、一、生)三女幸枝(昭四、一、〇生)あり(久留米市楠原町二丁目電二五四)
參照||松野龍雄の項

東條 正平

東京郊外地、慶南合同乗合自動車各務社長、共榮自動車株式會社長、朝日聯合自動車株式會社取締役、朝鮮鐵道株式會社取締役、朝鮮鐵道株式會社理事、朝鮮鐵道株式會社理事、朝鮮鐵道株式會社理事、朝鮮鐵道株式會社理事
妻 トク 女 明一、七、三、生、徳島、佐藤源藏三男
男 正 利 大、五、一、一、生

東條 操

正五位勳六等、學習院教授
東京府在籍

妻 と き 女 明一、九、三、生、富山、神田惣平二男
男 一 郎 大、六、二、生

東條 良太郎

醫學博士、東條産科婦人科病院院長、兵庫縣在籍
妻 ヒサ 明一、三、五、生、岩手、中原正虎姉
男 龍 平 明三、四、八、生
男 大 平 明三、七、二、生
女 周 平 明三、八、一、〇生

東代 清次郎

東洋興業、新興水産各株代表取締役、東洋興業株式會社取締役、日本亞細亞石油株式會社取締役、大阪府在籍
父 龜 吉 安政六、九生
母 トク 慶應三、三、生、大坂、磯手和平姉
妻 千代野 明三、一、二、生、大坂、島瀨治郎
男 清 大、一、一、一、五、生

東松 松兵衛

地家主、愛知縣在籍
男 泰 三 明一、六、一、〇生

當舍 榮吉

本宗商店、唐木村木商、大阪府在籍
妻 まさ 明一、七、一、生、兵庫、東野富藏妹
男 惣 一 明三、九、一、二、生
男 一 雄 明四、一、一、〇生
女 喜 子 明四、四、五、生
女 壽 惠 子 大、六、三、生

當間 重信

沖繩縣多額納税者、日本生命保險會社琉球代理店、沖繩縣土族
妻 マウシ 明一、六、六、生、沖繩、古波岐雄施
妻 ツル 妹 三、一、五、生、沖繩、高江洲カメ
男 重 佑 大、一、二、一、生

四(大坂市東區道修町二ノ四〇電本局二六五)
參照||中井徳太郎の項

東谷 傳次郎

從五位勳六等、會計検査院書記官、廣島縣在籍
妻 光 子 明二、九、九、生、廣島、中井千代作二女、東京女高師出身
男 秀 夫 昭三、二、生

東福寺 正雄

三菱鐵業參事、技術部副長、東京府在籍
妻 なか 女 明一、四、七、生、東京、小山朝寛二男
男 一 雄 明四、一、〇生

東松 泰三

地家主、愛知縣在籍、東松探龍莊、妻 さく 明二、四、三、生、愛知、森榮七妹
君は愛知縣人東松松兵衛の長男にして明治十六年十月二十一日を以て生れる地主にして愛知縣多額納税者に列し直接國稅千六百二十三圓を納むに堀川貯蓄銀行取締役たりし事あり家族は尙長女三佐子(大、一、〇、三、生)あり(名古屋市西區笠三ツ蔵町一ノ一〇電本局一八三八)

遠坂 伊太郎

群馬縣多額納税者、染布工業株式會社取締役、群馬縣在籍
妻 アイ 明六、一、二、生、群馬、金谷賀一郎
男 良 一郎 明三、三、一、生、長男良一郎妻、森馬、木村吉三郎二女
男 富 子 群馬、明三、七、一、一、一、五、生

遠田 淳

日本銀行大阪支店調査役、東京府在籍
妻 久 米 明三、五、一、一、生、神奈川、榎本師美八女

遠田 注

東京府多額納税者、地主、東京府土族
妻 な を 安政四、六、生、東京、土、長島常
子 園 子 明四、三、九、生、生母、廣木マツエ
君は東京府土族遠田注の男同淳の兄にして明治二十二年六月三日を以て生れ大正十三年家督を相續す現時東京府多額納税者にして直接國稅五千七百四十四圓を納め地主たり父注は林河海に就き醫術を研究し脚氣治療及眼科を修得し遠田脚氣院長として知られたる家族は尙姉清(明二、〇、九、生)妹花(同三、三、一、生)同春(同三、九、三、生)叔母ひろ(同元、七、生)あり(同三、五、三、生)は分家し姉すみ(同二、一、一、一、生)は男爵赤松範三

遠田 富之助

藥劑師、藥種商、山形縣在籍
妻 つ ま 明二、一、一、生、山形、土、相馬俊雄二女
男 信 太郎 明二、六、一、二、生、金澤醫專藥學科出身
男 はち せ 明二、九、九、生、長男信太郎妻、山形、佐藤仁助長女
男 敬 治 郎 明三、〇、一、二、生、明大法科出身
男 か つ 明三、八、一、一、生、三男敬治郎妻、東京、前川滿壽雄妹
男 亮 三 郎 明三、四、九、生
男 か つ 明三、七、四、生
男 選 漸 明四、四、五、生

遠矢 軍生

日本水電、南九州水力電氣各務取締役、鹿児島縣土族
妻 トメ 明一、五、一、生、鹿児島、阿蘇谷侃
男 良 明 明四、三、一、一、生
妻 作 樂 大、三、二、生、長男良明妻、鹿児島、向江屋長女
女 房 大、五、四、生

(同二七、一、生、歩兵少佐、近衛歩兵第三聯隊長)は其の家系を継ぎ同良介(同三六、一、生)も同縣人河俣アイに叔父春之進(安政六、二、生)は其妻アイ(明三、二、生、鹿兒島、土、川俣新吉養子)と共に同縣人川俣チカに各養子となり弟良介(同二九、八、生、騎兵大尉、滿洲熱河騎兵第二十六聯隊中隊長)は同妻元(同四〇、一、生、熊本、和田定美從姉)及其一子を伴ひ叔父才二(同元、二、生)同妻イマ(同九、八、生、鹿兒島、松崎正雄妹)は其子女を伴ひ各分家せり(鹿兒島縣伊佐郡妻刈村)

參照 阿蘇谷侃の項

遠山 郁三

正四位勳二等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、宮内省卿託、岐阜縣在籍

妻 千代 明二三、八生、岐阜、栗田昇妹

男 郁雄 大三、七生

君は岐阜縣人遠山道榮の二男にして明治十年三月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十五年東京帝國大學醫學部卒業し更に同大醫院に入り同四十年仙臺醫學專門學校教授に任じ大正三年醫學博士の學位を受け同六年皮膚科學研究の爲末瑞英に留學し留學中同七年東北帝國大學醫學部教授に任ぜられ同十五年東京帝國大學教授に轉任し現に同大學醫學部勤務にして宮内省卿託たり家族は尙四女光代(大九、一、生)五女まり子(同二、一、生)あり長女節子(明四一、三、生)は茨城縣人武藤完雄に二女操(同四三、二、生)は三重縣人森田操に妹とし(同七一、一、生)は石川縣土族武部龜松に嫁し兄爲一(同七七、二、生)同妻ヨネ(同五五、八、生、大阪)杉原勝二(同七九、二、生)は其子女を伴ひ弟道榮(同一一、九、生)同妻ふみ(同二二、九、生、愛知、南部康彦妹)は其子女を伴ひ各分家し三女みち子(大五、三、生)は東京府人山田恒太郎長男の養子となり一〇(東京府人板橋區練馬町一ノ三四八一電線馬五五)

遠山 市郎兵衛

遠山商店代表取締役、鏡子醬油、東京護國工業各種取締役、第一製藥、木村實業各種監査役、徳島屋、酒餐、油問屋、東京府在籍

妻 清太郎 明二七、一〇生、二女喜代子、和歌山、鹽路義一郎長男

ト之部 遠山

君は和歌山縣人濱口熊五郎の五男にして同吉兵衛の弟同録之助木村右衛門の兄濱口吉右衛門の叔父同正一同麟藏の養叔父に當り明治八年二月十七日を以て生れ同三十一年先代サタの夫となり家督を相續し前名解助を改む同年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す徳島縣と稱し酒餐油問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫市郎(大一二、一、生、養子清太郎長男)同節子(同三一、一、生、同長女)同雅子(昭二、三、生、同二女)同阿子(同五、六、生、同三女)同清子(同七、八、生、同四女)同忠子(同九、四、生、同五女)あり三女光榮(明四三、二、生)は分家し養妹ナヲ(同二八、七、生)は東京府人吹田與助に嫁せりA一二八九(東京府日本橋區北新町三電場町三三六)

遠山 鏡太郎

地主

妻 はま 明一八、一〇生、東京、倉本文藏

男 三郎 明四二、七生

君は東京府人淺香才次郎の二男にして明治十年二月六日を以て生れ同三十二年先代金七の養子となり同四十二年家督を相續す地主たり家族は尙七男金彌(大一一、四、生)八男恒(昭五、一、生)ありA四四六(東京府瀧野川區田端三九電小石川七七)

遠山 元一

川島屋商店、遠山信成、東株代行業務社長、共同證券、東株共榮各取締役、東株短期取引員組合委員長、同國債取引員組合副委員長、東京株式取引所取引員埼玉縣在籍

妻 み 明元、四生、埼玉、鈴木庸行三女

男 一行 大一、七生

君は埼玉縣人遠山三三の長男にして明治二十三年七月二十一日を以て生れ大正八年家督を相續す東京株式取引所一般短期國債各取引員にして現に前記同取引所取引員組合委員長に當り外各會社の重役たり家族は尙長女貞子(大九、一、二、生)二男信二(同一一、八、生、三男三景養子、長野、小島鐵次郎甥)あり(長野縣下伊那郡飯田町電六四一)

遠山 道

從四位勳三等、陸軍主計監、伯爵久松家々令、五十二銀行監査役、東京府在籍

妻 鶴 明三三、一〇生、東京、土、中島親之四女

養子 健男 明三三、一〇生、養子御幸夫、愛媛、田内逸有四男

養子 御幸 明四〇、六生、養子健男妻、東京本多勝妹

君は愛媛縣土族遠山景讓の三男にして明治四年四月を以て生れ昭和四年經家遠山氏を再興す明治三十四年陸軍三等主計に任じ大正十五年陸軍主計監に果進す其間第二師團經理部長千住製鐵所長等を経て陸軍被服廠廠長となり昭和三年朝鮮軍經理部長に轉じ同五年兼備役編入仰付られ現時伯爵久松家々令及五十二銀行監査役たり家族は尙孫順子(昭五、一、生、養子健男長女)同節子(同六、七、生、同二女)あり(東京府市杉並區阿佐ヶ谷五丁目)

遠山 芳三

遠山證券社長、開運ビルディング取締役、遠山商店、東京株式取引所取引員、東京府在籍

妻 キン 明二八、八生、東京、市川里吉三女

男 雄三 明四四、八生

男 大元、九生

君は埼玉縣人遠山三三の二男にして明治十八年一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す東京株式取引

ト之部 遠山

二、八生)三男直道(同四一、一、生)弟浩三(明三一、一、生)あり妹しず(同二六、一、生)は川島屋商店取締役山下經治に同する(同三五、四、生)は岡山縣人高橋五六に嫁し弟芳雄(同二九、一、生)は同妻喜久子(同三八、一、〇、生、茨城、立川恒次郎長女)を伴ひ埼玉縣人遠山時次郎の養子となりA三九一四(東京府日本橋區坂本一七電場町五七五七七)

遠山 孝三

愛知縣多額納稅者、内外紡績、津島染色整理各種社長、昭和毛糸紡績取締役、遠山商店代表社員

妻 しげを 明三一、一二生、愛知、淺野清助三女

男 孝平 大六、六生

女 眞紀子 大三、一〇生

君は愛知縣人先代孝三の長男にして明治十二年九月五日を以て生れ大正八年家督を相續し前名孝一を改め養子名を継承し遠山商店代表社員にして傍ら前記各會社の重役に擧げられ愛知縣多額納稅者にして直接國稅七千五百七十圓を納む家族は尙三女貞子(大九、六、生)二男邦孝(同二二、一、生)四女常子(同四一、七、生)三男利三(昭二、一、〇、生)あり長女きぬ子(大元、九、生)は分家し弟三郎(明二七、一、生)は愛知縣人遠山順治郎の養子となり(愛知縣海部郡津島町市江村東保一〇電二〇〇)

遠山 茂

正五位勳五等、檢事、七尾區裁判所檢事、愛知縣地方裁判所七尾支部檢事、神奈川縣在籍

妻 かい 明二七、四生、東京、太田甚平二女

男 嘉雄 明四四、一〇生

女 美津子 大四、四生

君は神奈川縣人遠山嘉又の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任ぜられ同館津山岡山玉島高梁新見笠岡御嵩岐阜各區安濃津津地方若見澤區御津地方及高田區新海地方同支部等各裁判所檢事に歴補し現時前記の官職に在り家族は尙弟登(明二〇〇)

遠山 芳藏

愛知縣在籍

妻 まち 萬延元、六生、愛知、加藤善兵衛二女

男 芳治 明三三、一〇生

男 芳治 大九、一〇生

君は愛知縣人先代芳藏の二男にして明治二十八年九月十日を以て生れ同三十九年家督を相續し前名芳太郎を改め養子名を継承し家族は尙長女富美(大一一、〇、四、生)二男英二(同一一、一、〇、生)二女登喜子(昭五、三、生)三女昭子(同六、三、生)三男祐三(同八、九、生)あり(名古屋府市西區東方町二ノ二電本局二五三〇)

遠山 芳兵衛

大和屋、持地商、東京府在籍

妻 トク 明六、七生、東京、指田三五郎長女

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

男 芳治 明三三、八生

二二、九生)同妻雪子(同三四、一、生、奈良、辻保造三女)及其子女あり弟嘉勝(同二〇、二、生)は小川家を繼ぎ妹環子(同二四、一、二、生)は埼玉縣人内野昇二に同環子(同三三、一、〇、生)は茨城縣人柴田兼四郎に各嫁せり(石川縣七尾町七尾區裁判所檢事局内)

遠山 信太郎

東京府瀧野川區會議員、地主、東京府在籍

妻 津や 明二四、三、生、東京、米元房太郎四女

男 泰司 明三六、一、二、生

男 鈴子 明四二、一、生、長男泰司妻、東京淺野信吉二女

女 ひめ子 明四四、五、生

君は東京府人遠山力五郎の長男にして明治十三年二月十七日を以て生れ大正六年家督を相續す現時瀧野川區會議員にして地主たり家族は尙三男榮光(大四、一、〇、生)孫公人(昭三、一、生、長男泰司長男)同方人(同五、五、生、同二男)同九人(同七、七、生、同三男)ありA三五三(東京府瀧野川區田端二六)

遠山 健彦

從四位、子爵、舊瀧州苗木藩、京都府在籍

妻 賀壽子 明三五、六、生、子爵日野西資博三女、京都府立第一高等女出身

當家は加藤次景廉の從孫にして景廉建久六年美濃國遠山莊を領し子孫分れて七流となる當家は其一にして世々苗木城に居り久兵衛尉友政に至る友政徳川氏に仕へ軍功を以て舊領苗木一萬五百二十一石に封ぜらる夫より十二代を経て友政に至り明治十七年子爵を授けらる君は友政の男にして明治三十年七月十三日を以て生れ先代兄友郷の養子となり大正九年襲爵す同十年京都帝國大學法學部政治科を卒業す家族は尙養妹眞子(大五、九、生)同和子(同八、二、生)あり姉常子(明一七、二、生)は福岡縣人別府三穂三郎に妹良子(同三二、一、〇、生)は工學博士妻木頼黄長男法學士二郎に嫁せり(大阪府豊能郡藤田村)

遠山 方景

信濃時事新聞社事務取締役、長野縣在籍

妻 ちづ 明一三、五、生、長野、新井松太郎妹

四生、山梨、早川清妹)と共に各分家セリA二八四B八一(東京市神田區岩本町一三ノ三電浪花三五八〇)

頭山 滿 志士 東京府士族 妻 ミネ 長女、九生、福岡、士、頭山和中 男 立助 明二、四、一、生 男 ツル 明二、九、一、生、長男立助妻、福岡 男 秀三 明三、六、四、生 男 乙次郎 明四、〇、二、生

君は福岡縣士族簡井元策の二男にして安政二年四月を以て生れ明治六年先代源六郎の養子となり家督を相續す夙に玄洋社を組織し同十八年福岡縣知事安場保和古莊嘉門佐々友房を授け九州國權黨の統一を圖る後福岡新報を發刊して帝國主義を唱導し爾來政界に馳騁すること多年國士を以て目せらる長女タツ(明二、九、一、生)は福岡縣士族大藤直哉に二女トラキチ(明二、二、四、生)は祖父簡井龜策二男條之助に三女シヅカ(明三、八、六、生)は福岡縣人松原彦介に五女若生(明三、五、二、生)は同縣人林秀親に嫁せり(東京市澁谷區常盤松一二電青山五三二七)

藤堂 大藏 日之出汽船、相模鐵道、順安砂金 淺野雨龍炭礦、淺野石材工業、信越木材、千代田石油各種取捨役、鐵道コンクリート、淺野石炭部各種監査役、淺野同族務支配人 三重縣士族 妻 まさち 明二、三、三、生、靜岡、士、小橋光 男 太郎 大五、三、生、慶大在學

君は三重縣士族藤堂八座の長男にして明治九年三月十三日を以て生れ同三十四年家督を相續し同三十二年東京高等商業學校を卒業し現時淺野同族會社支配人にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙三男三郎(大九、一〇、生、府立一中在學)六女和子(同二五、六、生)あり長女愛(明四、一、六、生、聖心女子學院出身)は山口縣人高橋芳光に三女貞(同四、三、一、生)は東京府人山本徳助に四女信(同四、四、八、生)は三重縣士族北村鏡一に嫁せり

堂本 賴次 本商會代表取締役、堂本商會 名代表社員、大阪府在籍 妻 ヴァサ 明三、七、生、和歌山、月木既市 長女、奈良高女出身

君は和歌山縣人堂本吉之進の二男にして明治十七年一月七日を以て生れ兄嘉市方より分れて一家を創立す夙に長崎高等商業學校を卒業し現に株式會社堂本商會代表取締役並に合名會社堂本商會代表社員たりA四九三(大阪府南區北榮屋町九電南二二六六)

道家 齊次 北海道拓殖銀行貸付課長、東京府在籍 妻 金榮 明二、八、三、生、京都、横川政壽郎 二女

君は東京府士族道家齊の二男にして明治二十五年四月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す父齊は夙に農商務省に出仕し内閣總理大臣秘書官兼内閣書記官兼農務院書記官兼農務省官内閣法制局參事官農務省官畜産局長農務局長等に歴任し後日本勸業銀行理事兼産業組合中央會理事副會頭に推され大正十二年貴族院議員に勅選せられ勸業顧問に任ぜられ大正二十年京都市帝國大學經濟學部經濟科を卒業し同年北海道拓殖銀行に入り同行秘書課長同行東京支店支配人を經て現に同行本店貸付課長たり妹梅子(明二、九、三、生、女子學習院出身)は實業家鈴鹿保家に同竹子(同三、一、六、生、出身校同上)は工學士田島武夫に同鶴子(同三、五、一、生、出身校同上)は法學士永田忠太郎に同龜子(同三、五、一、生、出身校同上)は法學士小濱八彌に同松子(同三、六、二、生、出身校同上)は工學士水谷富起に嫁し弟齊四郎(同四、二、一、生)は兵庫縣人末高興次郎の養子となり(札幌市大通四一五電五五〇)

道家 鉞次郎 十洲樓、料理業 愛知縣在籍 妻 もと 明二、五、五、生、兵庫、西尾藤吉長 女 二

りA一〇九三(東京市目黒區下目黒三ノ六五〇電高輪一四五六)

藤堂 高紹 從三位、伯爵 舊津藩 妻 信子 明一、七、七、生、伯爵眞田幸治叔母 女 高延 大六、七、生 女 本子 大六、六、生 女 國子 大四、一〇、生

當家は舍人親王の曾孫中原眞人長谷の木葉藤堂石見守友章より十二世和泉守高虎の後より高虎豊臣氏に仕へ朝鮮の役拔群の功あり後徳川氏に屬し家康の器重するところとなり勢州の地三十二萬石を領す夫より十代を經て先代高澤に至り明治十七年伯爵を授けらる君は其男にして明治十七年七月二十七日を以て生れ同二十三年學府付けらる夙に學府院を卒業し英國に航し劍橋大學に勉學する事三年同四十年歸朝し義に式部官に任ぜらる書畫美術に趣味を有し豊饒多し家族は尙五女千賀子(大一〇、五、生)二男高弘(同二、六、生)あり長女良子(明四、四、七、生)女子學府院高等科出身は公爵岩倉具兼に姉姪子(同二、五、五、生)は子爵牧野忠篤に嫁せりA三一七(東京市中野區小瀧町三五電四谷三三七) 參照II公爵岩倉具兼、伯爵眞田幸治、子爵牧野忠篤、參照II伯爵大村純毅、伯爵島津久範、子爵本多忠昭の項

藤堂 高伸 藤堂伯爵家分家 妻 いく 明一、五、一〇、生、祖父高節二女 當家は藤堂和泉守高虎の義子宮内少輔高吉の後なり高吉實は丹羽長秀の三男にして高虎の養子となり後分れて一家を立て伊賀名張にて二萬石を領す相傳へて先代高成に至る高成竹内子爵家より入りて當家を繼ぎ明治三十九年祖父の功に依り特旨によりて當家に列し男爵を授けらる同四十四年以來貴族院議員に當選する事三回に及び又諸銀行會社の重役たり君は其長男にして子爵竹内惟城の從弟なり大正四年七月六日を以て生れ昭和五年十一月襲爵被仰付姪子(明四、一、三、生、女子學府院出身)は子爵酒井忠英に叔母妻(同二、九、三、生)は子爵加藤克明に嫁せり(東京市中野區小瀧町三五電中野三三三六)

道免 作郎 正五位勳五等、判事、熊本區裁判所 大分縣在籍 妻 デン 明二、三、一〇、生、大分、諫山龜松 女 和子 大五、一、一、生 女 久士 大五、一、一、生

君は大分縣人道免由之助の長男にして明治十六年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十年明治大學を卒業し外務省参事となり大正三年判事登用試験に及第す同六年検事に任ぜられ後判事に轉じ爾來廣島地方兼同區三次下關各區鳥取地方兼同區佐世保區兼長崎地方同支那鹿兒島地方各裁判所判事佐賀區監査判事女美代子(大一〇、七、生)三女保子(同二、一、一、生)四女賀子(昭六、六、生)あり(熊本市熊本區裁判所内)

梅野 彌太郎 川村屋、白米商 東京府在籍 妻 左津 文久元、七、生、東京、眞田庄之助 妹 明一、三、一〇、生、東京、丸山武久 叔母 叔母

君は廣島縣人梅野兵衛の長男にして明治六年二月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十九年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り現時貝島合名會社専務理事たり兼に大辻岩屋炭礦貝島商業會社の重役たりし事あり弟嘉一(明七、九、生)同妻ステ(同二、三、一、生、佐賀、士、中島宜作妹)は其子女を伴ひ分家せりA二五〇(東京市大森區山王二八四三電大森二四八四) 參照II男爵瓜生外吉の項

時岡 正忠 東洋鈔券常務取締役 兵庫縣在籍 妻 鶴吉 慶應二、八、生、京都、大槻安兵衛 三男、現戶主 養母 のぶ 明九、一〇、生、大阪、戸田半七二 女 明二、八、一、生、養父鶴吉長女、第一神戶高女出身

參照II子爵加藤克明、子爵酒井忠英、子爵竹内惟城、參照II伯爵島津忠永、參照II男爵本堂親雄の項

藤堂 高寛 正四位、子爵 十五銀行員 舊勢州久居藩 妻 俊子 明二、一、一、生、子爵森俊成叔母、跡見女學校出身 女 武子 明三、二、三、生、子爵小笠原生長 男 高銳 大一一、一〇、生

當家は伊賀少將藤堂高次の三男伊佐守高通の後なり高通宗家より勢州久居の地五萬三千石を分與せられ一家をなす夫より十六代を經て先代高義に至り明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして明治二十七年七月二日を以て生れ同三十八年家督を相續し襲爵仰付けらる現時十五銀行員たり家族は尙二女喜美子(大一〇、一〇、生)あり姉芳子(明二、六、五、生、跡見女學校出身)は伯爵大原重明に姉姪子(同二、九、一〇、生、出身校同上)は子爵大島陸太郎に從姉子(同二、九、一〇、生、上伯母す子二女)は子爵青山幸直先代家室に嫁し從兄高峯(同二、八、八、生、同長男は分家せりA七五九(東京市本郷區駒込林町一五三電小石川八三九) 參照II伯爵大原重明、子爵青山幸直、子爵小笠原生長、世、子爵大島陸太郎、子爵森俊成、佐々木八十八、參照II藤堂大郎、參照II村泰一の項

堂本 貞一 從五位勳六等、朝鮮總督府事務官 兼外務事務官、朝鮮總督府外事課 勤務、東京府在籍 父 源吉 慶應三、三、生、兵庫、玉越佐治兵衛長三、現戶主 妻 はつ 明一、四、五、生、東京、栗原勝之助 長女 明四、四、四、生、宮城、澁谷福四郎 三女

君は東京府人堂本源吉の長男にして明治二十六年十二月を以て生れる大正五年東京外國語學校獨逸語學科を卒業し同八年高等試験に合格す爾來通信書記朝鮮總督府通信課事務官同道事務官忠清北道慶尙北道各財務部長を歴任し昭和四年同職に任ぜられ七川税關長を命ぜられ同六年一月新義州税關長に轉じ現時朝鮮總督府事務官兼外務事務官にして朝鮮總督府外事課勤務たり

梅野 勝治 三井生命保險株式會社支店長 石川縣在籍 妻 まつ 安政五、一、生、石川、山本太一妹 女 嘉美 明二、七、八、生、石川、石田崇山二 男 龍太郎 大五、二、生

君は石川縣人梅野久五郎の男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に三井生命保險會社に入り金澤支店長を経て現時同社名古屋支店長たり家族は尙二男大二郎(大九、七、生)長女美和子(同二、三、八、生)三男純三(昭四、一、一、生)A二五七(名古屋市中區千種町一ノ神七七電東三七八)

梅野 明二郎 正七位、農學博士、日本鐵道工業 採取取締役社長、萬歳鐵道採取取締役 東京府在籍 妻 はつ 明一、六、一、生、東京、士、小西信 長女、東京女高師出身 女 富美子 明四、五、四、生 女 榮子 大三、一、生、御茶の水女高出身

君は新潟縣人梅野喜代治の二男にして明治十五年十二月六日を以て生れ大正八年分れて子の死跡を相續す明治四十二年東京帝國大學農學部農藝化學科を卒業し鐵道學を専攻す現時前記各會社の重役たり兼に農學博士の學位を授けらる(東京市豊島區巢鴨町七ノ一六八六電大塚一一五八)

行學校研究部主事兼同校教官飛行第一聯隊長所陸軍飛行學校教育部長兼同校研究部員等に補せられ明野陸軍飛行學校長を経て昭和九年現職に轉ず趣味に釣魚あり家族は尙三女久美子(六一五、二生)四女華子(昭三、三生)二男輝尙(同六、二生)五女富美子(同八、一生)あり姉芳子(明一五年生)は子爵朽木綱博先代嗣貞に妹貞子(同一年生)は侯爵蛸須賀正氏先々代茂留の養子となり東京府人吉井信昭に同保子(同二、一、六生)は子爵森清明に同鈴子(同二、四、一、二生)は小原十三司に同重子(同二、六、六生)は福井縣士族坪田信吉に養子知雅子(同三、五、一、一、生)子爵松平忠諒(同三、吉西勝男に嫁し弟守(同三、九、九生)同妻裕香子(同三、〇、一、〇生)子爵松平忠諒、學習院女學部出身)は其子女を伴ひ分家し弟明(同二、四、三、三生)は島根縣士族川上ハルに同光は松尾家に同雄吉は山田家に各養子となれり(埼玉縣入間郡所澤町所澤陸軍飛行學校内)

參照 侯爵蛸須賀正氏、子爵朽木綱博、子爵松平忠諒、子爵森清、坪田信吉の項

徳川 義親 正三位勳三等、侯爵、貴族院議員、東京府多額納稅者、八雲高等國民學校長、舊尾州家

妻 米子 明二五、三、生、先代義親長女

男 義知 明四四、五、生

女 百合子 大六、八、生

當家は太政大臣徳川家康の第九子大納言義直の後なり義直六十一萬九千五百石に封ぜられ尾州名古屋に在城し徳川宗家親藩の筆頭たり夫より十三世を経て慶應に至り王政復古の際に松平慶永等と共に王事に盡す先代義親其後を繼ぎ明治十七年侯爵を授けらる君實は故從一位松平慶永の五男にして侯爵松平康昌の大叔父なり明治十九年十月五日を以て先代義親の養子となり同十四年前名錦之丞を改め同年五月家督を相繼ぎ侯爵に昇る同十四年東京帝國大學文科大學史學科を大正三年同理科大學植物科を各卒業し海外に遊び歸朝後學習院講師となり同十年主簿官に任じ同十四年官を辭す又自ら生物學研究所を設け或は史學の研究に専身す現に貴族院議員にして又公立八雲高等國民學校長たり東京府多額納稅者にして直接國稅一萬九千六百四十四圓を納む長女絹子(大、一、〇生)は侯爵大炊御門經國に二女春子(一生)は侯爵西郷吉之助に嫁し三男義龍(同五、一、一、生)は分家して男爵を授けらるA一七九(明一、一、一、生)は分家して男爵を授けらるA一七九

參照 侯爵西郷吉之助、侯爵大炊御門經國、侯爵松平康昌、伯爵大給左男爵徳川義親、公卿三條公卿、侯爵大炊御門經國、子爵戶田保保、子爵島田直、子爵藤波茂時、子爵松平慶永、男爵徳川喜常、男爵三井八郎右衛門、男爵毛利元良の項

徳川 義光 從五位、公卿、舊將軍家別家

當家は先々代從一位勳一等慶喜より創まる慶喜は水戸中納言齊昭の第七子にして初め一橋家を繼ぎ後慶應二年將軍家茂の後を襲ふて十五代將軍となり翌三年政權を奉還し將軍職を辭し明治元年家茂を田安龜之助に譲りて退隱す同十五年公卿を授けられ別一家を起す七男慶久其の後を繼ぎ東京帝國大學法科大學を卒業し貴族院議員に列し華族世襲財產會議議長に擧げらる君は其の長男にして大正二年二月六日を以て生れ同十一年家督を相繼ぎ養子附けらる家族は妹喜佐子(六一〇、一〇生)同久美子(同二、一、九、九生)あり伯父厚(明七、二生)は分家して男爵を授けられ其子喜輪當主にして叔父誠(同二〇、一〇生)も亦男爵を授けられて一家を創立し伯父仲博(同二〇、八生)は出でて侯爵池田家を繼ぎ叔父精(同二、一、八生)も亦伯爵勝家を相繼ぎ其長男芳孝當主たり姉喜久子(同四、四、一、二生)は高松宮宣仁親王殿下に伯母經子(同二、一、五、九生)は伏見宮博恭王殿下に各妃とならせられ同浪子(同三、一、一、生)は男爵松平齊光先代齊に同國子(同二、一、五、一、生)は子爵大河内輝耕に同糸子(同二、一、六、九生)は侯爵四條隆愛に嫁せりA一七五一〇(東京市小石川區第六天町五四電大塚五五五)

參照 高松宮家、伏見宮家、侯爵池田仲博、侯爵四條隆愛、伯爵大木喜福、伯爵勝芳孝、子爵大河内輝耕、男爵徳川喜常、男爵徳川誠、男爵松平齊光の項

徳川 頼貞 正四位、侯爵、貴族院議員、東京府多額納稅者、日本赤十字社常議員、舊尾州家

妻 爲子 明六、一、一、生、先々代茂承長女

男 頼昭 大六、一、二、生

女 頼子 明三〇、二、生

當家は太政大臣徳川家康の第十子大納言頼宣の後なり頼宣五十五萬五千石に封ぜられ紀州和歌山に住す累世徳川宗家の親藩として重きをなし將軍吉宗家茂は實に當家の出なり十代を経て從一位茂承に至り明治十七年侯爵を授けらる先代頼倫田安家より入つて其後を繼ぎ宗秩寮總裁貴族院議員となり又力を入つて其後を繼ぎ當家を創立し南奏英會總裁日本圖書協會總裁東京地學協會會長等に擧げらる君は其長男にして公卿徳川家達伯爵徳川達孝の弟徳川家正の從弟なり明治二十五年八月十六日を以て生れ大正十四年家督を相繼ぎ養子附けらる明治四十五年學習院を卒業し大正二年英國劍橋大學に留學すること三年同十年再び夫妻にて歐米に遊學し歸朝後南奏英會音樂會館等を経営し専ら音樂藝術普及事業並英事業等に盡す其後昭和元年

には南洋視察旅行をなし同四年三度夫人同伴歐米に出張す其間同年巴里開催の萬國音樂聯盟會議に日本代表として又伯林開催の萬國議院商會會議に五年倫敦開催の列國議會同盟會議並ブラッセル開催の萬國議院商會會議に各帝國貴族院代表として夫々參列し歸途南米を視察して同六年歸朝す現時東京府多額納稅者に列し貴族院議員財團法人南奏英會總裁及松阪徳義社總裁日本赤十字社常議員日本浮世繪協會會長品川區教育會長日希協會會長及び東洋汎太平洋俱樂部名譽副會長長岡文化振興會日伯中央協會日波協會各副會長たり家族は尙長女實子(六一五、六生)あり養子附けらる(明七、一、一、生)は侯爵伊達宗彰先代宗彰に同保子(同八、一〇生)は子爵松平頼和に嫁せりA二二二一五(東京市品川區上大崎三ノ三三三電高輪二四二二)

參照 公卿島津忠重、公卿徳川家達、伯爵徳川達孝、子爵松平頼和、徳川家正、久遠宮家、山階宮家、公卿島津忠重、伯爵島津久直、伯爵久松定謨、伯爵松平直亮、伯爵濱口直亮、子爵久保立、子爵松平直亮、子爵徳川武定、子爵土屋直亮、男爵島津齊親、男爵島津備前、男爵島津愛の項

徳田 卯之助 實業、東京府在籍

妻 幹 明六一、一〇生

男 實 明四一、一〇生

君は鹿兒島縣人田中傳兵衛の二男にして萬延元年十二月を以て生れ明治二十二年東京府人先代りうの養子となり同二十四年家督を相繼ぎ前名喜納次を改む實業を營み地主たり長男新平(明三五、七生)は分家せりA六七三(東京市芝區新橋一ノ二八電銀座二九七三)

參照 東京商工會議所議員、徳田商會社長、富士山麓地、富士山麓地、氣鐵道各線取締役、相模鐵道、株代行各線取締役、東京株式取引所役員、東京株式取引所一般取引委員長、東京府在籍

徳大寺 公弘 正二位、公卿、貴族院議員、舊公卿家

妻 久子 慶應三、六、生、伯爵松平直之先代基則姉

男 實 明二〇、一、二、生、從四位勳五等、侍從、陸軍騎兵中佐

女 米子 明三二、八、生、男實厚妻、伯爵松平直之三女

女 禧子 大七、五、生、男實厚長女

當家は右大臣藤原師輔の十男閑院太政大臣公季より五世公實の五男左大臣實能の後なり世々徳大寺と稱し七清華の一たり夫より十六代を経て左大臣公信に至る更に三代を経て贈從一位公城に至り儒臣竹内式部を參謀とし王政復古の大業を企てし中道にして事敗る夫より三代を経て從一位公純に至る先代實能は其長男にして明治元年以來參議院議長、內廷知事、侍從長、官内卿、華族局長、官位局長、貴族院議員、侍從長、兼内大臣等に歴任す同十七年侯爵を授けられ同四十年大勳位に叙し同十四年多年の勳功に依り公純に陞る君は實能の長男にして公純西園寺公望の甥伯爵中院亨男爵住友吉左衛門同寛一の從兄なり文久三年八月十四日を以て生れ大正八年襲爵す外務省御用掛官勳務被仰付尋で英國に留學す現時貴族院議員にして火曜會に屬す家族は尙孫公英(大八、一、一、生、男實厚長男)同實定(同二〇、七、生、同二男)同純明(同二〇、九、生、同三男)同三男(同二、一、一、生)は高千穂有綱の養子となり男爵を授けられ同期(明一、一、二、生)は男爵を授けられ妻

徳倉 はまじ 實業家、愛知縣在籍

君は愛知縣人徳倉六兵衛の三女にして明治三十一年五月十八日を以て生れ昭和二年弟縁治の家督を相繼ぎ資産家たりA一九六〇(名古屋市中區小林町三九電中二一五)

徳田 昂平 實業、東京府在籍

妻 スエ 明六、四、生、東京、手塚伊八四女

養子 直惠 大二、一〇生、山梨、加賀美正明

君は山梨縣人加賀美角三郎の二男にして明治十一年五月二十六日を以て生れ先代孝平の養子となり大正十三年家督を相繼ぎ現に東京株式取引所一般短期實物國債取引員にして徳田商會社長たる外前記諸會社の重役にして推されて東京商工會議所議員、東京株式取引所一般取引委員長たりA五三二三(東京市日本橋區兜町二〇電芝場町二二二)

徳重 三郎 帝國サルヴェージ、神戸塗料各種取締役、山口縣在籍

正五位勳五等、山口高等商業學校生徒主事兼教授、福岡縣士族

妻 イソエ 明三六、三、生、福岡、檜橋種吉三女、東京家政專門學校出身

男 安一郎 昭八、六、生

君は福岡縣士族徳重義一の五男にして戸主辨太郎の弟なり明治二十一年十一月二十日を以て生れ同四十五年東京高等商業學校專攻部貿易科を卒業し大正二年大阪府立甲種商業學校教諭兼大阪高等商業學校講師に任じ同三年現職に轉ず同八年歐米各國に留學を命ぜらる家族は尙長女孝子(昭六、九、生)あり(山口市中河原)

亮子 (明二〇、一〇生、子爵毛利元雄妹) と共に新に一家を創立し同彬廣(同一五、二二生)も亦其妻(同一二、二生、子爵北條高八姉)を伴ひ分家し叔母中子(安政四、五生)は子爵相良親綱先代親相に同照子(文久二、一生)は子爵阿部正友祖父正功に妹順子(明四、五生)は公府廣司信輔先代親通に同祥子(同一四、四生)は侯爵佐竹義春先代親生に同治子(同一四、四生)は子爵松平頼孝に同伊藤子(同一二、一生)は公府島津忠重に嫁せりA五七六(東京市澁谷區若木町一五電膏山八一三五)

參照 公府西園寺公望、公府島津忠重、公府廣司信輔、侯爵佐竹義春、伯爵中院亨、伯爵松平直之、子爵阿部正友、子爵相良親綱、子爵北條高八、子爵松平頼孝、男爵住友吉左衛門、男爵高千穂宜廣、男爵德大寺則麿、住友寛一、男爵伊達宗彰、子爵池田仲誠、子爵小笠原長生、子爵交野政通、子爵堀田正路、男爵安藤直義、大村次郎、住友義輝、三井守之助、渡邊直進の項

德大寺 則麿 從四位、男爵、三菱重工業取締役、德大寺公家分家
 妻 亮子 明二〇、一〇生、子爵毛利元雄妹
 男 長 廣 明四四、六生
 男 元 廣 大三、五生

君は故從一位大勳位公府德大寺實則の男にして公府德大寺公弘男爵高千穂宜廣の弟なり明治十一年十二月十七日を以て生れ大正二年分家し父實則の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる明治三十六年東京帝國大學工科大学造船科を卒業し三菱造船社に入り神戸造船所造船部長を経て同所副社長に昇進し大正十五年六月所長となる現時三菱重工業會社取締役たり家族は尙三男三女(大六、二生)あり長女鶴子(明四〇、一〇生、親和高女出身)は京都府人三井源右衛門三男高亮に嫁せりA二八九(神戸市林田區和田宮通り四ノ一電兵庫七〇七)

參照 公府德大寺公弘、子爵毛利元雄、男爵高千穂宜廣、三井源右衛門、公府西園寺公望、公府島津忠重、公府廣司信輔、侯爵佐竹義春、伯爵中院亨、伯爵松平直之、子爵阿部正友、子爵相良親綱、子爵北條高八、子爵松平頼孝、男爵住友吉左衛門、男爵高千穂宜廣、男爵德大寺則麿、住友寛一、男爵伊達宗彰、子爵池田仲誠、子爵小笠原長生、子爵交野政通、子爵堀田正路、男爵安藤直義、大村次郎、住友義輝、三井守之助、渡邊直進の項

德谷辰次郎 家主
 妻 ヨネ 明二〇、一生、養父辰次郎長女
 男 喜 郎 明四、七生、奈良、中村喜三郎四男

君は大阪府人村喜八郎の弟にして明治二十一年二月八日を以て生れ大正三年先代德谷辰次郎の養子となり同十一年家督を相続し前名を改め養父の家主たりA三三三(大阪府西區西道頓堀通五ノ四電櫻川五一〇二)

德富 蘇峰 正五位勳二等、貴族院議員、帝國學士院會員、大阪毎日新聞社社長、著述家、熊本縣士族、會同
 妻 ツル 慶應三、一生、熊本、士、會同
 男 太多雄 明二三、三生
 男 美佐尾 明三二、四生、長男太多雄妻、東京
 男 武 雄 明四二、二生

君は熊本縣士族德富一敬の長男にして蘇峰と號す文久三年一月二十五日を以て生れ明治十六年家督を相続す夙に京都同志社に學び「新日本の青年」を著して一躍文壇に名を成し次で民友社を起して其社長となり又國民新聞を發刊す同二十九年歐洲を漫遊し同三十年内務省勳任參事官に任ぜられ正五位に叙せらる同十四年貴族院議員に勳選せられ大正四年勳三等に叙せらる同六年支那を漫遊し同七年以來「近世日本國民史」の大著に從事し同十二年著書に對し帝國學士院より恩賜賞を授けられ同十四年帝國學士院會員に任ぜられ昭和三年御大典に際し勳二等に叙せらるる同四年國民新聞社長を辭任し大毎東日の社長として現在に至る著書百數十卷著況に世に名はる家族は尙孫鶴子(大九、一〇生、長男太多雄長女)同敬太郎(同一、七生、同長男)同剛二郎(同一、九生、同二男)同太三郎(同一四、九生、同三男)同久子(昭二、一生、同二女)あり長女逸(明二〇、九生)は東京府人三宅順一に二女孝(同二八、

德永重康 理學博士、工學博士、早稻田大學教授、理學部部長、早稻田大學工學部部長、早稻田大學校長
 妻 もと 明二〇、二生、東京、柴田桂太
 男 康 元 明四五、四生

君は東京府士族吉原重隆の二男にして明治七年八月を以て生れ大正五年長女初子の後を承けて家督を相続す明治三十年東京帝國大學理學部工學部學科を卒業し現時早稻田大學教授にして理學部部長に勤務し早稲田工學部部長兼早稲田高等工學部校長東京帝國大學講師たり夙に理學博士工學博士の學位を受く昭和八年七月より十月に至るまで滿蒙學術調査團々長として滿蒙に派遣せらるる家族は尙三男重元(大九、三生)あり長女初子(明三六、九生)は子爵高島友武の家族に入り(東京市淀橋區百人町三ノ三〇電四谷一七四一)

參照 子爵高島友武、柴田桂太、三浦清太郎の項

德永晉作 從五位勳五等、鐵道技師、鐵道省工作局車輛課長、山口縣士族
 妻 ふき 明三一、一生、千葉、小河原七
 男 正 信 大三一、一生

君は山口縣士族德永秀介の三男にして戸主政一の弟及石川次郎の弟なり明治二十三年二月を以て生れ大正四年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し鐵道院雇となり同技師手札鐵道管理局鐵道技師となり鐵道院雇及鐵道技師工作局車輛課長を経て大正十三年在外研究員となり翌十四年倫敦第十回萬國鐵道會議に出席し同十五年英國駐在を命ぜらる昭和四年鐵道局技師に轉じ東京鐵道局工作局車輛課長たり家族は尙長女綾子(大九、八生、東京女學館在學)二女洋子(昭三、九生)二男秀夫(同五、一生)あり(東京市杉並區東田町一ノ五四電秋葉二〇八)

參照 石川次郎の項

德久次郎 星野畫代表社員、土木建築請負業
 妻 ヤナ 明二二、七生、東京、棚橋友三郎
 男 隆 明四〇、一生

君は佐賀縣人星野畫の長男にして明治六年九月を以て生れ同二十五年家督を相続す夙に土木建築請負關係の會社に入り土木建築請負業を營み現に前記會社の代表社員たり家族は尙三男茂(大一〇、二生)弟三郎(明一〇、七生、熊本醫專出身)あり長女榮子(同三八、三生、山陽高女出身)は男爵桐島綱廣從弟茂廣に養子とな(同二四、一生、東京、棚橋友三郎二女)は東京府人田中次郎に嫁せりA三五五(東京市牛込區市谷甲良町一八電牛込三〇三)

參照 男爵桐島綱廣、田中次郎の項

德增英三郎 松喜屋、牛肉商
 妻 こま 明二〇、五生、養母こう長女
 男 覺次良 明四四、一生
 女 典子 明四八、一〇生
 女 惠子 大六、一〇生
 女 田鶴子 明四三、九生、亡長男壽妻、東京
 女 森田金之助二女

君は千葉縣人大木長次郎の二男にして明治十三年七月を以て生れ同三十七年先代この養子となり昭和三年家督を相続す松喜屋と稱し盛大なる牛肉商を營む家族は尙四男八郎(大八、二生)五女三子(同一、五生)五男安(同一三、九生)ありA一〇三B一七八(東京市芝區新橋二ノ三〇電銀座三六四一)

參照 德增覺次良の項

德永芳治郎 大阪府多額納稅者、硝子商
 妻 きみ 文久二、三生、大阪、豊島嘉助長女
 妻 マキエ 明二一、四生、大阪、山城七郎兵衛二女
 男 道 治 明三七、三生
 男 敬 仁 明四一、二生、長男道治妻、大阪、小野孝治郎三女
 男 武 子 明四五、二生、二男敬二妻、大阪、西田佐平養子
 男 健 三 大三、一生

君は大阪府人德永玉吉の長男にして明治十四年十月二十八日を以て生れ同三十八年母きみの後を承け家督を相続す硝子商を營み現に大阪府多額納稅者に列す家族尙七男順次(大一〇、二生)八男滿正(同一三、一〇生)九男義雄(昭五、九生)孫喜志子(昭四、三生、長男道治長女)同雄一郎(同五、五生、同長男)あり弟豊次郎(明一五、一〇生)は分家せりA一六三四B二四一七(大阪府東淀川區三國町七三三ノ二電北一六三〇)

「店舗」此花區新家一ノ八八電土佐堀六四〇

德弘春美 正五位勳五等、熊本高等工業學校教授、高知縣在籍
 妻 リン 明三三、七生、長崎、辻國太郎二
 男 健二郎 大七一、八生
 女 貴久 大七、八生

君は高知縣人德弘鐵馬の二男にして明治二十四年三月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十四年熊本高等工業學校土木學科を卒業し同校助教となり次いで同教授に進み同十年米英獨各國に留學を命ぜ

德光美福 正五位勳四等、醫學博士、京城帝國大學教授、醫學部部長
 妻 サト 明二八、一生、大分、太田英一妹
 男 増 美 昭五、四生

君は大分縣人德光連の長男にして明治二十二年二月六日を以て生れ同二十七年先代顯の養子となり家督を相続す同四十三年長崎醫學專門學校を卒業し同校講師東京帝國大學醫學專門學校を卒業し同校講師東京帝國大學醫學專門學校講師同校朝鮮總督府醫院技師等に歴任し大正十五年京城帝國大學教授に任ぜられ醫學部部長たり同十年醫學博士の學位を受け同十二年病理學研究の爲獨佛米各國に留學を命ぜらるる家族は尙二女朝子(大一二、一生)三女富美子(同一五、九生)の外

德成虎雄 日清毛織株式代表取締役
 鹿兒島縣在籍

德弘春美 (前記) 正五位勳五等、熊本高等工業學校教授、高知縣在籍
 妻 リン 明三三、七生、長崎、辻國太郎二
 男 健二郎 大七一、八生
 女 貴久 大七、八生

德光美福 (前記) 正五位勳四等、醫學博士、京城帝國大學教授、醫學部部長
 妻 サト 明二八、一生、大分、太田英一妹
 男 増 美 昭五、四生

ト之部 德(本、山)床、所、年

(※印は姻族關係)

ト四〇

叔母ユウ(明五、三生)亡叔父柳善妻トメ(同五、三生)大分、相良(平四女)及其子女あり(京城府大和町三ノ一八)

德本 寛三 辯護士 東京府在籍 妻 マスノ 明二、一、一生、奈良、福田ヤス

女 伊左子 大八、九生 君は奈良縣人徳本考吉の弟にして明治十五年九月十四日を以て生れ大正八年分れて一家を創立す辯護士たり家族は尙二女左代子(大一三、一生)庶子英子(同一、一生、生母、同上)ありA七四九(東京市麴町區富士見町二ノ一四電九段五八)

德本 孝也 從四位勳四等、警務局長、高知 萬延元、八生、山口、鹽見仙漢二 妻 リツ 女 明二、五、八生、山口、岸本貫一妹 男 孝彦 明四、四生 男 良孝 大二、八生 女 タミ 大三、九生

君は山口縣土族徳本審一の長男にして明治十六年四月二十四日を以て生れ大正十一年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技師林務技師業務課利用係長鹿島東京各大林區署林業課長青森大林區署長同警務局長等に歴任し大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝し秋田警務局長を経て現に高知警務局長たり家族は尙三男健輔(大六、七生)二女サトヨ(同一、二生)三女洋子(同一、一、一〇生)あり(高知市警務局長官舎)

德本 良一 愛媛縣多額納税者、伊豫鐵道電氣、松山商會、藤岡興信各務取締役、妻 イチ 明一、四、二生、愛媛、士、北尾 正欲長女 明四、九生、愛媛、清水義彰四 養子 幾子 大三、一二生、愛媛、河内照夫妹

君は大阪府人先代久治郎の長男にして明治三十年四月二十八日を以て生れ大正十一年家督を相続す家主にして大阪府多額納税者に列し直接國稅四千六百五十五圓を納む家族は尙二男久周(大一一、五、九生)三男久芳長女章子あり弟久祐(明三八、六生)は分家せり(大阪府東淀川區野中南通一ノ一電北六五四九) 參照||淡伊丹榮助の項

君は大阪府人先代久治郎の長男にして明治三十年四月二十八日を以て生れ大正十一年家督を相続す家主にして大阪府多額納税者に列し直接國稅四千六百五十五圓を納む家族は尙二男久周(大一一、五、九生)三男久芳長女章子あり弟久祐(明三八、六生)は分家せり(大阪府東淀川區野中南通一ノ一電北六五四九) 參照||淡伊丹榮助の項

歲川 清 門司商工會議所議員、清友商事社社長、福岡縣在籍 妻 ケイ 明一、六、一〇生、愛媛、津村俊次 男 滿雄 明四、〇、四生 男 隆三郎 明四、二、三生

君は大阪府人歲川條助の三男にして明治九年一月を以て生れ同十九年家督を相続す現時前記會社の社長にして門司商工會議所議員に推される義に門司市會議員門司合同運送會社監査役たり家族は尙四女喜代子(大一一、八生)あり父條助(天保一四、九生)母フサ(嘉永二、三生、楠本静助長女)は兄親太郎(明二、六生)弟豊三(同一、一、一生)同秀六(同一、一、二生)を伴ひ分家し長女鞠子(同三七、一一生)は岡山縣人陶英雄に嫁せり(門司市小森江堂ノ上電一三七九)

正五位勳四等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務 岩手縣在籍 妻 シゲ 明二、七生、栃木、阿部久次郎二 男 晃吉 大一一、〇、三生、東京、上原多一郎妹 當家の先代栃内曾次郎は夙に海軍少尉に任じ大正九年海軍大將に累進す其間扶桑水雷長海軍大臣秘書官官古武藏八幡吾妻各艦長海軍省軍務局長横濱海軍工廠長第一艦隊司令官海軍省軍事參議官等に歴補し日清日露戰役に功あり功四級金鵄勳章を賜ふ其長男にして栃内禮次の養從弟に當り明治二十六年十二月を以て生れ昭和七年家督を相続す大正七年北海道帝國大學農科大學を卒業恩賜賞を受け大正十年同大學助教に任ぜられ昭和三年米英獨各國へ留學す同五年歸朝北海

君は愛媛縣人河内喜三郎の長男にして明治三年一月二十七日を以て生れ先代廣誠の養子となり同三十五年家督を相続す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅八百十二圓を納め縣下の多額納税者たり義に伊豫農業銀行松山信託南海電氣各會社の重役たりし事あり叔母ヒサエ(文久三、一一生)は分家せり(松山市竹原町四一三電五四〇)

德山 源三郎 家主 大阪府在籍 父 種次郎 安政四、一、二生 妻 キク 明四、二、一〇生、大阪、本澤丑

女 弘子 大五、一〇生 君は大阪府人先代種次郎の長男にして明治十八年六月二十六日を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり妹タネ(明二八、九生)は分家せりA二八二二(大阪府天王寺區北河堀町三五電天竺寺一七〇二)

正三位勳一等、選信大臣、衆議院議員(鹿兒島縣選出) 鹿兒島縣土族 妻 恭子 明三、四、三生、千代田火災保險會社社員、慶大法學部出身 男 正一 明四、一、二生、男爵水谷川忠廣養子、長島陸二長女 男 國子 明三、七、二生、正七位、地方事務官、靜岡縣内務部地方課長、法學士 女 德二 明四、二、三生、三男德二妻、東京伊東榮妹

床次 竹次郎 正三位勳一等、選信大臣、衆議院議員(鹿兒島縣選出) 鹿兒島縣土族 妻 恭子 明三、四、三生、千代田火災保險會社社員、慶大法學部出身 男 正一 明四、一、二生、男爵水谷川忠廣養子、長島陸二長女 男 國子 明三、七、二生、正七位、地方事務官、靜岡縣内務部地方課長、法學士 女 德二 明四、二、三生、三男德二妻、東京伊東榮妹

君は鹿兒島縣土族床次正精の長男にして慶應二年十二月一日を以て生れ明治三十年家督を相続す同二十三年帝國大學法政學科大學政治學科を卒業し大藏書記官愛媛縣收稅長宮城縣參事官山形縣新潟縣各書記官德島秋田各縣知事内務省地方局長内務次官鐵道院總裁等に歴任し大正七年原内閣成立するや擧げられて内務大臣となり高橋内閣にも亦留任し大藏内閣に於て鐵道大臣に親任せられ辭するに及び前官の禮遇を賜ひしが同内閣成るや選信大臣に親任せらる衆議院議員に當選すること八回に及び現に在り義に政友本黨を組織して其總

道帝國大學教授に任じ今日に及ぶ義に大正十四年農學博士の學位を授けらる登山スキーに趣味を有し同大學山岳部長たり妹富士(明三〇、一一生、東京府立第三高女出身)は山口縣人内藤正太郎養子三郎に同サメ(同三三、一一生、東京大學出身)は男爵海軍中佐安場保雄に伯母キノ(安政六、三生)は北海道土族佐多忠庸に嫁せり(東京市芝區三田桐町一電高橋九七四、札幌市南七條西四十七丁目) 參照||男爵安場保雄、栃内禮次、内藤正太郎、淡井峯次郎の項

栃内 禮次 日本勲業銀行參事、福岡支店長 北海道上在籍 妻 元吉 嘉永六、六生 妻 マツエ 明二、四、二生、養父元吉養子 男 一彦 大八、一〇生、福岡高女在學 女 民子 大八、一〇生、福岡高女在學

君は北海道人橋仁の二男栃内吉彦の養從兄にして明治十九年十二月を以て生れ同四十四年栃内元吉の養子となる同年北海道帝國大學農學部を卒業し夙に日本勲業銀行に入り同支行支店長兼鑑定課長債券課長を経て現時同行參事福岡支店長たり、舊加賀藩田代地制制度の著者同家族は尙二女美穂子(大一一、二、三生)三女秋子(同一、一、五、九生)あり叔父父曾次郎(慶應二、六生)は同妻シケ(明二、七生、栃木、阿部久次郎二女)及其子女を伴ひ分家せりA四五七(福岡市島崎町四ノ三〇電一五五一) 參照||栃内吉彦の項

君は福岡縣人栃木順作の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正四年早稻田大學商科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女多計子(大九、七生)二男滋彌(同一、四、四生)あり(福岡縣若松市船頭町六五電八七三) 參照||男爵野崎貞義、栃木順作、淡井田秀一、淡井榮次郎の項

君は熊本縣人廣瀬敬作の二男にして明治三十三年十月三十日を以て生れ昭和二年先代秀の入夫となり家督を相続す大正十四年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時應用電氣會社專務取締役たり家族は尙長女報子(昭四、一、一生)二男素央(同六、四生)ありA五五六(東京市澁谷區綠岡四電青山九一)

所 敬之 應用電氣會社專務取締役 東京府在籍 妻 秀 明三、七、六生、岐阜、所喜之助長女 男 雄章 昭二、一、二生

君は熊本縣人廣瀬敬作の二男にして明治三十三年十月三十日を以て生れ昭和二年先代秀の入夫となり家督を相続す大正十四年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時應用電氣會社專務取締役たり家族は尙長女報子(昭四、一、一生)二男素央(同六、四生)ありA五五六(東京市澁谷區綠岡四電青山九一)

君は熊本縣人廣瀬敬作の二男にして明治三十三年十月三十日を以て生れ昭和二年先代秀の入夫となり家督を相続す大正十四年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時應用電氣會社專務取締役たり家族は尙長女報子(昭四、一、一生)二男素央(同六、四生)ありA五五六(東京市澁谷區綠岡四電青山九一)

君は熊本縣人廣瀬敬作の二男にして明治三十三年十月三十日を以て生れ昭和二年先代秀の入夫となり家督を相続す大正十四年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時應用電氣會社專務取締役たり家族は尙長女報子(昭四、一、一生)二男素央(同六、四生)ありA五五六(東京市澁谷區綠岡四電青山九一)

君は福岡縣人栃木嘉平の長男にして明治三二年二月を以て生れ大正四年家督を相続す現時栃木商會社代表取締役にして栃木合名會社社員たり長女ミチコ(明二七、九生)は分家し二女チカコ(同三三、二生)は岡山縣人高階淳に三女壽美子(同三六、一、二生)は同縣人林譽太長男正章に四女佐子(同三八、三生)は北海道入佐藤一雄弟豊治に養子あり(同三三、三生、滋賀、早山宇三郎姉)は岡山縣人逸見陣平養子郷藏に嫁せり(福岡縣若松市船頭町六五電八七三) 參照||栃木嘉平の項

栃木 順作 栃木商會社代表取締役、栃木名社社長、福岡縣在籍 妻 ヒテノ 明二、二、一一生 女 松子 明四、〇、一一生 女 乙子 大二、三生、生母、福岡、松隈ト 女 乙子 大四、一、一生、生母、福岡、松隈ト

君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し後米國ワイズコンシジョン大學及シカゴ大學等に遊學して「マスター・オブ・アーツ」の學位を得て歸朝現時前記各會社の重役及相談役たり義に東京米穀商會取引所常務理事日本倉庫東京正米代官富士生命保險東京正米市場建物等各會社の重役たりし事あり家族は尙二男穰(昭三、一一生)あり(東京市澁谷區原宿三ノ三〇四) 參照||有松勝吉の項

君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し後米國ワイズコンシジョン大學及シカゴ大學等に遊學して「マスター・オブ・アーツ」の學位を得て歸朝現時前記各會社の重役及相談役たり義に東京米穀商會取引所常務理事日本倉庫東京正米代官富士生命保險東京正米市場建物等各會社の重役たりし事あり家族は尙二男穰(昭三、一一生)あり(東京市澁谷區原宿三ノ三〇四) 參照||有松勝吉の項

ト之部 歲、栃(内、木、倉)轟

(※印は姻族關係)

ト四一

君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し後米國ワイズコンシジョン大學及シカゴ大學等に遊學して「マスター・オブ・アーツ」の學位を得て歸朝現時前記各會社の重役及相談役たり義に東京米穀商會取引所常務理事日本倉庫東京正米代官富士生命保險東京正米市場建物等各會社の重役たりし事あり家族は尙二男穰(昭三、一一生)あり(東京市澁谷區原宿三ノ三〇四) 參照||有松勝吉の項

君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し後米國ワイズコンシジョン大學及シカゴ大學等に遊學して「マスター・オブ・アーツ」の學位を得て歸朝現時前記各會社の重役及相談役たり義に東京米穀商會取引所常務理事日本倉庫東京正米代官富士生命保險東京正米市場建物等各會社の重役たりし事あり家族は尙二男穰(昭三、一一生)あり(東京市澁谷區原宿三ノ三〇四) 參照||有松勝吉の項

君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し後米國ワイズコンシジョン大學及シカゴ大學等に遊學して「マスター・オブ・アーツ」の學位を得て歸朝現時前記各會社の重役及相談役たり義に東京米穀商會取引所常務理事日本倉庫東京正米代官富士生命保險東京正米市場建物等各會社の重役たりし事あり家族は尙二男穰(昭三、一一生)あり(東京市澁谷區原宿三ノ三〇四) 參照||有松勝吉の項

君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し後米國ワイズコンシジョン大學及シカゴ大學等に遊學して「マスター・オブ・アーツ」の學位を得て歸朝現時前記各會社の重役及相談役たり義に東京米穀商會取引所常務理事日本倉庫東京正米代官富士生命保險東京正米市場建物等各會社の重役たりし事あり家族は尙二男穰(昭三、一一生)あり(東京市澁谷區原宿三ノ三〇四) 參照||有松勝吉の項

ト之部 殿(木村)飛(島田)

(捺印は姻族關係)

殿木市太郎 殿木商店社長、砂糖貿易商
君は長野縣人、森市右衛門の二男にして明治二十年七月二十五日を以て生れ大正八年家を相續す米市と稱し...

殿村平右衛門 三松實業責任社員
殿村家は大阪土着の素封家にして代々金融業を営み十代を経て先々代及びつに嗣子無かりしを以て...

飛島文吉 貴族院議員、福井縣多額納税者
君は福井縣人、飛島文次郎の長男にして明治九年十一月を以て生れ昭和四年家を相續す土木建築請負業を營...

殿木三郎 野澤屋事務取締役、福壽火災保險
君は東京府人、殿木三郎の三男にして文久三年十一月十九日を以て生れ明治十三年家を相續す現時前記諸會社の重役たり...

殿村箭之助 石崎糖業取締役、三松實業社員、大日
君は大阪府人、逸身佐一郎の四男にして明治二十六年三月二十六日を以て生れ大正十一年先代辰子の入夫となり...

飛田直吉 資産家
君は東京府人、先代直吉の長男にして明治六年六月十日を以て生れ同三十七年家を相續し前名清太郎を改め...

富井格 海軍機關大佐、東京計器製作所
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し在學中中文官高等試驗に合格し...

富井政章 從二位勳一等、男爵、法學博士
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

富井元吉 家主
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

苫米地義三 公海興産、硬化油販賣、グリセリン
君は北海道人、苫米地金次郎の三男にして明治十三年十二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す現時硬化油販賣グリセリン販賣各會社取締役會長たり前記諸會社の重役たり...

富井周 正五位勳四等、總領事、桑港在勤
君は男爵富井政章の長男にして明治二十三年八月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

富井元吉 家主
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

泊武治 正五位勳四等、北海道廳長、土
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

富井政章 從二位勳一等、男爵、法學博士
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

富井元吉 家主
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

富井格 海軍機關大佐、東京計器製作所
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

富井政章 從二位勳一等、男爵、法學博士
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

富井元吉 家主
君は石川縣人、泊宗平の五男にして現戸主宗一西野勇君の弟なり明治二十二年三月二十五日を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し...

ト之部 富井、泊、富井

(捺印は姻族關係)

養子 みよし 明三九、一〇生、兵庫、池田爲尾長女

富井利兵衛

萬屋、和洋紙文房具商

君は東京府人先代利兵衛の二男にして明治二年五月を以て生れ同三十三年家督相續と共に前名竹次郎を改め

富家政市

從四位勳三等、陸軍少將、高松市長、香川縣在籍

君は香川縣人にして明治十年八月十三日を以て生れ同三十一年陸軍士官學校を卒業し陸軍工兵少尉に任じ累

富岡明雄

從四位、男爵、山梨縣華族

君は山梨縣人にして明治十年八月十三日を以て生れ同三十一年陸軍士官學校を卒業し陸軍工兵少尉に任じ累

富岡久右衛門

紀の川製絲所監査役、朝田材木部、材木問屋業、大阪府在籍

君は奈良縣人喜田信三郎の三男にして明治九年一月十一日を以て生れ同三十四年先代久の夫となり家督を相續し前名三郎を改む同二十八年大阪高等商業學校を卒業し富岡銀行を經營する事二十年大阪材木問屋を開業し朝田材木部と稱す傍ら紀の川製絲所監査役たり家族は尙三男博三(大九、一〇生)あり長女和惠(明三五、三三)は東京府人和田長史長男長作に嫁し四女晴子(同四〇、六六)は分家し五女美知(同四二、一〇生)は京都府人千葉彌助二男勲に嫁し七女時子(六七、一〇生)は大坂府人小坂龍の養子となりA一五二一B二〇九(大阪府西區幸町通三ノ三電報川四七二)

富岡久次郎

川崎第百銀行務部部長

君は秋田縣人富岡久助の長男にして明治十六年二月十四日を以て生れ大正十三年家督を相續し明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し第百銀行に入り秘書役となり現時川崎第百銀行務部部長たり家族は尙二男治郎(大四、三三)三男健次(同五、一〇生)四男侃三(同七、六六)五男慎吉(同二〇、四四)ありA一〇六六(東京市澁野川區西ヶ原八一五電小石川六二〇)參照富岡久助參澤源一郎の項

富岡久助

東京穀商取引所取引員

君は秋田縣人富岡吉吉の長男にして文久二年五月十七日を以て生れ家督を相續し大正十三年退隱す現時東京米穀商取引所第一部長取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生)靜岡、士、(甲斐正顯)は其一子を伴ひ分家し五女サダ(同四

富岡金藏

地主、東京府在籍

君は東京府人先代金藏の長男にして明治二年十一月二十七日を以て生れ同十六年家督を相續し後前名忠太郎を改め襲名す地主にして義に秩父製紙會社取締役たりし事あり家族は尙四男乃升(大六、八生)三女みさ(同

富岡定俊

從四位勳四等、男爵、海軍少佐、海軍各司令部員、長野縣華族

當家は先代定恭より家名を揚ぐ定恭は舊松代藩士にして明治十一年海軍少尉に任じ累進して中將に陞る其間海軍兵學校教官同教頭同校長殿島八雲龍田數島各艦長海軍各司令部第一局長練習艦隊司令官竹敷要港部司令官旅順鎮守府司令官等に歴補し同四十年日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治三十年三月八日を以て生れ大正六年擧爵す同七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少佐に累進す其間海軍砲術學校同水雷學校を経て昭和四年海軍大學校を首席にて卒業し恩賜の軍刀を授けらる松平逐鹿長海軍各司令部參謀等に歴補し現に軍令部各員たり

富岡周藏

鎌倉ハム富岡商會社長、大船軒代表取締役、富岡實社長

昭和五年國際聯盟陸海空軍問題常設諮問委員會帝國代表隨員及海軍一般軍縮會議委員隨員被仰付巴里及海府に約三箇年在勤す家族は尙長女美子(昭四、三三)二男定明(同九、四生)弟定親(明四〇、七生)あり同定幸(同三六、六六)は東京府人和田巳之吉の養子となり姉直(同二六、七生)は故海軍大佐津留三三に妹芳(同三三、六六)は大坂府人野元鶴二男卓に同季子(同三四、八八)は森村組社員佐伯四郎に嫁せり(東京市世田ヶ谷區玉川奥澤町一ノ四九四一)參照川菊池一、佐伯四郎、和田巳之吉、津田弘

富岡俊次郎

阿曾阿曾理事長、甲子實有限責任社員、東京府在籍

君は兵庫縣人富岡夫平の二男にして文久二年八月三日

富岡徳平

岡山縣多額納稅者、小問物化粧品文具問屋業、岡山縣在籍

を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同十八年商船學校を卒業し日ノ出丸其他に乗込み歐洲航路に勤務し船長たり後東洋汽船會社造船監督浦賀船渠會社東京潜水會社各取締役富岡會社社長たりし現時甲子實會社有限責任社員にして阿曾阿曾理事長たり家族は尙孫路子(大一〇、四生)長男清行(長女)同朝太郎(同三、七生)同長男(同三、九生)同二男(同三、九生)同三男(同三、九生)ありA一三〇(東京市芝區伊豆子町二六電高輪三二七八)

富岡彌八郎

新潟商工會議所常議員、新潟製紙社長、新潟土地溫泉株取給役、酒類雜貨商、新潟縣在籍

當家は作州津山の舊き商賈なり先代六郎平濱津山藩主より富岡の姓を賜ふ君は先代徳平の長男にして明治十一年八月二十六日を以て生れ同三十二年家督を相續し前名徳太郎を改め襲名す家業を繼ぎ小問物化粧品文具問屋業を營み現に同組合長にして直接國稅六百五十四圓を納め岡山縣多額納稅者に列す尙昭和九年六月迄津山商工會議所副會頭として盡忠す義に同町會議員及市會議員市參事會員に推さる旅行骨董に趣味あり又建築を好む家族は尙六男靖介(大九、六六)あり長女津山子(明三六、九生)は東京府人中村勝三に三女貞子(同四三、一〇生)は滋賀縣人外海綱吉に各嫁せり(津山市橋本町五電七七七八)參照川菊池一、佐伯四郎、和田巳之吉、津田弘

日を以て生れ先代マサの養子となり同三十五年家督を相續す現時博多様式取引所取引員にして縣下の多額納税者に列す家族は尙孫ヨシ(昭三、三三、養子太良長女)同テイ(同五、四生、同二女)ありA六〇五二B一二九六(福岡市西洲町八七三電一〇〇五)参照II 淡田中實の項

富田 喜作

富田屋、出版業 愛知縣在籍 妻 もと 明一六、二生、岐阜、三浦源七二 男 喜太郎 明四〇、七生 女 すこ 明四四、二生

君は岐阜縣人富田喜七の四男にして明治十年二月四日を以て生れ同三十七年兄喜市方より分れて一家を創立す富田屋と稱し出版業を營む家族は尙三女ふみ(六一〇、七生)ありA六三六二〇五(名古屋市中區八百屋町二ノ一電本局三四三四)

富田 金三郎

日本住宅、關西製鐵各縣監査役 大阪府在籍 妻 たけ 昭三〇、一二生、兵庫、岩本淺五 男 孝造 明三二、八生、養父重助二女

君は大坂府人富田金助の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治十四年關西大學商科を卒業し現時日本住宅關西製鐵各縣の重役たり家族は尙弟甲子郎(明一九、一〇生)及其一子あり弟喜一郎(同二三、九生)は大坂府人高橋ミサの養子となり妹キミ(同二一、一二生)は同府人近藤喜西養子喜祿の末亡人たり(堺市九間町西一電三四四九)参照II 近藤喜西の項

富田 孝造

三重縣警務局長、明治銀行 妻 てる 明三二、八生、養父重助二女 男 孝太郎 明四〇、七生 女 すこ 明四四、二生

君は愛知縣人淺野基七の弟富田重郎の養兄にして明治二十七年一月を以て生れ紅葉屋先代富田重助の養子となり大正六年分れて一家を創立す現時銀行會社の重役たり家族は尙三男昭(昭二、八生)ありA一六六(名古屋市中區門前町四ノ一七電本局四二八八)参照II 神野金助、富田孝造、中村圓一郎、高木隆吉、吉澤男爵、鍋島隆六、津野三郎、津北重夫、淡田三郎、淡田義郎、淡田中村、中村右衛門の項

古屋市東區白樂町四ノ一五電東六三三一) 参照II 淺野基七、富田重郎、津野三郎の項

富田 幸次郎

對馬天然スレート株式社長、朝鮮新聞社、帝國紙器各縣取締役 高知縣在籍 妻 直 明一、九生、高知、中内光俊姉 男 徹郎 明三五、一〇生、滿鐵社員、早大經 男 毅郎 明三七、六生、東京瓦斯會社員、早大理工學部出身 女 澄子 大三、七生、成女高女出身

君は高知縣人富田實次の二男にして明治五年十月を以て生れ同三十三年兄幸太郎方より分れて一家を創立す夙に藝學學舎に政治學を修め清韓を遊歴す曾て土陽新聞に主筆となり後高知新聞を創刊し主筆兼社長に就任す現に對馬天然スレート會社社長たる外前記各會社の重役にして明治四十一年以來衆議院議員に當選する事八回立憲民政黨所屬にして義に幹事長を勤め同黨の重鎮たり日獨事件の功に依り勳三等に叙せらるる長女瑞穂(明三二、一〇生)は高知縣人島内志剛に二女朝子(同四〇六生、第一高女出身)は古河電氣工業會社員早大商科出身市川準人に嫁せりA一三三(東京市澁谷區八幡通二ノ二電青山五九五)

富田 敬純

新義實業宗豊山派管長、中野高等女學校長、大正大學教授、感應幼 妻 純 明四〇、六生、英國留學中 男 道雄 明四二、五生 男 泰純 大二、五生

君は長野縣人松尾右衛門の二男にして明治八年五月二日を以て生れ先代富田容純の養子となり大正六年家督を相續す現に對馬天然スレート會社社長にして新義實業宗豊山派管長たる傍ら中野高等女學校長大正大學教授感應幼稚園長兼長女お中(明三七、一二生)は長野縣人阿部喜作長男稻津に嫁せりA一五八(東京市中野區宮前町五〇電中野二〇七八)

富田 作市

室蘭商工會議所議員、北海道多額納税者、室蘭水産工業株式社長、登別溫泉株式取締役、室蘭産業商會、室蘭無盡各縣監査役、北海道在籍 妻 トミ 明三一、七生、北海道、富山九十 男 嘉三 明六、七生 女 マサエ 大五、一〇生

君は福井縣人五十嵐彌吉の三男にして明治二十二年八月八日を以て生れ富田嘉三の養子となり大正十年家督を相續す現時室蘭水産工業株式社長たる外前記各會社の重役に擧げらる北海道多額納税者に列し直接國稅二千六百二十六圓を納む推されて室蘭商工會議所議員たり家族は尙二男彌市(昭三、九生)養子君代(六一二、八生、北海道、富山倉平孫)あり(室蘭市濱町七六電二三七)参照II 淡田中實の項

富田 治三郎

安田銀行理事、室蘭支店長、土崎堆物 妻 美 明三三、三三、埼玉、岡本仁蔵松 男 治邦 大八、〇九生、室蘭中學在學 女 治子 大八、五生、室蘭高女在學

君は若手縣人にして明治二十七年六月二十五日を以て生れ同四十五年秋田中學校を卒業し安田保善社練習所に入り大正二年第三銀行に入社す同十二年同行の安田銀行と合併するや引續き同行に勤務し果して昭和六年室蘭支店長となり今日に至る(室蘭市常盤町四三電一五六)参照II 淡田中實の項

富田 治郎

醫學博士、富田耳鼻喉科病院長 妻 多 明四一、一〇生 男 冬藏 明四一、一〇生 女 町子 明四五、二生 女 夏子 大三、七生

君は愛知縣人富田一郎の弟にして明治十七年四月二十三日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す醫師にし

て醫學博士の學位を受け現時富田耳鼻喉科病院を經營す家族は尙三男孝若(大五、三三)ありA二〇三(名古屋市中區布池町三二電東七三三)病院「中區吳服町二ノ二二電中三三三三七八七」

富田 治郎右衛門

旭鐵工所取締役、王子製紙株式會社取締役、工務部長代理、工務部第一課長 妻 具利 明三〇、一〇生、福井、福田幸太郎 女 トシ子 大六、一二生

君は福井縣人富田治郎右衛門の二男にして明治十九年一月二十二日を以て生れ同二十九年家督を相續し現に同四十二年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し直に王子製紙會社に入社す爾來苦小牧工務係員同設計工作係長心得同設計工作係長本社工務課臨時建設部主任同工務課長を経て昭和八年工務部長兼工務部第一課長となる現時旭鐵工所取締役たり家族は尙亡姉夫仙(明六、二生、福井、木津五郎兵衛弟)及其子女あり(東京市澁谷區種田三ノ七九電富山六七三三)参照II 淡田中實の項

富田 重助

神戶殖産、養和會各縣代表取締役 妻 あさこ 明四二、二生、愛知、瀧定助妹 男 和夫 昭四、三三

君は愛知縣人富田重助の長男にして明治三十四年七月を以て生れ昭和八年家督を相續し前名重郎を改め養子す大正十五年慶應義塾大學法學部政治學科を卒業し現時前記諸會社の重役に列す先代重助は縣下の多額納税者に列し日本放送協會東海支店理事名古屋商工會議所常議員等に推され昭和五年紺綬褒章を受く家族は尙二男信夫(昭八、三三)弟重典(大四、一二生、慶大在學)あり妹まつ(同元、一〇生)は愛知縣人瀧定助に嫁し姉てる(明三二、八生)同夫孝造(同二七、一〇生、愛知、淺野基七弟)弟勇造(同三七、一二生)同妻房(愛知、中村圓一郎三女)弟喜四郎(同三九、四生)同妻澄子(東京、高木隆吉妹)は各分家せりA四一三七(名古屋

市東區奏町四五電東三〇三三) 参照II 神野金助、富田孝造、中村圓一郎、高木隆吉、吉澤男爵、鍋島隆六、津野三郎、津北重夫、淡田三郎、淡田義郎、淡田中村、中村右衛門の項

富田 庄太郎

結核療養所、結核療養所 妻 とめ 愛知、中川龜之丞五女 男 芳弘 大一一、二生

君は愛知縣人荒井卯三郎の長男にして明治二十五年十月二十一日を以て生れ同三十年先代磯吉の養子となり家督を相續す結核療養所と稱し麵類商を營む家族は尙三男勲(大一一、二生)四男哲也(同二四、二生)長女嘉代(同二一、五生)弟英雄(明三八、二生)及其一女あり(名古屋市中區門前町四ノ一七電本局四二八八)参照II 淡田中實の項

富田 清助

銀行員 妻 マチ 明三七、一〇生

君は京都府人先代清助の長男にして明治十一年十一月二十日を以て生れ大正十三年家督を相續し共に前名清之助を改め養子す銀行員たりA一五五七(京都市中區區室町小路下電本局四一四一)

富田 善作

前濱野商事取締役 妻 サト 明九、一〇生、栃木、落合林之助姉 男 圭吉 明四、三三、東京、村上善太郎二 女 春惠 明三八、二生

君は栃木縣人富田滿造の二男にして慶應二年十一月を以て生れ明治三十一年兄幸八方より分れて一家を創立す善に濱野商事會社取締役たり長女眞美(明三二、三三)は東京府人村上善太郎に嫁せり(東京市澁谷區東大久保一ノ四三三)

富田 太郎

三井鐵山、太平洋炭礦各縣監査役 妻 テル 安政二、一〇生、福岡、富田熊雄 男 國重 明三九、一〇生

富田 武彦

住友倉庫取締役兼支配人、富島 妻 秀 大七、四生 男 秀雄 大七、四生

君は石川縣土族富田輝象の長男にして明治二十年五月一日を以て生れ大正十三年家督を相續す同三年東京帝國大學法學部法科を卒業し現時住友倉庫會社取締役兼支配人富島組監査役たりA四一四(大阪市天王寺區茶臼山町一一電天王寺四一七)参照II 淡田中實の項

富田 忠詮

日本電氣會社員 妻 京 明一六、一二生、東京、富田又藏 男 勇 明三七、九生 男 進 明四四、六生、長男勇妻、東京、小田代慶太郎長女 明四〇、一〇生

君は京都府人富田長則の二男にして明治五年六月二日を以て生れ明治二十九年兄忠詮方より分れて一家を創立す同年東京帝國大學工科大学電氣科を卒業し農商務

省特許局審査官同技師旅順工科學堂教授特許局發明審
査課長同特許品陳列所長同發明課長旅順工科學堂長等
に歷任し又佛清兩國に差遣せらるる退官後實業界に入り
住友倉庫會社東京支店支配人たりしも現時日本電氣會
社員たり家族は尙孫道子(昭八、四生、長男長女)あ
りA六三三(東京市世田谷區赤堤町二ノ四〇七)
參照II 峯見玉次郎(峯見)の項

富田忠太郎

從六位勳四等、醫學博士、富田病
院長、醫師、愛知縣士族
妻 せい 女 明一〇、六生、茨城、須藤藤吾長
男 忠一 明三四、一、醫學士
男 忠二 明四二、八、長男忠一妻、三重
男 忠三 明四二、八、山脇高女出身
男 忠四 明四二、六、慶大醫學部出身
男 忠五 明四四、一、慶大醫學部出身
君は金澤藩士富田貞良の長男にして明治二年四月五日
を以て生れ同十六年家督を相續す同二十九年東京帝國
大學醫學科大學を卒業し職を官界に奉ぜしが後之を辭し
大正三年名古屋市中區富田病院を開き爾來同院長として
外科診療に從事す明治四十二年醫學博士の學位を受く
長女初子(明三三、三、生)は京都府人津田文三男法學
士源一に二女(明三五、八、生)は岐阜縣人内田謙一
郎弟内田小兒科醫院院長醫學博士謙益に嫁し四男貞夫
(同四五、二、生、東大農學部在學)は外祖父須藤藤吾の
養子となれりA一四〇五(名古屋市中區區江町二ノ一
電話一四六四)

富田等平

佐世保商工會議所會頭、長崎縣多
額納稅者、佐世保銀行常務取締役、佐
世保貯蓄銀行常務取締役、佐世
保不動產事務所取締役、鹽造業
長崎縣在籍
妻 トシ 女 明一四、一、生、長崎、中村賴三郎
二女
妻 辰彦 男 明三七、六、生、長女歌子夫、長崎
妻 辰彦 女 明四一、一、生、雙子辰彦妻
君は長崎縣人富田六藏の長男にして明治四年三月八日
を以て生れ同三十三年家督を相續す鹽造業を營む現時

富田浪

金原銀行取締役兼支配人、ナン
コク商事、荒川電力各務監査役
福岡縣在籍
妻 登美子 明三三、一〇、生、東京、金原已三
男 善彦 明三三、一〇、生、東京、金原已三
君は福岡縣人富田慶次郎の三男にして明治二十四年二
月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す同五年東京
高等商業學校を卒業し現時金原銀行取締役兼支配人た
る外前記會社の重役たり家族は尙長女百代(六一、一、
五、生)二男文彦(同五一、五、生)ありA七六〇(東京市
目黒區三田三三二電話二九一九)
參照II 金原已三郎(金原)の項

富田仲次郎

從五位勳五等、判事、大阪控訴院
判事、愛知縣在籍
妻 京 明三四、九、生、三重、土野澤三郎
女 四女、岐阜縣立高女出身
君は明治二十四年五月十五日を以て生れ大正六年東京
帝國大學法科大學を卒業し司法官試補となり同八年檢
事に任ぜられ安津津地方裁判所に在勤す同十一年判事
に轉じ大阪地方裁判所を経て現時大阪控訴院判事た
り家族は尙長女芳子(六一、一、七、生)二女昌子(同
四一、二、生)三女辰子(昭五、二、生)あり(大阪市住吉
區旭町二ノ一〇一)

富田八郎

湖北銀行取締役、滋賀縣農工銀
行監査役、江北圖書館理事、
酒造業、滋賀縣在籍
妻 しつを 女 明一三、七、生、滋賀、山岡桃庵二
男 國士 明三四、一、生
男 忠之 明三七、七、生
男 馨 明四四、六、生
男 憲之 明四二、九、生
君は滋賀縣人松島眞敬の三男にして明治九年十月を以
て生れ先代八郎の養子となり同三十三年家督を相續し
前名八治郎を改め養子酒造業を營む傍ら前記銀行の
重役にして又財團法人江北圖書館理事たり茲に衆議
院議員に當選し滋賀合同貯蓄銀行近江信託各銀行會社
の重役に擧げらるる家族は尙四男武士(大五、一、二、生)あ
り二女翠(明三九、八、生)は京都府人桑川小市二男吉孝
に三女愛子(同四一、三、生)は滋賀縣人山岡謙一に嫁せ
り(滋賀縣伊香郡木之本町電一三)

富田半四郎

富田商店取締役
大阪府在籍
妻 あい 妹 明五、一、生、大阪、小松松兵衛
妻 わか 女 明三六、六、生、大阪、永見省一長
男 重行 昭三、一〇、生
富田家は先代重吉京都の生糸商富田三三より分れて
一家を創立し大阪に於て羅紗輸入商を營むたるに創ま
る君は其四男にして明治三十二年四月六日を以て生れ
大正十年家督を相續す同十一年神戸高等商業學校を卒
業し洋行富田村倉吉商店に實務を見習ひ先代の遺業
を承けて富田商店の取締役たり多趣味にして特に野球
を好む家族は尙長女澤子(昭五、八、生)妹文子(大四、
一、二、生)あり同澤子(明三三、九、生)は分家して京都府
人富岡勇吉を夫に迎へり(大阪市東區備後町四ノ一
六電本町一四三五)
參照II 永見省一の項

富田彦吉

名古屋市會副議長、名港土地株取
役、愛知縣農工銀行監査役
愛知縣在籍
妻 しげ 子 明三六、九、生
男 潤太郎 明三八、七、生
君は愛知縣人富田福翁の三男にして明治十年一月を以
て生れ同二十九年兄彦吉の後を承けて家督を相續し前名
富太郎を改め養子現時前記銀行會社の重役にして推
されて名古屋市會副議長たり長女エイ(明三一、九、生)
は愛知縣人水野泰治に嫁し兄彦吉(文久三、八、生)同妻
たつ(明四、八、生、愛知、坂野辰之助長女)は共に分家
せり(名古屋市中區熱田新田町乙一ノ刺電南九二)

富田平吉

青野菓子店、菓子商
東京府在籍
妻 さき 明一四、一〇、生、埼玉、山崎初太
郎妹
男 豊太郎 大四、一、二、生
女 富子 大六、一〇、生
君は東京府人富田平五郎の庶子にして明治十三年一月
を以て生れ同二十年家督を相續す青野菓子店と稱し菓
子商を營むA二六五B七九(東京市芝區白金三光町二

富田義敬

内外木工工藝取締役
東京府士族
妻 リノ 明一九、一、二、生、東京、福田公太
郎長女
男 三郎 明三九、一、生
男 敬 明四五、六、生
君は東京府人福田保義の二男にして明治十三年三月八
日を以て生れ昭和七年先代兄喜久二の後を承けて家督を
相續す現時前記會社の重役たり家族は尙三男節雄(大
一、一、五、生)ありA三三四(大阪市住吉區阿倍野筋一
ノ一一電天王寺七七四)
參照II 戸澤正保の項

富田頼治

名古屋ホテル常務取締役、大阪
ホテル代表取締役、滋賀縣在籍
妻 郷 明二八、七、生、亡妻母の二女
君は福岡縣人相良順治の三男にして明治十三年十月を
以て生れ大正五年先代郷の夫となり家督を相續す現

富田朗長

愛知縣多額納稅者、地主
愛知縣在籍
妻 繁 明一三、一、一、生、愛知、小田原桑
太郎二女
妻 和尾 明四二、一〇、生、愛知、富田忠利
女 四女
妻 鋼一 大四、一、二、生、愛知、富田忠利
君は愛知縣人富田重左衛門の長男にして明治二十九年
三月一日を以て生れ大正三年家督を相續す地主にして
直接國稅二千九百四圓を納め縣下の多額納稅者たり
家族は尙弟昌平(明四四、八、生)あり妹花(同三六、二、
生)は愛知縣人大角俊太郎長男俊八に同カマ(同四〇、
四、生)は同縣人平野清に各嫁せり(名古屋市中區押切二
丁目電西五九八)

富田銚太郎

正三位勳一等、法學博士、貴族院
議員、明治大學名譽顧問
名古屋士族
妻 ヤス 明三三、七、生、法學博士田部芳妹
明三三、七、生、三井信託會社員
東京府大田區出身
明四〇、一、二、生、長男泰一妻、故
陸軍大將大迫尚道二女、女子學習
院高等科出身
君は栃木縣士族富谷豊義の長男にして安政三年十月を
以て生れ明治十七年家督を相續す同年司法省法律學校
を卒業し同十九年法律學研究及裁判事務視察の爲め獨
逸に留學す同二十三年歸朝東京地方裁判所東京控訴院
各判事東京控訴院部長大審院判事同部長東京控訴院長
大審院長に歷任す先是同三十二年法學博士の學位を授
けられ判事定年法施行に依り退職後大正十一年貴族院
議員に勅選せらるる曾て和蘭海牙に於ける手形法統一國
會議委員として派遣せられ又明治大學長臨時法制審
議會臨時委員たりし事あり長女トミ(明二六、一、生)は
三重縣人角利助長男法學士利一に四女ヨシ(同二九、一、
三)は山形縣士族法學士小林一郎に五女ヨシ(同三七、一、
五)は東京府士族法學士笠原二郎に妹スズ(同八、一、
二、生)は栃木縣人田中敬次郎に各嫁し弟金三郎(慶應

二、八生)は分家せりA二八七(東京市牛込區北町一二
電牛込三〇九一)
参照||角利一の項

富塚 清
正五位勳四等、工學博士、東京帝
國大學教授、工學部勤務
東京府在籍
妻 野高吉長女、神戸縣立第一高女出
身 大九、一、二生

富塚 慶三
千葉縣多額納税者、千葉合同銀行
地方顧問、千葉縣在籍
妻 明九、七生、千葉、小川雄次郎妹
養子 武雄 明二、一、三、二女悦子夫、千葉
川奈部佐五右衛門弟
女 悦子 明二、九、七生、養子武雄妻
孫 澄江 大五、六生、養子武雄長女

君は千葉縣人富塚新左衛門の二男にして慶應二年十一
月三日を以て生れ分れて一家を創立す大正六年東京
帝國大學工學部機械工學科を卒業し同七年同工學部
學助教となり昭和七年工學博士の學位を受け東京帝
國大學教授に任ぜられ今日に至る家族は尙長女麗(昭
二、八生)二女陽(同九、二生)あり(東京市杉並區天沼
二ノ五六四電伏靈二四八七)

富次 素平
鶴見瓦斯取締役、京濱コークス
廠監査役、山口縣在籍
君は山口縣人富次素一の長男にして明治十三年二月を
以て生れ同三十九年家督を相続す同年東京帝國大學工
科大學土木工學科を卒業し大阪瓦斯株式會社となり同
四十二年南滿洲鐵道會社に入り瓦斯株式會社に勤務同
十四年外遊歸朝後同所長を経て大正十四年南滿洲瓦
斯株式會社取締役に就任し現時鶴見瓦斯株式會社取締
役の外京濱コークス株式會社監査役を兼ねるに推されて大連
商工會議所常議員たりしことあり現に帝國瓦斯株式會
社理事に長女滿子(明四四、七生)は東京府人小谷重長
男重一に嫁すA二二六(東京市蒲田區女塚町二六一)

富永 倉平
從四位勳三等、前陸軍技師
宮崎縣在籍
妻 ヤスエ 明一、二、一〇生、宮崎、服部幸助
長女
養子 富平 明一、九、六生、養子富平妻
妹 ヒサノ 明一、九、六生、養子富平妻

富永 源治郎
大阪府商店社長、綿布商
大阪府在籍
妻 安 明二、三、四生、大阪、桂田井之助
二女
養子 源一郎 大五、八生、大阪、富永五郎三男
君は大阪府人富永元藏の弟にして明治十六年十月を以
て生れ大正七年家督を相続す明治三十七年京都帝國
大學理工科大學土木科を卒業し陸軍技術部に任じ陸軍造
兵廠職員たりしが退きて現時閑地に在り(東京市澁谷
區千駄ヶ谷五ノ八四四)

富永 鴻
正四位勳三等、大日本人造肥料
監査役、静岡縣在籍
妻 愛 明二、二、九生、東京、馬島渡妹
養子 榮 明四、四、三生、長崎縣立高女出身
女 倫代 大八、八生、長崎縣立高女出身
女 晴江 大八、八生、聖心女學院在學

君は故衆議院議員富永發叔の二男にして明治十三年十
二月を以て生れ先代ひでの養子となり同三十一年家督
を相続す同三十八年東京帝國大學法學科を卒業し後
文官高等試験に合格し備前縣各縣警察部長石川山梨各
官神奈川縣港務部長徳島宮城各縣警察部長長石川山梨各
縣内務部長佐賀長崎各縣知事に歴任し後長崎市長長崎
商工會議所顧問たりしも現時之を辭し大日本人造肥料
會社監査役たり姉(元治元、三生)は男爵岡田武彦の
母にして同ヒデ(明一〇、九生)は東京府人藤瀬新一郎
の各母たり(東京市芝區二本榎西町二電高橋三八九二)
参照||男爵岡田武彦、藤瀬新一郎、馬島渡妻青木楠
才四郎、富永治郎、有吉明、藤瀬新一郎、馬島渡妻青木楠
才四郎、富永治郎、有吉明、藤瀬新一郎、馬島渡妻青木楠

富永 重次郎
古着商
東京府在籍
妻 德之助 明三、一、一、一生
養子 澄子 明三、一、一、一生
男 進次郎 明四、一、九生

富永 正太郎
富永製粉所、オイル製糖業
京都府在籍
妻 ナカ 明三、二、一、二生、京都、野村孫三
長女
男 正雄 大六、一、三生
君は京都府人富永忠次郎の弟にして明治二十七年一月
十日を以て生れ大正六年分れて一家を創立す富永製粉
所と稱しオイル製糖業を営む家族は尙長女敏子
(大一一、六生)二女喜久子(昭四、八生)ありA一三三
(京都市中京區御池通富小路西入電本局四二一九)

富永 忠司
正四位勳三等、醫學博士、新潟醫
科大學長兼教授、新潟縣在籍
妻 ノリ 明一、九、一、一生、新潟、眞島桂次郎
二女

富永 恒太郎
兵庫縣多額納税者、富永製糖株式會社
取締役社長、富永商店、金物貿易商
兵庫縣在籍
妻 三 明二、九、一、一生、兵庫、巽道郎妹
男 良三 明三、九、九、九、三、高出身
女 輝子 大三、五、五、生、兵庫縣立第一高女出
身

君は新潟縣人富永仙八の二男にして現戸主孝太郎の弟
なり明治十二年三月十二日を以て生れ同三十八年東京
帝國大學醫學科を卒業し更に大學院に學ぶ同四十三
年朝鮮總督府醫院醫官となり大正二年自費を以て歐洲
に留學し同六年新潟醫學專門學校教授に任ぜられ同十
一年内科學研究の爲獨逸米和四國に留學し現時新潟
醫科大學長兼教授たり(醫學博士)の學位を授けられ
昭和九年六月歐洲各國へ出張を命ぜられたる家族は尙四男
正泰(大七、一、二生)三女ヒロ(同四、一、八生)六男文
夫(同四、一、一、一生)あり長女を(明四四、三生)は山
口縣人小島功一に嫁し三男正謙(大六、一、一、一生)は新潟縣
人山岸タイに七男武夫(昭三、一〇生)は同縣人長澤修
三郎に各養子となれり(新潟市白山浦一ノ三三八電新
潟九九九)
参照||眞島桂次郎、白勢春三の項

君は滋賀縣人富永機輔の長男にして明治九年一月を以
て生れ同四十三年家督を相続す父機輔は神戸に出で
鐵類商を創め當家今日の基礎を築けり君は遺業を繼承
し富永商店を経營し當地有数の鐵類商として知られ現
に富永製糖株式會社にして縣下の多額納税者に列す家
族は尙二男正太郎(昭二、七生)あり長女隆(明三二、
九生)神戸第一高女出身)は元代議士辯護士中井一夫
に二女邦(同三六、三生)は工學士松本七郎に三女道子
(同四三、一、生、兵庫縣立神戸第一高女出身)は京都府
人木村泰雄に嫁せりA三八七一二B五一九六(神戸市
海岸通三ノ二九電三三五〇)

富永 齊
正五位勳四等、理學博士、北海道
帝國大學教授、理學部勤務
埼玉縣在籍
君は明治二十五年四月を以て生れ大正四年東京帝國大

富永 福司
正四位勳四等、國際通運株式會社
取締役
千葉縣在籍
妻 豊治郎 安政元、二生、現戸主
母 かね 安政六、一、一、一生、千葉、白熊重藏
女 浩 明二、一、九、九、生、千葉、椎津盛一姉
男 澄 大五、一、一、一生

君は千葉縣人富永豊治郎の長男にして明治十六年九月
を以て生れ同四十四年東京帝國大學法學科大學政治學科
を卒業し文官高等試験に合格す直ちに鐵道院に入り書
記副參事鐵道局參事鐵道書記官監察官局長に歴任其間
札幌門司神戸東京仙臺各鐵道局長等に歴補し昭和八年官
長同購買第二課長札幌鐵道局長等に歴補し昭和八年官
を辭し現時國際通運株式會社取締役たり同妻は尙三男
利久(大九、一、一、一生)弟信司(明二四、一、一、一生)同妻は尙三男
一、一、一、一生、千葉、岩崎巳之助長女)及其子女あり弟富
司(同二八、一〇生)は千葉縣人鈴木勝次郎の養子とな
り姉(同二二、三生)は東京府人杉田長次郎に嫁せ
り(京都市中野區小瀬町五三電四谷四六七五)
参照||推津盛一の項

富永 靉
醫師
兵庫縣在籍
妻 きん 明二、五、五、五、生、兵庫、玉川巳之介
女 重彦 明四、四、六、六、生、日本醫大在學
女 多惠子 大元、一、二、生
女 喜美 大五、三、三、生、御影女子學園ビアノ
女 千代 大五、三、三、生、神戸女學院家政科在
學

君は兵庫縣人富永功の長男にして明治十七年十二月二
十二日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す醫師
にして耳鼻咽喉科專門とす家族は二男武彦(大六、一
〇生)三男文彦(同九、五生)四女美代子(同二、一、二

富永 文一
正五位勳四等、朝鮮咸鏡北道知事
徳島縣在籍
妻 千代子 明二、七、五、五、生、福岡、末松茂長女
男 尙夫 大六、一、一、一生

君は徳島縣人富永彌十郎の長男にして明治二十四年一
月三十一日を以て生れ大正三年家督を相続す同四年文
官高等試験に合格し同五年東京帝國大學法學科大學法律
學科を卒業し朝鮮總督府補佐となり同七年同道事務官に
任じ同年同總督府事務官に轉じ爾來行政講習所所長兼總
督府監察官全羅北道警察部長警務局保安課長内務局地
方課長等に歴任し昭和六年現職に轉じ家族は尙二男千
文(大一一、一、一、一生)三女連子(同二五、五、五、生)同妻は尙二男千
文(同四〇年生)あり(朝鮮咸鏡北道鏡城郡羅南邑本町電
二五二)

富永 正義
正五位勳六等、内務技師、土木局
勤務、新潟縣在籍
妻 千代 明三、五、二、二、生、新潟、土屋六右衛
門二女、新潟高女共立女子專門學
校家庭科出身
男 正彦 大一一、三、三、生

君は新潟縣人にして明治二十六年一月十六日を以て生
る大正六年東京帝國大學工學部土木工學科を卒業後
官途を奉じ同八年内務技師に任ぜられ東京第一土木出
張所東京土木出張所土木局長東京土木出張所に各勤務
し昭和七年土木局勤務となる家族は尙二男正威(大一一、
四、六生)三男正照(昭四、三生)二女千恵子(同七、一
二生)あり(東京市澁谷區原宿二ノ二〇九)

